Taike Tomekichi

part.3

ISBN 978-4-908193-20-X
C0302 ¥3600E
9784589030870
1921032025009
UTA ブック

Taike Tomekichi

part.3

1985 年８月　湯の山温泉／ここからすべてのセミナーがスタートしました

私達の心のふるさと、愛、母なる宇宙へ帰っていこう

塩川香世

“Taike Tomekichi” ３分冊の最終分冊、**Part.3** が発刊される運びとなって、そのゲラ刷りを手にしていますので、上がってきた思いをそのまま綴らせていただきます。

私達は、今世、自分の中の真実、自分の中の愛、愛である自分に気付いていくために、意を決してこの世に出てきたということを、それぞれの心で確認されていると思います。

学びに集ってきた時期は違うし、集ってきたきっかけも、それぞれにあるでしょうし、その後の学びの軌跡もそれぞれにあります。

ただ、肝心なのは、今です。

今、自分は学びに対してどのように向き合っているか、学びを自分の中でどのようにとらえているか、その一点です。

「**学びは人生です。**」

というメッセージを何度も聞かれたと思います。

本当に自分の中がそのように動いているのか、この際、しっかりと確認検証なさってください。

膨大な資料から盛りだくさんな内容の学びと感じるかもしれませんが、学びは至ってシンプルです。言えば、中心棒の確立がどの程度捗っているかという一点に集約されます。

これまで、回り道、遠道、寄り道をされた方も、あるいは全く違う方向を向いてしまっているのではないかと気付き始めている方も、そしてもちろん、自らの間違いに気付き真摯に学ぼうとしている方も、今の肉とその環境に心から感謝して、自分を学ぶ、知るということに全力を傾けてください。

肉は押し並べて愚かです。肉を見ていては何も分かりません。自分の心を見て、自分の中の喜びと温もりの自分に出会っていってください。

思いはひとつです。

「自分自身が切望してきた心からの思いに触れ、田池留吉、アルバートとともに生きていきましょう。

その喜びと幸せの道を一歩、一歩、歩んでいこう。その道は宇宙へ帰っていく道です。私達の心のふるさと、愛、母なる宇宙へ帰っていこう。

その歩みをともに、ともにです。」

勝手ながら編集者からの挨拶であります！

桐 生 敏 明

今から 40 年ばかり昔、我が女房殿の縁で、田池留吉という大阪府立高校の校長先生と知り合いました。

知り合った頃は、田池先生 59 歳、小生 37 歳のころ。「人間はその肉体ではなく意識こそが本当の自分です」などと我が女房殿を通して聞かされて以来、何かソワソワと落ち着かず、地に足がつかないというのか、心が宙ぶらりん状態……。

こうなったら「破れかぶれ」の「禅かぶれ」。中途半端な仏教の知識でとっちめてやろうと思ったかどうか —— とにもかくにも、田池先生の自宅へ押しかけることと相成った次第。しかし「自爆覚悟」で突入したものの、あげくの果てはミイラ取りがミイラとなって、すでに 40 年近くが経とうとしています。

その田池先生も 2015 年にお亡くなりになりました。では田池先生が、そしてバトンを引き継がれた塩川香世さんが、いったい何を伝えようとしたのか、ここで一旦整理し残しておこうと思い立ちました。それは誰のためでもなく、自分と、将来転生するであろう自分自身のために、自らを「唯一の標識」と言われた「タイケトメキチ」と、その標識が指し示すものを、この「超限定出版物・Taike Tomekichi part.3」に閉じ込め、未来へ残そうと考えた次第です。したがって読者は、今の読者ばかりか、未来に転生した自分であり、田池留吉と関わりを持った、あるいは持てなかった、たくさんの仲間だと思っております。

「たかが何百部程度の出版で、何を偉そうに」とお叱りをいただくやもしれませんが、こんなもの、「やってみなきゃ分からない」のであります—— ということで編者からの挨拶とさせていただきます。でも、「付」ということで、更にもう一言。

田池先生が何かにつけて唄われていた歌があります。それが「旧制大阪高等学校（今の大阪大学）全寮歌」の一番です。

僕も大好きな曲ですが、ふとしたことから、塩川香世さんから、田池先生がセミナーに行くときとか、いつも何かにつけ口ずさんでいたという話を聞きました。

僕も歌われているのを聞いたことがあり、歌詞が心に響き、全曲聴きたくて、中古のレコード盤を買い求めたこともあります。

「東天紅を染める金剛の峰にこれを嘯かば、天下の堕眠一時に破れ夕日沈む茅渟の海にこれを呼ばば魑魅魍魎も影を潜めん。いざ歌わんかな、大阪高等学校全寮歌」の勇ましい掛け声で始まり、1 番から 6 番まで続きますが、気になるのは、その 1 番。

まずは、その 1 番の歌詞を紹介いたします。

嗚呼黎明(あゝれいめい)は近づけり／嗚呼黎明は近づけり
起(た)てよ我が友自由の子／帝陵山下(ていりょうさんが)の熱血児
侃諤(かんがく)の弁地(べんち)をはらい／哲人の声消えんとす

旧制大阪高等学校全寮歌

一番惹(ひ)かれたのが、この「哲人の声消えんとす」の一節。

これは「既存の哲学は役に立たなくなり、今、新しい価値体系が望まれている」ということらしい。

では誰がそれを成すのか？「帝陵山下の熱血児」、つまり帝塚山の麓(ふもと)＝大阪男児がこれを成すのであり、その呼びかけに起ち集うのが「我が友、自由の子」等であり、共に臆(おく)することなく真実を伝えよう。

と、そういう意味にも十分解釈できるわけです。

それはとりもなおさず、田池先生と、この学びに集う私たちのことのようにも聞こえ、そんな勝手な解釈で口ずさんでいると、熱血児ならぬ我が身であっても、胸奥から熱いものがこみ上げてまいります。田池先生が、いかなる思いで口ずさんでいたのかは分かりませんが、僕の場合、これを口ずさむと「タイケトメキチ」にリンクし、その指さすところへと心が誘(いざな)われていく次第……。

ではでは、いざや伝えんかな

" Taike Tomekichi "
part.3

第１章　この時期の心の学び概観 / 1
第２章　ホームページでたどる学びの足跡 / 57
第３章　冊子でたどる学びの足跡 / 77
第４章　出版物でたどる学びの足跡 / 113
第５章　セミナーでたどる学びの足跡 / 159
最終章　次元移行と天変地異 / 287

※ところで、この出版物の要所要所にQRコードが配備されていますが、このQRコードを使い、「UTAタイムカプセル250」の収蔵庫に入っていただけます。編集に使用した原点資料（全出版物を読んでいただけるほか、セミナーの動画データ、音声データ、集まった仲間の思い等々）を見たり聞いたりしていただけます。ぜひお試しください。

第1章　この時期の心の学び概観

2002年～2015年

1．年表で見る「心の学び」　4～11

2．この時期を特徴づける4つのステージ　12～18

3．250年後の君へ　―　学びの裏方25年　―　23～53

1. 波動の世界だけが真実です

　波動の世界は感じようと思っても感じられるものではありません。

　しかし、実はみんなその心で感じているのです。
　ただ実際にはそれが現実の世界であると知らないだけで、現実の世界は、あくまでも目に見えて耳に聞こえるこの世界だと思い込んでいるから、感じていても感じていないということでしょう。

　肉にまみれた心は非常に鈍感な状態です。
　肉にまみれるとは、肉しか信じられない、肉の世界がすべてであると思っている、その思いが岩盤のように立ち塞（ふさ）がっている心の世界を指します。
　もちろん、それは肉を基盤とする宗教、精神世界すべてを含みます。
　肉にまみれた心の状態では、真実の波動の世界は絶対に分かりません。

　あなたが自分の心を見るということを重（かさ）ね、自分自身がエネルギーであることに心で気付き始めたなら、周りの様々な事柄を形としてとらえるのではなく、波動、エネルギーとして感じていくようになってくるでしょう。
　そうすれば、自然に分かってきます。

　形はどんなに立派であり素晴らしく、誰もが認めているようなことであっても、真実とは遠くかけ離れている、すなわち、そこから流れる波動は重く厳しく荒いものだと心に伝わってきます。
　言っていること、していることと、その違いは何だろうかと感じ始めるのではないでしょうか。

　波動を感じていく、感じていける自分になっていく、すなわち、自然に近づいていく、こういう状態になれば、真実の世界がはっきりと自分の心に映（うつ）し出されてきます。

田池留吉

1. The world of vibrations is the only truth.

The world of vibrations is not something you can sense just by attempting to do so. At the same time, you are already in touch with it through your heart. By only believing that the true world is what you can see or hear, even though you are already in touch with vibrations, it seems as if you cannot feel it.

Being immersed in the physical world means being in a state of desensitization. It means believing the physical world is the only truth, and this belief clogs the door to the world of consciousness. This includes all religions and spiritual worlds founded upon the physical. Being immersed in the physical means not understanding the true world of vibrations.

If you continue to look within your heart and understand that you are energy, you will start to perceive your surroundings not as physical but as vibrations and energy.

Then, you will naturally start to understand. Even if the physical may seem magnificent and almighty, you'll know it is far from the truth. You'll feel in your heart the vibrations from it being heavy, harsh, and vile. You'll start to ask yourself what the difference is between what you see and what you feel.

Becoming attuned to these vibrations means moving closer to your true nature. As you approach this state, the world of truth will start to be clearly reflected in your heart.

UTA 会から UTA の輪へ

2002（平成 14）年 8 月～ 2016（平成 28）年 4 月

14 年の歩み

※緑色の文字＝開催セミナー
　セミナー参加者数が判明しているものについては、末尾に（700 人）というように表示。
　青色の文字＝出版関係
　茶色の文字＝災害・事件等

2002 年（平成 14 年）

8 月 25 日～ 27 日《UTA 会セミナー》琵琶湖グランドホテル
9 月 23 日～ 25 日《UTA 会セミナー》ホテル明山荘
10 月 14 日～ 16 日《UTA 会セミナー》琵琶湖グランドホテル
11 月　4 日～　6 日《UTA 会セミナー》ホテル明山荘
12 月 23 日～ 25 日《UTA 会セミナー》下呂水明館

2003 年（平成 15 年）

1 月 26 日～ 28 日《UTA 会セミナー》ホテル明山荘
2 月 23 日～ 25 日《UTA 会セミナー》琵琶湖グランドホテル
3 月 16 日～ 18 日《UTA 会セミナー》下呂水明館
4 月 20 日～ 22 日《UTA 会セミナー》琵琶湖グランドホテル
5 月 18 日～ 20 日《UTA 会セミナー》ホテルながやま
6 月 22 日～ 24 日《UTA 会セミナー》下呂水明館
7 月 13 日～ 15 日《UTA 会セミナー》琵琶湖グランドホテル
7 月 26 日　宮城県北部地震（M6.4 の地震。宮城県で 3 回にわたり最大震度 6 弱～ 6 強を観測）
8 月　お盆前後に東日本で異常低温。ヨーロッパでは異常高温が続き、ヨーロッパ全域で3万人が死亡。スイスでは氷河が溶ける事態となる。
8 月 20 日　冊子「核からのメッセージ1」発行
8 月 24 日～ 26 日《UTA 会セミナー》ホテルながやま　田池先生、脳梗塞のため中止
9 月 26 日　十勝沖地震（M8.0 の巨大地震）
9 月 28 日～ 30 日《UTA 会セミナー》ホテル明山荘
10 月 13 日～ 15 日《UTA 会セミナー》琵琶湖グランドホテル
11 月　3 日～　5 日《UTA 会セミナー》ホテル明山荘
12 月 23 日～ 25 日《UTA 会セミナー》下呂水明館
12 月 26 日　イラン地震（推定死者 5 万人）

2004 年（平成 16 年）

2 月 20 日　冊子「核からのメッセージ2」発行
2 月 29 日～ 3 月 2 日《UTA 会セミナー》琵琶湖グランドホテル
4 月 11 日～ 13 日《UTA 会セミナー》琵琶湖グランドホテル
6 月 13 日～ 15 日《UTA 会セミナー》下呂水明館
8 月 22 日～ 24 日《UTA 会セミナー》琵琶湖グランドホテル
9 月 26 日　冊子「核からのメッセージ3」発行
9 月 26 日～ 28 日《UTA 会セミナー》下呂水明館
10 月 23 日　新潟県中越地震（M6.8 の地震。震度 7 を記録した地震）
12 月 10 日　株式会社かんぽうで UTA ブックの出版活動が開始される
12 月 10 日　「意識の流れ―アルバートともに―」初版出版（田池留吉 著）
12 月 23 日～ 25 日《UTA 会セミナー》下呂水明館
12 月 26 日　スマトラ島沖で大規模な地震が発生（M9.3。行方不明者は判明しているだけで、翌年までに 22 万 6,500 人以上）
12 月 27 日　《ミニセミナー》大宝クボホール

2005 年（平成 17 年）

1 月 16 日～ 18 日《UTA 会セミナー》琵琶湖グランドホテル
2 月 20 日　冊子「核からのメッセージ4」発行
2 月 20 日～ 22 日《UTA 会セミナー》下呂水明館
3 月 13 日～ 15 日《UTA 会セミナー》琵琶湖グランドホテル
3 月 20 日　福岡県西方沖地震（阪神大震災以降に政令市（福岡市）で震度6 以上を観測した地震。死者 1 名、負傷者 1,204 名）
4 月 17 日～ 19 日《UTA 会セミナー》下呂水明館
5 月 15 日～ 17 日《UTA 会セミナー》琵琶湖グランドホテル
6 月 19 日～ 21 日《UTA 会セミナー》下呂水明館
9 月 20 日　冊子「核からのメッセージ5」発行
9 月 25 日～ 27 日《「意識の流れ」出版記念セミナー》下呂水明館
10 月 23 日～ 25 日《「意識の流れ」出版記念セミナー》琵琶湖グランドホテル
12 月 25 日～ 27 日《「意識の流れ」出版記念セミナー》下呂水明館

2006 年（平成 18 年）

1 月 28 日　冊子「『意識の流れ』からのメッセージ1」発行
5 月 27 日　ジャワ島大地震（M 6.3 の地震が起き、約 6,000 名が死亡）
7 月 17 日　ジャワ島南方のインド洋で M 7.7 の地震（津波で 500 名以上の死者）
7 月 28 日　冊子「『意識の流れ』からのメッセージ2」発行
8 月 19 日　「ありがとう　意識の流れ 姉妹編」出版（塩川香世 著）
10 月　日程不明《出版記念「意識の流れ」勉強会》琵琶湖グランドホテル
12 月　日程不明《出版記念「意識の流れ」勉強会》琵琶湖グランドホテル

2007 年（平成 19 年）

1 月 28 日　冊子「『意識の流れ』からのメッセージ 3」発行
2 月 20 日　「母親のぬくもり―子供の問題 自殺・いじめ・犯罪・虐待・学級崩壊・不登校」出版（本田せつ子 著）
3 月 18 日～ 20 日《出版記念「意識の流れ」勉強会》琵琶湖グランドホテル（300 名　「ありがとう」の本を読んで 180 名）
3 月 15 日　「母なる宇宙とともに〈1〉」出版（塩川香世 著）
3 月 25 日　能登半島地震（M6.9。死者 1 名、石川県・富山県を中心に負傷者が 356 名）
4 月 30 日　「母なる宇宙とともに〈2〉」出版（塩川香世 著）
5 月 13 日～ 15 日《出版記念「意識の流れ」勉強会》琵琶湖グランドホテル
6 月 30 日　「時を超えて伝えたいこと　かつて日本に生きた者から未来の自分に宛てたメッセージ」出版（桐生敏明 著）
7 月　2 日～ 4 日《出版記念「意識の流れ」勉強会》琵琶湖グランドホテル
7 月 16 日　新潟県中越沖地震（M6.8。死者 15 名、負傷者 2,346 名）
7 月 28 日　冊子「『意識の流れ』からのメッセージ4」発行
8 月 31 日　「意識の転回」出版（塩川香世 著）
9 月　9 日～ 11 日《出版記念「意識の流れ」勉強会》琵琶湖グランドホテル
10 月 28 日～ 30 日《出版記念「意識の流れ」勉強会》琵琶湖グランドホテル

11 月 20 日　「幸せへの道が開かれて―精神障害から喜びの世界へ―」出版
（本田せつ子 著）

12 月 10 日　「続 意識の流れ―最後は瞑想です 正しい瞑想をしましょう」出版（塩川香世 著）

12 月 16 日～ 18 日《出版記念「意識の流れ」勉強会》琵琶湖グランドホテル（田池先生から時計のプレゼント）

2008 年（平成 20 年）

3 月　1 日　冊子「正しい瞑想をしましょう　1」発行

3 月 15 日　「家族の風景―地獄の世界からの脱出―」出版（本田せつ子 著）

4 月 15 日　「愛と死の真実」出版（塩川香世 著）

4 月 27 日～ 29 日《第 1 回「意識の流れ」初参加者のための勉強会》琵琶湖グランドホテル

5 月　8 日　茨城県沖地震（M7.0 の地震）

6 月 14 日　岩手・宮城内陸地震（M7.2 の地震。17 名が死亡、6 名が行方不明となり、負傷者は 426 名）

7 月　1 日　パンフレット「意識の流れ　学びのポイント」発行（手帳判）

7 月　6 日～ 8 日《第 2 回「意識の流れ」初参加者のための勉強会》琵琶湖グランドホテル

7 月 24 日　岩手県沿岸北部地震（M6.8 の地震。死者 1 名、負傷者 211 名）

9 月　1 日　パンフレット「正しい瞑想の仕方」発行（手帳判）

9 月　1 日　冊子「正しい瞑想をしましょう　2」発行

10 月　5 日～ 7 日《第 3 回「意識の流れ」初参加者のための勉強会》琵琶湖グランドホテル

10 月　8 日　自費出版「アルコール依存症の詩」（後藤光代 著）

12 月　1 日　冊子「正しい瞑想をしましょう　3」発行

12 月 21 日～ 23 日《第 4 回「意識の流れ」初参加者のための勉強会》琵琶湖グランドホテル

2009 年（平成 21 年）

2 月 15 日～ 17 日《第 5 回「意識の流れ」初参加者のための勉強会》琵琶湖グランドホテル

3 月 29 日～ 31 日《瞑想会》琵琶湖グランドホテル

4 月　「UTA ブック」株式会社シルクふぁみりぃ内で出版活動を開始

5 月 30 日　「あなた、このまま死んでいっていいのでしょうか ?」出版
（塩川香世 著　株式会社かんぽうから独立して最初の出版物）

6 月　UTA 会発足　正会員 844 名 (うち 20 名が海外)、準会員 34 名

6 月　1 日　冊子「あなたの意識ではありませんか、参考にしてください第一巻」発行

7 月　1 日　冊子「正しい瞑想をしましょう　4」発行

8 月　1 日　冊子「あなたの意識ではありませんか、参考にしてください第二巻」発行

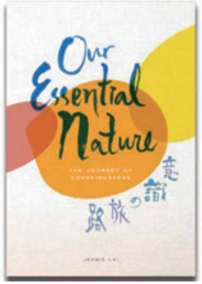
8 月 11 日　駿河湾地震（M6.5 の地震。東名高速道路の路肩崩落）
8 月 30 日～ 9 月 1 日《第 1 回 UTA 会》琵琶湖グランドホテル（730 名
　　6 月開催予定が新型インフルエンザの流行で延期）
10 月 10 日　「第二の人生―ラストチャンスです―」出版（塩川香世 著）
10 月 17 日～ 19 日《初参加者対象セミナー》琵琶湖グランドホテル
11 月　1 日　冊子「あなたの意識ではありませんか、参考にしてください　第三巻」発行
12 月 10 日　「お母さん、ごめんなさい―不幸の連鎖から幸せへ―」出版（本田せつ子 著）
12 月 20 日～ 22 日《第 2 回 UTA 会》琵琶湖グランドホテル（730 名）
12 月下旬　富田林市の「かつ喜」で田池先生と打合せ（田池先生ご夫妻、塩川香世さん、塩川静香さん、本田せつ子さん、桐生敏明、桐生由美子）。「株式会社かんぽう」から「UTA ブック」を独立させる方向に。

2010 年（平成 22 年）

2 月 20 日　冊子「あなたの意識ではありませんか、参考にしてください　第四巻」発行
2 月 24 日　UTA ブックの出版活動は、「株式会社かんぽう」から「株式会社シルクふぁみりぃへ」移管
4 月 20 日　冊子「宇宙の風―宇宙からのメッセージ―　第一巻」発行
5 月　9日～ 11 日《第 3 回 UTA 会》琵琶湖グランドホテル（730 名）
5 月 10 日　増補改訂版「意識の流れ」出版（田池留吉　塩川香世 共著）
6 月 20 日　冊子「宇宙の風―宇宙からのメッセージ―　第二巻」発行
7 月 20 日　冊子「Message from Taike Tomekichi」対訳版　発行（ジェニー・ライ 著）
8 月 30 日　冊子「あなたの意識です　第一巻」発行
9 月 12 日～ 14 日《第 4 回 UTA 会》琵琶湖グランドホテル（731 名）
10 月 10 日　「その人、田池留吉―田池留吉の世界―」出版（塩川香世 著）
10 月 30 日　冊子「あなたの意識です　第二巻」発行
11 月　9 日　UTA ブック、新事務所移転（奈良県広陵町の桐生自宅）
12 月 19 日～ 21 日《第 5 回 UTA 会》琵琶湖グランドホテル（750 名）

2011 年（平成 23 年）

1 月 26 日～ 4 月中旬　新燃岳噴火
1 月 30 日　冊子「あなたの意識です　第三巻」発行
3 月 11 日　東日本大震災（M9.0 で、日本の観測史上最大規模）
3 月 12 日　長野県北部地震（栄村大震災　M 6.7）。長野県栄村では震度 6 強を記録しており、家屋の倒壊や土砂崩れなどの被害を受けた。
4 月 11 日　福島県浜通り地震（地震の規模は M7.0 で、福島県と茨城県で最大震度 6 弱）
5 月 20 日　冊子「その人、田池留吉　第一巻（ホームページより）」発行
5 月 25 日　「宇宙の風―私達人間は、死んで終わりでしょうか―」出版（塩川香世 著）



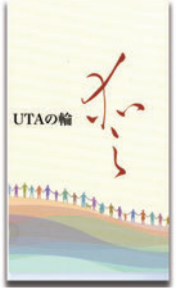
5月29日～31日《第6回UTA会》琵琶湖グランドホテル（740名）
6月30日　「嫁と姑の確執―自分を変えていきたい―」出版（鈴木和子 著）
7月10日～12日《第7回UTA会》琵琶湖グランドホテル（720名）
8月10日　冊子「意識の流れ　あなたに語り掛けましょう　第1巻」発行
9月20日　冊子「その人、田池留吉　第二巻（ホームページより）」発行
9月　4日～ 6日　《第8回UTA会》琵琶湖グランドホテル（730名）
10月30日　冊子「その人、田池留吉　第三巻（ホームページより）」発行
11月20日　「その人、田池留吉Ⅱ―田池留吉の世界　自然治癒力―」出版（塩川香世 著）
11月20日　「さびしい子供たち」出版（本田せつ子 著）
12月18日～20日《第9回UTA会》琵琶湖グランドホテル（募集800名）

2012年（平成24年）

1月25日　羽曳野市勉強会（羽曳野市白桃園の個人宅）
1月30日　冊子「意識の流れ　あなたに語り掛けましょう　第2巻」発行
2月12日　磁場と反転の実験と説明（奈良県広陵町　シルクふぁみりぃ）
3月18日～20日《第10回UTA会》琵琶湖グランドホテル
4月10日　「意識の旅路―Our Essential Nature―」英語版・翻訳版出版（ジェニー・ライ著）
5月20日　冊子「意識の流れ　あなたに語り掛けましょう　第3巻」発行
5月27日～29日《第11回UTA会》琵琶湖グランドホテル（720名）
7月　1日　オンラインセミナーの可能性をテスト 大宝のUTAブック事務所
7月20日　冊子「その人、田池留吉　第四巻（ホームページより）」発行
7月29日～31日《第12回UTA会》琵琶湖グランドホテル（750名。この一週間前に田池先生が緊急入院。節目のセミナーだったと塩川香世さんの言。）
9月　1日　UTAブック瞑想会（スカイプを使って初めての瞑想会）
9月23日～25日《第13回UTA会》琵琶湖グランドホテル（710名）
10月28日　UTAブック瞑想会（スカイプを使って2度目のテスト瞑想会）
10月31日　冊子「意識の流れ　田池留吉の磁場を思い瞑想をしよう　第一巻」発行
11月25日　「磁場と反転ーその人、田池留吉Ⅲー」出版（塩川香世 著）
12月　9日～11日《第14回UTA会》琵琶湖グランドホテル（770名）
12月22日　《第1回南河内UTAの輪》かなんぴあ（田池先生参加）

2013年（平成25年）

1月12日～14日　三重県メナード青山で朗読音声の収録（14日は大雪）
1月12日　《第2回南河内UTAの輪》かなんぴあ（田池先生は欠席）
1月26日　《第3回南河内UTAの輪》かなんぴあ（田池先生参加）
1月27日　スカイプ瞑想会 沖縄（沖縄↔大阪・大宝　第1回ネット瞑想会）
2月　2日　《第4回南河内UTAの輪》かなんぴあ（田池先生参加）
2月16日　《第5回南河内UTAの輪》かなんぴあ（田池先生参加）
2月24日　スカイプ瞑想会 東北（東北↔大阪・大宝）
3月　1日　パンフレット「UTAの輪」発行（手帳判）



3月　2日　《第6回南河内 UTA の輪》かなんぴあ（田池先生参加）
3月17日〜19日《第15回 UTA 会　出版記念セミナー》琵琶湖グランドホテル（800名　「磁場と反転」出版記念）
3月20日　冊子「意識の流れ　田池留吉の磁場を思い瞑想をしよう　第二巻」発行
3月30日　《第7回南河内 UTA の輪》かなんぴあ（田池先生参加）
4月13日　《第8回南河内 UTA の輪》かなんぴあ（田池先生参加）
4月14日　スカイプ瞑想会 神奈川（神奈川↔大阪・大宝）
4月20日　「母なる宇宙とともに」新版発行（塩川香世 著）
4月27日　《第9回南河内 UTA の輪》かなんぴあ（田池先生参加）
4月29日　スカイプ瞑想会 奈良（奈良↔大阪・大宝）
5月　3日　「あなたの死を語ってください」瞑想会　富田林すばるホール
5月11日　《第10回南河内 UTA の輪》かなんぴあ（田池先生参加）
5月19日〜21日《第16回 UTA 会》琵琶湖グランドホテル（760名）
5月25日　スカイプ瞑想会 アメリカ（ニュージャージー↔大阪・大宝）
6月　9日　スカイプ瞑想会 滋賀（滋賀↔大阪・大宝）
6月22日　《第11回南河内 UTA の輪》かなんぴあ（田池先生参加）
6月30日　スカイプ瞑想会 東京（東京↔大阪・大宝）
7月20日　《第12回南河内 UTA の輪》かなんぴあ（田池先生参加）
7月27日〜7月29日　《あなたは愛ですセミナー》橿原ロイヤルホテル
7月29日　スカイプ瞑想会 千葉・茨城（千葉↔大阪・大宝）
8月11日　スカイプ瞑想会 北大阪（大阪・千里↔大阪・大宝）
8月17日　《第13回南河内 UTA の輪》かなんぴあ（田池先生参加）
8月31日〜9月2日《あなたは愛ですセミナー》橿原ロイヤルホテル
9月　7日　《第14回南河内 UTA の輪》かなんぴあ（田池先生参加）
9月15日　スカイプ瞑想会 京都（京都↔大阪・大宝）
9月29日　冊子「体験文集　あなたは愛です」発行
9月29日〜10月1日《第17回 UTA 会》琵琶湖グランドホテル（750名）
10月　6日　スカイプ瞑想会 藤井寺・羽曳野（羽曳野↔大阪・大宝）
10月12日　《第15回南河内 UTA の輪》かなんぴあ（田池先生参加）
10月20日　スカイプ瞑想会 兵庫（神戸↔大阪・大宝）
11月　3日　スカイプ瞑想会 大阪中部（大阪市↔大阪・大宝）
11月10日〜11日　有馬勉強会　VIALA annex 有馬六彩
11月23日　《第16回南河内 UTA の輪》かなんぴあ（田池先生参加）
12月　1日　スカイプ瞑想会 鹿児島・宮崎・熊本（南九州↔大阪・大宝）
12月10日　「愛　あなたは愛です」出版（田池留吉 監修　塩川香世 著）
12月15日〜17日《第18回 UTA 会　出版記念セミナー》琵琶湖グランドホテル（760名「愛　あなたは愛です」出版記念）
12月28日　《第17回南河内 UTA の輪》かなんぴあ（田池先生参加）

2014年（平成26年）

1月12日　インターネット瞑想会　河内長野・和泉・泉南
1月13日〜15日《エクシブ京都八瀬セミナー》エクシブ京都
1月24日〜26日《橿原セミナー》橿原ロイヤルホテル
1月25日　インターネット瞑想会 富田林（富田林市↔橿原）

2月　2日　《第 18 回南河内 UTA の輪》かなんぴあ（田池先生参加）
2月　8日～ 9 日《UTA ブック関係者レベルアップ》橿原ロイヤルホテル
2月　9日　インターネット瞑想会 松山（松山↔岩手↔橿原の 3 元中継。
岩手は通信不良のため視聴のみの参加）
2月 16 日　WEB 瞑想会 愛知（愛知↔大阪・大宝 WEB 瞑想会に名称変更）
2月 22 日～ 24 日　《「滋賀 UTA の輪」セミナー》橿原ロイヤルホテル
3月　2日　WEB 瞑想会 北部九州・福岡（北部九州↔大阪・大宝）
3月 15 日　《第 19 回南河内 UTA の輪》かなんぴあ（田池先生参加）
3月 23 日～ 25 日《第 19 回 UTA 会》琵琶湖グランドホテル（750 名）
4月　6日　WEB 瞑想会 石川（石川↔大阪・大宝）
4月 12 日～ 14 日《有馬海外勉強会》VIALA annex 有馬六彩
4月 13 日　WEB 瞑想会 岐阜（岐阜↔《有馬海外勉強会》会場）
4月 19 日　《第 20 回南河内 UTA の輪》かなんぴあ（田池先生参加）
5月　3日　WEB 瞑想会 堺（堺グループの勉強会を大阪・大宝クボホールで。
大宝クボホールが完成し、WEB 瞑想会で初利用）
5月 10 日　「体験文集 vol.1 春号」発行
5月 11 日～ 13 日《第 20 回 UTA 会》琵琶湖グランドホテル（募集 800 名）
5月 17 日　《第 21 回南河内 UTA の輪》かなんぴあ（田池先生参加）
5月 25 日　WEB 瞑想会 大阪市内　大宝クボホール
6月　7日　《第 22 回南河内 UTA の輪》かなんぴあ（田池先生の参加はこ
の回まで）
6月　8日　WEB 瞑想会 岩手（岩手↔大阪・大宝クボホール）

6月 14 日～ 16 日《有馬六彩ミニセミナー》有馬六彩
6月 17 日～ 19 日《橿原ミニセミナー》橿原ロイヤルホテル
7月 12 日　「体験文集 vol.2 夏号」発行
7月 13 日～ 15 日《第 21 回 UTA 会》琵琶湖グランドホテル（募集 800 名）
7月 27 日～ 29 日《UTA 橿原勉強会》橿原ロイヤルホテル
7月 25 日　UTA 版「ふるさと」歌詞が完成（3 番まで）
8月 10 日～ 12 日《WEB 瞑想会関係者セミナー》橿原ロイヤルホテル
8月 20 日　豪雨による広島市の土砂災害（死者 74 人、家屋全半壊 255 軒）
8月 30 日～ 9 月 1 日《有馬セミナー》有馬六彩（久保夫妻主催）
9月　7日～ 9 日《少人数セミナー》有馬エクシブ（中島一二さん主催）
9月 21 日　「体験文集 vol.3 秋号」発行
9月 27 日　御嶽山噴火（58 名死亡、日本における戦後最悪の火山災害）
9月 21 日～ 23 日《第 22 回 UTA 会》琵琶湖グランドホテル（募集 800 名）
10 月 13 日～ 15 日《橿原チャネリングセミナー》橿原ロイヤルホテル（UTA
ブック&金子恵さん主催）
10 月 26 日～ 28 日《有馬セミナー》有馬六彩
11 月 11 日《田池先生瞑想会》大宝クボホール
11 月 15 日～ 17 日《京都鷹峯セミナー》東急ハーヴェストクラブ 京都鷹峯
&VIALA（田池先生と塩川さんによる部屋ごとの分散瞑想会）
12 月　7日～ 9 日《大阪池田セミナー》不死王閣（UTA ブック主催　イルカ
と鯨の話題が講話で出る。）
12 月 15 日～ 16 日　宇野氏、金子氏とともに太地のドルフィンファームへ

12 月 20 日　「愛、心のふるさと」出版（塩川香世著／見返しに「ふるさと」の歌詞（UTA 版）をカラーで紹介）
12 月 21 日　「体験文集 vol.4 冬号」発行
12 月 21 日　「2015 年度日めくり」発行
12 月 21 日～ 23 日《第 23 回 UTA 会》琵琶湖グランドホテル（募集は 800 名、UTA 会最後のセミナー　ホテルから花束が贈られる。「日めくり」の販売開始。UTA ブックが田池先生からホームページの管理を託される。）
12 月 30 日《ミニセミナー》大宝クボホール

2015 年（平成 27 年）

1 月 7 日　塩川香世さん「UTA の輪の中でともに学ぼう（HP）」立ち上げ
1 月 10 日～ 11 日《UTA 会有馬ありがとう会》VIALA annex 有馬六彩
1 月 24 日～ 26 日《橿原セミナー》橿原ロイヤルホテル（自分に絶望）
2 月 8 日～ 10 日《有馬勉強会》VIALA annex 有馬六彩
2 月 14 日《ミニセミナー》大宝クボホール
3 月　8 日～ 10 日《第 1 回 UTA の輪セミナー》　琵琶湖グランドホテル（約 540 名・2 泊 3 日の参加のみ受付、義務教育の子供の参加はなし。）
3 月 28 日《ミニセミナー》大宝クボホール
4 月 12 日～ 13 日《レベルアップセミナー》VIALA annex 有馬六彩
4 月 19 日～ 21 日《池田セミナー》不死王閣（田池先生の講話と瞑想　3 日目に田池先生の思いが集約されている／ UTA ブック主催）
4 月 25 日　ネパール大地震（M8.1。死者 8,460 名、負傷者 2 万名以上。ネパールの経済損失は 50 億ドル（約 6,000 億円）と推定）
5 月　3 日～ 4 日《ミニセミナー》大宝クボホール
5 月　9 日～ 11 日《橿原ぬくもり会セミナー》橿原ロイヤルホテル
5 月 19 日　UTA ブック、一般社団法人となる。
5 月 22 日　UTA ブック、新事務所移転（河南町大宝内での移動）
5 月 23 日《ミニセミナー》大宝クボホール
5 月 29 日　口永良部島噴火（9 時 59 分、新岳から噴火し、噴煙が火口から約 10,000 メートルの高さまで達した。）
6 月 13 日～ 15 日《男子会レベルアップセミナー》
1 日目＝大宝クボホール／ 2 日目から橿原ロイヤルホテル
6 月 20 日　「愛、自分の中の自分　意識の転回 ver.3」出版（塩川香世 著）
6 月 28 日～ 30 日《第 2 回 UTA の輪セミナー》琵琶湖グランドホテル
6 月 30 日　冊子「UTA の輪の中でともに学ぼう」刊行開始（塩川香世さんのホームページを活字化したもの）
7 月 12 日～ 14 日《有馬セミナー》VIALA annex 有馬六彩
7 月 26 日～ 28 日《橿原勉強会》橿原ロイヤルホテル
（田池先生が出席された最後のセミナー）
8 月　7 日　田池先生緊急入院
9 月　9 日～ 11 日　関東・東北豪雨（茨城県で 15 名、栃木県で 3 名、宮城県で 2 名の計 20 名の死者。また、全国で負傷者 82 名、住宅の全壊 81 棟、半壊 7,090 棟、一部破損 384 棟、床上浸水 2,523 棟、床下浸水 13,259 棟）
9 月 27 日～ 29 日《第 3 回 UTA の輪セミナー》琵琶湖グランドホテル
12 月　5 日 12 時 22 分　田池先生没（90 歳）
12 月　6 日～ 8 日《第 4 回 UTA の輪セミナー／第1回 NPO 法人 UTA の輪セミナー》伊勢志摩ロイヤルホテル（UTA の輪、NPO 法人に引き継ぎを行ったセミナー）

2016 年（平成 28 年）

1 月 31 日　ロサンゼルス・スカイプ瞑想会「田池留吉の意識を一斉に受ける」（トーレンス）
3 月 27 日　冊子「ロサンゼルス瞑想会　田池留吉の意識を一斉に受ける」発行
4 月 14 日　熊本地震（最大震度 6 強の地震が 2 回、6 弱の地震が 3 回発生するなど連続して震度 6 並みの地震が発生する珍しい事態に）
9 月 27 日　UTA ブック、新事務所移転（奈良・広陵町へ）

この時期を特徴づける4つのステージ

この本「Taike Tomekichi part.3」では、エルランティの光セミナーが終了して以降、2002年8月から田池先生が亡くなられた2015年12月までの13年4か月という期間に学びの流れがどう推移し、それを学びに接してきた私たちがどう感じ、どう捉えてきたかを見ていきます。

今、この時代の年表を整理し見えてきたのは、この時代、セミナーの流れは大きく次の4つのステージに分かれているようです。

第1期　UTA会セミナー（2002年8月～2004年11月）
第2期　出版とセミナー（2004年12月～2009年5月）
第3期　UTA会の発足（2009年6月～2013年12月）
第4期　少人数～UTAの輪（2014年1月～2015年12月）

第1期 UTA会セミナー（2002年8月～2004年11月）

使用されたセミナー会場

1. 琵琶湖グランドホテル（滋賀県）
2. ホテル明山荘（愛知県）
3. ホテルながやま（石川県）
4. 下呂水明館（岐阜県）

このステージは、ほぼ12年、全国24都道府県で開催された「エルランティの光セミナー」も幕を閉じ、「UTA会セミナー」の名称で、上記4つのセミナー会場を利用し勉強を続けてきた時期に当たります。田池先生は、この時期をよく「同窓会」と言われていました。

2004年4月　UTA会セミナー　琵琶湖グランドホテル

2004年6月　UTA会セミナーを終えて 下呂駅で

	宿泊を伴うセミナー	ホームページ	出版物（冊子含む） 公刊物は白文字、冊子類は黄文字

年

2002年
2003年
2004年
2005年
2006年
2007年
2008年
2009年
2010年
2011年
2012年
2013年
2014年
2015年

宿泊を伴うセミナー

《UTA会セミナー》
琵琶湖グランドホテル／
ホテル明山荘／下呂水明館
ホテルながやま

「意識の流れ」出版に
伴う一連のセミナー
琵琶湖グランドホテル／下呂水明館

UTA会の開催するセミナー
琵琶湖グランドホテル

UTA会の開催するセミナー　琵琶湖GH
少人数セミナー　橿原ロイヤルホテル／
VIALA annex有馬六彩／池田不死王閣／
有馬XIV／東急ハーヴェスト京都鷹峯／

NPO法人UTAの輪セミナー開始

ホームページ

反省と瞑想の時間ですよ

UTA会セミナーに参加しよう

意識の流れ
―アルバートとともに―

正しい瞑想をしましょう

あなたの意識です

その人、田池留吉
―田池留吉の世界―

意識の流れ　あなたに語り掛けましょう

意識の流れ
―田池留吉の磁場を思い瞑想をしよう

ＵＴＡの輪の中でともに学ぼう

出版物（冊子含む）

「核からのメッセージ」（1～5）
「意識の流れ―アルバートともに―」初版
「『意識の流れ』からのメッセージ」（1～4）
「ありがとう　意識の流れ 姉妹編」
「母なる宇宙とともに〈1〉」初版
「母なる宇宙とともに〈2〉」初版
「意識の転回」初版
「続 意識の流れ―最後は瞑想です」初版
「正しい瞑想をしましょう 」（1～4）
「愛と死の真実」初版
「あなた、このまま死んでいって……?」
「あなたの意識ではありませんか……」（1～4）
「第二の人生―ラストチャンスです―」
「宇宙の風―宇宙からのメッセージ―]（1～2）
「Message from Taike Tomekichi」」
「あなたの意識です」（1～3）
「その人、田池留吉」（1～4）
「その人、田池留吉―田池留吉の世界―」
「宇宙の風 ― 私達人間は、死んで……」(初版)
「意識の流れ　あなたに語り掛けましょう」（1～3）
「その人、田池留吉 II　―自然治癒力―」
「意識の旅路―Our Essential Nature―」
「意識の流れ　田池留吉の磁場を思い瞑想を」（1～2）
「磁場と反転―その人、田池留吉III―」
「体験文集　あなたは愛です」
「愛　あなたは愛です」
「体験文集（反転）」春号～冬号
「愛、心のふるさと」
「日めくり」　ふるさと歌詞）

第2期 出版とセミナー（2004年12月～2009年5月）

2004年12月に、田池先生が、「学びのすべてはこの本に書き残しておきます」と言われ『意識の流れ』が出版されました。著者は田池留吉になっていますが、実際には、田池留吉の意識を塩川香世さんがキャッチし一冊の本にするという形が取られています。

下記に記（しる）しましたように、『意識の流れ』以降、次々と学びの核になるような本が、田池留吉の指導の下、塩川香世さんから全国に発信されていきました。

そして、その本を読まれた方のためにセミナーが開かれる。

その学びの進行に合わせ、田池先生がホームページを開設される。出版とセミナー、それにウエブサイトがリンクされ、一体となったのがこの時期だと言えると思います。

①「意識の流れ」（2004年12月）
②「ありがとう ― 意識の流れ姉妹編」（2006年8月）
③「母なる宇宙とともにⅠ、Ⅱ」（2007年3月～4月）
④「意識の転回」（2007年8月）
⑤「続 意識の流れ ― 最後は瞑想です」（2007年12月）

セミナー会場も、

1. 琵琶湖グランドホテル（滋賀県）
2. 下呂水明館（岐阜県）

の2館に絞り込まれ、エルランティの光セミナーで培（つちか）われたセミナー人口が、全国から、この滋賀と岐阜に集まるようになりました。

第3回「意識の流れ」出版記念セミナー（2005年12月25日～27日）は雪に煙る「下呂水明館」で実施されました。

下呂温泉 水明館（1995 年 2 月「第 5 回エルランティの光セミナー」から 2005 年 12 月の「意識の流れ出版記念セミナー」まで 37 回のセミナーが開催されました。）

第 3 期 UTA 会の発足（2009 年 6 月～ 2013 年 12 月）

名称が似ているので混乱がありますが、これ以前は「UTA 会セミナー」の名称で、セミナーが運営されてきましたが、これ以降は、正式に「UTA 会」が発足（ほっそく）し、セミナーの名称も、会の名称と同じ「UTA 会」と称されるようになります。

この時期も、塩川香世さんが、学びの核となる本を、田池先生のホームページを母体に次々と形にしていきました。

①「宇宙の風 ― 私達人間は、死んで終わりでしょうか」（2011 年 5 月）
②「磁場と反転」（2012 年 11 月）
③「愛　あなたは愛です」（2013 年 12 月）

セミナーの流れは、「大噴出・総崩壊」と田池先生が言われるように、各人が抱（かか）えている闇に気付き大噴出させるという方向で進み、さらに出された闇を愛へ返すセミナーへと展開していった時期です。

宿泊を伴（ともな）う「UTA 会」のセミナー会場は「琵琶湖グランドホテル」一館のみとなり、このほか、単発的に橿原ロイヤルホテルが使われるようになりました。

「あなたは愛です」セミナーは、2013 年 7 月 27 日～ 29 日と 8 月 31 日～ 9 月 2 日の 2 回、この橿原ロイヤルホテルで開かれ、9 月末には、このセミナーの体験を冊子化した「体験集　あなたは愛です」が発行され、12 月 10 日には単行本「愛　あなたは愛です」が発行。12 月 15 日には「愛　あなたは愛です」発行記念セミナーが開かれました。

2013 年 7 月、8 月「あなたは愛です」セミナー（橿原ロイヤルホテル）

田池先生のお話から

なぜ、生まれてきたのか

なぜ、生まれてきたか。これがなかなか答えが出ないんです。日本人一億の中で、なぜ生まれてきたかということに正しい答えを出す人は、ほとんどいないというのが現状です。地球上でも、ほとんどいない。アメリカではゼロに等しい、と言っても良いくらいなんです。

もちろん、学歴の高い人は高いなりに、色々と難しいことを言ってくれますし、色々な方が出ますが、ほとんど正しい答えはないんです。簡単なんです。今現在、私が使っている言葉で言うと、皆さんは「愛」であるということに目覚めるために生まれてきた。これだけのことです。

それ以外の目的で、もし皆さんが生きていたら、それは間違った生き方です。

2013 年 7 月、橿原ロイヤルホテルで開かれた「あなたは愛ですセミナー」での講話の冒頭部分

第 4 期 少人数セミナー～ UTA の輪セミナー～ NPO 法人 UTA の輪セミナーへ

（2014 年 1 月～ 2015 年 12 月）

この時期、前半は「UTA 会」の大所帯のセミナー（600 人～ 700 人前後）と、少人数セミナーと称して、少人数（50 名前後、多くて 100 名前後）を対象に、大所帯ではできない密度の濃いセミナーを開こうという、この 2 種類のセミナーが並行して行われてきました。セミナー会場は……

1. UTA 会&少人数セミナー（運営は有志）

UTA 会

① 琵琶湖グランドホテル（滋賀県）

少人数セミナー

② 橿原ロイヤルホテル（奈良県）
③ VIALA annex 有馬六彩（兵庫県）
④ 有馬エクシブ（兵庫県）
⑤ 東急ハーヴェストクラブ 京都鷹峯（京都府）
⑥ 池田不死王閣（大阪府）

2. UTA の輪セミナー

後半は、2015 年 3 月「UTA の輪」が発足するとともに、次第に少人数セミナーも、2015 年 7 月の橿原ロイヤルホテルでの少人数セミナーを最後に、UTA の輪セミナーに一本化され、田池先生がお亡くなりになった 12 月に「第 1 回 NPO 法人 UTA の輪セミナー」が伊勢志摩ロイヤルホテルで開催されます。

これ以降のセミナー会場は、以下の 3 カ所に確定されます。

① 琵琶湖グランドホテル（滋賀県）
② 橿原ロイヤルホテル（奈良県）
③ 伊勢志摩ロイヤルホテル（三重県）

琵琶湖グランドホテル（1995 年 2 月から 2015 年の 9 月まで、田池先生の御存命中に７５回のセミナーが開催されました）

2. 真実の世界はあなたの頭では分からない、あなたの心でしか分かりません。

私達人類は頭脳を誇ってきました。そして、脳を鍛(きた)えることによって立派な人間、素晴らしい人間、社会に役立つ人間を目指してきました。思考できることは人類の人類たる所以(ゆえん)であり、だからこそ、人類はこれまで目覚しい進歩発展を遂(と)げてきたと評価していますし、これからもバラ色の夢溢(あふ)れる未来が展望できると思っています。

心は頭脳の一部であり、思いは頭を通過していると思っている人達が今はほとんどでしょう。心に感じたものを頭で分析する手法を使っていきます。そして、頭で分析し、理解できたものだけを自分の中に取り込み、それ以外は流していくのです。その中において、「真実の世界は頭ではとても解明できない世界です。しかしながら、それはあなたの心で分かります」と伝えても、やはり、頭で解明しようとして、結局は分からないから信じられないとなってきます。

とにかく、常に頭脳が中心であり先行しています。よもやその誇ってきた頭脳により、自(みずか)らを滅(ほろ)ぼしていくとは思いもよらないことでしょう。しかし、これからの時代は、人類の頭脳では到底理解できないことが日常茶飯事(にちじょうさはんじ)に起こってきます。

頭が先行するその中で、頭で理解できない事象を目の当たりにしたとき、人類はどのようにそれに対処していくのでしょうか。それでも人類の知恵を過信する傾向はさらに加速度を増してまいります。すなわち、どこまでも意識の流れに逆流する形でこれからの時間を経(へ)ていきます。

それがこれからの 250 年という時間です。

田池留吉

2. You can only understand the world of truth with your heart.

We humans have prided ourselves on our intellect. We have aimed to become respectable and socially valuable individuals by training our minds. We believe the ability to think is the gift of our humanity and the reason why we have made remarkable progress. We envision a bright future of progress because of our abilities.

Most people think that our heart is part of our minds and that all thoughts pass through our brain. We seek to analyze what our heart feels. We only embody what we can understand with our minds and ignore the rest. So when we're told, "The world of truth is a world that cannot be understood by your mind, only through your heart," people still try to analyze what this means. Because they cannot understand, they do not believe it is true.

For humans, intellect always takes precedence and is central to our understanding. It would be unthinkable that we will eventually destroy ourselves by priding ourselves on intelligence. Nevertheless, phenomenon that the human intellect cannot comprehend will continue to occur.

How will humanity, whose world is based on intellect, deal with these situations? The tendency to be overly confident in human intelligence will only accelerate. In other words, we will continue, time and time again, to go against the flow of consciousness. That is the time that will unfold over the next 250 years.

橿原ロイヤルホテル客室からの眺め（小さく二上山が見えている）

伊勢志摩ロイヤルホテル客室からの眺め

250 年後の君へ ―学びの裏方 25 年―

ここでは皆さんご存知の中村康一さんご夫妻にとって、「心の学び」とは何だったのか、その足取りを紹介させていただきます。と言いますのも、氏が学びと出会い、株式会社エルで共に机を並べるようになったのは、エルが発足してすぐの頃です。以来、エルランティの光セミナー終了後も、UTA 会、UTA の輪セミナーを裏方として支え、学びの中枢となる田池先生のホームページを「冊子」という形で今に残していただきました。その陰には奥さん亜紀子さんの協力が多大であったと聞いております。そのご夫妻の 25 年の足取りを振り返ることで、別の視点から学びの流れを見てみたいと思います。

中村康一さん（明朝体）／中村亜紀子さん（ゴシック体）

1. 切っ掛けは2冊の本でした

僕たちは 1990 年7月に松山で行われた松山セミナーで、初めて田池留吉氏に会いました。

事の発端は、その年の5月頃だったと思いますが、当時住んでいた東京都町田市の書店で、この学びの本を購入したことでした。

僕は『アトランティスの悲劇』で、妻は『光のなかへ』を書棚から選びました。

家に帰ってから奥付を見て、出版社が同じ町田市内にあることを知り、そこを訪ねてみようということになったのです。

出版社は町田駅の普段は行くことがないラブホテルが立ち並ぶほうにありました。

出版社の手前に久保さんが経営する画廊があり、そこに顔を出し話を聞きました。入る前はどんな所か不安でしたが、久保さんご夫婦と鈴木さんが応対していただき、橋本のセンターで田池先生を迎えてのセミナーが終わったばかりで、次のセミナーは北海道の定山渓で行われることを教えてもらいました。

僕は今、「生長の家」の本部で働いていることなどを話し、一応、定山渓のセミナーに参加したい旨をお伝えして、帰りに冊子を何冊か頂いて帰りました。

それからは、仕事の昼休みに「生長の家」本部にある道場の2階座席で、頂いた冊子を何度も読んでいました。

数日後、定山渓で開かれるセミナーの前に、松山の道後温泉でセミナーが急遽開かれることが決まりましたとの連絡を受け、そこに参加することを申し出ました。

私はその頃、卵巣嚢腫という病気を再発させていま

した。その８年前にも同じ病気になり左の卵巣を摘出していました。その当時の医学では原因不明ということで、原因が分からないまま過ごしていましたが、徐々に右の卵巣にも腫れなどの症状が出始め、病院から手術を勧められていました。

その当時、宗教団体の生長の家に属していましたが、生長の家では病気を治すことは無理だと思い、外科的手術をしないで済む方法はないかと模索し、書店でもいろいろと探していました。

原因不明ということで、先祖の祟りかも知れないと思い、一度は除霊をするという所へ行ってみましたが、そこは除霊するために高額な費用がかかるとのことだったので、お金が絡むのは怪しいと思い、何もせずに帰りました。

私たち夫婦は若い頃から宗教団体の生長の家に属していたこともあり、本の中に出てくる「人間は意識、エネルギー」などの言葉は生長の家でも聞き慣れたものだったので、特別感動しませんでしたが何か気になっていました。

私はセミナーに参加して病気を治してもらいたいと思っていました。病院から患部の摘出手術を勧められていましたが、何とか手術をしないでやり過ごせないものかと考えていました。摘出せずに治す方法はないと言われても、何とかならないか、医学がダメなら他の方法で治すことができないものだろうかと考えていました。そんな思いを持って参加を決めたセミナーでした。

2. 初参加の松山セミナー

セミナー開催地の道後温泉は、私たちにとっては初めての場所で、その帰りに妻の希望で広島県の尾道を旅行しようということになりました。

セミナーへは夜行バスで行きました。乗客のみんながセミナーに参加する人たちかと思いましたが、そんなことはありませんでした。

道後温泉には朝早く着いたので、ぶらりと周辺を散策し、折角だから坊ちゃんの湯に入ろうということになりました。そこには休憩所もあったので、セミナーの受付時間まで時間をつぶすには好都合だと思いました。

坊ちゃんの湯に入ると、男湯は僕を含め最初３名でしたが、一人が上がり、年配の人と二人になりました。その年配の人が、しきりに大あくびばかりのするので、へぇっ～？ と感じて眠いのかな、なんて思いながら、お風呂を出て休憩所で休憩を取りました。

午後、セミナーの受付時間になったので、どんな人たちが来る

のか、またどんな所なのか不安を抱えながら受け付けを済ませ、会場に行きました。
　会場に着くと係りの人に一番前に座るように促され、自分としては後ろのほうが落ち着いて参加できると思ったのですが、それに従いました。
　そして、いよいよ田池先生が会場に来られると、さっきお風呂で大あくびをしていた人だったので、えぇっ！　と二人で驚きでした。

　生長の家の教祖は、取り巻きに囲まれて簡単には会うことができない存在です。それなのに田池先生の周りには誰もいなかったし、普通では考えられないことだと思いました。
　また、セミナーの参加人数も８０人くらいで、後から田池先生に「生長の家は人数が多いから信じられるが、ここは少ないからなあ」というふうに言われましたが、確かに僕の中にその思いがありました。

　セミナーは講話もありましたが、僕は話の内容が生長の家の内容と被るところがあり、すべて知っていると思って聞いていました。本や冊子で気になったチャネリングは、目の前で実際に見るとこんなことがあるのか、どうなっているんだろうと思ってしまいました。
　生長の家では、霊的に敏感な人はどちらかというと排除されていました。生長の家は、知識で伝える、言葉で伝えるということだから、生長の家の本部でいろんな人に会いましたが、ここで見るようなチャネラーには会うことがありませんでした。初めての体験でしたし、そのやり取りがあまりにも可笑しくて笑えてしまいました。

セミナーが開催された松山・道後プリンスホテル

　私は田池先生の講話、そして、生まれて初めて見るチャネラーという人たち、瞑想の時間に壇上で遊び回る子どもたち。何もかもが初めての分からないことばかりで居心地が悪いと思いました。
　田池先生の講話も生長の家と同じ文言が並び、何がどう違うのか全く分からず、ピンときませんでした。

　また、同室にはチャネラーの人が多く、何で生まれてきたのかを疑問に思っていたとか、子どもの頃からの疑問がこの学びで解けたとか、この学びの話題で盛り上がって討論してるのを聞いて、私と

は違う人たちだと思えて同室の人とほどんど話をしませんでした。
　私は生死にかかわることや哲学的なことには興味がなかったし、そんな話題で討論できることが不思議に思えたし、少し不気味にも思えました。

　セミナーの１日目が終わり、チャネリングは面白かったのですが、講話の内容は知っているという思いがあったし、この学びでは病気治しを行っていないというのが分かり、二日目には帰ろうかと二人で話していましたが、その後に旅行も組んでいるので、最後まで参加することにしました。
　セミナー中に田池先生が「意識を出してほしい人はいませんか」と聞いてくれましたが、人前でどんなことになるか、ちゃんと質問に答えられんだろうかと思うと、勇気が出ませんでした。

　２泊３日のセミナーの空き時間に、二人でロビーで座っていると必ず田池先生が来られて、いろんな話をしてくれました。生長の家とこの学びの違いや教祖のことなどでした。
　僕はその時、生長の家に勤めていたので、「生長の家を辞めたほうがいいですか」と聞いたら、その答えは「それで生計を立てているから難しいけど、苦しいよ」というものでした。

3. 最終日のチャネリング

　セミナー３日目、セミナーも終わって会場を出ようとしたとき、田池先生に呼び止められました。「ご主人の意識を出しましょうか」ということでした。「結構です」とは言えずに自分の意識を出してもらうことになりました。
　先生の前に座っているとチャネラーが呼ばれ、僕の意識を語りだしました。「苦しい……神に唾を吐きかけて生きてきた……」というものでした。自分が苦しいということは、俄かには信じられませんでした。なぜなら苦しいとは思っていなかったし、それに何より自分が今、頭で考えて思っている以外に自分の意識なるものが語るということが信じられませんでした。
　チャネリングが終わって、田池先生が「よかったね」と妻に言ったそうです。僕は目をつぶっていたので、その様子は分かりませんでしたが、僕も薄っすらと涙が出ていたことは事実です。

　私はチャネリングを受ける夫の隣りに座っていました。夫のチャネリングが始まると、私の中から「探していたのはこれだった。ずっと探していたのはこれだった」と何度も何度も繰り返し聞こえてきて涙が溢れました。そのため私は夫のチャネリングの内容をほとんど聞いていませんでした。
　チャネリング終了後、田池先生が私に「奥さん、良かったね」

と言われ、何が良かったのか分からなかったけれど、田池先生は何でも分かるんだと思いました。

終わってみると私たちは大勢の人に囲まれ、中には泣いてる人もいて、何か温かいものに包まれている、フワフワした感覚でした。ほんとに不思議な体験でした。

僕もチャネリングが終わり、セミナー会場を後にしたのですが、自分の心が変というか、目にするものが何か違って感じられました。

そのあと予定していた尾道の旅行も、もうどうでもいいような感じでしたが、折角だからということでそのまま尾道に行きました。

ただ、宙に浮いていると表現すればいいのか、本当に言葉ではうまく言えません。その時、すでに心では「生長の家」の本部を辞めると決心していたんだと思います。

私もチャネリングが終わったあとはフワフワとした感覚だけが残り、楽しみにしていたはずの尾道は色褪せて見え、観光などどうでもよくなり、早々に切り上げて東京に戻りました。

僕は東京へ帰った翌日、職場で上司に辞めることを告げました。驚くほどあっさりと了解でした。ただ、ちゃんと引き継ぎをしてから辞めてほしいと言われましたので、それは承諾しました。こんなにあっさりと了解してくれるとは思わなかったので、不思議でなりませんでした。なんて言われるだろうかと不安だったんです。

帰りの通勤電車でも、あのセミナー後と同じで、車窓から見える景色が普段と違って、すごく穏やかで静かなものに感じられました。それも僕にとっては不思議な体験でした。

道後温泉での初めてのセミナーで、田池先生に「少なくとも10回はセミナーに参加しなさい。1回、2回来ただけでは分からないから」と聞いたので、僕たちも、その後は参加できるセミナーには極力参加することにしました。

そうやって僕らのこの学びは始まりました。

4. 東京に住んでいた頃

僕はこの学びに出会い、生長の家本部を辞めました。辞めると同時に、生長の家の本や神棚を処分しましたが、まだ何も分からずに処分しただけで、神棚を処分するときは、恐怖の心がしっかりありました。

田池先生がよく言っていた「看板を付け替えただけ」でしたが、それすらも分かっていませんでした。自分は分かっているという思いがとても強かったから、学びに対する真剣さがありませんでした。母親の反省も僕はしなくてもいいと思っていたし、他力の反省

エル入社当時の中村康一さん、右は桐生敏明、左は小野淳一郎さん

も、もう辞めたからできてるしと、ただ、瞑想だけをしていました。それは、生長の家の神想観の続きをやっているだけでした。

1年間は失業保険で生活できたので、その間、株式会社エルによく手伝いにいきました。生長の家でパソコンの操作を詳しくなっており、それを株式会社エルでも活（い）かせるということで、エルに勤めることになりました。

エルに入って初めて田池先生が東京に来られたときに、打ち合わせで桐生さんが僕がエルに入ったことを紹介してくれたのですが､「見れば分かる」と一言でした。えぇ、もっと何か言ってくれてもって思いました。その日の打ち合わせの途中から、どんどん頭が痛くなり、帰りに車で自宅まで送ってくれたのですが、途中で吐（は）いてしまいました。

それからは、セミナーなどで田池先生に会うと、決まって頭が痛くなり、終（しま）いには吐いていました。少しして吐くことはなくなったのですが、依然として頭が痛くなることは収（おさ）まらず、痛くなると寝てやり過ごすことしかできず、よく夕食はパスしていました。

たぶん肉的には緊張から来ていたと思うのですが、それほどまでに身構える自分があったんだと思い知らされました。

田池先生が東京に来るときは、町田駅のホームまでみんなで迎えにいっていましたが、田池先生の重いカバンを桐生さんや鈴木さんが持っていたので､二人がいないときに｢僕が持ちます」と言ったら「親にもせんことはしなくていい」と断（ことわ）られました。何かすごくばつが悪いし、親の荷物は重かったら持つわと思うし、とにかく思いもしない言葉が帰ってきたのがすごくショックでした。

それからは、田池先生には自分からは声が掛けられなくなってしまいました。

エルでの仕事はセミナーと経理の事務仕事でしたが、あるとき初めて『母親の反省』という冊子づくりを行うことになりました。正直、

文章が苦手な自分には重荷でしたが、何とか出来上がりました。
　その当時、本や冊子はセミナー会場でも販売していましたが、熱海の南明ホテルでセミナーが開かれたとき、そこでもセミナー会場の後ろにテーブルを並べて、本や冊子を販売していたのですが、午後のセミナー終了後、つかつかと田池先生近づいてきて、『母親の反省』の冊子を指さし、「この冊子、あんたが一番読まんとな」と一言、言って去っていきました。えぇと笑ってやり過ごすしかありませんでした。今では、ようやくそうだったと思えることも、その当時は全く自分の心には響いてきていませんでした。

　初めの頃、田池先生が講話の中でよく、「藪(やぶ)ジャン」や「肥溜(こえだ)め」の話など、いろんな例えで説明してくれましたが、すべて面白可笑(おもしろおか)しく聞くだけで、本当に心に沁(し)みわたっていませんでした。
　ただ、「特別な人は一人もいません」ともよく言っていましたが、その言葉を聞くたびに僕の首が勝手に震(ふる)えていました。その震える首を皆に見られるのがイヤで、何とか必死に震えないようにと手で押さえていました。
　自分は特別、特別な使命があると思っていた思いが、身体に形として出てきていたのですが、その当時は押さえることに必死になっていました。

　そのうちセミナーも現象という場面に切り替わりましたが、鈍感な自分には何一つ感じられませんでした。みんながどんどん感じているけど、僕は肉で振舞っているだけで辛(つら)かったです。そして、ふるさとの歌に合わせての喜びの現象は、さらに自分を落とし込めていくだけでした。みんなみたいに喜べないんです。何とかみんなに合わせていましたが、本当に辛いだけでした。

　セミナー中に指さしで田池先生が回ってきても、身構えるだけで感じることはなく、そういう僕の所に来ると、弧(こ)を描くように飛ばしていきました。走るよ、硬直、チン、どうしたらと、心は焦(あせ)るばかりでした。終(しま)いには、本当にみんな分かってるのかって、そんな思いもありました。

　私は初めて参加した松山セミナー以降、数回のセミナーに参加していました。
　株式会社エル主催として、沖縄と鹿児島で行われた第1回エルランティの光セミナーのとき、鹿児島のホテルでの夕食は、４人で一つのお鍋を食べる日があり、なぜか私たちは田池先生ご夫妻と同じテーブルで一つのお鍋を食べることになってしまいました。お

鍋をどうして食べていいのやら、何を話せばいいのやらと緊張しまくりで、食事も喉を通らない感じがしていました。

そして、やっとひねり出した話が少し前の私の体験でした。

当時住んでいた家から二人で多摩川へサイクリングに行ったときに、河原で休んでいると大きなゴールデンレトリーバーを連れて散歩する人が通りかかった途端に、その大きな犬が私の背中に覆いかぶさってきたんです。子どもの頃に犬に噛まれたことがあり、犬が大の苦手だった私は慌てふためいたけれど、覆いかぶさっている犬が大きくて重くてどうしようもなくて困っていました。

その様子に犬の飼い主も笑っているし、夫も笑っている。そのうち私も恐怖心が消えて笑えてきました。みんなで笑っていたら、やっと犬が背中から離れてくれ、その場におしっこをしてから立ち去っていきました。ほんとに驚いたけれど何だかものすごく嬉しくなったんです。その後、家に帰るために自転車で走っていると、走り慣れた道なのにいつもと違って見えました。街路樹がキラキラして見えた不思議な体験でした。

この話を田池先生ご夫妻にすると、先生は笑って聞いてくださり、陽子さんは「犬は嬉しいとおしっこするよ」と笑って話してくださいました。

私がセミナーに参加し始めた頃には書籍は数冊出版されていたけれど、この学びの勉強の仕方を詳細に書かれた本はありませんでした。私たちがセミナーに参加する以前に、すでに300回を超す勉強会があったと聞き、学び方の勉強は終わっているんだと思いました。セミナーでは田池先生が話されていたけれど、私はそれもよく分からず、心を見るということをしないままセミナーに参加していました。

そして、それから半年後の12月に行われた下呂セミナーで、セミナー初日の夜に最近学びに集った人たちに対して補習のような勉強会が行われ、田池先生がこの学びをする上で重要な「母の反省」「他力の反省」について講話されました。その時にやっとこの学びの勉強方法を聞いた気がして、それから母の反省、他力の反省を少しずつ始めていきました。

私はこの学びに集うまでチャネラーという人に会ったこともなければ、チャネリングも見たことがありませんでした。もちろん、拝み屋的な所へも行ったことがありませんでした。

初めてセミナーに参加したときに見たチャネリング、チャネラーに気持ち悪いけど何だかすごいと思いました。そして、チャネラーはこの学びのことを分かっている特別な人なんだと思いました。チャネラーは特別、この思いが私の中に広がりました。

ある日、神奈川県相模原市にあった橋本センターに行ってみると、チャネラーが特別な存在になっていて、そうじゃない人との上

下関係がはっきりと感じられました。その様子は私が以前やっていた宗教団体と同じように思えて、この学びは宗教とは違うのにどうしてこんなことになっているのかと疑問に思いました。
これじゃ宗教団体と何も変わらないと思いました。私はこの学びは宗教とは違うと教わっていたし、生長の家のときと同じことはしないと決めていたので、とても複雑な思いでした。

その頃、私の体調が悪くなっていたので、田池先生に病気のことを相談したら、「手術しても大丈夫や。死んだりせえへん」と言われ、夫には「奥さんにものを言わせなさい」、そして私には「旦那さんにものを言いなさい」と話してくれました。私は自分の言いたいことを言っているつもりだったので驚きましたが、多分、言わなければいけない本音が言えていなかったんだと思いました。

それから少しして手術を受けました。
当時、私の病気は原因不明と医者から言われていたけれど、この学びに集うようになってから医学的な点からは分からないけれど、誰のせいでもなく、私の使う心が病気を引き起こしたと分かりました。苦しい思いが私の中には溜（たま）まりに溜まり、その溜まりに溜まった思いが私の身体を傷つけてきたんだと納得でした。そして、そんな私であることを身を持って教えてくれた現象だと受け取りました。

そして、ある頃から瞑想をすると中から思いが出てくるようになりました。その頃、田池先生が意識を受けたら送ってくるようにと話していたので、私は意識を受けて録音し、録音した意識を文字に起こして、田池先生にＦＡＸで送るようになりました。
そして、自分がチャネラーになってみて分かったのは、チャネラーになってもこの学びを分かっている訳じゃないんだということでした。自分の勉強のためにチャネリングをするものだと知りました。
その当時、田池先生がチャネラーは毎日２時間瞑想するように、意識を受けるのも瞑想の一つと言われていたので、毎日、意識を受けては文章に起こす作業を行いました。１時間録音したものを文字に起こすのには３倍くらいの時間が掛かったけれど、その作業は楽しくもあり、毎日毎日続けていました。この頃から私の目的は私を認めてもらうことへと変わっていきました。

それから少しして、田池先生から橋本センターで行われている心の相談室の相談員をするようにと言われて、月に何度か橋本センターに行きました。その相談室はいろいろと大変で、相談員をするのも、相談員の会議に出るのも気が重かったです。そもそも私は相談員など向いていないし、学びもよく分からないしで苦しく辛（つら）いばかりでした。
今思い返せば、その時に使った思いは巫女の時に使った思いそのものでした。権力、戦い、呪い、恨み、そんな苦しい思いばか

りの中、自分の心を見る教材でしかなかったと思うけれど、その時はそうは思えませんでした。

セミナーではほんとに色々な事がありました。それまで私が経験しなかったことばかりでした。嬉しいこと、辛いこと、悔しいこと、悲しいこと、そして、出てくる思いは「戦え、負けるもんか、死にさらせ」です。
セミナーではいろんなことがあったけれど、私はセミナーをやめようとは思いませんでした。初めて参加したセミナーで私の心が叫んだ「ずっと探してたのはこれだった」という思いが、私をセミナーへと向かわせてくれていました。それでも私を認めさせたい、認めてもらいたいという思いを使い続けていました。

その頃、朝、エルに行く途中で、スズメの子どもが道路の縁石にちょこんと乗っていたのを拾いました。その小鳥を家に連れて帰り、飼うことにしましたが、まだ本当に幼くて自力で餌が食べられないため、ゆで卵の黄身を砕いてスポイトで食べさせたり、水を飲ませたりしました。

犬が怖くて苦手だった私は、初めは小鳥も苦手でしたが世話をしていくうちに段々可愛いと思えるようになっていました。窓際に止まれる場所を作り、部屋の中で放し飼いにしました。自由に飛び回り、好きな所に止まり、私たちの肩や手にも乗るようになっていました。スズメだと思っていた小鳥は育つとスズメとは違う模様になり、調べてみるとカワラヒワと分かりました。野鳥なので本当は人が飼ってはいけないことを後から知りました。夫が仕事から帰ってくると決まって夫の頭の上に止まって寛ぎ、夫も嬉しそうでした。
私たちは小鳥にスズポンと名前を付けて可愛がりました。このスズポンとの暮らしは私にいろんなことを教えてくれました。ただただ可愛いだけでした。小鳥との暮らしは想像以上に楽しかったです。

5. 福岡市内に住んでいた頃

僕は途中で一度、株式会社エルを離れ、福岡に引っ越したことがありました。父親が亡くなって母親が一人になったからということもありましたが、自分だけに仕事が覆いかぶさってくるようで、仕事が重荷になり、そこから逃げたくなったからでもありました。

私もその頃、相談室の相談員をやめたいと思うようになっていましたが、田池先生にやりなさいと言われたことを、途中でやめ

ることはできないと自分を縛(しば)っていました。
そんなときに福岡への移転の話が出たので、相談員をやめる理由にも好都合だと思いました。その時は義母と同居ではなく、別々に暮らして休日に会いに行くということだったので、蓄(たくわ)えもないのにピアノを含めた高い引っ越し費用を払って福岡に引っ越しました。飼っていた小鳥も一緒に福岡に連れていきました。

僕は福岡に引っ越してから、最初は失業保険で生活していましたが、妻から貯蓄がゼロになったと言われ、とにかく働かなければと思い学校会計の会計センターに勤めることになりました。
その時に、初めて仕事をしながらこのセミナーに参加することの難しさを知らされました。休みを取るときも周りの人と調整しなければならないし、また費用的にも大変なことだっんだと思い知らされました。

私は会計事務所のパート勤務なのでセミナーへの参加も都合がついたけれど、夫は会社に勤めていたのでセミナー参加が難しくなり、セミナーに参加できないことで悩んでいたので、それではダメだと思い、2年弱で東京へ戻りました。
その頃には義母も一人暮らしに慣れて元気に過ごしていたので、安心して東京へ戻ることができました。そして、夫は株式会社エルに再び戻ることができました。

それでもこの2年弱の福岡市内の暮らしは、それまで暮らしていた北海道や東京とは文化も言葉も習慣も違ってはいたけれど、大都会なのに海や山の自然が豊かで、どんな人でも受け入れるような温かさがあり、居心地のいいところだと感じていました。

6. 再度の東京暮らし

東京の町田市に戻った僕は、仕事としてセミナーに参加することができ、それは本当に恵まれていることだったんだと痛感しました。ただ、鈍感なままだった僕は、仕事として参加することは、強制的に参加している状態でしかありませんでした。

私は東京へ戻ってからはパート勤めをしながら、時々、株式会社エルの事務仕事を手伝ったりしていました。学びの仲間と仕事場でも会えるのは楽しく思えていました。

セミナーへもできるだけ参加しました。アメリカ、全国各地でセミナーが開催されていました。夫は仕事として参加するので、食事は一緒にするけれど、セミナー以外の時間は私は仲のいい友達と楽しい時間を過ごしました。

セミナーでは田池先生に何度も輪の中に呼んでいただきました。私は何が何だか分からないけれど走ってしまう、叫んでしまう、転がってしまう。それが嬉しくて、セミナーに参加していましたが、すべてを肉でとらえ、せっかく感じたものも肉で判断する心癖が強くて、なかなかこの学びの言わんとすることが分かりませんでした。

東京に戻って4年が過ぎた頃、福岡県内に住む母親の町内では新しく高速道路のインター建設が決まり、親戚の家が建設予定地に含まれて移転先を探していました。

母親は父が亡くなった後、10年ほど一人で暮らしていましたが、最寄りの商店街までも遠く、車の運転ができない母親にとっては不便な生活を強（し）いられていました。

そこで、母親が住んでいる家や土地を親戚に譲（ゆず）り、母親は長年暮らし慣れ親しんだ福岡に移転したいと考えて、福岡市の西隣りにある糸島市に土地を見つけ、家を新築して移転しました。高台にある住宅地で、2階の窓から海が見える家でした。

母親からいつの日か一緒に暮らしてほしいとの要望があり、私達も一緒に暮らせるような家になっていました。

そして2002年8月末に、それまで開催されていたエルランティの光セミナーが終了することになり、翌月には株式会社エルも解散することが決まりました。

今まで一緒に仕事をしながら、ともに学んできた仲間とも別れて、それぞれの道を歩むことになりました。

7. 福岡での母との同居

株式会社エルが解散したあと、2002年11月に僕たちは福岡県糸島市に引っ越しました。

この糸島市は玄界灘に面した自然豊かなところで、東は福岡市西区、西は佐賀県唐津市と接していて、福岡の繁華街、天神へ30分、ＪR博多駅へ40分、福岡空港へも50分という便利さでした。

家のある住宅街の周辺には里山、田んぼ、畑が広がっていて、牛舎や鶏舎が点在し、工芸工房や直売所があちこちにある、のどかなところでした。

糸島市は、その昔、「魏志倭人伝（ぎしわじんでん）」に「伊都国（いとこく）」と記（しる）された場所で、いまでも大型施設を建設するときには遺跡が出ることがあり、いつもどこかで遺跡発掘作業が行なわれているような土地で、どこか懐（なつ）かしさを感じる場所でした。

この糸島市で、今度は母親と一緒に生活することになりました。母親は1年前より暮らしており、母親との生活は、妻にとっても、僕にとってもなかなか大変なことでした。

母を嫌ったまま東京に出た僕は、大学で東京に出た当時の状態の続きが始まったということでした。何一つ変わっていませんでした。母親の言葉や態度で、それを見ると凄まじいエネルギーが出てきました。

母親は1階で、僕たちは2階の部屋を使っていたので、面と向かっていないときは、今度こそ受け入れようと思うのですが、朝起きて顔を見るなり、また思いが出てきていました。

私にとって初めての姑との同居生活は2002年11月、姑が75歳、私が46歳の時に始まりました。30歳も離れていると、姑の暮らし方と私たち夫婦の暮らし方とでは、いろんな面で違っていました。

姑は洋裁、編み物、部屋の整理整頓、畑仕事など何でも上手にできる人でした。ただ、左の耳が聞こえ難くなっていて話の内容が伝わらないこともあり、私達は大きな声で話しかけるようにしていました。

生活はそれぞれの部屋でも、食事は一緒に食べて、お風呂は同じという完全同居の中、姑はいつもあんたたちのために……という思いを使っていて、その思いが上から降り注いでくるのを苦しく感じていました。

同居してからは姑と私たちは別々に洗濯をしたにもかかわらず、私が干した私たち夫婦の洗濯物を姑が自分の干し方に干し直したりと、いろんな場面で嫁を教育しようという思いが感じられて、姑に教育されたくない私と、嫁より上に立ちたい姑との闘いになっていて、苦しい日が続きました。

それでも私の中には姑と過去世で親子だったという思いがあり、私が親で姑が子どもという組み合わせのように感じていました。そして、姑は物言いはキツイけど心根は優しい人だとも感じていました。それでも姑への思いは膨れ上がり、そのことで夫と喧嘩になることもありました。

そんな日々の中、時々、3人で日帰り温泉に行きました。姑は旅行や温泉に出かけたことがほとんどなく、初めて日帰り温泉に行ったときは周囲の人の目が気になり、服を脱ぐにも一苦労で、私にぴったりくっついて温泉に入っていました。

姑は常に他人からどう見られるかを気にしていたので仕方がないとは思っても、せっかくの温泉なのに私は気を休めることもできず、夫に「お母さんがいると温泉で寛げない」と文句を言ったほどでした。

それでも懲りずに3人で温泉に行くうちに、姑はさっさと服を脱いで、一人で温泉に入れるようになり、終いには「先に上がってるわよ」

と一人で動けるようになりました。そして、その頃になると私たちのことにあまり干渉（かんしょう）しなくなり、私もだいぶ楽になっていました。

エルランティの光セミナーが終わって、しばらくはセミナーがなかったのですが、新しい人も増えてきたので、その人たちに向けてセミナーが開かれることになりました。そこで僕たちはセミナーのお手伝いをすることになりました。それだけでなく、その後もUTA会セミナーや同窓会としてのUTA会セミナーがあり、それもお手伝いさせていただきました。

その間に『意識の流れ』という本の制作もすることになりました。僕は出版社に勤めながら、本の制作には携（たずさ）わったことがなく、センスも全くなかったので、できるかどうか分からないところから始まりました。

塩川さんとの校正のやり取りで、つくづく感じさせてもらったのは、今まで出版された本を読みこなせていなかったということでした。ということは知識でも分かっていなかったということを知らされました。本当に勉強になりました。

校正を母親や何人かの学びの人にも頼みましたが、母親は最初は全く違ったように校正してきたのですが、何度も何度も校正してもらう間に、自然と的確に校正してくるようになりましたし、学び

糸島の海／左ページの写真は玄界灘

の人の校正でも、えぇ、そういうふうに受け取るんだと思うような校正をしてくる人もいて、知識でも正しくとらえることは案外難しいのかもと思わされました。

福岡でも今まで通りにセミナーのお手伝いをさせていただきました。

2人で分担してセミナー参加の申し込み、入金確認の連絡、セミナーの資料などの印刷等、また終了後にはセミナーを録音したCDの製作、発送等を行っていました。

その当時はセミナー参加者が800人くらいだったので、セミナー参加申込日から2、3日で7割くらいの方が申し込まれるのでパソコンでの入力作業が追い付かなかったり、セミナー参加者に配られるセミナー資料はページ数の多い時もあり、毎回1600枚〜

2400枚ほどの紙を家族3人で半分に折り畳んだりしていました。この紙を畳む作業は大変だったけれど作業をしているといつも楽しくなっていました。

福岡に引っ越して1年間は、夫は失業保険を貰っていて仕事に就いていなかったので、セミナーに参加するための交通費を節約するためと、セミナー資料などを運んでいたので、車で高速道路を使わずに一般道だけを走ってセミナー会場まで行っていました。

福岡から琵琶湖畔や下呂温泉まで片道800キロから1,000キロの道程を2泊3日間で走り、途中、夜になると日帰り温泉に入って近くの道の駅で車中泊をしました。そして、セミナーには前日泊から3泊4日で参加して、帰りも同様に一般道を2泊3日で走って帰っていました。家を出発してから帰り着くまで7泊8日の旅でした。

大変だけど、これが思いのほか楽しかったんです。家を出たときからセミナーが始まっている感じで、交代で運転する長距離も苦にならず、美しい田舎の風景や日本海、瀬戸内海の景色を眺め、夜になると温泉でのんびりしてと、日常とは違う時間を過ごしたセミナー会場への往復は、ほんとに楽しいものでした。

このセミナーへ参加する1週間は私にとっても、姑にとっても必要な時間だったと思います。嫁姑のそれぞれが相手が特別何をしたという訳でもないのに、そこに存在してるというだけで感じる圧みたいなものから解放される時間だったからです。

それでも姑に一度でいいからセミナーに参加してもらいたいという思いが募り、そのことを話したところ、すんなりと下呂セミナーに参加してくれました。姑は初めて参加したセミナーで落ち着かなさそうにしていましたが、隣りに座っている私には姑の中の思いがとても喜んでいるのを感じられ、私まで嬉しくなりました。

姑はその後、2回セミナーに参加してくれました。それからも姑はいつもセミナー資料を畳む作業などを手伝ってくれました。そんなときの姑は嬉しそうに見えました。

そして、8年後の2010年4月に我が家に柴の仔犬がやってきました。

たまたま通りがかった小さな直売所に柴の仔犬が3匹いました。たぬき顔の男の子が2匹、きつね顔の女の子が1匹でした。犬を飼うなんて考えてもいなかったけれど、姑が仔犬を飼いたいと強く希望したので、家の中でも育てやすい女の子を飼うことにし、名前を「なな」と付けました。

夫は子どもの頃に犬を飼っていた経験があり慣れていましたが、私は猫は飼ったことがあるけれど、犬は初めてだったのでいろんなことに戸惑いながらも、「なな」の可愛さに癒されていました。

ななはお転婆を通り越すほど元気で、愛くるしいけど家にある物を何でもかじっては壊すので、成犬になったらどんな犬になる

のか心配しましたが、「なな」がいるだけでみんなの笑顔が増えて会話も多くなりました。「なな」は2歳になると落ち着きが出てきて、家の中でもいたずらをしなくなり、姑もななを部屋に入れて遊んだりして可愛がっていました。

僕はそれまで母親とはあまり会話がありませんでしたが、我が家に「なな」がやってきてからは、結構、母親としゃべるようになりました。

しかし、母親の降り注ぐような思い、それに反発する僕の思い、あるときそれが爆発し、母親に向かって「殺してやる」「殺せるなら殺しなさい」というやり取りの末、母親を羽交い絞めにしてしまいました。

その羽交い絞めしているときに止めに入ったのは、まず飼い犬の「なな」でした。僕に対して盛んに吠えて、その声を聴いて妻が入ってきて、「何してるの〜」で終わりました。

そのあと1週間、母親は僕を無視して全く会話もありませんでしたが、それ以降、あんなに降り注いでくるような思いが、そうでもなくなっていました。

私は夫が姑と大喧嘩をしたことで姑の思いを知ることができました。姑の中で夫は東京の大学へ行ったときの子どものままで止まった状態だということ、その子どもを守らなきゃという強い思いなど、喧嘩のあとに私に話してくれました。

もう大人の私たちのためじゃなく、自分のために楽しく暮らしてほしいことなどを伝えました。どう受け取ってもらえたかは分からないけれど、それからは姑から降り注ぐエネルギーを感じることが少なくなりました。

鈍感な僕が少しずつ変わっていったのは、車を買ってからです。福岡に帰って母親と一緒に生活するには、車が必要になるだろうと、まだ東京にいるときに妻が教習所に通いました。そして、免許を取ってもすぐに車を運転しないと運転できなくなるからと、妻が免許を取得したときに車を購入しました。

僕たちにとってはとても高額で、そのお金が動くということでいろいろと思いは出るし、実際に車を運転していてマナーの悪い人の運転を見ると突然スイッチが入り、ヤクザに変身しました。車を運転すると人が変わるとよく言われますが、その通りでした。お腹の底から噴き出してくるエネルギー、そのエネルギーは抑え

られないんだという体験をしました。

その頃、「愛の文字の入ったTシャツをつくれないだろうか。胸に赤色の愛の一文字が大きく入っているTシャツを着れば、いつでも田池留吉に心が向くだろうから」という話が届きました。

愛の文字は田池先生が書いてくださるということだったので、Tシャツを制作してくれる所を探していると、我が家の3軒隣りの家の門に新しく「Tシャツ制作」の看板が出ていたので聞いてみたところ、その家のご主人が脱サラして新しくTシャツ制作の事業を始めたというので、白地に赤の愛の文字が大きく映(は)えるTシャツの製作をお願いしました。そして、ご希望の方にこのTシャツを販売させていただきました。その後のセミナー会場では、笑顔でこの愛のTシャツを着た参加者が大勢おられました。

2012年9月1日にテスト的に実施されたスカイプ瞑想会。田池先生お一人で参加。翌月10月28日の瞑想会では、塩川香世さんも参加。そして翌年1月27日には第1回スカイプ瞑想会が沖縄と大阪を結んで開催される。

それ以降、愛の文字は草書体(そうしょたい)に変更になり、左胸に愛の文字の入ったTシャツが製作されるようになりました。

福岡へ来てから福岡在住の学びの仲間と集まるようになりました。時には10人くらい集まって海沿いのカフェでランチをしたり、名産の焼き牡蠣(かき)を食べに行ったり、我が家に集まって歓談したりしました。東京に住んでいるときは学びの仲間とセミナーや仕事以外に集まる機会はほとんどなかったので、福岡の仲間との交流は楽しい時間となりました。

そんな中で、UTAブックで新しく開催するスカイプ瞑想会のテストを大阪と福岡で行うことになり、会場探しから始めました。ネット環境が整(ととの)っていて、大きな声を出しても問題がない所は結構ないもので、やっと見つかった会場に福岡に住んでいる人に集まってもらって、大阪とネットで繋(つな)いでスカイプ瞑想会を行いました。離れていても画面を通して一緒に学べることに参加した仲間たちも喜んでいて、スカイプ瞑想会はいいなと思いました。

私はというと、この学びに集うまではずっと道徳的に生きてきていました。神社仏閣では神を敬(うやま)い仏に参り、年中行事をきちんと行い、人間としての常識から外(はず)れたことをしないように教育を受けてきたので、一応はちゃんと生きているつもりでした。それが人間として正しいと思っていました。

　この学びを初めて、私がやってきたことは間違っていると教わり、神社仏閣を訪れなくなり、年中行事もしなくなりました。常識や習慣、道徳をやめていこうと思うことには抵抗はなかったけれど、冠婚葬祭への出席を断るのには勇気がいりました。特に葬祭へ出席しないことを伝えるのは難しかったです。

　初めての松山セミナーに参加して半年が過ぎた頃に夫の父が亡くなり、私は初めて身内の葬儀に参列しました。それは夫の実家で行われ、お坊さんのお経を聞いていると苦しくてたまりませんでした。そのお経を聞いていると亡くなった人へ無事にあの世へ行ってくれ、残っている人に災いを残してくれるなと伝わってきました。要は死んでから生きてる人に祟ることなく消えてくれというものでした。よく分からない言葉に置き換えられたお経の内容は、こんなことだったのかと驚きました。

　そして、義母は葬儀に参列した人への挨拶、食事の世話や葬儀の采配に追いまくられて、きちんと葬儀を終えることだけに神経を使い、亡くなった父にお別れを言う時間もないほどの忙しさでした。嫁の私も座る暇もなく裏方の仕事に追われていましたが、何のための葬儀なのかと疑問になりました。そして、みんなが真面目にやっていることが何だかバカバカしく思えました。家族の思いよりも対外的な慣習に重点が置かれている葬儀など、なくてもいいと思えました。

　その時、私の中ではこの学びでいう、葬儀は苦しいだけで間違っているというのが納得でき、今後、二度と葬儀には出席しないと決めました。

　それから十数年して、私の母が亡くなりました。母が癌を再発して余命が短いと分かった時点で、葬儀のときでは混乱させてしまうと考え、それより前に郷里に帰って、地元に住む兄に葬儀に出席しない理由を伝えました。兄は私の話を遮ることなく聞いてくれたあとで、父と姉たちには、俺から伝えておくからと言ってくれました。私が兄が大好きだったこともあるし、夫は兄の友達でもあったので、一番話しやすかったけれど、それでも勇気がいりました。それから少しして父や姉たちから好きにしていいよという返事が届き、ホッとしました。

　母が亡くなる３カ月ほど前にホスピスに入院中の母を下の姉と一緒に見舞いに行きました。母は見る影もなくガリガリにやせ細り、ベッドに横たわったままであまり話もできませんでした。それでも側にいるだけで良かったんです。母と姉と私と本当に久しぶりに過ごす時間が愛おしかったんです。

　それでも時々、手紙を送り、母が亡くなる前に、母に産んでもらったことや育ててもらったことへの感謝の気持ちを伝えたかったん

です。母にありがとうと言えることが嬉しかったんです。

それから数カ月後の3月。大雪の日に母が亡くなりました。私は葬儀には出席しないけれど、母にお別れを言いたかったので故郷函館へ帰りました。住んでいる福岡から北海道の函館までは飛行機の直行便がないので羽田で乗り換え、朝、家を出たのに、母の所に着いたときは夕方になっていました。横たわった母はすでに抜け殻になっていると思いました。もう母とは違う、物になっている気がしました。

私が葬儀に出ないことは父、姉たち、兄が承知していたので、私は一切参列しませんでした。それでも、みんなと母の話ができ、私は母を思うと嬉しさが込み上げてくるのを感じて、ありがとうの思いが溢れて仕方がありませんでした。

函館山から街を眺めるなな

そんな私に父は「自分なりのお別れができたのか」と聞いてくれました。「うん、できた」と答えると「それなら母さんも喜んでるな」と言って笑ってくれました。私はずっと短気で夫婦喧嘩ばかりしている父を責め裁き恨んできました。でも、その時の父は優しかった。父は私の葬儀に対する思いを受け入れてくれて、更にちゃんと聞いてくれました。父はこんなに優しかったのに、私が父の優しさに気が付けなかったんだと思うと申し訳ないと思いました。自分勝手な思いだけで父のことを傷つけてきたんだと思えてたまりませんでした。

そんな父も、それから2年ほどで亡くなりました。

父が亡くなる2カ月前に、病院に入院中の父を見舞ったときに、ベットの上に座った父といろんな話をしました。そして、病室から出る私を呼び止めた父は「ずっと旦那と仲良く暮らすんだぞ」と言いました。その時の父はそれまでの雑談のときとは違っていて、会うのはきっとこれが最後だからお別れにという感じがしてたまりませんでした。結局、それが父とのお別れでした。

父に会いに行ってよかったと思いました。父にありがとうと伝えられて、父に可愛がってもらったことを思い出せて嬉しかった。

母や父が亡くなったときのことを思い返すとしみじみとした思いが広がります。亡くなったのに悲しいとか寂しいという思いよりも

嬉しい思いが広がり、より母や父を近く感じるようになる体験でした。そして、母や父のことが大好きだったんだと改めて思えました。亡くなったのに嬉しい思いが溢れ出る不思議な体験でした。

糸島市での姑（しゅうとめ）との同居生活にも次第（しだい）に慣れ、姑も庭で野菜作りをするなど自分の時間を楽しめるようになり、私たちも少しは自由に動けるようになりました。ななも元気に育って、あまり細かなことに振り回されなくなって気楽に暮らせるようになっていました。

それでも私の中からクソババの思いは出ていましたが、結局、クソババの姑は私の姿だったと思い知らされることが多くなり、それを受け入れるのに葛藤（かっとう）する日々でした。頭では分かっていても心が受け入れないという感じでした。

8. 大阪に住んでいた頃

福岡に住んで11年が経（た）った頃、私たちはセミナー参加のため以外にもUTAブックの会議、また学びの仲間との勉強会などで、月に1回は福岡から大阪に出掛けるようになっていました。2人分の費用を考えて車で移動していましたが、高速を使っても片道7時間くらいかかる道程が段々辛（つら）くなっていたこともあり、大阪に

整地作業が進む大宝の中村さん住宅予定地

引っ越したいという思いが強くなっていました。

最初のスカイプ瞑想会が終わったその日、僕は母親に大阪に引っ越したいと打ち明けたら、「そう言うと思ってた」との返事でした。さらに「住む所はあるの」と聞いてきたので、「住みたい地域にはあまりアパートがない」って言うと、「じゃ、この家を売って、そのお金で家を建てなさい」とまで言ってくれて信じられませんでした。

そのあと、近くに住んでいる姉夫婦にも断（ことわ）っておかなければと思ったのですが、ちょうど遊びにきてくれたので「大阪に引っ越したい」と言うと、義兄が「お婆ちゃんは、今度は自分たちが看（み）るから」と言ってくれました。姉はちょっと渋っていましたが、義兄が承諾してくれたので、仕方なく「分かった」とは言ってくれました。

そのあと、糸島の家の売買から大阪で住む家の建築、そして、家が完成するまでの仮住まいなどが、あれよあれよという間に決まってしまい、2013年3月に大阪に引っ越すことになりました。その時は順調に事が運ぶことはいいことで、そうでないときはダメという考えが強かったのですが、「うまくいくから、いいというわけではないよ」と田池先生から言われました。

大宝に久保ホール完成間近　2014年９月撮影

僕にとっては初めての関西。大学で東京に出たときから、新幹線の車窓から見えた大阪は、なぜか温かいものを感じていて、いつかは住んでみたいなという漠然とした思いがありました。反対に、東京はビルがどこまでも続く大都会でしたが、どこか冷たい感じがしました。

大阪に移ってから、大宝ホールができたり、水の勉強が始まったりと、僕にとっては激動の場所になりました。大宝ホールで毎日のように勉強会がありましたが、一度も顔を出すことがありませんでした。しかし、水の勉強が始まり、近くの人と毎朝集まって瞑想を行うようになってから、やっと大宝ホールにも顔を出すようになりました。

あるとき、その勉強会での瞑想で、ある人から僕の中が、「どうしたらいいか教えてほしい」と言っていると言われたとき、初めてこのままじゃダメだと思いました。頭だけで分かったつもりになっていたんだと、心に響きました。今更と思われるかもしれないけど、本当に今更でした。

それからは、本気で瞑想をしようと思いました。自分の心で分かるようにしようと思いました。しかし、そう簡単には行きません。瞑想をしても、すぐに船を漕ぐ始末でした。ですが、まずは正しい瞑想ができるように続けようと思いました。

昔、株式会社エルに入って間もない頃だと思いますが、セミナーが行われている間に、田池先生を囲んで次号のエルニュースや本、冊子の打ち合わせがありました。誰かが話している途中で、田池

先生がボソッと「私はみんなみたいに何もできないけど、田池留吉を信じる信は誰にも負けないよ」と言いました。えぇ、何を言い出すんだろう。田池留吉って自分じゃないのかってその時は思ったんですが、その真意が全くもって分かっていませんでした。

常に頭をクルクル回す癖がある僕は、心で感じるということが難しく、田池留吉を信じるとはどういうことだろうと、頭を回すばかりで、ああいうことかな、こういうことかなと、ちっとも先に進めない状態でした。

人を見て、人と比較して、常に上でいたいという願望だけが強くて、それでいて中身が何もない。田池先生は、あんなに長いこと事細かに教えてくれていたのに、全くもって不真面目な僕でした。

私にとって大阪に住むのは予想外のことでした。福岡で姑との同居暮らしが始まったときに、姑が亡くなるまでは福岡で暮らすことになるだろうと思っていたからです。

それでも毎月のように大阪へ出掛けるようになって、大阪で暮らすことを考え初めましたが、姑が許してくれるとは思っていなかったので、すんなりと許してくれたことが意外でした。

関西で初めて暮らしてみると、これまで暮らした北海道、東京、福岡とは全然違う関西ならではの文化に戸惑いました。それでもセミナーで大阪の人と接する機会が多かったし、今までどこで暮らすことになっても「郷に入っては郷に従え」という感じで過ごしていたので、少しずつ関西に慣れていきました。

大阪の大宝には田池先生や学びの仲間がたくさん住んでいたので、福岡の学びの友と同じように楽しく交流できるのではないかと思っていましたが、私たちが引っ越したときにはすでに学びの仲間に派閥のようなものができていて、気軽に交流できる雰囲気ではありませんでした。

ただ、その派閥に加わらない若い人たちもいて、その人たちと休日に卓球を楽しんだり、集まって食事をしたりと、それなりに楽しいこともありました。

もちろん、地域の皆で集まっての勉強会に参加したり、個人的に集まって毎日瞑想をしたりと、いろいろと勉強ができました。

また、学び以外の大宝の住民には、この学びが新興宗教のように思われていたので、いろんな面で気をつけなければならず、それもやはり窮屈な感じがしました。それでも犬を通して住民の方と親しくさせてもらうこともあり、徐々に気にならなくなっていました。

大宝に来てから夫は、今まで在宅勤務だった仕事先の営業所が同じ町内に開業したために、毎日出勤するようになりました。け

れど、設計の仕事をパソコンでしていたために、目が疲れて頭痛で寝込むことが多くなっていました。

あるとき、そんな夫に、田池先生が「目が疲れるのは良くないから、浄水器のフィルター交換の仕事をしてはどうか」と声をかけてくださいました。元々、機械いじりが好きな夫は仕事を辞めて浄水器のフィルター交換の仕事をするようになり、目の痛みから起きる頭痛に悩まされなくなりました。

そして同じ頃に、田池先生から「セミナーの会場で愛の文字入りのグッズを販売してはどうか」とお話を頂きました。それまでもセミナー会場でグッズの販売を手伝っていたこともあり、中村商店を立ち上げて、セミナー会場でTシャツなどの販売をし、後(のち)には水素水に関する商品も扱うことになりました。

田池先生は「良い品物をできるだけ手にしやすい価格で売ってな。けど何を売ってもいい訳じゃないんやで。愛の文字を入れて、その品物を着る、使う、飲むときに、心が田池留吉に向くようなものを」というお話でした。

だから、手に取ったときに田池留吉に心を向けてもらえる品物や、身に着けたときに田池留吉に心を向けてもらえる衣類を作っていこうと思っていました。作りたい物があってもそれを製作して販売するとなると、なかなか難しかったけれど、その過程も楽しいと思えていました。

9. 志摩に住むことになって

2015 年の初め頃、田池先生との打ち合わせで、志摩の話が持ち上がり、即、僕も行きたいと思いました。しかし、妻にそのことを話したのですが、今度は乗り気ではありませんでした。それもそのはずです。まだ家を建てたばかりで、また移るなんて、バカも休み休みにしてくれっていうもんだと思います。

しかし、取り合えず田池先生の土地はどういう所か見にいこうということになり、まずはドライブがてら見に行きました。

私は夫が志摩へ引っ越したいと言い出したときには、すぐに賛成できませんでした。その当時は大阪に引っ越してきて３年が過ぎて、やっと落ち着いてきたと思っていた頃だったし、関西圏で浄水器の仕事をしてるのに志摩へ行って続けられるのかという思いと、またお金の苦労をするのかと思うと、すぐには返事ができませんでした。

そこで、まずは志摩がどんな所か見に行ってみようということになり、ドライブがてらに出掛けてみました。

私たちはそれぞれが海沿いの街で生まれ育ったこともあり、東京や福岡に住んでいるときはよく海に遊びに行っていたので、大阪で海に遊びに行けないのを残念に思っていました。なので何度

か志摩へ行くうちに、志摩の海の広さや美しさに次第に引っ越してもいいかなと思うようになりました。私がそう思うまで夫は強引に話を進めることなく、待っていてくれたのでありがたかったです。

志摩は今までに住んだことがないような田舎具合でした。何度か訪れては、いい場所がないか見て回り、不動産屋に尋ねることにしました。最初の不動産屋では、田池先生の土地の近くでは売地はないですと言われ、名前と住所を書いておいてで終わりでした。えぇ、志摩の人ってこんな感じって、全く親切でないなと思ったのですが、もう一軒聞いてみようと思い、別の不動産屋に連絡してみました。その方は出身がその場所だったみたいで、一応、候補をいくつか紹介してくれました。ほとんどは別荘地なのですが、軽井沢のような別荘地ではなく、ただ山を切り開いて土地を販売しているというもので、原生林みたいな所ばかりでした。

不動産屋の人と現地を見た帰りに歩いていると、笹が覆い茂ってはいたのですが、ここならいいなという場所があったので、「この土地は売ってもらえるのですか」と聞いたところ、「確認してみます」で、後日、「売ってくれるそうです」ということから、そこに家を建て、移り住むことになりました。

志摩の海を見入る中村康一さんとななちゃん

しかし、福岡から大阪に来たようにはトントン拍子に事は運びませんでした。家を売ると決めてから実際に家が売れるまでに1年半掛かりました。その間、もうダメだと何度夜中に寝ている妻を起こしたことか。その度にどうなるのかは分からないんだから、今日は寝なさいと諭されました。

僕は心配性です。どうなるか分からないことなのに、ダメだったらと悪いほうばかりに思いが行ってしまいます。子どもの頃からの癖です。

ただ、結果的に時間が掛かったことが家の設計の準備や工務店の都合上も丁度良かったりしたのですが、すぐに結果が出

ることを望む癖もあり、待てない性格だったので、苦しかったです。

私が思っていた以上に志摩へ引っ越すには月日が掛かりましたが、志摩へ移住するための準備ができたので、待たされたのは私にはちょうど良かった気がしています。

けれど、それに何かを強引に動かしてまで移住したいとは思わなかったので、無理するのだけは止めようと思っていました。

志摩の家は、周りは雑木林で、庭は笹薮に覆われていて簡単には畑にできない状態でした。何年掛かるか分からないけど、笹も３年刈り続ければ枯れるということだったので、僕は気長にやることに決めました。

家ができて引き渡しのときに、福岡から義兄が母親を連れてきてくれましたが、母親も気に入ったみたいで、もう少し若かったら一緒に住んだと思うと言ってくれました。もう諦めているのかと思いきや、姉と何かあったらしく、突然迎えにきてと電話を寄越し、福岡まで車で迎えにいき、そのまま母親も一緒に志摩で暮らすことになりました。

たぶん、最初はそのうちは帰る予定だったんだと思いますが、コロナで県を跨いでの行き来ができなくなり、志摩にずっといることになりました。

また、母親に対する僕の勉強が始まりました。僕の最大の課題だと思っています。

塩川さんが「口から音として異語を発してください」と言われた頃から、なかなか声を出せなかったのですが、もう何でもいいやと家で行う瞑想のときに声を出すようにしてからは、少し感じるようになってきました。今感じているのは何だろうと頭を回す癖はまだまだありますが、ああ、何だっていいんだと思うようにしました。音として出してあげようと思いました。

そうやって少しでも感じられるようになると、ああ、今まで何を勉強してきたんだろう。全くやっていなかったんだなあ、と思います。まだまだ構えると頭を回して分からなくなるし、みんなみたいにすごく感じるわけではないけど、それでもいいと思います。

すぐに人と比較して、自分を高くしたり低くしたり、それで落ち込んできたことに疲れました。

夫が志摩へ移住したいと言い出してから２年後の秋に、やっと移住することになりました。雑木林に囲まれた場所に、大阪の家よりも狭い平屋の家を建て、二人と一匹の暮らしになりました。志摩は上下水道が完備されておらず、人生初の井戸水と浄化槽の生活になりました。

これほどの田舎暮らしは初めてで、日常の買い物ができるスーパーなどはあるけれど、今まで買い物をしていたような大型ショッ

ピングセンターやコストコ、ユニクロ、ニトリもないので、当初は困りました。けれど、生活していくうちに無いのであれば無いなりに暮らせばいいという思いになりました。
　それよりも海岸や入り江、砂浜、公園、田んぼ、茶畑、古い町並みなど自然豊かな風景の中を、季節や日により景色が変わるのを見ながら夫や犬と散歩するが楽しくなり、志摩へ来て良かったなぁと思えるようになりました。

　心配していた浄水器の仕事で関西へ行くときは、私も一緒に行くようにしました。運転だけでも手伝えればと思っていましたが、そのうち助手のような作業もするようになりました。
　浄水器の仕事は1泊や2泊で仕事先を回ることも多く、犬をドッグホテルに預けるには費用がかかるため、犬も一緒に連れて行くようになりました。
　初めは夫が仕事をしてる間は、私が他の場所で犬と過ごしていましたが、そのうち犬も一緒に家の中に入れてもらえることが多くなり、私たちが工事作業をしている間に犬と遊んでくださる方もいたりして、お客様との会話も増えて、志摩から関西までの遠い道程も含めて楽しい時間になっていました。

　志摩へ来て２年が過ぎた頃に、福岡に住んでいる姑（しゅうとめ）に志摩へ遊びに来ませんかと誘ったところ、行きたいとの返事だったので、福岡まで迎えに行きました。９２歳になっていた姑は、福岡の家には畑仕事をする庭がないので久しぶりに大好きな農作業ができると、毎日楽しそうにしていました。そうして一カ月後に福岡に帰りました。久しぶりに過ごす姑との毎日は一カ月限定というので、あまり戦いにもならずに終わりました。

　そして、その半年後に、姑から志摩に住みたい、娘の家から出たいとの連絡がありました。当時、姑と同居していた義姉は体調を崩して療養中で、母親の面倒を看（み）るのが難しい状態になっていたことや、実の親子でも上手くいかずにギクシャクしていたこともあり、姑には志摩に移住してもらい、義姉に療養してもらったほうがいいのではないかと考え、義姉たちに相談の上、福岡に迎えに行きました。

　現在、姑は 96 歳です。志摩へ来て 3 年半が経（た）ちましたが膝を悪くしているだけで介護の必要もなく、病院へ通うほどの病気もなく、自分の身の回りのことは一人でしています。ご飯もよく食べるし、入浴も一人で大丈夫と、元気に暮らしています。
　元々、農作業が大好きだったので、志摩へ来てからは天気のいい日は一日中、外で農作業をしています。90 歳を過ぎた年齢で一日中、外で農作業をするのは無理をしているのではないかと心配しましたが、自然の中で好きなように身体を動かしてるほうがい

いようです。それでも、時々、部屋でうたた寝をしているのを見ると、やはり年を取ったんだなと思います。

ただ、姑は難聴が進み、私たちとの会話を何度聞き返しても内容が理解できないくらいになっていて、よく聞こえるという機材を試しに使ってみましたが効果はなく、夫の低い声は一層聞こえないというので、夫の話を再度、私が話したりしてと、以前よりも意志疎通が大変になってきました。

そんな日々のやり取りが伝わらないことに加え、姑の態度に怒りや戦いの思いが溢れてくるようになりました。姑が期間限定のときには出ない思い、押さえていた思いが、どんどん出てくるようになりました。

思い返せば、私は幼い頃から両親に使い続けてきた思いと同じ思いを今も使っています。

邪魔なものは抹殺したい思いです。邪魔な相手に死ね、消え失せろという思いを使ってきました。そして、両親にも姑にもその噴き出す思いを言葉にして言えないから余計に苦しんできたんです。出せずに溜め込んできたエネルギーは半端なものでないと感じています。それは自分の出す思いを自分の中で見ていく作業が追いつかないほど、日々、思いは溢れ出てきます。本当にしつこい私です。

この姑との同居生活は、私の心を見るために必要なことなんだと頭では分かっているけれど、心から思いが噴き出してきます。

そして姑からも、縋る思い、牛耳る思い、寂しい思いなどを感じますが、それ以上に我は神なり、我に従え、そんな思いを強く感じてしまいます。

けれど、それは私の使っている思いなんです。目の前の相手は自分の姿を映しているに過ぎないからです。私の嫌な部分、受け入れ難い部分を目の前ではっきりと見せられるから、受け入れられないから、闘ってしまうんです。私は私と闘っているだけなんです。これが自分の姿だったと受け入れられたら、どんなに楽かと思います。

私がそんな自分を受け入れられたら、きっと姑に対する思いも変わってくると思います。心からのありがとうを伝えられることができたら、どんなに嬉しいかと思います。きっと姑はその時までつらい役割を続けてくれることだろうと思います。そんな姑に、いつか心からのありがとうを伝えたいと思っています。

楽しかったセミナーのお手伝いも 2015 年には終了し、2014 年 4月に開業した中村商店も 2022 年 12 月末で閉店させていただきました。夫婦ともに高齢者になったのが大きな理由でしたが、楽しい仕事だったので閉店するのは寂しかったです。

中村商店では多くの皆様に大変お世話になりました。愛犬なな

（13歳）も随分可愛がって頂きました。本当に楽しい時間をありがとうございました。

10. 250年後の自分へ向けて思うこと

僕は小学生の頃から疑問に思っていたことがあります。それは、僕は何で僕なんだろうか。どうして僕は目の前にいる友達ではないんだろうか。そして、どうして僕は友達と入れ替わって物を見たり感じたりすることができないんだろうか。本当の友達は見えている姿ではなく、どこか別のところにいるのだろうかと、よく疑問に思っていました。

そして死後の世界にも、とても興味がありました。ですが、僕の思う死後の世界は肉の世界の延長線上で、丹波哲郎の大霊界という本に描かれた死後の世界そのものでした。しかし、その死後の世界にも心のどこかで、何か違和感を感じていました。

僕は真実が知りたかったんです。どこかに真実を知る人がいるのではないかと思っていました。しかし、僕は真実は頭で分かると思っていたから、知識として探しました。この学びに出会って、田池先生から「真実は頭では絶対に分からない、心でしか分かりません」と教えられました。そんなことを聞いたのは、初めてでした。

頭を回す癖が強い僕は、そう言われてもどうすればいいのか全く分かりませんでした。鈍感で鈍感で何も感じないから、敏感な人を見ると落ち込むばかりで、そんな自分を見たくない思いがいっぱい出てきて、苦しいばかりでした。

そんな僕ですが、最近、異語を発しての瞑想を通して、やっとやっと心が何かを感じていることが分かり始めました。まだ、ほんの少しですが、人と比較するのをやめようと思います。とにかく感じていることを信じていこうと思います。

少しでも何かを感じてくると、温もりも感じることがあります。その温もりを信じて、最終の250年後の自分に心を繋げようと思います。そのために、今世この時期に肉を頂き、この学びに出会ったんだと思います。

私は何もかも間違って生きてきたと感じています。ほんとに何もかもでした。何か一つくらいは正しいことがあったと思いたいけれど、一つもないんです。すべて間違ってきたんです。肉を基準にして生きているということが間違いだったんです。そう思っても今もまだ肉を基準に暮らしていて、意識の基準に変えられずにいるんです。本当にこの学びも看板を変えただけでした。

そんな己偉し、我は神なり、我こそはと自らを落とし込め続けてきた冷酷な私ですが、どんな私でもよかったんです。どんな私でもこうして田池留吉に出会う機会を頂きました。田池留吉の波

動を感じる機会を頂きました。それは本当に幸せなことでした。感じた田池留吉の波動を来世に繋（つな）げる。私の中の田池留吉の波動を来世に繋げることが今世の私の仕事です。そのことをやり続けていける優しさを広げていくことでした。ありがとうです。ありがとう。この肉体をありがとう。この今をありがとうです。

私は250年後を思うとき、アルバートとの出会いを思うとき、私の中から「ずっと探していたのはこれだった。やっと出会えた」という思いが溢（あふ）れてきます。この思いは初めてこの学びのセミナーに参加したときに私の中から溢れた思いと同じです。ずっと探し続けた真実に会えた喜びを優しさを、250年後の自分へ繋げようと思います。

まだ田池先生がセミナーに参加されていた頃、セミナー終了後に多くの参加者が田池先生の側に集まって写真を撮影する場面がありました。その時に田池先生の近くに寄るといつも田池先生が小さな声で「忘れな草をあなたに」のメロディーを口ずさんでいて、何とも胸に迫（せま）るものがあり涙が溢れていました。今もこのメロディーを口ずさむと心に響いてきます。250年後にこんな出会いが待っていることを信じています。

「忘れな草をあなたに」

別れても　別れても　心の奥に
いつまでも　いつまでも
おぼえておいて　ほしいから
しあわせ祈る　言葉にかえて
忘れな草を　あなたに　あなたに

いつの世も　いつの世も　別れる人と
会う人の　会う人の
さだめは常に　あるものを
ただ泣きぬれて　浜辺につんだ
忘れな草を　あなたに　あなたに

喜びの　喜びの　涙にくれて
抱き合う　抱き合う
その日がいつか　くるように
ふたりの愛の　思い出そえて
忘れな草を　あなたに　あなたに

3. 心を見るということが、すべてです。

「心を見るという作業をするために生まれてきました」と、今現在本当にそのように思われていますか。あなたの心で納得されていますか。人生の目的を他に探していきたい、求めていきたいという思いが心のどこかにありませんか。そういう思いを見過ごして、あるいは、押し殺しておられないでしょうか。

　また、心を見ても一向に変わらない、心癖はなかなか変えられないと思っておられませんか。

　そのような思いの底にしっかりと流れている他力のエネルギーを、心で感じて確認してこられましたか。

　心を見るという作業の中で、こういった様々な思いがまた錯綜(さくそう)するかと思われます。それでいいのです。どのような思いが心によぎり、心に湧(わ)いて出てきても、ただ淡々と心を見ていくだけです。落ち込んだり投げやりになったりしても、またそこから自分で立ち上がり、心を見るということにエネルギーを注(そそ)いでいってください。

　心を見るという作業を通して、自分自身が培(つちか)ってきたエネルギーを知っていけばいいだけなのです。そうすれば、そのエネルギーが、自(みずか)らを駆(か)り立て自分の中の愛に気付いていくエネルギーであったと、必ず心に響いてくるときがやってくるでしょう。

3. Reflecting on your heart is everything.

Do you genuinely believe at this moment that 'you were born to reflect on your heart'? Are you convinced deep down? Is there a part of your heart that yearns for a different purpose, a different pursuit? Are you inadvertently overlooking or suppressing these feelings?

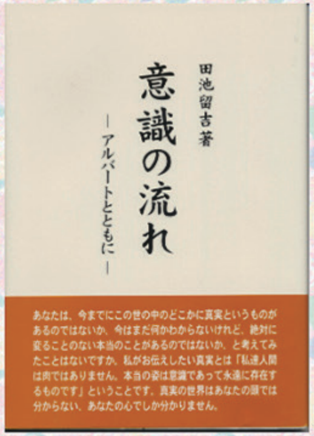
Do you think that even after reflecting on your heart, nothing changes, and your ingrained habits are difficult to alter? Reflect on the deeply rooted negative energy that relies on external forces within you. Have you ever acknowledged or sensed these energies?

During the process of self-reflection, a myriad of thoughts and emotions may intertwine. And that's okay. Regardless of the thoughts that flit across your mind or the emotions that well up in your heart, just continue to reflect on your heart. Even if you feel down or desperate, pick yourself up and refocus your energy on self-reflection.

Through the process of reflecting on your heart, all you need to do is become aware of the energy you have nurtured within yourself. In doing so, you will eventually recognize that this energy is what propels you towards acknowledging the love within you. There will come a time when this realization will resonate profoundly within your heart.

意識の流れ―アルバートとともに―

「意識の流れ」を読まれた方々へ



何度も読み返していますか。
読んでほしいと思う人が何人出てきましたか。
続おわりにの１０項目、しっかり理解できているでしょうか。

１　波動の世界だけが真実の世界です。
２　真実の世界はあなたの頭では分からない、あなたの心でしか分かりません。
３　心を見るということがすべてです。
４　心を見ていけば苦しんでいるあなたに出会います。そして、その苦しんでいるあなたが間違っているということです。
５　苦しんでいるあなたは偽物です。本当のあなたに出会っていってください。
６　本当の喜びと幸せを、その心で知っていってください。
７　意識の流れは厳然としてあり、私達はその流れの中に存在しています。
８　宗教では人は救えません。
９　天変地異は喜びのエネルギーです。
１０　私達は喜び、すべてが喜びです。そして、すべてはアルバートとひとつです。

あなたの評価は★★★★★ですか。

意識の流れが伝えている真実とは、「私達人間は肉ではありません。本当の姿は意識であって永遠に存在するものです。」ということです。まさにコペルニクス的転回です。

2005 年 7 月 2 日（公開されて 2 日目）の「意識の流れ―アルバートとともに―」のホームページを PDF ファイルでご覧いただけます。

2005 年 7 月 2 日（公開されて 2 日目）の「意識の流れ―アルバートとともに―」のホームページ（部分）

第２章　ホームページでたどる学びの足跡

ホームページの推移 15 年　58 ～ 59
当時を振り返って／塩川香世　60
F さんの反省／塩川香世（訳 Jennie Lai）　61 ～ 69
ホームページに登場したキーワード　70 ～ 73

ホームページの推移 15 年

1985 年 1 月「神理を学ぶ会」としてスタートした田池先生の「意識の世界」を伝える学びは、「反省研修会」を経て「エルランティの光セミナー」に発展し、日本全国及びアメリカでセミナー活動を続けてきましたが、2002 年 6 月、下呂温泉水明館（岐阜県）でのセミナーで一応の幕を閉じることとなりました。

しかし、この終了は、「心を学ぶ」あるいは「自分の心と向かい合う」学びの終了ではなく、むしろ、さらに深化していくためのステップでしかなかったと、その後の動きを整理してみてそう思います。その後の動きを見ていると、第 2 期の終了は、滑走路を走り抜け、いよいよ離陸準備が整ったという段階だったようにさえ思えます。

この時期（第 3 期）の大きな特徴の一つとして、まずあげられるのは、田池先生が、意識の世界の真実を伝える手段として自らホームページを立ち上げ、このホームページの更新と、セミナーの運営、図書・冊子の発行が深くリンクしながら展開していったことだと思います。

そして、このホームページ運営の中から、田池先生がバトンを手渡すべき塩川香世さんという方が浮かび上がってきました。

この辺の経緯を、塩川香世さんは、その著「ありがとう — 意識の世界への架け橋 —」（2016 年 6 月）の中で次のように語っておられます。

◇

学びを進めていく上において、セミナー参加というのは何よりも大切なことには違いありませんでしたが、もうひとつ大きな役割を果たしてきたのが、ホームページでした。

田池留吉氏が、2000 年後半より立ち上げた最初のホームページ「反省と瞑想の時間ですよ」は本当に盛りだくさんの内容でした。

私は当時のとある日、田池留吉氏からお電話をいただきました。それは『「Ｆさんの反省」というコーナーをホームページに作るから、あんたが瞑想をしたときに上がってきた思いをメールしてきなさい』というものでした。

その後も、「核からのメッセージ」であるとか、「意識の流れからのメッセージ」「あなたの意識ではありませんか」等々、その時々で田池留吉氏のホームページ上にコーナーを設けていただいてきました。

そして、田池留吉氏のホームページは、亡くなられた今も、「意識の流れ　田池留吉の磁場を思い瞑想をしよう」というタイトルで残っています。そこでも、私は、「私の瞑想より」というコーナーをいただきました。そして、「そろそろ、あんたのホームページを

立ち上げなさい」というお話をいただいたのが、2014 年（平成26 年）秋頃だったと記憶しています。

田池留吉氏は、以前からその年の 12 月で、約 30 年に渡って開催してきたセミナー（常時参加人数 600 人～700 人）から退くと決めておられたので、そういう話になっていったのだと思います。

「ホームページを通して、セミナーを通して、みんなとともに真実の波動の世界、田池留吉の世界を学んでいきなさい」と、私は背中を押していただいたように思います。その一年後に田池留吉氏は亡くなられました。私は、田池留吉氏のおっしゃられた通り、2015 年（平成 27 年）1 月より、「UTA の輪の中でともに学ぼう」というタイトルでホームページ（https://www.uta0309.com/）を開設しています。

開設当時のホームページ

田池先生がつくられた「ホームページ」の推移を整理してみますと、完全とは言えませんが、ほぼ、以下のような流れになると思います。そして今、「ホームページ」は塩川香世さんに受け継がれ、田池先生の時と同様、現在、学びの核となっています。

2000 年 6 月～ 10 月／反省と瞑想の時間ですよ（試作）
2001 年　1月～ 2002 年 6 月／反省と瞑想の時間ですよ
2002 年 7 月～ 2005 年 6 月／ UTA 会セミナーに参加しよう
2005 年 7 月～ 2008 年 6 月／意識の流れ―アルバートとともに―
2008 年 1 月～ 2009 年 3 月／正しい瞑想をしましょう
2009 年 4 月～ 2010 年 2 月／あなたの意識です
2010 年 3 月～ 2011 年 4 月／その人、田池留吉　田池留吉の世界
2011 年 5 月～ 2011 年 12 月／意識の流れ　あなたに語り掛けましょう
2011 年 12 月～ 2015 年 8 月／意識の流れ　田池留吉の磁場を思い瞑想をしよう（表題変更）
（8 月 4 日／田池先生の最後の HP 更新）
（8 月 7 日／緊急入院　早朝、パソコンの前で倒れているのが発見され救急搬送）
2015 年 1 月～／塩川香世さんのホームページ「UTA の輪の中でともに学ぼう」スタート
（ひとつ、ともにともに／田池留吉（病室にて）　2015 年 8 月 16 日～ 9 月 30 日）

当時を振り返って

塩川香世（2023 年９月）

私が宿泊を伴（ともな）うセミナーに初めて参加させていただいたのは、1993 年４月の熱海セミナーでした。

それまで母が何度も何度もセミナーに誘ってくれましたが、ようやくひとつの現象を通して重い腰を上げたというのが実際でした。

私は、肉の駆（か）け引き、損得を働かせ、我（わ）が儘（まま）気ままに生きてきたけれど、その一方で、この世のどこかに必ず真実があるという思いを秘めていました。今思えば、ようやく集えたこのセミナーにあるのではないかと中は感じ取っていたのでしょう。

働きながら、日、月、火の二泊三日、それも月1回、２回あるセミナー参加はなかなか難しいのが普通だと思いますが、それを受け入れてくれた職場環境があって、私は、自分の思い通りにセミナーにずっと集わせていただきました。その上、１週間、２週間のアメリカセミナーまで参加できたんです。一事が万事私はそんな感じで大変恵まれた中で学びを進めていきました。

鈍感な私も、５、６年位経（た）った頃から、自分の中のエネルギーが肉に響いてくるという状態になっていました。すなわち俗（ぞく）に言うところの敏感ということでしょう。それと相まって、生活の中で、意識の世界を学ぶ現象が起こってきました。

2000 年１月の愛犬シンちゃんとの出会い。2001 年１月の父の死。と同時に、その頃から田池先生がホームページを立ち上げてくださってというように、2000 年前後から、私の意識の世界が大きく変わっていきました。

私は、セミナーの所謂（いわゆる）「闇だし現象」「喜びの現象」と、そして田池先生のホームページと自分自身の生活の中の出来事の三点から、たくさん、たくさん学ばせていただきました。

特に、田池先生のホームページとともに私は学ばせていただいた、成長させていただいたと言っても、決して言い過ぎではないと思います。2000 年から 2015 年まで続けてくださったホームページのその都度都度で、私は私の勉強のコーナーを用意していただいたからです。

「F さんの反省」から始まり、「核からのメッセージ」、「意識の流れからのメッセージ」、「あなたの意識です」、「UFO」、「私の瞑想より」等々、たくさん、たくさん学ばせていただきました。それらはどれもみんな本、冊子として私の手元にあります。その他にも、手取り足取り懇切丁寧（こんせつていねい）に学ばせていただいてきました。

これで結果が出せないはずはないのです。それもこれも私個人云々（うんぬん）ではなく、それが意識の流れの計画だと私は理解しています。その流れの中で肉を持ち、肉を使い、肉を通してともに学ばせていただいたということで、意識の流れの計画は、一分（いちぶ）の狂いもないと実感しています。

Fさんの反省

塩川香世さんのいう「F さんの反省」とは、エルランティの光セミナー終了間際の 2000 年 6 月、田池先生が試作版としてホームページを公開された「反省と瞑想の時間ですよ」に紹介されたものです。まさに、エルランティの光セミナーの終了は、心の学びが「拡張する時代」から「深化する時代」への幕開けであるとともに、田池先生から塩川香世さんへのバトンタッチが準備された時期でもあったのです。ここでは、塩川香世さんが、自分の原点でもあると言われた「F さんの反省」の一部を紹介させていただきます。（全文については、右上の QR コードから閲覧できます。）

田池先生のコメント　Ｆさんの反省の６文字が目に入ったとき、また、反省文を読んだとき、どんな思いが出てきたか、心にどのように響いてきたか、反省の資料、自分の心を見る材料にしてください。選ばれたものとして皆さんに読んでくださいと、連載しているのではありません。

F−1　私は信じています。あなたはどうですか。あなたは私を信じていますか。すべてを委(ゆだ)ねていくことができますか。

朝の瞑想での思いでした。私の中のやさしい思いが肉だと思っているこの私に伝えてくれているのだと思いました。

日々何を思って生活していますか。喜びで生活をしていますか。この学びを盾(たて)にとって自分を上に置いていませんか。人には人の学び方があります。その人なりの神に帰る道があるのです。みんな一生懸命なのです。こうしてくれたらと思う思いはもう苦しみだけなのです。ただあなたはご自分がどれだけ喜びの心で毎日を過ごせるか、それだけでいいではないですか。伝えたい思い、少しはこの学びに心を向けてほしいという思い、その思いの中にはきっとその人を責めている思いが入っているのです。そうではありません。やさしい思いはあなたが何も特別に思い煩(わずら)うこともなく、あなた自身が喜んでいれば自然と伝わっていくものなのです。みんな神の子だからです。肉で何とかしようという思いは傲慢(ごうまん)です。そのことに気付いていくために必要な時間なのかもしれません。肉があってこそ見える思い、だから肉を与えられた時間を大切にしてください。そうしていったとき、肉がなくてもそこに存在しているのだとあなたの心で実感できるのです。

私が肉基準の心だから、人を見下げ人を責めているにもかかわらず、みんなこの学びをしてくれたら、私がこんなに苦しまなくてもいいのにと、こんな苦しい心を使うこともないのにと、そういう思い方を何度もしてきました。相手がどうであれ苦しいのは私の心だったのに、その思いを変えていく以外にはないのに、やはり

苦しみは外からくるものだと思ってきたのでした。

死と隣り合わせなのは父だけではありません。それが現実ですよと父は伝えてくれています。父の肉を見ることにより、私は自分の生き方、死に方を間近に考えます。自分で出してきたものは自分で清算する、それが自然の流れなのだと思いました。

生きることは苦しい、死ぬのも怖い、この流れの中にすっぽりとはまり込んでしまった私の心です。いつ清算するのか、いつその流れを変えていくのか、これが私のこれからの課題です。そこには誰もいない、ただ自分があるだけだと思いました。

目覚めてください。そして知ってください。本当のあなたは意識であることに目覚めてください。これからの 300 年はそのことをあなた自身の心で分かるためにあなたがあなたに与えていく時間です。すべてが愛です。真実に目覚めるために起こり来る出来事です。心の転回を速(すみ)やかに、そしてそのことをあなたの心から伝えられる人になってください。私は待っています。あなたの心でずっと待ち続けています。私はあなたの中のタイケトメキチ、そして田池留吉の意識です。

I believe, what about you? Do you believe me? Can you entrust everything to me?

These were my thoughts during my morning meditation. These gentle thoughts within me are communicating to this self which believes itself to be only a physical body.

What do you think about every day? Are you living with joy? Do you use this study, the knowledge, to make yourself superior to others? Everyone has their own way of learning. There is a path back to consciousness that is unique to each person. Everyone is working diligently. The desire of “wanting someone to do it like this”, only makes me suffer. Isn’t it enough to just focus on how joyful you can be living each day?

The thoughts that: I want to convey “this” to some person, “I want them to believe in this study”, those thoughts that I have, definitely contain an element of blame. This study isn’t about that. It’s not about criticizing people. Gentleness, that energy, flows even when you are not thinking about anything in particular. It’s enough that you are joyful, with true joy, naturally the “truth” of consciousness, energy, will be communicated. Because

we are all energy.

The idea of trying "to do something" with your physical body is big-headed. Maybe it's the time you need to realize that. These feelings can only be "seen" if you have this physical body, so please cherish and value the time you are given with the physical self. When you realize that, you will be able to realize, in your heart, that something truly exists even without the physical body.

Because my foundation of self is rooted in this physical reality, I easily look at people with disdain and blame them for my feelings. "If everyone understood this study I wouldn't have to suffer so much." I have had that thought many times. No matter who the other person was, it was my heart that was suffering, and I had always believed that the reasons for my suffering came from outside myself. I understand that I have no choice but to change that mindset.

My father is not the only one facing death. My father's current existence tells me that "this" is reality. As I look upon my father's physical body, I think closely about how I will live and how I will die. I have believed that the general course of nature is to pay for your actions. Whatever energy (thoughts) you have put out into the universe will eventually catch up to you. Living is painful, dying is scary, and my heart is completely caught up in this never-ending cycle. The challenge that lies ahead is knowing I will have to pay for my actions and when will I change my course. This is up to me.

Please wake up and please know. Wake up to the fact that the "real you" is consciousness. The next 300 years is the time you will give yourself to understand this in your own heart. Everything is love. Events will occur in order to wake up to the truth. Become a person who can quickly change their mind and convey the truth from your heart. I am waiting. I have been waiting in your heart infinitely. I am Taike Tomekichi within you and, of course, the consciousness of Taike Tomekichi.

F−3　今、目覚めのとき、目覚めのときです。ともに心を見ていくことが喜びです。いっしょに神に帰りましょう。あなたも私もみんないっしょ。肉は個々にあります。でも思いは通じ合っているのです。苦しい心、汚い心、神より大きくずれた心を使い続けてきたのです。私はお父さんの肉体を通して学ばせていただきます。

私の中にある闇の思いをしっかりと見つめていきます。お父さん、どうぞ私とともに学んでいってください。私たちは喜びの存在であることを忘れてしまいました。肉の思いの中で、いつも恐怖と孤独、寂しさの中でこの肉体を終えていったのでした。でも私は、自分の中のタイケトメキチ、お母さんの温もりをこの心で信じて、そして私は寂しい存在でも恐怖の存在でもなかったということをこの心で明かしていきます。いっしょに歩いていってください。

肉体細胞にありがとう。ここまでこの愚かな肉を支えてともに生き続けてくれました。あなたがいたからこそ私は学ばせていただけるのです。肉は愚かです。あなたを酷使（こくし）し続けてきました。もう少し、もう少し私に時間をください。私はなぜこの肉体をもらい、そして自分の人生がどういう意味を持っていたのかということを、そしてこれまでの私の数々の過（あやま）ちを、もう少し見続けていきたいのです。肉は今の私にとって大切です。ほんの少しほんの少しでも真実の自分に触れて私は今世を終えていきたいのです。たくさんの過ちを繰（く）り返してきた私の心の中に、ようやくほんの少しの明るさを見出せるような気がします。それまでどうぞ私に時間をください。

Now it’s time to wake up, really time to wake up. It is a joy to be able to look at our hearts together. Let’s return to consciousness together. You and I, we are all the same. Here we have no physical body and yet, we are able to communicate to each other.

I have continued to use this suffering and pained heart, this heart that is from true consciousness. These suffering and dirty hearts and a heart that is far removed from consciousness. I have been able to learn from my father’s physical existence. I will take a hard look within, at the thoughts that cause me suffering. “Father please learn with me. We have forgotten that we are beings of joy.”

Basing my reality upon this physical self, I always ended my life in fear and much loneliness. But I will believe in my mother’s warmth, will believe in the consciousness of Taike Tomekichi, and I will confirm that I am neither an existence of loneliness, nor fear. Let us walk together.

Thank you to these cells. You have supported this foolish physical self and continue to live together. I am able to learn because of you with this physical body. The physical self is a foolish self. I have been abusing you. Please, please give me a little more time. I want to continue to look at the many mistakes I have continued to

make, why I have this physical body, and what meaning my life has.

This physical existence is important to me now. I want to end my life having touched my true self, even if it's only just a little bit. I have made mistakes within my heart continuously but finally feel like I have found a little bit of brightness in my heart. Please give me time.

F－6　何が間違っているのでしょうか。心で感じていってください。言葉ではなく、そして頭でもなく、あなたの心で感じていってください。

私の心はがんじがらめです。身動きひとつ取れない状態です。がっちりと自分の心を押さえ込んでいます。それが苦しいのです。だから苦しいから、どうすればいいのか自分に尋ねてみました。返ってくる答えは、お母さんの反省でした。お母さんの温もりを思い出してください、お母さんの温もりを思い出して、あなたのその苦しい思いを受け入れていくのですよ、というものでした。

がんじがらめの心だから、以前は肉を鼓舞し、がんばらせることができたのだと思います。肉しか信じていない心で一生懸命自分なりの人生を生きてきた、そのエネルギーの源はこのがんじがらめの心でした。それを素晴らしいと自負し、その思いを益々膨らませる意識と同通し、自ら苦しみの渦の中に入っていきました。

私が選び心の中に膨らませていったエネルギーです。肉基準の心で強く求めたエネルギーです。私の中の隠された能力を引き出したいと求めていった心です。私はずっとその心で神を求めてきました。神、神、神、私に力を与えてくださいと、その心で神を求め続けてきました。肉を崇められたいから、だからこの私に力をください、肉、肉、肉の心で神を求めてきました。

肉基準の心で力を求める思いは苦しい、だけどやめられない。間違っているって伝わってくるけどやめられない。

３億６千年の数字を示しました。そう簡単には心癖は修正できません。しかし不可能なことではないのです。私が常々申し上げている反省と瞑想を繰り返し、内在のタイケトメキチを思い、そしてあなたの目の前にいる田池留吉に心を向けていくのです。この道標に心を向けていくのです。真摯な思いでやってください。あなたの心で分かってきます。これから私たちは大きな転換の時を迎えます。それが流れなのです。私はその神の流れを信じているだけです。他力のエネルギーが根こそぎ崩れ去るその時をまもな

く私たちは迎えるでしょう。

What am I doing wrong? Please feel it with your heart. It is not about words, not about using your brain, feel with your heart. My heart is in a bind. I cannot make a single movement. I have trapped my heart firmly. That is my suffering.

So, since I was in so much pain, I asked myself what I should do. The answer: "Reflect on mother. Please remember your mother's warmth, remember your mother's warmth, and you must accept your suffering thoughts."

I think in the past I was able to force my body and make it work hard because my heart was so bound in this pain. I lived my life as "diligently" as I could, firmly believing my existence was rooted in this physical reality. And the source of my energy was this entangled and pained heart. I was so, so arrogant and truly believed in my greatness. As this belief escalated, I entered a whirlpool of suffering.

I am responsible for choosing to expand this energy that's foundation is the physical body. My whole belief system was firmly rooted in this physical body. Along with this, I always wanted to display the hidden potential that I have. This was the foundation of my search for "God." I have always sought "god" with that heart. "God, God, God, please give me strength." I have continued to seek god with that energy. "I worship this physical body, so please give me strength." I have been seeking for god with my physical self always.

The desire to seek power with your heart rooted in the physical world is painful, but it cannot be stopped. I can tell it's wrong but I cannot stop myself.

"With this physical existence dating back some 360 million years, mental habits cannot be easily corrected. But it is not impossible. Repeat the reflection and meditation that I always talk about and think of the Taike Tomekichi within you. Turn your heart to the Taike Tomekichi, the one presently in front of you. Always keep your heart focused on the true consciousness and warmth, your true self. Please do it with sincerity and then you will begin to understand in your heart."

We are now entering a time of great change. That's the flow. I just believe in the journey of Consciousness. Soon, the time will come when our reliance on powers

outside of our true selves will be obliterated.

F−8　私の心の中にもやさしい思いがありました。

私をお腹に宿したときの母の思いに心を向けてみました。お母さんはただ私が生まれてくることを喜んでくれているだけでした。素直ないい子になってねって、ただそうやって私を育ててくれたのだと思います。人と競争し人を見下し、人を責め裁き、お母さんをないがしろにしてきたのです。それでもお母さんはあなたはいい子だよって私を生んで育ててくれました。

お母さんは私を愛して信じてくれていました。神の子の心を信じてくれていました。それは田池留吉の心でした。田池留吉を見下し、田池留吉を認められなくても、田池留吉は私を受け入れてくれています。許して待ってくれています。田池留吉の波動は私に伝えてくれているのです。あなたは本当は素直な人なんですよって。私はあなたを信じていますよって。私は自分が一番好きでもあり、一番嫌いでもありました。

嫌いで嫌いで突き放して突き放してきた私を、田池留吉は、ただ待っているだけでした。やさしい思いで待ってくれているのでした。長い長い時間待ち続けてくれていたのでした。そしてこれからも待ち続けてくれている意識でした。

お母さんでした。お母さんは私を待って待って待ち続けてくれていました。どれだけ裏切り続けようが、私を信じ待ち続けてくれている意識でした。

お母さんの心に帰りたい、私のふるさとでした。お母さんの心は私のふるさとでした。

As I look deep within myself, I find a gentleness. I tried to focus on the thoughts of my mother when she carried me in her womb. My mother was just joyful because I was born. I think her only thought while raising me was simply for me to grow up to be an honest and good girl.

However, I neglected her, was competitive, was condescending and continually blamed others. Even so, my mother gave birth to me and raised me, telling me that I was still a “good girl.”

My mother loved me and believed in me. She believed in my heart of consciousness. That is the heart of Taike Tomekichi. Even though I am condescending

towards Taike Tomekichi and cannot accept him, Taike Tomekichi accepts me. My consciousness forgives me and eternally waits for me. The true vibrations of consciousness continually communicate and radiate to me. It says to me, “you are really an honest person.” I truly believe in you. I am both the person whom I liked the most and the person I hated the most.

Consciousness has always been waiting for me. I know it is I, who hated and hated myself and pushed away my true heart. With only kindness, my consciousness has always waited patiently for me. My true consciousness has been waiting for a long, long time. And even now I know that consciousness continues to wait for me.

It has always been mother. Mother is waiting eternally for me. No matter how much I betray her, she believes in my return to the truth and continues to wait for me.

I want to return to my mother’s heart. That is my hometown. Mother’s heart is truly my hometown.

F−17　欲、欲、欲の心でした。今、目を閉じて私が私と対話できる時間があります。自分の心で語り合える時間があります。自分に思いを向けたとき、私は幸せだと少しでも思えるそんな時間があります。いっぱいいっぱい望んできました。目を閉じて田池留吉を思う時間があることが一番幸せなんだと思います。

何が幸せで、どうすれば幸せになるのか、どうなったら私のこの心は満足するのか、そう思って一生懸命やってみました。一時の充足感が得られました。しかしその後ですぐに襲ってくるのは空しさ、不安でした。心が満たされない、何で何でと心が定まりませんでした。心が荒み干からびていることを感じていました。だけど弱音なんか吐きたくなかった。グチグチブツブツの私なんて認めたくなかったのです。幸せで充実している時を過ごしているっていう証拠が私には必要でした。まったくばかげていました。どうしてそこまで飾らないといけないのか、決して同類だとは認めたくはありませんでした。

生まれて死んでいく時間の中で、見たくない許したくない自分を少しでも受け入れることができたなら、それで私の人生、丸でした。何も持たなくても、何も求めなくても、心の底から自分をいとおしいと思えたならそれでよかったんだと思います。心が満たされない、心が寂しい、心を癒してほしい、みんなみんな過去から

ずっと生き続けてきた心の叫びでした。田池留吉に心を向けるとき、その心の叫びは一斉に飛び出してきます。押さえ隠し続けてきたけど、もうどうすることもできなくなりました。今世受け入れる以外には道は残されていません。

My heart was so full of greed, greed, greed. Now I have time to close my eyes and have a dialogue with myself. I have time to talk to my heart. Lately, when I turn my thoughts to myself, I have times when I feel a little bit happy. I have been wandering around aimlessly for so long. I realize now that I am happiest when I have time to close my eyes and think about Taike Tomekichi, my true consciousness.

I have tried so hard to figure out, what is happiness? How can I become happy? How can I satisfy my heart? I have only found things to give me a temporary sense of fulfillment. Then what immediately followed was emptiness and anxiety. My heart wasn't satisfied and I couldn't decide what to do. I felt that my heart was becoming brittle and hard. But I didn't want to complain. I couldn't accept myself who was continuously whining. I didn't want to admit that I was a disastrous mess. I needed proof that I was happy and living a fulfilling life. It was completely ridiculous. Because I never wanted to admit that we are all the same.

From birth to death, if I can accept even a little bit of myself that I didn't want to see of forgive, then my life will have been complete. Even if you don't have anything or ask for anything, as long as you feel that you love yourself from the bottom of your heart, I think that is perfect. My heart is unsatisfied, I feel lonely, I want my heart to be healed, these are the cries of our hearts that we had been living with since, the past. When you turn your heart to Taike Tomekichi, the cries of your heart flood the space. I have been trying to hide from it but there is nothing I can do anymore. Presently, there is no better path, but to accept the cries of my heart."

2000年6月～2015年8月　田池先生のホームページに100回以上登場したキーワード

キーワード	田池留吉	宇宙	アルバート	波動	異語	意識の流れ	アマテラス	250年後	次元移行	天変地異	母なる宇宙	意識の転回	死後	反転
2000.06～2002.06	36	54	145	71	53	5	0	2	0	23	0	2	0	0
2002.07～2005.06	266	251	171	232	9	95	47	133	19	54	2	16	1	0
2005.07～2007.06	155	196	918	188	29	186	7	149	50	46	25	40	3	0
2008.01～2009.03	167	407	163	85	31	95	134	138	60	82	82	48	0	0
2009.04～2010.02	1,104	1,734	568	286	793	59	444	130	75	58	42	13	1	0
2010.03～2011.04	1,402	990	725	185	114	73	157	130	139	48	101	7	54	0
2011.05～2011.12	855	311	347	274	19	315	51	56	109	28	34	30	50	2
2011.12～2015.08	692	654	211	266	79	113	8	56	117	35	48	40	54	155
	4,677	**4,597**	**3,248**	**1,587**	**1,127**	**941**	**848**	**794**	**569**	**374**	**334**	**196**	**163**	**157**

1000回以上　500回以上　300回以上　100回以上

田池先生がホームページを2000年6月にスタートされてから2015年8月4日に最後の更新をされるまで、実に膨大な言葉がWEB上にアップされていきました。最後の「意識の流れ　田池留吉の磁場を思い瞑想しよう」だけでも平均30万字（400字詰め原稿用紙760枚）を越えておりますし、15年間で、単純計算しても250万字を越える文字がアップされたことになります。これはもちろんメインページだけのことで、リンクされたページまで考えるとちょっと想像がつきません。

それだけに、すべてを把握（はあく）するのは難しいのですが、そこには心の学びを進めるうえでのキーワードがいくつか見ることができます。本書のPart.2でも、それらのキーワードをいくつか取り上げていますが、Part.2の時期（エルランティの光セミナー時代）と、本書Part.3の時期（UTA会～UTAの輪時代）では、登場するキーワードが大きく推移しているのが見られます。といって学びの本質は変わらないのは言うまでもありません。

「田池留吉」「アルバート」「宇宙」などは全体を通しても共通のキーワードですが、Part.3の時期から急に登場回数を増やしてきたキーワードに「意識の流れ」「異語」「波動」「次元移行」「アマテラス」「母なる宇宙」等々があげられます。「母の反省」「他力の反省」「日々の反省」「自己供養」「神」「神の子」「エルランティ」「半身浴」「5・3・2」等のキーワードは、この時期のホームページへの登場回数は0～50回程度になっています。しかし、「母の反省」「他力の反省」「日々の反省」「自己供養」等のキーワードは、学びの土台であり、学びの基本として深く根付いており、すべてのキーワードのバックボーンとして存在しているのは言うまでもないことです。

これに対し「エルランティ」や「神」や「神の子」など、学びの

深化とともに「死語」となったキーワードも多くあります。
そして、学びの深化とともに前面に出てきたのが、「意識の流れ」「意識の転回」「波動」「異語」「次元移行」等々、この時期に現れるキーワードの特長のように感じられます。
ホームページ「意識の流れ―アルバートとともに―」の登場、そして出版物としての「意識の流れ―アルバートとともに―」の初公刊は、エルランティの光セミナー終了後も、「意識の世界」の真実を多くの人に伝えたいとする田池先生の思いが具現化したものであると同時に、心の学びが深化していくという「二つの方向性」を内在していました。
その田池先生の思いが「意識の流れ」増補改訂版に語られていますので、少し長くなりますが、次に転載させていただきます。
◇
この本を手にしていただいて、ありがとう、大変嬉しいです。長い長い時を経(へ)て、ようやくお会いできました。シナリオ通りとはいえ、幸せです。
どうぞ、まず、生まれてきたことを喜んでください。お母さんの温もりを心で感じてください。そして、生きる本当の意味を知って自分の人生を全うしてください。
「あなた方は今、意識の流れを感じていますか。すべての意識はその流れの中にあります」と、このように申しましても、一体意識の流れとは何なのか、すべての意識とはどういうことなのか、そして、流れの中にあるとはと、最初から、あなた方の頭の中には、疑問符が出てくるでしょう。
そもそも、これから私がお伝えしようとする内容は、過去、どの文献(ぶんけん)にも記(しる)されていません。いまだかつて真実に出会えた人間は、いないからです。確かに、人間は、過去より真実を求めてきました。しかし、実際は、誰一人として、真実というものを知らずに、分らずに死んでいきました。従って、本当はこれまでに救われた人などいないのです。神にも仏にも宇宙のパワーにも、私達を救う力など全くありません。私達自身が、真実に目覚めない限り、私達は救われないのです。実は、そのことを、はっきりと伝えるのが、意識の流れというものです。そして、私は、私達はみんなその流れの中にありますということを知っていただきたいのです。
そこで、話の中心は、一体真実とは何か、私達人間が本当に真実に目覚める時がやってくるのかということになってくるのですが、ここでひとつだけポイントとして、押さえておいていただきたいことがあります。
それは、真実の世界は、人間の頭では計(はか)り知れない世界だということです。本当のことは、あなたの頭ではなくて、あなたの心で分かるものであり、そして、あなたの心でしか分からないものだということを、私は最初に断(ことわ)っておきます。
では、人間の頭では絶対に分らないという真実の世界を知るには、どうすればいいのでしょうか。それを、これから、私は、順を追っ

て語っていきたいと思います。

私は一人でも多くの方に真実を伝えるため、初めてこの地球に肉を持ちました。セミナーとホームページを通して約 20 年の間、真実を伝え続けてきました。その甲斐あって、ようやくその真実に目覚めた方が、まず一人現れました。そして、この方を初めとして多くの方々と 250 年後、アメリカの地にて肉を持ち、今世で学んだものを繋（つな）いでいくシナリオが次第（しだい）に明らかになってきました。私達は今、最高に幸せです。現在の私達にとって、生も死も、ただありがとう、幸せ、喜びです。人生は苦ではなく喜びだということです。

私がお伝えしたい真実とは、「私達人間は肉ではありません。本当の姿は意識であって永遠に存在するものです」ということです。まさにコペルニクス的転回です。肉を本物としてきた人類は、その時からずっと間違ってきました。今も間違っています。その歴史を見れば明々白々です。平和を叫び、幸せを願い、祈り続けてきた現実はどうだったでしょうか。いまだに無知とエゴと欲にまみれ、真実の世界を知らずに意識の流れに逆らって生きている人類は、これからも本当の平和とか、幸せ、喜びなど分からぬまま、地獄から出て地獄に帰る転生を限りなく繰（く）り返していくことでしょう。

あなたは意識の流れを知らないまま死んでしまってもいいのでしょうか。私はあなたが真実の世界を知って、本当の自分に出会い、本当の人生を生きていっていただきたいと願っています。

私は若い頃からずっと私自身に次のような事柄について問うてきました。

目に見える世界と目に見えない世界との間は一体どうなっているのか。

私はどこから来てどこへ行くのか。

私はなぜ生まれてきたのか、どうして今ここにいるのか。

母親とは一体私にとってどんな存在なんだろうか。

私とは一体何者だろうか。死ぬまでに一度でいいから本当の私に会いたい。

私が色々のことで苦しんだり、悩んだりするのはどうしてか。

今のまま精一杯生きていけばいいのか。何か間違っているのではないか。

神仏というものは本当に存在するのか。本当に私を助け守ってくれるのか。

このまま死んでいってもいいのか。死後の世界はあるのか。天国地獄は本当にあるのか。

セミナーを閉じるに当たって、私は私自身に問うてきた事柄を明らかにしながら、真実の世界、意識の流れを、はっきりと書き残しておきたいという思いが強くなってきました。そこで真実にいち

早く目覚められた塩川香世さんに私の思いを伝えたところ、「はい」と二つ返事で引き受けてくださいました。

彼女が、私に心を合わせながら書き綴(つづ)ってくれたものが、2004発刊の「意識の流れ ― アルバートとともに ―」でした。

そして、この度、私は彼女に、その内容を項目ごとに編集していただきました。さらに、私のホームページ上に、「宇宙の風(宇宙からのメッセージ)」というタイトルで掲載してきました一部分を追加させていただいています。

こうして、本書は、より充実した内容に仕上がり、装いも新たに出版する運びとなりました。

私達は、「私はあなた、あなたは私」という意識の世界の真実、そして、その喜びを、このような形で残すことができたことが、ただただ喜びです。私達は250年後の出会いを、ただただ喜びで待つ仲間です。ともに同じ方向を見つめ、ともに歩いていく喜び、幸せを、あなたもその心で感じていってくださることを私達は待っています。いつまでも待っています。

2010年4月　田池留吉(1926年生)

◇

出版物「意識の流れ」については、別の章で新たに触れることになりますが、この本の初版が出されたのが2004年12月、まさに、この本の出版は、さりげなく提示されてはいますが「驚天動地(きょうてんどうち)」ともいうべき出来事でした。ただ当時は、出版に携(たずさ)わっていながら、そのことに全く気付いていませんでした。

そこには、これ以降の学びの道筋、というより人間の進むべき道筋が、有史以来、初めてこの本に提示されていたのです。

ただ残念ながら、自分も含め、ほとんどの人たちが眠っている状態で、この本に気付かないというのが現状です。しかし、いったん人類が眠りから目覚めた時、この「意識の流れ」の存在に愕然(がくぜん)とするのではないでしょうか。その日まで、日本語に封じ込められた「意識の流れ」をはじめとする出版物＝次世代への申し送り事項だと思っていますが、これらを次世代のために残していくのが、今の自分の仕事のように思っています。

いきなり話が勝手に先へ進みだしましたが、まずは、この時期へ戻り、田池先生のホームページを中心に、学びの道筋が整備され始めたことを概観していこうと思います。

ホームページが学びの道筋を示し、そこから、学びに集った人たちのための「冊子」が出版され、これをもとに一般の人たちに真実を伝えたいと「出版物」が公刊されました。

この出版物から、学びを知った人たちのためにセミナーが開かれ、セミナーの内容が、またホームページに反映され、次のセミナー参加のためにホームページで学習する。この循環がホームページを中心に動き出したのです。

4. 心を見ていけば苦しんでいるあなたに出会います。そして、その苦しんでいるあなたが間違っているということです。

　最初はみんな苦しみの自分と出会うことを拒否します。自分の中に苦しみがいっぱいあるにもかかわらず、それが自分自身であるということをなかなか認めることができません。

　自分自身であることが認められなかったなら、自分が間違ってきたと思えないのは当然です。苦しんでいるあなたが間違っていると言われても、受け入れられないのは当たり前でしょう。まず、そこからです。

　また、頭では自分は間違ってきました、たくさんの苦しみを抱えていますと理解できても、心の中は依然反発、拒否している場合も往々にしてあります。それは自分は正しい、間違っていない、素晴らしいという思いを心にまだまだ抱えている状態です。頭で理解することと心で分かることとは、全く違うということを認識してください。

　私は間違ってきましたと本当に心から湧き出てくることを体験することが、自分との出会いの第一歩です。もちろん、それで分かったということではありません。そこからがスタートだということです。

　それすらもできないのはなぜか、小手先だけの反省と懺悔は、それほど己がそびえ立ってきたという証です。己がそびえ立っていては、自分を受け入れていくことは不可能です。なぜならば、そびえ立つ心には、優しさと温もりが欠けているからです。常に自分が上、そういうところから受け入れていこうとしているのです。

田池留吉

4. When you look into your heart, you will confront your suffering self, and realize that your suffering signifies your mistakes.

Initially, everyone resists encountering their suffering self. Despite the abundance of pain within, it is often difficult to acknowledge that this is a part of oneself.

If one cannot accept this as a part of oneself, it is natural that one would not think they have been mistaken. Even when told that the suffering self is mistaken, it is expected to be difficult to accept. This is the starting point.

Moreover, even if one intellectually understands that they have made mistakes and are carrying a lot of pain, there is often a part of the heart that still resists and rejects this understanding. This indicates that the heart still clings to the belief that one is correct, infallible, and admirable. It is crucial to recognize that understanding something intellectually and comprehending it in your heart are entirely different.

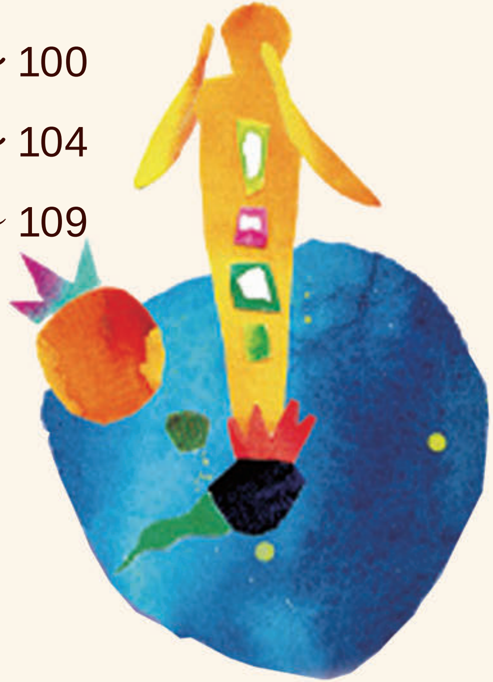
Experiencing a genuine acknowledgment of one's mistakes from the heart is the first step towards truly encountering oneself. Of course, this acknowledgment does not mean that one has understood everything; rather, it is just the beginning.

Why is it so difficult to even accomplish this? Merely superficial reflection and repentance are indicators of the towering presence of one's ego. With such a dominant ego, it is impossible to truly accept oneself, as a towering ego lacks the necessary warmth and kindness. It signifies that one is always attempting to accept from a position of perceived superiority.

第１回 UTA 会セミナーでの会場のうねり（2009 年８月）

第３章　冊子でたどる学びの足跡

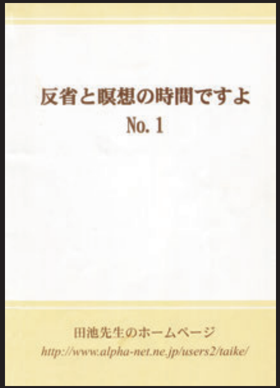
この時期に発刊された冊子	78 ～　81
資料編「体験文集 あなたは愛です」	82 ～　90
愛のカード / 愛のカードを使った体験	91 ～ 100
日めくりと「ふるさと」の歌詞	102 ～ 104
五訓とその解説	106 ～ 109



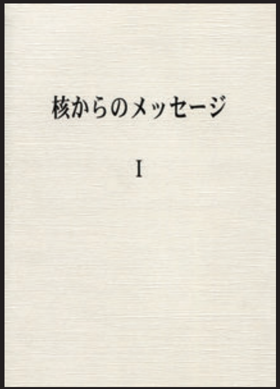
この時期に発刊された冊子

「核からのメッセージ」から「田池留吉の意識を一斉に受ける」

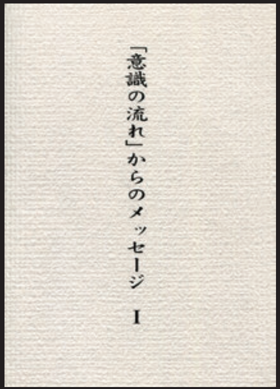
（2001 年 4 月～ 2016 年 1 月）



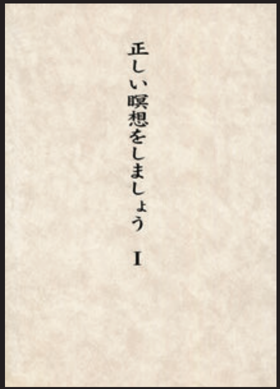
表題／反省と瞑想の時間ですよ
発行分冊／ NO.1 ～ No.8
発 行 期 間 ／ 2001 年 4 月～ 2002 年 7 月
体裁／ B5 版　並装
内容／田池先生が「エルランティの光セミナー」を終了するにあたって、多くの人に本当のことを伝えたいと開始された最初のホームページ。これを冊子化したもの。
備考／ CD が添付



表題／核からのメッセージ
発行分冊／ NO.1 ～ No.5
発 行 期 間 ／ 2003 年 8 月～ 2005 年 9 月
体裁／ A5 版　並装
内容／ホームページ「UTA 会セミナーに参加しよう」が 2002 年 7 月に公開され、その最初の更新から最後の更新 2005 年 6 月まで連載されたメッセージ集。
巻頭言／ UTA セミナー、決して同窓会ではありません。これからが本番です。



表題／「意識の流れ」からのメッセージ
発行分冊／ NO.1 ～ No.4
発 行 期 間 ／ 2006 年 1 月～ 2007 年 7 月
体裁／ A5 版　並装
内容／ホームページ「意識の流れ　アルバートとともに」（2005 年 7 月～ 2007 年 7 月）のコーナー《「意識の流れ」からのメッセージ》を冊子として発行したもの。
備考／天変地異とは、意識の転回を促す現象です。



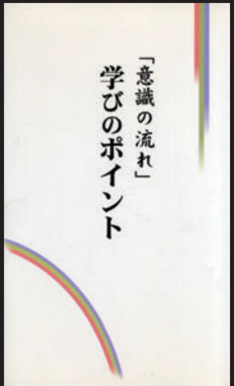
表題／正しい瞑想をしましょう
発行分冊／ NO.1 ～ No.4
発 行 期 間 ／ 2008 年 3 月～ 2009 年 7 月
体裁／ A5 版　並装
内容／田池先生のホームページには、その時期に応じ塩川香世さんのメッセージ集のコーナーが設けられましたが、その中から生まれた冊子。
備考／瞑想は、自分を感じる時間です。

　この時期の冊子については、多かれ少なかれ田池先生のホームページを反映しています。その多くは、田池先生のホームページに設（もう）けられた様々なコーナーを、そのまま活字化したものであり、そのコーナーは塩川香世さんが受けた意識の世界からのメッセージ集となっています。

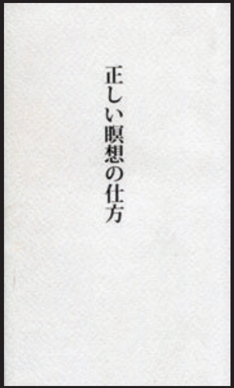
　その他の冊子についても、何らかの形でホームページと深くかかわっており、先の章でも述べましたように、この時期は、冊子、出版物、セミナー、学びのすべての中心にあるのがホームページということになります。

　冊子の内容については、第 1 期、第 2 期に出された冊子類から比べて大きな変化が見られます。

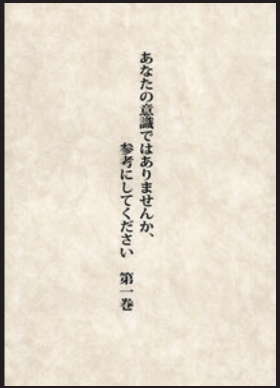
　第 1 期、第 2 期が、学びの土壌を耕（たがや）す段階、自分たちが



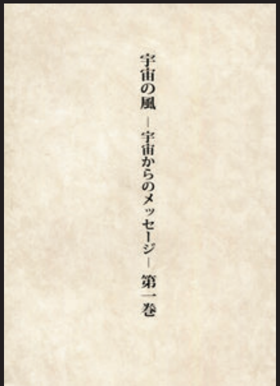
表題／「意識の流れ」学びのポイント
発行分冊／1冊のみ
発行日／2008年7月1日
体裁／ポケットサイズ 40P
内容／「この学びは、宗教ではありません。／苦しいあなたが間違っています。／母親に使ってきた心、思いが、すべての自分を教えてくれていました。／最後は瞑想です。」等々12のポイントで、この学びを要約しています。
備考／姉妹編に「正しい瞑想の仕方」が発行されています。



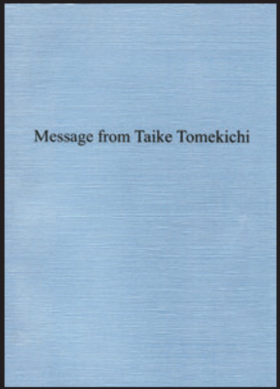
表題／正しい瞑想の仕方
発行分冊／1冊のみ
発行日／2008年9月1日
体裁／ポケットサイズ 38P
内容／「最初は、瞑想する時間を意図的に作ってください。／瞑想の前には、必ず、丹田呼吸をしてください。／心が落ち着いたところで、まずは、あなたを産んでくださったお母さんのほうに、思いを向けましょう。」等々12の項目で、瞑想の仕方を指導しています。
備考／姉妹編に「学びのポイント」が発行されています。



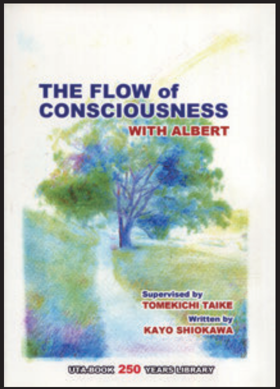
表題／あなたの意識ではありませんか、参考にしてください
発行分冊／NO.1～No.4
発行期間／2009年6月～2010年2月
体裁／A5版 並装 平均170P
内容／学びに集う人たちの思いをチャネリングでとらえ、その一人ひとりの思いに田池留吉がメッセージを送る形で綴られています。
備考／このシリーズに続いて「あなたの意識です」が冊子として発行されています。



表題／宇宙の風 ― 宇宙からのメッセージ ―
発行分冊／NO.1～No.2
発行期間／2010年4月～2010年6月
体裁／A5版 並装 平均168P
内容／田池先生のホームページには、その時期に応じ塩川香世さんのメッセージ集のコーナーが設けられましたが、その中から生まれた冊子。
備考／私達宇宙は、これからどんどん心を語ります。



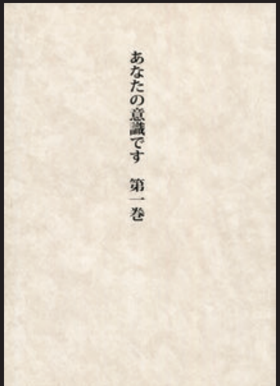
表題／Message from Taike Tomekichi
発行分冊／1冊のみ
発行年月日／2010年7月20日
体裁／A5版 並装 212P
内容／当時、ロサンゼルスに在住していたジェニー・ライさんが受けた意識の世界＝田池留吉からのメッセージ集。
備考／翻訳でなく、英語を母国語とする方の初めてのメッセージ集（対向ページに和文の訳が付いています）。



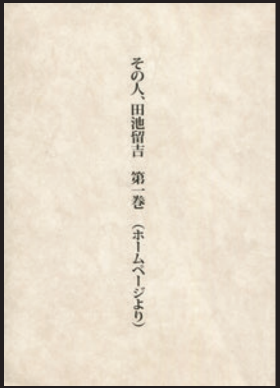
表題／THE FLOW OF CONSCIOUSNESS with ALBERT
発行分冊／1冊のみ
発行年月日／2021年8月
体裁／A5版 並装 144P
内容／「意識の流れ―アルバートとともに」(2004年12月)の英訳版（和文併載）。
備考／2021年の発行になっていますが、その元版は田池先生存命中の2012年8月に完成していますので、ここに掲げさせていただきました。

如何に間違ってきたか、何を間違ってきたかを、「母親の反省」「他力の反省」「日々の反省」を通して知り、その苦しい自分を受け入れる「自己供養」へと展開し、さらに「大噴出」「総崩壊」という学びの段階を通して、「意識の転回」、つまり「肉の自分」から「意識の自分」への深化が説かれ、それに基づいたトレーニングが行われてきました。

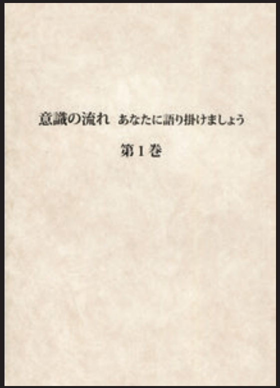
第3期、このPart.3で扱う時期、つまりは「エルランティの光セミナー」終了後は、これらの土壌を踏まえつつ、「意識の転回」から「250年後」の今次元における終了点を目指す動きがより明確になり、さらに「次元移行」、そして究極の到達点「母なる宇宙」への回帰が大きな目標点として意識されるようになってきました。



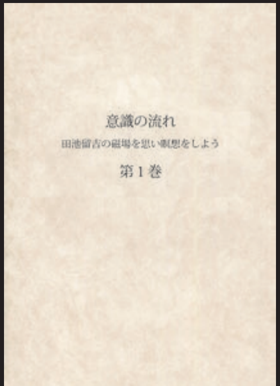
表題／あなたの意識です
発行分冊／NO.1 ～ No.3
発行期間／2010 年 8 月～2011 年 1 月
体裁／A5 版 並装 平均 170P
内容／「あなたの意識ではありませんか、参考にしてください」に続いて、学びに集う人たちの思いをチャネリングでとらえ、その一人ひとりの思いに田池留吉がメッセージを送る形で綴られています。



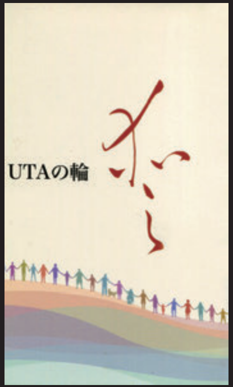
表題／その人、田池留吉
発行分冊／NO.1 ～ No.4
発行期間／2011 年 5 月～2012 年 7 月
体裁／A5 版 並装 平均 150P
内容／田池先生のホームページには、その時期に応じ塩川香世さんのメッセージ集のコーナーが設けられましたが、その中から生まれた冊子。
備考／田池留吉の世界を感じていこう。



表題／意識の流れ　あなたに語り掛けましょう
発行分冊／NO.1 ～ No.3
発行期間／2011 年 8 月～2012 年 5 月
体裁／A5 版 並装 平均 135P
内容／田池先生のホームページには、その時期に応じ塩川香世さんのメッセージ集のコーナーが設けられましたが、その中から生まれた冊子。
備考／UTA の冊子で初めての 2 色刷り（赤と黒）横書き。



表題／意識の流れ　田池留吉の磁場を思い瞑想しよう
発行分冊／NO.1 ～ No.4
発行期間／2012 年 10 月～2014 年 12 月
体裁／A5 版 並装 平均 160P
内容／田池先生の最後のホームページを冊子にしたもの。2014 年までが収録。
備考／2015 年 8 月の最新更新時点でのものは、「意識の流れ　ホームページより」として 2015 年 12 月に発刊されています（次ページ参照）。



表題／UTA の輪
発行分冊／1 冊のみ
発行日／2013 年 3 月 1 日
体裁／ポケットサイズ　56P
内容／2008 年 7 月に発行された「学びのポイント」および「正しい瞑想の仕方」、この 2 冊のポケットブックを 1 冊に併載・加筆・整理したもの。学びのポイントは 7 項目に、正しい瞑想の仕方は 6 項目に整理されています。
備考／冊子にはなっていませんが、英訳版が出されています。

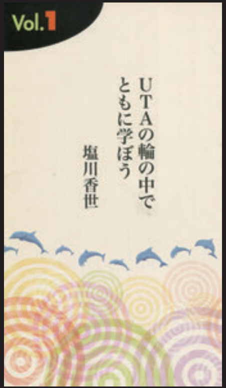
表題／体験文集　あなたは愛です
発行分冊／1 冊のみ
発行日／2013 年 9 月 29 日
体裁／ A5 版　並装　横組み 205P
内容／2013 年 7 月下旬から 9 月上旬にかけて 2 回が開催された「あなたは愛です」セミナー。この 2 回のセミナーの内容と、参加者の体験談を併載した冊子。人生の目的は「愛」に目覚めるため。ところが「愛」ということを今まで誰一人として分かった人はいなかった。心の学びが行き着いた「愛」とは？

と、同時に「愛」とは何かが説かれ、それは「男女の愛」「親子の愛」「人類愛」……等々、それら肉の思いでは計り知れない「意識の世界」の中心であり、私たちの帰るべきところ、「母なる宇宙」をも包括した究極の「愛」であり、その行き着くところが「私は愛」「あなたは愛です」となり、「人生の目的は愛に目覚めるため」となってきます。

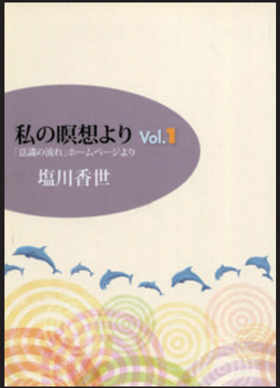
このことが心で分かるため、「正しい瞑想をしましょう」という冊子が出され、それが「学びのポイント」「正しい瞑想の仕方」となり、それが改定され「UTA の輪」となり、さらに「あなたは愛です」という 2 回のセミナーが開催され、それが「体験文集　あなたは愛です」という冊子となり、「愛、あなたは愛です」という出版物になりました。

表題／体験文集
発行分冊／ Vol.1（春号）～ Vol.4（冬号）
発行期間／ 2014 年 5 月～ 2014 年 12 月
体裁／ A5 版　並装　春号 128P ／夏号 128P ／秋号 180P ／冬号 186P
内容／ 2012 年後半から、自分の中の「愛」に気付くための一過程として、「田池留吉の磁場」に思いを向け、水であるとかコーヒーであるとかを「反転」させ、「美味しい水」あるいは「きれいな水」に変換する実習が盛んにおこなわれるようになった。
「反転」によって、カーネーションが長い間枯れずにいたとか、コーヒーが美味しくなったとか、瞑想が変わってきたとか……様々な「反転体験」を集め冊子にしたものが、この 4 冊。
備考／この「反転体験」は、「大噴出・総崩壊」という実習と相俟って、自分が肉だという思いに培われてきた「闇」を反転するという方向へ向かっていきます。反転する対象は、ほかならぬ「自分」でした。

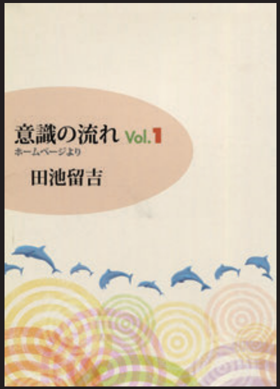
表題／卑弥呼　悲哀から目覚めへ
発行分冊／ 1 冊のみ
発行期間／ 2015 年 4 月 20 日
体裁／ A5 版　並装　91P
内容／田池先生のホームページに紹介された塩川香世さんの「卑弥呼　悲哀から目覚めへ」の全文と、巫女についての歴史的な解説を併載して冊子としたものです。
備考／このあと、たくさんの方の「巫女」に向ける思いを追加したものが 2016 年 9 月に発行されています。



表題／ UTA の輪の中でともに学ぼう
発行分冊／ NO.1 ～継続刊行中
発行期間／ 2015 年 6 月～
体裁／新書版　並装
内容／ 2015 年 1 月 7 日、塩川香世さんのホームページ「UTA の輪の中でともに学ぼう」がスタートしました。この冊子は、そのホームページに紹介されたメッセージを 100 タイトルごとに 1 冊にまとめたものです。
備考／体裁は 15 号（2019 年 3 月）までが新書版、16 号(2019 年 6 月）から B6 判に変更されています。



表題／私の瞑想より「意識の流れ」ホームページより
発行分冊／ NO.1 ～ No.3
発行期間／ 2015 年 9 月、10 月
体裁／ B6 版 並装 平均 220P
内容／ホームページ「意識の流れ　田池留吉の磁場を思い瞑想をしよう」に掲載された「私の瞑想より」を独立した冊子としたもの。
備考／このシリーズに続いて本体の「意識の流れ」も冊子として発行されています。



表題／意識の流れ　ホームページより
発行分冊／ NO.1 ～ No.3
発行期間／ 2015 年 12 月 6 日
体裁／ B6 版 並装 平均 180P
内容／ホームページ「意識の流れ　田池留吉の磁場を思い瞑想をしよう」を独立した冊子としたもの。

表題／田池留吉の意識を一斉に受ける 2016 年1月 31 日 ロサンゼルス瞑想会
発行分冊／ 1 冊のみ
発行期間／ 2016 年 3 月 27 日
体裁／ B6 版 並装 187P
内容／ 2015 年 12 月、田池先生が亡くなられ、翌年 1 月 31 日にロサンゼルスで開かれた WEB 瞑想会で、田池留吉の意識を一斉に受けるという試みがなされました。これを一冊にまとめたものが、この冊子です。

表題／ UTA 会だより
発行分冊／ NO.1 ～ No.12
発行期間／ 2009 年 10 月～ 2014 年 12 月
体裁／ B6 版 中綴じ 28P ～ 68P
内容／厳密には冊子というより「会報」です。2009 年 6 月に UTA 会が発足し、第 1 回セミナーが 2009 年 8 月に開催されました。これ以降 2009 年 12 月の第 23 回 UTA 会まで、各セミナーの模様や連絡事項を伝えるべく、この「UTA 回だより」が 5 年にわたって、12 回発刊されました。

資料編「体験文集 あなたは 愛 です」

ここでは、「体験文集　あなたは愛です」の冒頭の部分、田池先生の「なぜ、生まれてきたのか」の全文を掲載させていただきます。この一文は、セミナー「あなたは愛です」の冒頭の講話部分でもあり、心の学びの到達点であると同時に出発点でもあると思われるからです。

なぜ、生まれてきたのか

なぜ、生まれてきたか。これがなかなか答えが出ないんです。

日本人一億の中で、なぜ生まれてきたかということに正しい答えを出す人は、ほとんどいないというのが現状です。地球上でも、ほとんどいない。アメリカではゼロに等しい、と言っても良いくらいなんです。

もちろん、学歴の高い人は高いなりに、色々と難しいことを言ってくれますし、色々な方が出ますが、ほとんど正しい答えはないんです。簡単なんです。今現在、私が使っている言葉で言うと、皆さんは「愛」であるということに目覚めるために生まれてきた。これだけのことです。

それ以外の目的で、もし皆さんが生きていたら、それは間違った生き方です。従って、病気になったり、争（あらそ）いになったり、不幸な目に遭（あ）ったり、苦しんだり、悲しんだりするわけです。皆さん、もうご経験済みですね。それを人のせいにしたり、社会や国のせいにするのは大間違い。全部、自業自得。自己選択、自己責任の世界です。

だから、私の言うように、自分が「愛」だということに目覚めてきたら、どんどん変わってきます。身体も変わってきますし、それから生活も変わってきます。それを自分で、まずは実証することです。

私は「愛」である。私というのはあなた方ですよ。一人ずつが「愛」だということですね。もちろん、私も「愛」です。皆さんも「愛」です。だから、私はあなた、あなたは私、一つと言っているわけです。（中略）

「本当の自分に目覚めるため」「本当の自分に出会うため」

……これですよ。ほとんどの方は本当の自分を知らないわけです。知らないで、勉強したり、仕事を一生懸命したり、争ったり、人を責めたり裁（さば）いたり、自分で落ち込んだり、そして戦争したり、殺し合いをしたり……と、やってきてる。だから、世界には平和は来ないと言うんです。

私は言います。絶対来ないです。今の人類の生き方では絶対に来ない。

みんな、平和のために頑張ってますよ。ところが、それ間違っているんです。だから平和は来ないと言っている。平和のためと言っ

て、人を殺したり、あるいは、自爆で自分の生命を絶ったりする人がおりますな。

そんな間違った生き方をしているから絶対に平和は来ない。もし皆さんの知っている人で、私の説に反対の人があったら、連れて来ていただいたら、その人の目の前で証明します。

だから、皆さんは、そういうことよりも、私の言うことを一応、聞いて、勉強していただいたらいいかと思います。

自分は一体何者かということや。

はっきり言ったら「愛」ですね。「愛」というのは形はありません。皆さんの言う恋愛とか、親子の愛とか、国を愛するとか言うのとは違う。あれは愛ではない。しかし一応は、この我々人間社会では愛と言っているけれど、私が言っている「愛」はそういう愛ではないんです。

ちょっと私の表現に似たのでは、宗教でいうと神の愛というふうになる。なら、一体、神とは何か。こうくるんですね。神は存在しない。存在しないものに愛という名前が付くはずがない。だから、あれは偽物なんです。誰かが作った。ないものを、あるように言うて、どんどんどんどん人を集め、金を集めていく。そう言うことに過ぎない。だから神の愛を説いている人は、これは偽物ですよ。

そこで、自分とは何者かというとね、一言でいうと、自分は「エネルギー」です。だから、意識の転回をしてくださいということを初めに言いましたね。肉、こういう形、今わたしが喋っている私は、これは私の影なんです。と言って、この影がなかったら、本体が

分からないんですよ。

だから、この肉も大事にせないかんと言っているんですよ。粗末（そまつ）にせよとは言ってない。皆さん、あまりにも大事にし過ぎて、かえって肉もだめにしてしまっている。

例えば、たくさんお金を儲（もう）けないかんとか、有名にならないかんとか、人の上に立たないかんとか、色々そんなことを考えているから、最後は疲れ果てて、末路は哀（あわ）れとなっていく。

ですからね、自分とは何者かというと「エネルギー」ですよ。単なる「エネルギー」と、皆さん簡単におっしゃるが、凄（すご）いですよ。

そういうことを、だんだんと勉強してください。あまり沢山述べたら、分からなくなるんですよ。だから簡単に絞っていきます。

皆さんはエネルギーです。

だから、僕は「意識の転回」という本を皆さんにお渡ししてあると思います。UTA ブックから発行していただいてね。「我々は肉ではありません」と書いてある。肉というのは分かるね。（自分の体を指しながら）こういうのはやがて消えてなくなる。なくなるものには真実はない。

では、何かというと、「私達は意識だ」と言っている。ここで言う「意識」と、世間で言う「意識」というのは、ちょっと違う。所謂（いわゆる）、分かってない人が言う「意識」と、分かっている人が言う「意識」とは断じて違う。日本語は難しいんです。と言って、私が別の単語を使えばいいですけど、そういう単語はないんですね。やっぱり「意識」ですね。そこをちゃんとわきまえていただかなかった

ら、なんか頭が混乱してきます。

「意識」であって、それは「エネルギー」であると。そして、もうひとつ大事なことは、永遠に存在するということ。肉体はやがて消滅します。死ねば肉体はありません。死んでも、しばらくの間は、肉体があるように思っている。死んだ人に訊くとね。こちらが質問していくと、どんどんどんどん形が消えていく。そして「死んだのか」と気が付く……。

さあ、それからが大変なんです。肉が自分だと思っている間、肉がまだあると思っている間はまだいいんですよ。ないと分かった瞬間に、これは大変です。単なる地獄という言葉では済まされない存在になっていく。

では、どういう風に生きていったらいいか……もう分かりますね。「愛」に目覚めるために生まれてきたんですから、目覚めるように生きていけば良い。本当の自分に出会えば良い。では本当の自分とは何か。皆さん、本当の自分を知らない。昔、哲学者は「汝自身を知れ」と言っているけれど、それを言った人が自分を知らない。知らない人がそう言っているんです。学生さんは一生懸命にそれを勉強する。（中略）

とにかく、簡単なんですよ。難しいことはないんです。それを人間は難しくしている。今、話をしているのを、頭で、耳で聞いて、まあ目はちょっと見てですね、頭でクルクル回してたら、いつまでたっても、私の話は分かりません。どうしたら分かるのか。

皆さん「意識」でしょ。私も「意識」です。私は「意識」の話をしている。肉の話をしているんじゃない。だから私の話を「意識」で聞いていただいたらいい。では「意識」で聞くとはどういうことか？

最後は瞑想なんです。

その瞑想でも色々ある。間違った瞑想ね、座禅だとか、何とか、かんとかいっぱいあるでしょ。あんなことはする必要ないんですよ。なんなら、そんな禅寺へ行って坊さんに訊いてみたらいい。そしたら、よう答えませんわ。初めは得意げに言いますが、もう品切れになったら答えられないです。では、正しい瞑想とはどういうことか。

ここなんですよ。そこで、この話がくるわけ。これをね（「愛」のカードを指しながら）、いつも見ていると、自分は「愛」だということは聞いたけれど、何か分からんけれど、見てたら、だんだんだんだん分かるようになってくるわけ。「だからこれ見てください」「こういうのを使ってください」と、色々言っているわけですね。

まあ、これは道具ですね。おもちゃです。おもちゃでも、単なるおもちゃではない。これで遊んでいただいたら良い。字書いたり、絵書いたり、何や書いて、遊びながら勉強していく。そのうえで瞑想する（91 ページ参照）。

では瞑想とはどういうことか。瞑想とは「目を瞑って思う」「目を閉じて思う」と書く。何を思うのか。「愛」を思う。その時に、他の人を思ったらいかん。例えば、お釈迦様を思うとか、マリア様を思うとか、何々の何やら神を思うとかいうことをやっていると大間違いです。

これは間違い。絶対間違い！ その人は晩年まさに哀れな姿になっ

ていきます。たとえ、この勉強をしようと、そういう瞑想を瞑想だと思っている人は、晩年は、いや晩年じゃなくてもなります。幸せになれないはずです。存在しない神を思って、拝んだり、祀ったり、祈ったり、これは間違いです。

何を思うか。ひとつは母親を思う。「母親を思う」といっても、今の肉体を産んでくれたお母さんだけじゃない。皆さんは数えきれないほどの転生をしている。例えば、一万回転生したら、一万のお母さんがいる。

分かりますね。今のお母さんだけを見てどうこう言うのは違う。では、一万人のお母さんを思うのか？ そんな記憶はないんですよ。ないけれど、皆さんこうして目を閉じて瞑想して、「お母さーん」と、こう心で呼ぶか、何かするとパッと答えが出てくるんです。そういうのが人間なんです。誰でも、だんだん勉強したらそうなるんです。そういう勉強をしてこなかったら、だめなんですね。

で、お母さんを思って、何が出てくるかというたら、皆さん最初は「くそばばあ」とかね、「早よ死にさらせ」とかね、「私をこんなところに産みやがって」とかね、「産むんやったら、もっと頭の良くて、美人で」……となるでしょうけど、僕、言ったでしょ。僕の母親は無学ですよ。僕はそれで不満だと思ったことは一度もないですよ。母親には「ありがとう」しかありません。肉的に言えば、決して模範的な人間ではありません。父親はやくざです。私は国賊と言われました。国賊の息子と言われました。僕はそれによって怯むことはございません。僕は父親は国賊と言われるようなそんな悪い人間とは思ってない。今でも思っていません。しかし、世の中の特権階級の人達は国賊と言ったんでしょうね、私の父親のことを……。

皆さんのお父さん、お母さんは恐らく私の父、母よりはずっとずっと素晴らしいと思う。それでも皆さんは「くそばばあ」とか、どうとかこうとかやっているんです。でも、だんだんだんだんやっていき、お母さんの温もりを感じ出すと、あなた方の物の見方、考え方、生き方が変わってくるんです。そういう勉強をするわけ。

そうしたら、真実が見えてくるということです。今まで自分が考えたり、見たり何かしたのが、これが全部影になるんですね。そこで、更にこの「愛」ですね。「愛」を思う。「田池留吉」「アルバート」を思う。「田池留吉」「アルバート」以外の、何やらの神とか、何やらの仏とか、何々の何とかに向けている人は、間違いです。もう完全に間違い。それが正しいという人は、それでいけばいい。自己選択、自己責任ですからね。ただしその責任は自分でとらないといけません。

この勉強をしていても、例えば、マリア信仰してて、マリアさんをジィーッと握っている人は、幸せにはなれません。自分で勝手に信じて、私は美しくて、清くて、正しいでしょうと勝手に言っている己偉しの人間に過ぎない。だから真実は見えません。

語れますよ。本読めば、語れますから。語ったってしょうがないんですよ。波動ですから。波動は騙せないですよ。だから私達は波動で物を見る。人を見るんです。けど、それをあんまりやるとね、皆さん真っ黒でしょ。真っ黒な人に、「あんたこうやで」と言った

ら楽しくありませんがな。だから私は肉で話す時はだいたい漫談をするわけです。

まあ、そんな話は置いといて、結局は「田池留吉」「アルバート」に心が向いたらええ。もう完全に向けたら間違いない。もうあなたの人生感、世界観、すべてがコロッと変わります。コロッと変えないかんですよ。

ところがね、20何年勉強しました。皆さん、一所懸命やられたと思いますよ。アメリカも行きましたね。私、オーストラリアも行きました。ボルネオも行った。韓国も行った。もちろん日本国中、北海道から沖縄にまで行きました。しかも、20年、30年行ったんです。皆さんもお金使って、たくさん行きましたけれども、今ひとつなんですね。

闇出し現象ですか、皆さんは闇出し現象ってやったでしょ。やったけど、何の結果も出てこない。ただ闇出しをやっただけなんです。

ところがね、このままではね……、私は来年の12月のセミナーで終わりなの。もう来ませんの。ほんまに来ませんよ、私は。何べんも言います。僕は12月に辞めると言うたら辞める。

さて、そこで出してきたのが、「反転」というやつ。反転、磁場。「田池留吉の磁場」と「反転」ですね。だから田池留吉の磁場を思って反転をするわけ。ここで磁場というとね、皆さん頭いい

ですからね、学校で習ったでしょ。あの磁場というのは有限なんです、有限……。

有限と無限があるんです。数学の話をしたらええけど、また、「先生難しく言う」と言われたらあきませんからね。とにかく有限と無限がある。皆さん学校で習った磁場というのは有限なんです。

例えば、医学も有限ですわ。科学も有限なんです。宗教も有限なんです。分かりますか。この宗教も有限なんですよ。ブッタが説いた教えも、それから聖書に書いてある教えも、有限の世界の教えなんです。だから限りがあるわけ。だから分からないんです。最後は「分からない」と、諸々の聖者達も言っているんです。

私は無限なんです。皆さんは、私の言うている「無限の反転」を「有限の反転」で聞いている。だからなかなか分からないんですよ。終いには「反転」「反転」って反転ばっかりしてね、病気を治すのに反転、「肉体細胞よ、我の思うようにせよっ」とか言ってね、なんか偉そうに「反転」言うてんの。反転とはそういうものじゃないんですよ。

有限の反転はそうかもしれません。僕も知ってますよ。N極とS極があって、こしてこうしたら反転の磁場が出来る。ところが、私はそういうことを言ってるんじゃなくて、無限なんです。これは説明がしにくいんですよ。そこで、これやるの。「田池留吉」「アルバート」が出てくるの。それだけのことなんですよ。

だから「田池留吉」「アルバート」が分かったら何でもできる。そんな、色々な哲学とか、宗教とか、文学とか、そんなやりたい人はやったらいいよ。私も昔、読んだりやったよ、文学もね……。やったけど、「もういい」「もういい」って、もう嘘八百。そんなもの買って読むんやったら、テレビ観てね、「暴れん坊将軍」観てた方が、まだ罪がないですわ、と思っております。

そこで、磁場と反転。これまたいくら言うても分かりません。皆さんはこっち、こっち側（肉を基盤とした世界）におるから、「こっち（意識の世界）へ来なさい」と言っている。

「磁場、転回、こっちですよ、こっちですよ」と、もう10年くらい前から言うてるけど、皆さんは、やっぱりこっち側におるの。だから、いつまで経っても分からへん。自分の都合のいいように解釈してる。

今度、アメリカからも来ていただいて、失礼ですけれども、遠くに住んでいる人はね、まあ、言葉くらいは、（UTAブックの）本で読んだり、人から聞いて分かっているけれども、自分で体験してない、出来ない。一人じゃ出来ませんよ。それで、この機会にアメリカから来た人も、ああ、こんな勉強かと分かっていただいて、帰っていただきたいと……。

それから、「愛の体験」を書いた人は、だいたいお分かりやからね、まあ更に深めていっていただけたらいいと。前口上はこれくらいにしまして、これから実際にやる。私は実行、実践、そして結果を出す。結果の出ないものはだめ。分かりますか。だから宗教なんか、神の愛とか、慈悲とかね、恵みとか何やかんや言うけど、言うだけですよ。私から言うと、嘘八百書いてある。処女から人間

が生まれるなんて、私は信じませんよ。そりゃ信じているのはこの地球上に、それは凄(すご)い数がおるんですよ。だから人間っていうのはどういう存在かなと思う。うちにも犬が１匹おるけどね、犬はそんなん信じてませんよ。まだ犬のほうが賢いように思ってますわ。

ところがそういう人達が寄ってたかって、世界の平和とか、人類の福祉とか考えるから滑稽千万というわけ。

私の口上はこれくらいにいたしまして、早速これから実行します。

いいですか。僕の話と、実際体験したのとを較べて、僕の話をもうちょっと自分の中で咀嚼(そしゃく)するというかね、理解を深めていただきたい。喋(しゃべ)って、聞いて、読んで分かる話ではない。

これからすることは、気が狂うかも分かりませんよ。嫌な人はお帰りください。私は皆さんを狂わしてね、お帰しすることは絶対にしません。ただし皆さんが、私の言うことを聞かないで、外で勝手なことをしたら知りませんよ。いわゆる、「一番」「私が一番偉い」「私の霊能力は最高だ」とかね、まあ、色々あるでしょうが、そんなことを勝手にやっていたら知りませんよ。狂いますよ。そんな、一番とか二番とかないんですよ。ただ、あるのは喜びとか、温もりしかないんですよ。なんや、「喜び、温もりか」と言う人もあると思います。

体験してください。その喜び、温もりがどんなものか。お金では買えませんよ。お金で買おうと思ったら、そんな端金(はしたがね)では買えませんよ。そんな代物(しろもの)じゃないんです。だから皆さんの生き方、考え方がコロッと変わる。コロッと変わらないかん。皆さん変わっ

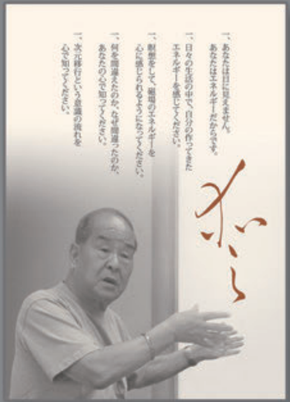
たと思ったら、またクリクリやってこんなことやってん。コロコロコロコロ。これじゃあ変わったことにならん。変わったら、まっすぐスゥーッと行く。分かりますか。

皆さんからメールが、いっぱい来ます。ああ、「分かったなぁ」と思ったらコロッと変わってんねん。コロコロ変わってるだけのことや。変わった、変わった、変わった、変わったって、ちっとも変わってへん。変わったということは、まっすぐ行く。分かりますか。そんなもん変わったんちゃいますよ。コロコロコロコロ、確かに変わってる。回ってるだけですよ、これ。

変わったということは、今までと違う道、ピシャッと一つの道が見えて、まっすぐ行くのを変わったと言うの。しかも、その道は幸せ、喜びの道なんです。さあ、そこでA班の人前に出てください。

まずA班。……で、どうするかと言うと、簡単なんです。先程の「愛」ですね。「愛」に向いたらいいんですが、まあ最初はですね、これでいきましょう。「田池留吉」「アルバート」。これでいきますよ。

それでは軽く目を閉じてください。軽く目を閉じるということは、眉間（みけん）に皺（しわ）を寄せないようにして、目を閉じとくということ。よろしいですね。本当は丹田呼吸の1つか2つやっていただいて……でも、もう僕の話を聞いているうちに、丹田呼吸は終わっておりますから、早速、実行ですね。



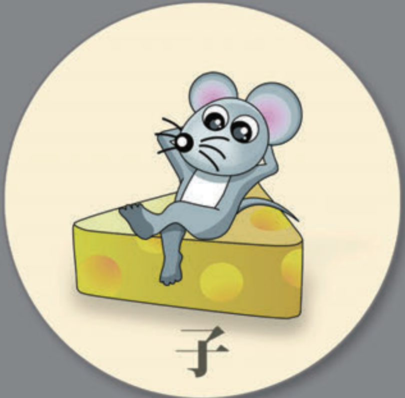
ポストカード型（縦）／裏面は「5訓」

円盤型（直径15cm）／裏面は「ふるさと」歌詞

様々な「愛」のカード

ポストカード型（横）／裏面は「ふるさと」歌詞

円盤型／裏面は「5訓」



裏面は干支イラスト（12種）

元となった草書体の愛（田池留吉 書）

私は愛です

少々長くなりましたが、引用文の中で、田池先生は「なぜ生まれてきたか」という問に対し、「愛に目覚めるため」と明言されていました。ここでいう「愛」とは世間でいう「親子の愛」や「夫婦愛」や「国を思う愛」、はたまた「人類愛」等々の「愛」とは一線を画しているもののようです。世間でいう「愛」の延長線上にあるものでなく、私たちの帰るべき場所であり、私たちの根源であり、究極の到達点を指しているように感じます。

僕たちは、今次元における終着駅が250年後～300年後だと示していただきました。そして次のステージへの「次元移行」についても示していただきました。

今また、「250年後」も、「次元移行」をも超えて「愛」という、私たちが帰るべき「意識の世界」を示していただきました。

繰り返しになりますが、田池先生はこう述べておられます。

◇

では、正しい瞑想とはどういうことか。

ここなんですよ。そこで、この話がくるわけ。これをね（「愛」のカードを指しながら）、いつも見ていると、自分は「愛」だということは聞いたけれど、何か分からんけれど、見てたら、だんだんだんだん分かるようになってくるわけ。「だからこれ見てください」「こういうのを使ってください」と、色々言っているわけですね。

まあ、これは道具ですね。おもちゃです。おもちゃでも、単なるおもちゃではない。これで遊んでいただいたら良い。字書いたり、絵描いたり、何や書いて、遊びながら勉強していく。そのうえで瞑想する。

では瞑想とはどういうことか。瞑想とは「目を瞑って思う」「目を閉じて思う」と書く。

何を思うのか。「愛」を思う。

◇

ということで、「愛のカード」といっても、他力信仰で使う「お助けカード」とは、まったく違う意味合いを持っています。

以下に何人かの方々の体験を紹介しますが、カードに向けることで痛みがなくなった、病気が癒えたという事例もありますが、病気を治すために「愛のカード」があるのでなく、その癒す力がどこから来るのか、神や仏にあるのでなく、と言ってカードにあるのでもない、自分の中にある「愛」に向けることで、治るとか、味が良くなるとか、安らぐとかいう現象につながってくるようです。

言わば、自分の中にある「愛」に気付くために、カードというオモチャで遊びなさいと言われているのだと思います。

愛のカードを使った体験

（順不同　いずれも 2012 年から 2013 年に書かれたもの）

A さん（大阪府　男性）

草書体の愛を思いました。そして見ました。その途端に私の心は表現し難い感動になり、全宇宙に、広がり何処まで行っても尽きることのない広がり、行けども、行けども尽きない広がり、ああこれが私、本当にずっとこの侭居たい、眼を明けて時計を見ると 1 時間 15 分も続いていました。しかし短く感じた時間でした。

これは紛れもない私が今朝経験した本当のことです。気持ちがよいことと言ったらとてもお話するのがもったいないくらいです。家のあちこちの草書体がいかにも可愛くて愛しくてたまりません。よかったねと笑ってお話しているようです。

長かったお勉強でした。この瞬間を求めて 20 有余年続けられた喜びの瞬間でした。この喜びが果たして何処まで続くか、それは私の心次第です。出来たと有頂天になってしまうか、更に引き締めてこの侭続けられるかじっと心を見ていきます。

草書体を見ながら真面目な瞑想するしかないことを改めて感じました。最近体の衰え足腰の弱みに少し弱気になっていました。しかし年は関係ない心は無縁益々広がり続けられることをしりました。

愛それは偉大何処までも続く、どこまで行っても尽きない広がり、私、愛でした。愛はすべてを包み込み喜びに転回することを信じ命がけで進みたいと感じました。

B さん（埼玉県　女性）

草書体の愛を使っての勉強が始まった時、素直にそれを使って行けない自分がありました。お守りやお札のように使ってしまうのではないか、そのような心が出てくるのではないかという思いでした。そんな自分とは反対に、ボールペンやコースター、タオルなどあらゆるものに草書体の愛という文字が入ったものが手元にきました。

ラミネートの愛を使っての実験、実験というか体験では、愛の文字に手をのせてする瞑想がすごかったです。手をのせて目をとじると、セミナーで田池先生の手がこちらへ向いたような感覚で、体中に衝撃が走り、異語がどんどんでてきました。愛の文字が入り口となって、田池留吉の磁場の世界へ繋がっているような、そんな感覚でした。ＨＰをみていくうちに、「草書体の愛」をもっと活用してください、というメッセージが目にとまりました。ずっと言われていたことだったけど、ハッとしました。草書体の愛の文字は物ではなく、そこから流れている波動でした。そこへ、いろんなものであらゆる場所で目にすることによって、そのたびに、自分の心を愛へ、田池留吉の磁場へ向けて行くようにと、そのためにこの草書体の愛の文字をたくさんいただいたのだと分かりました。受け止め方が全然違っていました。お守りやお札のように感じた

のは、自分の心でした。そこから祈る心や念じる心が出ることが怖い、出てきたらどうしよう、と警戒する心。いえ、恐怖する心でした。自分からでるマイナスのエネルギーを嫌っていました。嫌って嫌って頼むから出てくるな、とそんな思いでいっぱいでした。

今、職場の机のマットに「愛」の文字を挟んでいます。忙しくて心もどんどん小さくなって、自分の中がどうにもならなくなりそうなとき、ふと愛の文字が目につきます。目を閉じて、一回丹田呼吸をして心の中で「愛、愛」と何度か呟いてみます。そして、短い時間ですが田池留吉の磁場を思います。いつもではないけれど、それで驚くほど心がおちつき、さっきまで自分が流していた真っ黒な激しいマイナスのエネルギーを心に感じます。いつもいつもそんな状態でした。真っ黒で真っ暗で、冷たくて激しいマイナスのエネルギーを垂れ流しながら、日々をすごしていました。周りの人におそろしいほどのエネルギーで接していました。そのことを草書体の愛の文字から感じることができます。真っ黒真っ暗なマイナスのエネルギーを出す自分を、草書体の愛からながれるプラスのエネルギーがそっと包んでくれるような感じです。そのプラスのエネルギーもまた、自分であったと心の底から感じられるように、草書体の愛を大切に使っていきたいです。

Cさん（愛知県　男性）

草書体の愛のカードを目の前に掲げ、じっと見つめます。これを見ている肉の私は私ではなく、この愛の文字が私。私は鏡を見ている。私は私を見ている。これが私……これがワタシ。そう思いながら、そっと目を閉じ、この愛の文字を思います。カードはもも上に置き、その上に手を置きます。

しばらくすると、背筋が伸び、胸郭が開き、首が後ろに倒れます。そして、次第にのけぞり、パラパラピポパラパラピポ……と異語が出てきます。みぞおちに力が入り、首や体が強張ります。「あーっ」とか「うぉー」とかうなったり、「バカヤロー」と声が出たり、両腕が上がったりします。中から激しく突き上げてくるようですが、それが何なのか、はっきりとは分かりません。時折、そちらの方へ「反転！」と思いを向けると、弱まったり、泣きたくなったりするときもあります。

そのうち、体が熱くなり、強張った箇所が痛くなったり、苦しくなったりして、やめざるを得なくなります。そして、それを何度か繰り返します。終わる頃には、ひどくぐったりします。

これが最近の私の瞑想です。愛のカードを使うようになってから、このような現象がはっきりとしてきました。正直言って、瞑想中に温もりや喜びを感じることはありません。でも、何かは感じています。突き上げてくる激しいエネルギーと、漠然と自分に繋がる何かです。

以前は、瞑想と日常を無意識に分けていました。瞑想は瞑想、それ以外は日常と。最近はこの学びの理解が深まり、日常の生活の中でもできるだけ草書体の愛の文字に心を向けようとしています。

先日、こんな体験をしました。瞑想後、自分に繋がる何かを感じながら日常に戻りました。当然、体を動かしたり、判断したりしなければならなくなるので、感じる度合いは薄くなります。その日は、自転車に乗り、子どもを迎えに行きました。それでも、心のどこかに感じていました。そして、子どもとしゃべりながらの帰り道、気がついた時にはもう長く忘れている状態でした。「あっ、また肉を自分だと思っている」と気がついて、すぐにその何かに思いを向けると、それはすーっと甦(よみがえ)ってきました。それは、小さく遠くにあるようでした。その時が夕方だったからでしょうか、その何かは、マッチをつけたような、小さな灯のように感じました。

私は今まで、自分の肉を自分だと思ってきました。今もそう思っているエネルギーに心の大半を支配されているでしょう。自分に繋がっている何かという表現も、だからこそ出てくる本末転倒の表現なのかもしれません。

でも、この体験で、自分という存在をいかに小さな肉に閉じこめているのか、いかに一つの弧(こ)の中に終始させているのか、少し分かったような気がしました。同時に、このともった灯(ともしび)を縁(よすが)として、これから生きていけば良いのだなあと感じました。これを大きくしていくことが、この学びで言う「自己確立」、「中心棒の確立」、そして「来世に繋ぐ」ことなのかなとも思いました。

この学びに繋がって、約5年。「肉の喜びや繁栄を求めることが間違っているのです」、「苦しいあなたが間違っているのです」という意味さえ分からないまま、毎回、セミナーに通ってきました。やっと今、知的理解からも、また、おそらくは心の一部からも、先の意味が分かり、肉の私がすることは、できることは、ただ田池留吉に心を向けることだけ、と納得できるまでになりました。遅まきながら、やっとスタート地点に立てたような気がしています。

そんな時に、この草書体の愛の文字が与えられました。最後は瞑想だと言われても、本当の自分に心を向ける瞑想は、私のような鈍感な人間には漠然とし過ぎて難しいものでした。でも、この文字のお陰で、思う対象ができました。見たり、触れたりすることもできます。考えてみれば、瞑想がなんて楽になるのでしょう。ただ、ただ、この草書体の愛の文字を思う。何も付け足さず、ただ思う。それだけで良いのですから。

私の肉のよろいはまだまだ分厚(ぶあつ)いです。自己観察など吹っ飛ぶような闇の噴出や、心の底からの懺悔(ざんげ)は未だ体験できていません。でも、あと20年は生きられます。これからも、この愛のカードを使って淡々と瞑想していくつもりです。そしてできれば、肉体が滅(ほろ)びた後もこの愛の文字を思えるまでになりたいと思います。

Dさん（東京都　女性）

「愛」を思うことが喜びだなんて、欲いっぱいの時は思いもよらなかった。自分が今までいかに欲いっぱいだったか、肉を基盤とするその思いのままこの学びをしてきたかが響いてくる。愚かだ

と思った。肉を掴み、その思いのままこの学びをやり続けてきた愚かさ。今は何も思わずにただ素直に愛のカードを思える時がある。静かで穏やかで優しさが心に広がっていく。そんな中でも肉の思いが次々と出てくる。それを一つ一つ心からもう放していっていいんだと思えてくる。この喜びだけでよかったんだ、愛に心を向けていく中でこのことをやり続けていこう、欲いっぱいだった私がやっとそう思えるようになってきました。こんな時間を少しでも多く持てるように、肉のことは程々に、自分をもっともっと大切にしていきたい、他力では一歩も前には進めませんでした。

E さん（大阪府　男性）

平成 25 年1月のある寒い朝のことでした。私は起床して、すぐに1階の洗面所に向かいました。水道栓を回して、盥に湯を取り、顔を洗おうと上半身を前に屈めた瞬間、腰部に激痛が走り、そのまま、膝からその場に崩れおちました。立ち上がることはおろか、身動きも出来ない状態となりました。

洗面台の端にかろうじてつかまりながら、必死になって、２階に居る妻を呼び続けましたが、声が届かず、一種のパニック状態となりましたが、ズボンのポケットに携帯電話が入っていることに気がつき、やっとの事で妻に「洗面所で動けない」ことを伝えることができました。

身動きが取れない私を見て、妻は何事が起ったのか、最初はわからず、大層、驚きましたが、腰部の痛みを訴える私を見て、妻は直ぐに「愛」の草書体を持って来てくれました。

私は「愛」のカードを腰部に当てながら、肉体細胞に思いを向けました。

思いを向けた途端に、「申し訳ありません」「申し訳ありません」「申し訳ありません」が噴出してきました。続いて、「肉体細胞に暗い、厳しい、闇の思いをかけ続けてきた」ことが何度も、何度も出てきました。肉体細胞が悲鳴をあげているのだと気付かされました、

私は「愛」のカードを手にしながら、「田池留吉の磁場」に心を合わせて、「反転」を繰り返しました。私は何時の間にか涙ぐんでいました。

動転状態から少し落ち着いてきたので、ふっと軽く深呼吸をした処、「ありがとう」「ありがとう」「ありがとう」の思いが溢れ出てきました。

私の驚きはここから始まりました。なんと腰部の痛みが少しづつ、和らいできたのです。更に身動きも出来なかったのが嘘のように、ゆっくりながら、立ち上がり、そして歩くことが出来たのです。

隣の部屋に移動して、椅子に座ると胸が熱くなって、また涙が出てきました。

自分の中に有る、目には見えない「愛」のエネルギーの確かな強さと「反転力」を強めていくことの大切さを心に強く感じた、まさに衝撃的な今回の体験でした。

今回、私の身に起こった、身動きも出来ない、ぎっくり腰は私の中にある沢山のエネルギーに気付きなさい、という「促し(うながし)」であり、本当の自分とは何かを知りなさいという、絶好の「気付きのチャンス」を頂いたと思っています。

無限の意識の自分を心で感じる、心で知る、ことをしっかり学んで行こうと思います。

今後とも、「田池留吉の磁場の瞑想」「反転の実践」を日々重(かさ)ねて参ります。

F さん（大阪府　女性）

今、「愛　あなたは愛です」という言葉を、UTA ブックのホームページで目にした時、心に万感の思いが迫(せま)ってきました。あー私は愛なんだ。長い長い間、その私を裏切って足蹴(あしげ)にして生きてきたんだ。でもそれでも私は、やはり愛でした。愛の中にありました。

最初に草書体の愛を頂いた時、少々戸惑(とまど)うと同時に、使い方を間違えてはいけないとまず思いました。そして草書体の愛を使っていく中で、田池先生が提示してくださることを、素直にやってみようと実践することがとても大切なことだと実感させていただきました。

草書体の愛のカードで体験したことを何件か綴(つづ)ります。

寝ようとしてお布団の上に座ったら、心に重苦しいエネルギーを感じました。少し前に同じような状況で初めて愛のカードを使ったのですが、頼る思いが出ていたことに気がつきました。当然、結果も出ませんでした。

この日は、何も思わずただ嬉しい思いで愛のカードに向き合いました。心がどんどん明るく変化していきました。マイナスのエネルギーがプラスのエネルギーに変わっていきます。そのまま眠ってしまったのですが、翌朝、私の心は爽快(そうかい)に晴れ渡っていました。清々(すがすが)しくてただ嬉しい。草書体の愛のカードは、喜びのエネルギーだと実感しました。嬉しい嬉しい体験でした。

友達数人と、愛のカードの実験をしました。愛の文字をなぞっていると、嬉しさが湧(わ)いてきました。草書体の愛は、私達の中のプラスのエネルギーを引き出してくれます。自分の心で感じられることが喜びでした。

瞑想をしていたら、胸の辺りに冷たいひんやりとしたエネルギーを感じました。反転と発信もしましたが、ふと実験だと思って、草書体の愛に手を置いていた左手を胸に当てました。胸の辺りに温かいエネルギーが伝わっていくのが分かりました。胸の中が温かくなりました。

次に、愛に手を触れていなかった右手を胸に当てて、その違いを感じようとしました。今度は反対に、胸の中の温もりが手に伝わっ

ていく感覚になりました。胸の中はどんどん温かくなって、右手に温もりが伝わります。はっきりと結果が出て、少々驚きました。

最近のことですが、友達が、愛のタオルを枕の上に敷いたら目覚めがいいよと教えてくれました。私も早速実行しました。

枕の上に二つ折りにした愛のタオルを敷き、その上にカバー用のタオルを置いて頭をのせると、後頭部が柔らかく包み込まれるような感覚になりました。こんな経験は初めてでした。勿論（もちろん）、寝心地も目覚めも良く、寝る前に感じた首の痛みも、朝起きた時にはすっかり無くなっていました。

草書体（そうしょたい）の愛はあなたです、と伝えていただきました。自分の心や身体を通して学んでいけることが、とても嬉しいです。

間違って間違って生きてきた私が今、「あなたは愛です」という真実に巡り会いました。本当に嬉しいです。この真実に向かって、たくさんの私と共にひたすら歩き続けてまいります。ありがとうございました。

G さん（京都府　男性）

ようやく愛の文字の活用法、意味、そしてパワーを少し心で理解できたような気がします。 ようやく、ようやくです。15 年間この学びを勉強してきて、この愛の文字が全ての結集体だったことを感じます。それが分かる今の自分が本当に嬉しいです。ありがとうございます。

まず、愛の文字、ラミネートが最初にセミナーに出てきたときに思いを向けてみます 。

おろそかにしてきた、愛の文字を、そしてこの学びをおろそかにしてきた。

見下げてきた、もう全て分かっている、自分は偉い、素晴らしい。その思いでこの学びに接し、己を表す場所として足を運んでいた。愛の文字、こんな物がなんじゃ、所詮（しょせん）はただの文字、こんな物にどんなパワーがあるものか。こんな物すぐに理解できる、たいしたことがあるものか。

こんな思いで愛の文字に接した中、当たり前のことですが、結果はなにも出ませんでした。 実験を少し試（こころ）み、驚きの体験はあっても肉を基盤とした物で切り捨てていました。愛の文字を使っての正しい瞑想ができない、実験、実証が長続きしない。なにもできていないのに分かった素振（そぶ）りをみせ、上辺（うわべ）だけを掴（つか）む。まさに今まで学びに対して使ってきた思いそのものでした。

愛の文字に向けた思いは、この学びに対して思いと動機、田池留吉に対しての思い、母親に対しての思い、そして自分の意識の今の状態、それを全て表してくれていた物だと感じます。それを理解する為の愛の文字。それが今の自分に必要な愛の文字の活用法だと感じます。

今一度、愛の文字に対しもう一度思いを向けてみます。
あーー田池！ 田池！！ 殺してやる！！ 畜生、お前なんて糞くらえだ。苦しい、苦しい。なんでこんな苦しい目に会わせるんだ。お前がでてきてから苦しくて苦しくて仕方ない。よくもオレの人生をめちゃくちゃにしてくれたな 。お前のせいで、お前のせいで台無しだ。分かっている、オレはこんな学びなんて分かっている。なのに、なぜ、こっちを見ない、なぜオレを認めてくれない。こんなに素晴らしいオレを、なぜ無視し続ける。苦しい、苦しい！
怒りで体が固まってしまう。
闇が大噴出する中で、「反転」とし、もう一度愛の文字に心を向けてみます。
あぁ、お母さん、お母さん。。こんな闇だらけ、己一番、地獄の底の底を這いずり回っている自分でも、許されていたのですね。愛の文字、少しずつその真のパワーが感じられます。全てを許し、全てを包み込み、そして、喜び、喜び、愛のエネルギー。愛の文字に思いを向けると、こんなにも凄いエネルギーを持っているツールだったんですね。愛が突き上げてきます、今まで感じたことのない、と同時に懐かしいような。これが本当の自分、本当の愛の文字のパワーだったんですね。活用していきます。真剣に真意に活用していきます。
愛の文字、本当にただの文字ではない。そこに無限大に広がるパワー、エネルギー、それを少し垣間見ることができました。ただまだまだほんのわずかしか真のパワーに触れていないとも感じられます。どんどんどんどんやっていきます。愛の文字と共に学びを進め、実験、実践することによって、意識の状態のバロメーターとして活用できる。それがようやく理解できる今が本当に嬉しいです。ありがとうございました。

Hさん（奈良県　女性）

私は「愛」のカードを主に瞑想の時に使っていますが、
昨晩からお腹の調子が悪く、今朝、ああそうだ、「愛」のラミネートをお腹に巻いてみようと腹巻の間に入れてみました。
他力の思いかな、お札の代わりにしているんじゃないかなど一瞬心が揺れましたが、素直にお腹に巻いてみようという思いに従うことにしました。
昨晩は、この他にも自分の心にぐっと響いてくる出来事があり、
私の中にいる沢山の私からの思いがどんどん伝わってくるような気がして、「愛」のカードを手に持ち、もうひとつはお腹に巻いて瞑想をしました。
私は私を受け入れてきませんでした。
私は本当に私に冷たかった。
どれほど私の中の沢山の私が心を向けてください、愛を伝えてくださいと訴えてきたか。
私はそれをすべて無視してきました。

情けない自分が嫌だった。
無様（ぶざま）な自分を見たくなかった。
怒りや憎（にく）しみ、呪（のろ）いなどの思いは自分の中で認めやすく、噴出しやすいと感じていたけれど、惨めでみっともない、恥ずかしい自分は認めたくない私でした。
私は自分が高いところから、自分の闇を見ていた。
どこかで自分のようで自分でないような感覚だった。
突き放（はな）していた。
そうではなかった。
つくづく、自分が一番自分に冷たく、優しく温かく受け入れてこなかったことを痛切に感じました。
ごめんね。ごめんね。ごめんね。
自分が一番自分に冷たかった。
本当に冷たかった。温かい思いなんて向けたことがなかった。
ごめんね。ごめんね。
自分に対して申し訳ない思いで一杯でした。
そんなことを思いながらふっとお腹に心を向けると
愛からものすごい温かい、温もりが伝わってきました。
あったかい。あったかい。愛はただただ、あったかい。
温かい、温もり。冷たい冷たい私の心と体を一瞬で溶（と）かしてしまう。
すごいパワーで包み込まれるのを感じました。
私の体も心もポカポカ。ああ、愛が、温もりが、こうして闇を包んでいく。
温もりがなかったら闇を包めない。
受け止められない。
その通りでした。
冷たい私の心から伝わるものなんて何もありませんでした。
「愛」のカードを通じて、温もりを感じさせていただきながら、
でも私も愛なんだ。
本当の私は愛なんだと何度も思いました。
そしてこの温もりはお母さんの温もり。
私が馬鹿にして、蔑（ないがし）ろにしてきた母の温もりでした。
（中略）
私はこれからも「愛」のカードを使って瞑想を続けていきます。
いつか、カードがあってもなくても、「愛」を思い出せるように、
もっと言えば、私の肉がなくなっても「愛」を思い出せるように。
残された肉の時間を大切に使います。
田池先生、田池留吉、「愛」のカードを本当にありがとう。

愛へ帰る道／ The Way Back to Love

愛へ帰る道。その道はずっと私達の中に示されていたけれど、心を見るということを知らなかったから、全く気付けなかったのでした。

苦しみや哀(かな)しみは外からやってくる。そして喜びも幸せも温もりも、安らぎも自分の外にある。そう思い続けて生きてきた肉を持つ時間でした。

その思い続けてきた思いの世界を変えていくことは、容易(たやす)いことではありませんが、今世こそ、心を見るという実践を通して、自分の生き方の軌道(きどう)を修正する方向に進んでいきましょう。

愛へ帰っていこうとする軌道を自分の中で確立するために、自分に肉を持たせてきたことを、思いましょう。温もりを捨ててきた心に、田池留吉を思い、母を思ってくださいと、真っ直(す)ぐに伝えていただいた今世、今という時です。ありがとう、ありがとうございますと素直に自分復活を果たしていきましょう。

The way back to love has always been shown within us, but we have not been able to find it because we have not known to look within our own hearts.

Suffering and sorrow come from outside us, and joy, happiness, warmth and ease are also outside us. We have always lived thinking so every time we are born again.

It is not so easy to change the world of thoughts in which we have kept thinking that way, but let's move in a direction that will correct our course of life in this life.

Let us recognize our own determination to have a physical body in order to establish within us the path back to love. Our hearts threw away warmth, but Mr. Taike Tomekichi told to such hearts of us straightly in this life, now, to think of the world of Taike Tomekichi, and to think of our mothers. Let us revive our true self with gratitude and honesty.

（UTA の輪の中でともに学ぼう　3064）

日めくりと「ふるさと」の歌詞

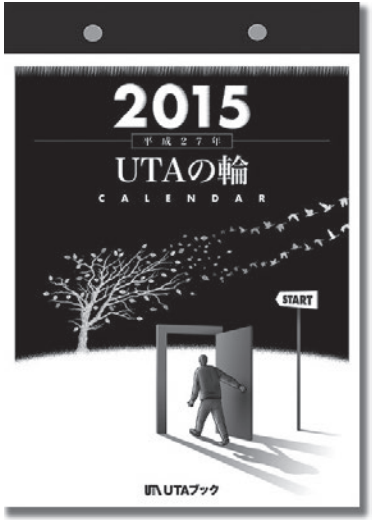
冊子でも出版物でもないのですが、2014 年に入って、「日めくり」を作る準備にかかりました。読者の希望だったのか、思いつきだったのか、どうして「日めくり」を作ろうと思ったのか定かではありません。日めくりの制作なんて初めてのことで、冊子や本づくりと違い、いろいろ行程がややこしく「どうしてこんな面倒なことをはじめたんだろう」と思ったのを記憶しています。

締め切り一つをとっても、本や冊子なら、組版が完成して一カ月もあれば形になってきます。ところが、日めくりとなると、季節商品ということもあって、12 月までに完成品が欲しいわけですが、なんと締め切りは 7 月末だというのです。

こんな次第で、「日めくり」は、今回の 2015 年版が最初で最後の制作物となりました。しかも、期せずして 2015 年は田池先生の亡くなる年（同年 12 月 5 日没）になってしまったのです。

この偶然を、今も不思議に思っており、「日めくり」は僕にとって大事な仕事の一つになっています。

さて 2014 年に入るや、みんなから本やホームページや冊子の中から、日めくり用に、自分にとって大切なメッセージを選んで送ってもらうことになりました。メッセージだけでなく使用する写真も皆さんから送ってもらい、そのうえで完成したばかりの「大宝クボホール」（2014 年 5 月 1 日完成）に、定期的に有志に集まってもらい、メッセージと写真と日付の組み合わせ作業をおこないます。「このメッセージにはこの写真を使おう」とか、「ヒマワリの写真は夏だから、やっぱりこの日だなあ」とか……70 インチの大型モニターに写真と組版原稿を映し出し、ワイワイガヤガヤとにぎや



入稿寸前まで歌詞は 3 番まで

入稿直前に4番完成

かに「日めくり」の骨格を組み立てていきました。

塩川香世さんの「ふるさと」の歌詞も、この年の7月に完成。出来た当初は3番までの歌詞でしたが、日めくり入稿の締め切りギリギリの日に4番も間に合い、晴れて1番から4番までの歌詞が「日めくり」の12月31日を飾ることとなり、「ともにともに帰ろう」で一年を締めくくることができました。

ちなみに祝日は別として、2015年と全く同じ曜日に一致するのは、「2026年、2037年、2043年、2054年、2065年、2071年、2082年、2093年、2099年」だそうです。

ところで、日めくりに投稿してくれたユーザーの方が、当時の思い出を送ってくれましたので、以下に紹介させていただきます。

なお、この方が投稿いただいた画像は1月10日のところに「アルバートに心を合わせて進んでください。待っています。」の文章と共に使わせていただきました。

日めくりカレンダー／仲亀友子

日めくりカレンダー用の写真と心に残った言葉や文章をということで、今までの写真の中からどれにしようかと探していた時、ああこんな写真もあった、こんな所にも行っていたなぁ、とその時のことが色々と思い出されてとても楽しい時間でした。

私は生まれてから今まで色々な事を体験し、色々な思いを出してきた。今、この学びに繋がり、

「苦しんでいるあなたが間違っている」

「自分が変わらなければ、何も変わらない」

「素直にすべてにハイ」。

ああ、肉が自分だと思ってきた心には絶対に認められないことでしたが、毎日見るカレンダーの写真と言葉や文章は新たに心の向け先の確認を促してくれる大切な存在になっています。

郵便局に入ってパッと目に入り何も考えずに買ってしまいました。ああ、また衝動買いをしてしまったなぁと思いましたが、日めくりカレンダーで目にした時は本当に嬉しさと喜びでいっぱいでした。ありがとうございました。

2015 年日めくりカレンダー

「この一枚」「この一言」

「喜びのアルバム」を開いて見ていました。
本当に長い間、共に学びに集った方々の顔が沢山目に入ってきました。感慨無量。
まだ一度もワンポイントを聞いてもらっていない方々にその機会を作っていきたいと思いました。
該当者の方は、遠慮なく申し出てください。待っています。9月と12月のUTA会と箕面山荘少人数セミナー（仮称）でお応えしていきます。
ふるさと「ともに　ともに　…　」を歌いながら、愛の道具で実験しながら、正しい瞑想をしながら待っていてください。
申し込み方法　UTA会では、その時に説明をしますから、聞いていただいてから申し込んでください。箕面山荘の時は、参加者で希望される方全員とします。

喜びのアルバム

9月のUTA会で、高齢者（75歳以上の方）の方全員に声を掛けますから出来るだけワンポイントメッセージに出てください。待っています。

間もなく9月のUTA会。
参加予定の方々へ
課題は思いを最も大切にしましょう。ものすごいセミナーとなるでしょう。
ただ今から、思いを田池留吉（意識）に向け、それからみんなとふるさとを歌うようにしましょう。田池留吉を思う凄さ、ふるさとを歌う凄さ、満喫してください。

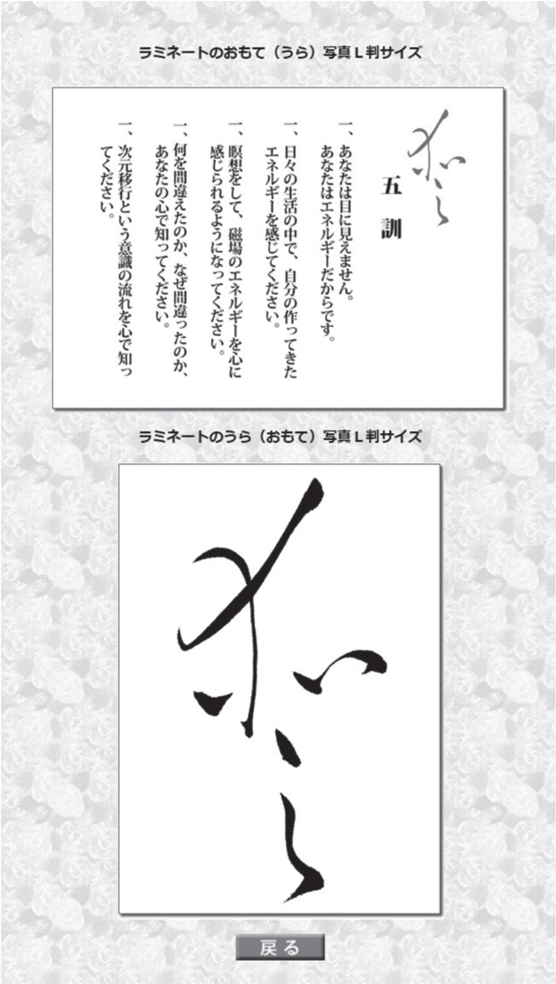
あなたは、常に、田池留吉（意識）に心を向け、思うようにしていますか。田池留吉（意識）が愛だと信じていますか。どの程度でしょうか。
思えない方、信じられない方、どうしてでしょうか。頭でなくて、瞑想を通して心で確認していくようにしてください。
田池留吉（意識）は愛です。あなた方のふるさとです。
あなたは、死ぬ時、田池留吉（意識）を思えますか、愛を思えますか、ふるさとを思えますか。
あなたの心の中に愛があることを信じて、喜び喜びで転生に繋いでいってください。

※これは田池先生のホームページ「意識の流れ　田池留吉の磁場を思い瞑想しよう」の一部で、「ふるさと」の歌詞が2014年7月下旬に完成した翌月8月に更新された部分です。
９月のUTA会セミナーとは、第22回UTA会（9月21日～23日）で、12月の箕面山荘少人数セミナーは「大阪池田セミナー」（12月7日～９日）に変更になっています。

五訓とその解説

2013年3月1日発行された小冊子「UTAの輪」、これは2008年7月に発行された「学びのポイント」及び同年9月発行の「正しい瞑想の仕方」、この二つの小冊子を併せて編集し直したものですが、2008年時にはなかった「五訓」という言葉が登場します。2013年3月1日発行の「UTAの輪」には「草書体の愛の文字と五訓を最大限に活用してください」という章が新たに設けられているのです。

草書体の「愛」については、前項で述べましたが、では「五訓」とは何でしょうか。田池先生の最後につくられたホームページ「意識の流れ　田池留吉の磁場を思い瞑想をしよう」にも、「間もなく第15回UTA会、予習をしましょう。テーマ　愛のエネルギーと反転」の言葉に続いて「五訓、毎日読んでいますか」の一文が続きます。



その頃のUTAブックのホームページには左の画像のような、ウラ面が「五訓」オモテ面が「愛の草書体」というダウンロード用のカード画像がアップされていました。

田池先生が、学びの核心を5つの言葉に整理し、「愛の草書体」とともに、常に「意識の世界」に心を向けられるよう用意してくださった重要な仕掛けの一つなわけです。

この五訓のそれぞれの項目に、塩川香世さんがメッセージを受けられ、解説として付けられたものが、2013年11月15日付けの文書として残されています。

この項の最後として、これを全文ご紹介させていただきます。

1. あなたは目に見えません。あなたはエネルギーだからです。
You cannot see your true self because your essence is energy.

目を閉じて、田池留吉のほうに心を向けてください。
私、田池留吉は、あなたの目の前にいる田池留吉ではありません。それと同様に、あなたも、あなたが見ているあなたではありません。
私達は意識、エネルギーです。その意識、エネルギーである自分を心で感じられる、そんなあなたに蘇（よみがえ）ってください。
どうぞ、心を田池留吉のほうにしっかりと向け、田池留吉の世界、その波動、エネルギーを心で感じてください。そうすれば、あなたは、目に見えない世界を本当に心で感じられる、そんな喜びを広げていけるでしょう。
そして、どんどんどんどんそのような瞑想をしていけば、いつの日にか、自分のエネルギーを心に感じ、そしてその自分の世界へどんどんどんどん心を向けられるあなたになっていくでしょう。
私達は、意識、エネルギーです。
私達は目に見えません。

1. 日々の生活の中で、自分の作ってきたエネルギーを感じてください。
Feel the energy you have created in your daily life.

あなたの肉、あなたの環境、あなたの今いる場所、その日々の生活の中で、自分の心を見るように、あなたは自分で設定してきたことを喜んでください。今を喜んでください。
どんなに苦しくて、辛（つら）くてという環境であっても、あなたは必ずそこから自分のエネルギーを感じてください。そのエネルギーは、確かに暗くて苦しくて凄（すご）いエネルギーかもしれません。しかし、そのエネルギーを心に感じられるあなたであると、本当に分かってくれば、あなたの環境、肉の設定、ああこういうことから、私は自分を知っていくんだ、そんな喜びがただただ心に広がっていくでしょう。
形ではありません。あなたの心から発するエネルギー。そのエネルギーをどうぞ、どうぞ、心で感じられる喜びを広げていってください。
苦しみは愛。私は以前にそのように伝えました。
日々の生活で感じている苦しみ、辛さ、悲しみ、色々な暗い思い、そのエネルギーは、明るい、優しい、柔らかなエネルギーに、そして温かなエネルギーに変えていけることを信じて、日々の生活を楽しんでいってください。

1. 瞑想をして、磁場のエネルギーを心に感じられるようになってください。

Practice meditation and become one who feels the energy of the essential core.

瞑想とは、目を閉じて思うということです。何を思うのか。もうお分かりですね。田池留吉です。田池留吉の磁場です。田池留吉の磁場は無限です。無限に広がっていく世界です。その田池留吉の磁場、田池留吉の世界に心を向け、心を合わせていけるあなたであってください。

他力の中にずっと存在し続けてきたあなた方にとって、田池留吉の磁場に心の針を向ける、合わせていくということは、大変困難なことです。しかし、不可能なことではありません。どうぞ、目を閉じる時間、静かに目を閉じて心を向けていける時間をまず持ってください。

そして、そのような瞑想をして、あなたの中にある田池留吉の磁場、本当のあなたに、心を向けられるようになってください。

日々、そのような瞑想を継続してください。ただただあるのは無限の世界です。磁場とは、無限の世界を指します。

有限の世界の磁場ではありません。無限に、どこまでも、どこまでも広がっていく、そのような世界です。それがあなた自身の世界です。

1. 何を間違えたのか、なぜ間違ったのか、あなたの心で知ってください。

Acknowledge your mistakes and why you are mistaken in your heart.

この学びは、頭で分かる学びではありません。頭で推し量って分かる学びではありません。

何を間違えたのか、なぜ間違ったのか。

それをあなたの心で分かっていくには、どうすればいいのでしょうか。

お母さんの反省から始めてください。お母さんに使ってきた心、その心をしっかりと確認するんです。

お母さんは、あなたの中ですでに伝えていました。お母さんのお腹の中で、あなたは、お母さんから伝えてもらっていたんです。

何を間違えたのか、なぜ間違えたのか。

これはあなたが産まれてくる本当の意味を知っていくために、とても大切な問いかけです。産まれて何をすべきなのか。なぜ私はこのようにお母さんのお腹から、何度も、何度も産んでいただいたのか。すべて、自分の間違いに気付いていくためです。

過去、すべての転生は全部失敗でした。何を間違えたのか、なぜ間違えたのか分からず、生まれて死んで、また生まれて、そんな繰り返しでした。

どうぞ、今世こそ、何を間違えたのか、なぜ間違ってきたのか、あなたの頭ではなく、心で分かっていくような学び方をなさってください。お母さんの反省をどうぞ、しっかりとなさってください。

1. 次元移行という意識の流れを心で知ってください。
Gain knowledge in your heart of the era of transformation on the journey of consciousness.

次元移行は、非現実的な話ではありません。次元移行は、現実のお話です。私達の今いる場は三次元です。この今いる場から、次元を超えて存在していく自分であることを心で感じられることが、本当に喜びとなってください。

分からない、分からないではなく、分かるんです。感じてくるんです。

お母さんの反省をして、ゼロ歳の瞑想をして、田池留吉に心を向けて合わせていこうと、本当に真剣にこの学びをやっていこうと思い、田池留吉の指し示す方向に実践していけば、どなたの心の中にも、この次元移行という意識の流れが響いてきます。

意識の流れの中にある自分だと心で感じてきます。

すべての意識達に促しを与えていく、そんな、優しい、優しいそして力強い喜びの流れを心で感じていってください。

あなた方は、この三次元で、たくさんの、たくさんのことを学んでまいりました。学んできたんです。苦しんできたのではありません。すべてが肥やしになっていくような、そんなあなたであってください。

そして、次元移行へ心をいざなっていける、喜びへ、温もりへ心をいざなっていけるあなたであってください。

肉、形にとらわれている心、その心をどうぞ、自分の中から解き放していきましょう。

次元移行へ至る道は喜びの道です。

私達は、250 年、300 年かけてこの喜びのメッセージを、波動、エネルギーとして流し続けます。

ともに、ともに次元を超えていける意識の流れの中に、ご自分を確立してください。

ご自分の意識の世界を、次元移行という照準に合わせていってください。

ただただ喜び。ただただ温もり。次元移行を目指して、私達は邁進してまいりましょう。

5. 苦しんでいるあなたは偽物のあなたです。本当のあなたに出会っていってください。

　いつまでも苦しんでいるのはなぜか、なぜいまだに苦しみを大きく残留させているのか、しっかりと心を見てください。自分を肉だとする思いが、どんどん自分を苦しみのふちに沈み込ませていきます。ここがポイントです。自分から苦しみの中に入っていっているのです。あなたの足を引っ張っているものはあなた自身です。肉を本物とするあなたのその思いです。

　そして、あなた自身は、そんなあなたが偽物（にせもの）であることもまた本当は知っています。知っていながら偽物のあなたをつかまえて苦しんでいるだけです。大変滑稽（こっけい）です。しかも、苦しみながら私は素晴らしい、私は偉いとやっているからなおのこと滑稽です。

　人生は喜びです。苦もあれば楽もあるのではなく、喜びです。苦しんで悲しんで悩んで嘆（なげ）いて怒って暗い顔をして日々を過ごすよりも、ほんの少しでも嬉しいと思えることを見つけ出して、前へ前へ歩いていこうと肉からでも始めてみてください。いくらでも優しさに温もりに触れていけます。優しさがあなただから、温もりがあなただから、あなたがその気になりさえすれば、いつもあなたにエールを送っている自分自身と出会えるチャンスは、いくらでもあるはずです。

5. Your suffering self is not your true self. Please encounter the truth within you.

Why do you always suffer, and why do you constantly allow such suffering to persist within you? Please reflect upon this deeply in your heart. The belief that your physical being is your true self only deepens your descent into suffering. This is a crucial point. You are voluntarily immersing yourself in suffering. It is your own belief in the physical as the real that is holding you back.

In reality, you are aware that this version of yourself that you are clinging to is not your true self. Despite knowing this, you continue to grasp onto this false self and extend your own suffering. It is truly absurd. It becomes even more absurd when you, while suffering, try to convince yourself that you are wonderful and everything is fine.

Life is joy. It is not just a series of ups and downs; it is fundamentally joy. Instead of enduring suffering, worry, regret, or anger, try to find even a small sense of happiness and move forward, even if it means starting from your physical existence. There are countless opportunities to encounter kindness and warmth. Because kindness and warmth are innate to you, as long as you are willing, there will always be plenty of opportunities to meet your true self, who is always there, waiting for you.

愛へ帰る ／ Return to love

愛へ帰る、本当の自分の元へ帰る計画を立ててきた、そしてその計画が粛々と遂行されている、そう自分の心で感じられることが喜びではないでしょうか。揺らがない喜びとは、そういうことを言うのではないでしょうか。本当の喜び、幸せ、温もりを知っていけば、今までこれがそうだと思ってきたものが、本当に薄っぺらなものだと分かっていきます。

いいえ、薄々そう感じていたのに、本当のことが分からず信じるということもできず、自分を誤魔化し誤魔化し生きてきたんだということでしょう。

もう誤魔化すことも、自分を偽ることもなく、真っ直ぐに私は私のこの愛へ帰る道、本当の自分とともに生きていく道を歩いていきますと、自分に宣言できることが、ただただ幸せだと思います。

総崩れに崩れていく形ある世界です。ありがとう、私達は帰ります、本当のことを伝えてくれてありがとう、その思いで自分をそして周りを見ていきましょう。

Isn't it joyful to feel in your heart that you have made a plan to return to love, to your true self, and that plan is being carried out solemnly? Isn't that what unwavering joy means? As you learn about true joy, happiness and warmth, you will realize that what you used to think was really flimsy.

No, I felt that way for a while, but I didn't know the truth and couldn't believe it, so I guess I lived by deceiving myself and deceiving myself.

I am just happy to be able to declare to myself that I will walk the path of returning to this love of mine and living with my true self without deceiving myself anymore or pretending to be myself.

It is a tangible world that collapses into total collapse. Thank you, we're leaving, thank you for telling us the truth, let's look at ourselves and our surroundings with that thought.

（UTA の輪の中でともに学ぼう　3001）

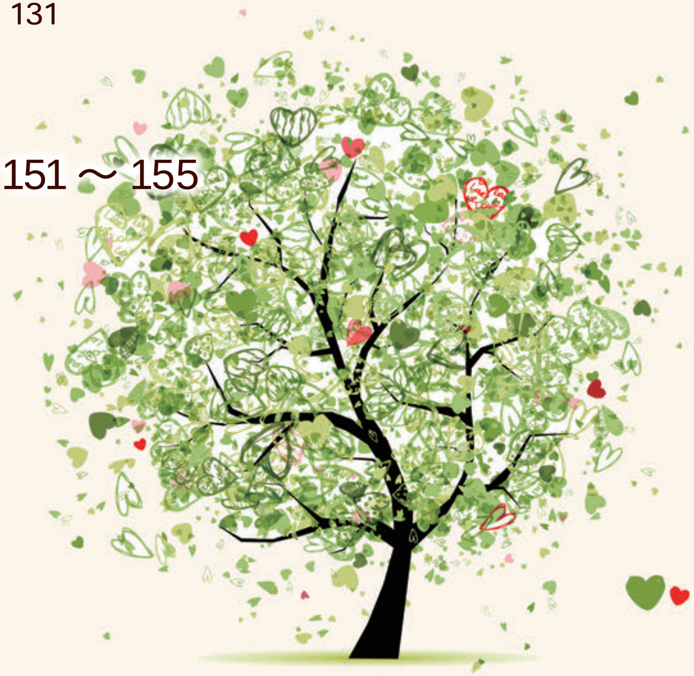
第４章　出版物でたどる学びの足跡

この時期に発刊された出版物　114 ～ 118

出版物から見た学びの流れ　119 ～ 149

「意識の流れ」発刊という画期！！　119
「ありがとう ― 意識の流れ　姉妹編」125
「母なる宇宙とともに」128 ／「愛　あなたは愛です」131
「愛、心のふるさと」136 ／「意識の転回」143
「続 意識の流れ ― 最後は瞑想です」146

この時期に制作された音訳 CD　151 ～ 155



2007 年 12 月、関西の大型書店を中心に「意識の流れシリーズ」と銘打っての「ブックフェア」を実施しました。その時に作製したポスターです。おかげで「意識の流れ」が紀伊國屋書店の週間売り上げベストセラー 28 位にランクインするなど、反響は大きく、翌年の「意識の流れ　初参加者のための勉強会」開催へとつながっていきました。

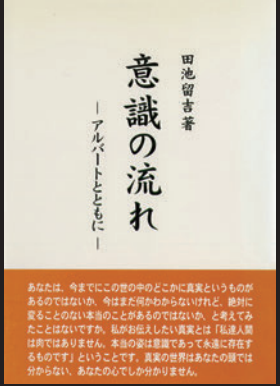
この時期に発刊された出版物

「意識の流れ」（初版）から「意識の転回」（ver.3）

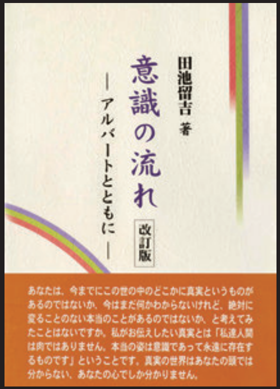
（2004 年 12 月～2015 年 6 月）

この本を手にしていただいてありがとう、大変嬉しいです。長い長い時を経て、ようやくお会いできました。シナリオ通りとはいえ幸せです。
新たな出版活動は、
この一文からスタートしました。

UTA ブック全出版物



表題／意識の流れ
副題／アルバートとともに
著者／田池留吉
発行／株式会社かんぽう
　2004 年 12 月 10 日
体裁／ A5 版 並装 164 ページ
備考／ 20 ページの追録「おわりに」が追加発行され添付



表題／意識の流れ（改訂版）
副題／アルバートとともに
著者／田池留吉
発行／株式会社かんぽう
　2005 年 12 月 10 日
体裁／ A5 版 並装 198 ページ
備考／巻末に「意識の流れ」HP の冒頭部分が掲載

表題／意識の流れ(増補改訂版)
著者／田池留吉・塩川香世
発行／ UTA ブック
　2010 年 5 月 10 日
体裁／四六版 並装 258 ページ
備考／版型が単行本サイズに変更。本文が 10 章建てとなり、巻末に再掲 10 項目

表題／ありがとう
副題／意識の流れ姉妹編
著者／塩川香世
発行／株式会社かんぽう
　2006 年 8 月 19 日
体裁／ A5 版 上製 200 ページ
備考／田池留吉から塩川香世へ引継ぎの原点となる一冊

表題／ありがとう（増補改訂版）
副題／意識の世界への架け橋
著者／塩川香世
発行／ UTA ブック
　2016 年 6 月 20 日
体裁／ A5 版 上製 242 ページ
備考／塩川香世「F さんの反省」が巻末に追加掲載

表題／母親のぬくもり
副題／子供の問題 自殺･いじめ･犯罪・虐待・学級崩壊・不登校
著者／本田せつ子
発行／株式会社かんぽう
　2007 年 2 月 20 日
体裁／ A5 版 並装 288 ページ

2004 年 12 月から、2015 年 6 月発行までの 11 年間の出版物のデータを時系列で紹介させていただきます。ただ同一書で改訂版があるものにつきましては、時系列を無視し、初版時のものと並べて掲載させていただきました。また 2015 年 6 月以降に出版された物であっても、初版が期間中に発行されたものの改訂版については、初版のものと並べて掲載させていただいております。

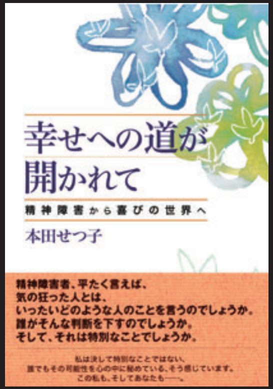
表題／母なる宇宙とともに〈1〉
著者／塩川香世
発売／株式会社かんぽう
発行／ 2007 年 3 月 15 日
体裁／四六判 並装 156 ページ
備考／著者の希望で 2 分冊に

表題／母なる宇宙とともに〈2〉
著者／塩川香世
発行／株式会社かんぽう
2007 年 4 月 13 日
体裁／四六判 並装 122 ページ
備考／著者の希望で 2 分冊に

表題／母なる宇宙とともに(新版)
著者／塩川香世
発行／ UTA ブック
2013 年 4 月 20 日
体裁／四六版 並装 190 ページ
備考／ 2 冊を合本

表題／母なる宇宙とともに
著者／塩川香世
発行／ UTA ブック
2017 年 12 月 15 日
体裁／四六版 並装 190 ページ
備考／改定新版

表題／時を超えて伝えたいこと
副題／かつて日本に生きた者から未来の自分に宛てたメッセージ
著者／桐生敏明
発行／株式会社かんぽう
2007 年 6 月 30 日
体裁／四六版 並装 258 ページ



表題／幸せへの道が開かれて
副題／精神障害から喜びの世界へ
著者／本田せつ子
発行／株式会社かんぽう
2007 年 11 月 20 日
体裁／四六版 並装 221 ページ

表題／意識の転回
著者／塩川香世
発売／株式会社かんぽう
発行／ 2007 年 8 月 31 日
体裁／四六版 並装 154 ページ
備考／コペルニクス的転回

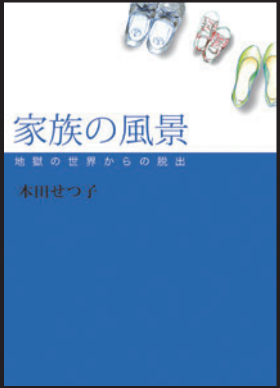
表題／意識の転回 (ver.2)
著者／塩川香世
発行／ UTA ブック
2011 年 7 月 25 日
体裁／ A5 版 並装 175 ページ
備考／増補改訂

表題／愛、自分の中の自分
副題／意識の転回 ver.3
著者／塩川香世
発行／ UTA ブック
2015 年 6 月 20 日
体裁／四六版 並装 182 ページ

表題／続 意識の流れ
副題／最後は瞑想です
正しい瞑想をしましょう
著者／田池留吉
発行／株式会社かんぽう
2007 年 12 月 10 日
体裁／四六版 並装 200 ページ

表題／続 意識の流れ (改訂版)
副題／最後は瞑想です
正しい瞑想をしましょう
著者／田池留吉・塩川香世
発行／ UTA ブック
2010 年 12 月 10 日
体裁／四六版 並装 204 ページ

表題／続 意識の流れ (増補改訂版)
副題／最後は瞑想です
正しい瞑想をしましょう
著者／田池留吉・塩川香世
発行／ UTA ブック
2016 年 12 月 10 日
体裁／四六版 並装 180 ページ



表題／家族の風景
副題／地獄の世界からの脱出
著者／本田せつ子
発行／株式会社かんぽう
　　2008 年 3 月 15 日
体裁／四六版 並装 168 ページ

表題／愛と死の真実
著者／塩川香世
発行／株式会社かんぽう
　　2008 年 4 月 15 日
体裁／四六判 並装 198 ページ

表題／愛と死の真実（改訂新版）
著者／塩川香世
発行／ UTA ブック
　　2017 年 4 月 10 日
体裁／四六版 並装 198 ページ

表題／アルコール依存症の詩
著者／後藤光代
発行／株式会社かんぽう
　　2008 年 10 月 8 日
体裁／四六判 並装 168 ページ
備考／自費出版（塩川香世さんが監修）

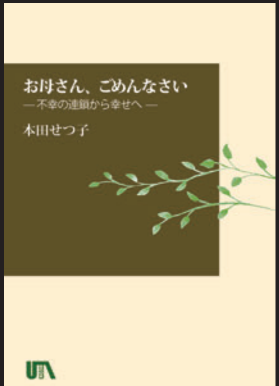
表題／あなた、このまま死んでいっていいのでしょうか？
著者／塩川香世
発行／ UTA ブック
　　2009 年 5 月 30 日
体裁／四六判 並製 188 ページ

表題／第二の人生
副題／ラストチャンスです
著者／塩川香世
発行／ UTA ブック
　　2009 年 10 月 10 日
体裁／四六判 並装 178 ページ

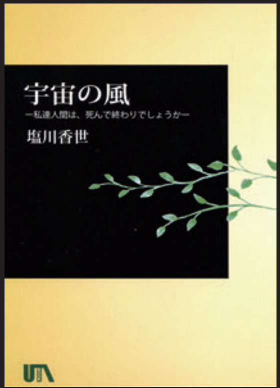
表題／その人、田池留吉
副題／田池留吉の世界
著者／塩川香世
発行／ UTA ブック
　　2010 年 10 月 10 日
体裁／四六版 並装 230 ページ

表題／その人、田池留吉II
副題／田池留吉の世界 自然治癒力
著者／塩川香世
発行／ UTA ブック
　　2011 年 11 月 20 日
体裁／四六版 並装 188 ページ

表題／磁場と反転
副題／その人、田池留吉III
著者／塩川香世
発行／ UTA ブック
　　2012 年 11 月 25 日
体裁／四六版 並装 202 ページ



表題／お母さん、ごめんなさい
副題／不幸の連鎖から幸せへ
著者／本田せつ子
発行／ UTA ブック
　　2010 年 12 月 10 日
体裁／四六版 並装 198 ページ

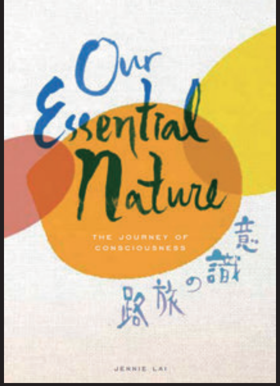


表題／宇宙の風
副題／私達人間は、死んで終わりでしょうか
著者／塩川香世
発行／ UTA ブック
　　2011 年 5 月 25 日
体裁／四六版 並装 210 ページ

表題／宇宙の風（増補改訂版）
副題／私達人間は、死んで終わりでしょうか
著者／塩川香世
発行／ UTA ブック
　　2017 年 9 月 10 日
体裁／四六版 並装 210 ページ

表題／嫁と姑の確執
副題／自分を変えていきたい
著者／鈴木和子
発行／ UTA ブック
2011 年 6 月 30 日
体裁／四六版 並装 158 ページ

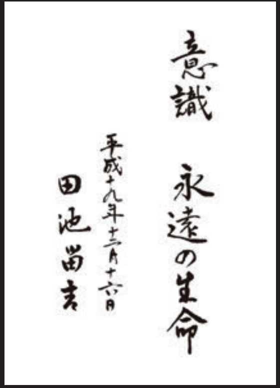
表題／さびしい子供たち
著者／本田せつ子
発行／ UTA ブック
2011 年 11 月 20 日
体裁／四六版 並装 194 ページ



表題／ Our Essential Nature
副題／意識の旅路
著者／ Jennie Lai
発行／ UTA ブック
2012 年 4 月 10 日
体裁／ A5 版 並装 318 ページ
備考／和文 168P　英文 150P

表題／愛　あなたは愛です
著者／塩川香世
監修／田池留吉
発行／ UTA ブック
2013 年 12 月 10 日
体裁／四六版 並装 198 ページ

表題／愛、心のふるさと
著者／塩川香世
監修／田池留吉
発行／ UTA ブック
2014 年 12 月 20 日
体裁／四六版 並装 206 ページ



「続 意識の流れ」に掲載した田池先生の書。平成 18（2006）年 12 月 26 日､「続 意識の流れ」出版のちょうど 1 年前に書かれたものです。

大槻ゆり さんがデザインされた UTA ブックの栞（しおり）

金子 亙（あまね） さんがデザインされた UTA ブックの栞（しおり）

出版物から見た学びの流れ

「意識の流れ」増補

「意識の流れ」発刊という画期！！

1. 古巣の官報へ帰る

この本の編者である私は、1999年12月、株式会社エル（神奈川県）を退職して、関西へ帰ってきました。僕は、かつて株式会社かんぽう（政府刊行物大阪サービス・ステーション）で官報公告係と店舗部門の責任者として働いていたのですが、田池先生のお仕事を、出版の面でお手伝いするべく神奈川へ移転しました。そして10年が過ぎた頃、その官報（正式には「かんぽう」と平仮名表記でしたが、よく「漢方」と間違えられますので、以下、「官報」と表記します）の代表者である田中久雄さんから「そろそろ帰ってきてはどうか」と、誘いを受けたのです。

田中さん曰く、「君が東京へ行くので官報を辞めたいと言い出した時、僕は、君が働きながら活動できる職場を僕なりに探してあげたよね。結果はエルという会社ができ、そこで働くようになったとはいえ、僕は君の申し出に真摯に向き合ったつもりだ。今度は、僕が困っており、君に帰ってきてくれと頭を下げている」と。

ここまで言われて断れるものではありません。ましてや、この頃、僕の両親は、二親ともに交互に入退院を繰り返す始末で、そのこともあり、また仕事としてではなく、心の学びに向かい合ってみたい、そんな思いもあってエルを退職するに至りました。

そして、この2年後の2002年6月、下呂水明館で開催された「第235回エルランティの光セミナー」で、1985年1月からはじまった田池先生のセミナー活動は終止符を迎えたのです。

ところが、今にして思えば、これまでの20年近い学びの時間は、言わば助走期間とでもいうべき時期だったように思えます。田池先生が「同窓会」と言われた2年間の勉強会（UTA会セミナー）の期間を経て、2004年12月「意識の流れ」という本が出版されたのです。

ここからが本当の始まりだったような気がしてなりません。

2.「意識の流れ」という本について

さて、本はできたものの、田池先生の「一人でも多くの方に本当のことを伝えたい」という思いを形にするには、どうしても、全国での書店展開が必要でした。

そこで、僕が取締役として迎えられた官報の仕事はというと、国の発行する法令・政令公布紙「官報」の普及活動とともに、国の

発行する出版物、俗にいう政府刊行物の書店への卸を取り仕切っている半官半民の会社なのです。日本の出版流通の仕組みは、出版物を書店に並べるためには「ニッパン」「トーハン」「大阪屋」と言った取次ぎを通さないといけないのですが、「政府刊行物」については特別で、国の出した本および、これに準ずる出版物は、僕たちの手を経ないでは書店へは並べられない、いわば特殊取次というか、抜け道的な立場にあったのです。東日本を「東京官報」が、西日本を「大阪官報」が仕切っていました。

田池先生の思いを知った時、「では、官報で『意識の流れ』を全国の書店に流通させてみてはどうでしょう」と声をかけさせていただきました。

今、思えばずいぶん無茶な話で、政府刊行物の流通ルートで、世間の常識とは真逆のことを説く「本」を流そうというのですから。それもこれも「官報」の取締役という立場に迎えられたからこそ出来たことでした。しかも、この後も次々と出される田池先生・塩川香世さんの本を、これでもかというほど流通させたにもかかわらず、国からも、関係筋からも、一言もクレームが出たことはなかったのです。それこそ意識の流れの中の計画としか言いようがありませんでした。

肥後橋官報ビル

こうして話は決まり、その時、田池先生とした約束が「意識の流れ」という本を何があっても後世に残していくということでした。

では一体「意識の流れ」とは、どんな本なのでしょうか。

田池先生は、「意識の流れ」が出版されるに至った経緯を次のように述べておられます。

「セミナーを閉じるに当たって、私は私自身に問うてきた事柄を明らかにしながら、真実の世界、意識の流れを、はっきりと書き残しておきたいという思いが強くなってきました。そこで真実にいち早く目覚められた塩川香世さんに私の思いを伝えたところ、「はい」と二つ返事で引き受けてくださいました。彼女が、私に心を合わせながら書き綴ってくれたものが、2004 年発刊の『意識の流れ―アルバートとともに―』でした。」

要するに、塩川香世さんが、田池留吉の意識をチャネリングによってとらえ書き綴り、それを田池先生が監修し、これまでセミナーで語られてきた「意識の世界」の真実を 1 冊の本にまとめあげたものが「意識の流れ」という本なのです。

「意識の流れ」をはじめとする一連の本のつくり方について、田池先生ご自身が、「続 意識の流れ」の中で、「おことわり」と題して次のように述べておられます。

「2004年に「意識の流れ」という本が出版されて、はや3年の年月が経ちます。読んでいただいた人はお分かりだと思いますが、私、田池留吉 著となっていますが、実際に私自身がパソコンのキーを叩いて、出来上がった本ではありません。

では、ゴーストライターがいたのかと言えば、そういうものは存在しません。ある人の肉体を拝借した、つまり私に代わってパソコンのキーを叩いていただいたことは事実ですが、それは、私、田池留吉と心をひとつにして、私の意識の世界と同じ方向に思いを向けながらの作業の中で、出来上がっていった本なのです。

その作業は、チャネリングかと言えばそうでもあるし、しかし、ただ単なるチャネリングではないことを申し添えておきます。その手法を、今回も採用させていただきました。

また、ここで使われている言葉や文章表現は、平易であり、何も目新しいものはないというのも、前回と同様です。そして、言葉や文章表現よりも、そこから伝わってくる思い、意識、波動を、感じ取ってくださいというのも、然りです。」

このようにして「意識の流れ」という本が完成しましたが、この本について田池先生は、「これから学んでいく中で、これはどういうことだろうと疑問に思うようなことがあれば、人に訊くのでなく、この本に依ってください。この本は私の遺書のようなものです」と。

1985年1月、田池先生が初めての勉強会を開かれてから20年近くが経って、田池先生が伝えようとしてきた「意識の世界」の真実が1冊の本に凝縮されたのです。

「意識の流れ」出版によってセミナーの流れが変わります。2004年12月下呂セミナーでの田池先生の宣言

3. この本を読まれた人たちの反応

この本「意識の流れ」は、世間の常識とは真逆のことを語っています。

「人間は肉ではなく意識です」と。このため、肉的な成功や、肉的な幸福感、肉的な充足は、すべて偽りのものと捉えます。肉を自分だと思うところからくる、不平不満、競争意識、嫉妬心、恨み、争い等々、これらのマイナスの意識を人々は垂れ流し続けてきました。それが私たちの歴史だと言います。このマイナスの意識に被われ、私たちの世界は二進も三進もいかなくなっている、そのことに気付き、ハンドルを180度切る時期に来ている、そのために気付いた人から「自分の心」と向き合い、自分が作り出してきた闇と向かい合い、その闇を受け入れ癒していく、そのことこそが、私たちが生まれてきた目的だというのです。

出版流通に携わるものとして、この本が、果たして、今の世の中に受け入れられるものだろうか？ 世間の常識は、肉的な行き詰まりを解消するため、ひとかどの成功を収めるため、あるいは今の苦

しみから逃れるため、ノウハウ本や宗教書、あるいは麻薬のような一時の喜びに逃れるための様々な本があふれかえっています。

この中へ「意識の流れ」という本を流し込もうというのです。

確かに、爆発的なヒットは最初から考えていません。しかし、学びを共にする仲間の支援があったとはいえ、それでも1万部を超す本が売れたことになります。人文の分野での出版物は3000部売れたら成功と言われています。

こうして改訂版がすぐ発行され、2刷り3刷りと版を重ねていきました。

そんな中、一般の読者からの反応が出版社に寄せられたり、販売サイトに書き込まれたりするようになってきたのです。以下に、「意識の流れ」以降に発行された本への反応も含まれますが、その一部を紹介させていただきます。

◎ 10代の頃に出逢いたかった一冊です。生きる上、生きた後にも本質です。たまたま導かれるように塩川香世さんの本を古本屋で購入したのがきっかけでした。「宇宙の風」という本です。何度か周囲で話題にしてみましたが、あまり知られている作品ではないようですね。もっと多くの方が読むべき本だと思いますが……

◎ 自分の人生は、生前に自分自身で書いたシナリオだと聞いていたのでページをめくったときに「やっとお会いできましたね。シナリオ通りとはいえ嬉しいです」と書いてあり、とてもびっくりしました。

幼少時期からこの身体は本当の自分ではないと感じてきていたので、この本を読み進めていく内にいろんなことが紐解けてきて気づいたら涙が流れていました。

瞑想はまだうまくいきませんが、もしあなたが今世で、悩み苦しんでいるのでしたら是非この本を手にとって読んでみることをおすすめします。きっとなにか気づきがあると思います。

◎ 生まれて、成長して、結婚して、子供を育てて死んでいく、それが人生だろうか？

そんな疑問がずっとありました。なにかするために生まれてきたのではないだろうか？

その答えとなるべき本に出会えました。

◎ 平易な文章で書かれていて、字も大きめで読みやすいと思います。

しかし、内容は少々難しく、一度読んだだけでは分からないと思います。書かれていることを実践して、自分の心でだんだん分かってくる感じです。

だけど、今まで誰も教えてくれなかった本当のことを伝えてくれている本だと思います。

人間として生まれてきたならば、すべての人に、素直になって、

ぜひ、一度、読んでみてほしいと思います。

◎ 評価が高いので読んでみましたが、前世、来世、肉、アルバートなどの部分が難しかった。

その部分が多いので自分の中に得たものは少なかったが

・周り（身体、家族、周りの環境、人間関係）を通して心を見ることは、不都合なことかもしれないが自分を振り返り正しい道を進むことができる

・世間の荒波にもまれて成長するのではなく、自分の心を見られたとき成長する

この２つが心に残ったところです。

つまり、怒りとか、つらいとかの思いが出たとき、心を観察し、分析することで自分の考え方が偏(かたよ)っているか、こだわっているかなどに気付くことができ、このことで心が落ち着くことができるのかなと思いました。

また、むやみに大変なことをしても結局は心を見ていないと成長しないということで心を見ることが大事ということでしょう。

ここで「心」とは単に感情として受け取ったのですが、おそらく著者はもっと深い意味で書いてあるのだと思いますが、これ以上はよくわかりませんでした。

図書館にあったので読んでみました。

◎ 心の底にしまい込んだ思いが再浮上してきました。

◎ 子供の頃からよく意識の表面に上っては消え、上っては消えしてきた思いがあります。

自分はなぜ生まれてきたのか、死んだらどうなるのか、人生にはどんな隠された目的があるのか……？

今では、心の底に押し隠されてきたそんな思いが、この本を手にする事で、また、意識の表面に浮かび上がってきました。

答えにはまだ到達していませんが、自分の心を見つめていくこと、その中にすべての答えがあると、この本は伝えてくれています。

◎ 増補改訂版「意識の流れ」を読んで

少し前に、以前発売になっていた「意識の流れ―アルバートとともに―」の本を手に取り、帯(おび)に書かれた「真実の世界は、あなたの頭では分からない、あなたの心でしか分かりません」という一文を見た瞬間に、ふいに涙が溢(あふ)れ、胸がいっぱいになったことがありました。

その本の増補改訂版を読んで、以前の本と比べて、章立てになっていて読みやすくなり、更に未来の事についても加えられ、より一層、内容が深く、力強くなっていると感じました。

今まで生きてきた中で感じた数々の疑問に対しての答え、どう生きていけばいいのかということに対しての指針、真実の世界、

真実の私とは何かについて、一つ一つ丁寧（ていねい）に綴（つづ）られていました。うやむやにぼかされてきたそれらの答えが、はっきりと力強く示されていることを感じて、嬉しく思いました。
　本当の生き方を知らずに、ただ年月を過ごしてきた私に、本当の生き方を、本当の真実の世界を教えてくれる一冊に、こうしてまた出会える私は幸せです。この一冊、大切にしていこうと思います。ありがとうございました。

　というような感想が寄せられ、こんな反応に支えられ、終わるはずのセミナーが、本を読まれた方たちのためにということで、再び開催されるようになっていったのです。
　そのことに触れる前に、少し面白い方の反応をご紹介します。

　今、この「Taike Tomekichi part.3」を編集しているのは、2023年～2024年にかけてのことですが、この頃、生成AIというものが世界的に話題になってきました。生成AIとは、「ジェネレーティブAI(Generative AI)」とも呼ばれるAI(人工知能)の一種なのです。
　そして、面白い方と言ったのは、この生成AIのことなのです。この生成AIに「意識の流れ」を読ませ、この本が何を言おうとしているのかを書き出してもらいました。
　以下は、字数の制限があるため、いくつかに区切り、全文入力して得た結果です。

◎ 神にも仏にも宇宙のパワーにも、私達を救う力など全くありません。実は、そのことを、はっきりと伝えるのが、「意識の流れ」というものです。

◎ 私達はよく「心」は大切だとか、「心」豊かにとか口にしています。
　肉体が生きているのではなく、「心」が生きていると考えられないでしょうか。

◎ 肉のあなたは気付けなくても、あなたの中の意識達は本当に諸手（もろて）を挙（あ）げて喜んでいるのです。ただ、それを肉が自分だとする厚い壁が邪魔をして、今、まだあなたの心に届いていないだけなのです。

◎ 本当のあなた自身に出会うために、あなたは肉というものをお母さんからもらって生まれてくるのです。しかし、本当の自分自身を知っていくということは簡単なことではありません。
　あなたが過去より作ってきた、その真っ黒なあなた自身と出会っていくことから、本当の自分自身と出会う旅が始まるのです。
　何を成すために、あなたは今そこに存在しているのでしょうか。
　もう、こんな人生やめにしませんか。自分の人生は自分のために生きるのです。
　みんな人生の目的が分からずに、目先のことに心を奪（うば）われ、せっかくもらった肉の時間を無為に過ごしているのが現実です。

◎ 私とともに生きていきませんか。私とともに歩いてみませんか。

宗教、もしくは精神世界は、すべて肉が基準です。

あなたの心の中から、あなたに呼びかけている温もり、真実の声、それは本当のあなた自身です。それはどれだけ間違い続けても、許されて生かされていた、愛されてきた自分達であったという喜びです。 その事実が愛なのです。愛はひとつです。

帰ってきなさいと、いつまでも呼び続けています。

以上が、生成 AI に「意識の流れ」のデータを入力し、生成 AI がこの本の要点だと書きだしたものです。大したものだと思いますが、「次元移行」とか「天変地異」ということについては、文脈の中では、まるで無視されているかのようにカットされてしまいます。

このことは「心」でとらえるしかないのだと思いますが、そのことについては、最終章で、田池留吉の下で学んできた私たちが、これをどうとらえているかを紹介していくことにいたします。

少し横道にそれましたが、「意識の流れ」の出版によって、出版とセミナーがリンクしたかのように、これ以降、新たな学びのステージへと移ってまいります。

が、これについては、次章の「新たなセミナーの展開」の個所で触れさせていただき、まずは、「意識の流れ」以降に出版された本の内容について、この学びの中核となるような「本」を選びだし紹介させていただきたいと思います。

「ありがとう ― 意識の流れ姉妹編 ―」
（初版　2006 年 8 月 19 日／増補改訂版　2016 年 6 月 20 日）

「意識の流れ」の改訂版が出されたのが 2005 年 12 月、その翌年の春、田池先生から「意識の流れ」の姉妹編として、塩川香世さんが学びにつながってきた経緯や、その後の学びの流れを綴（つづ）った「ありがとう」を出版するという計画を聞かされました。

そして早くも 8 月には、「ありがとう―意識の流れ　姉妹編―」が上梓（じょうし）されるに至ったのです。

今にして思うと、田池先生が、この本「ありがとう」を出版するよう計画されたことによって、田池先生は、ご自身が亡くなられた後の学びの線路を敷きにかかられたように思います。

UTA の学びの画期となる 1 冊が、「意識の流れ」の本に加わったのです。

まずは、この本「ありがとう」の出版を計画された田池先生の思いを聞いてください。

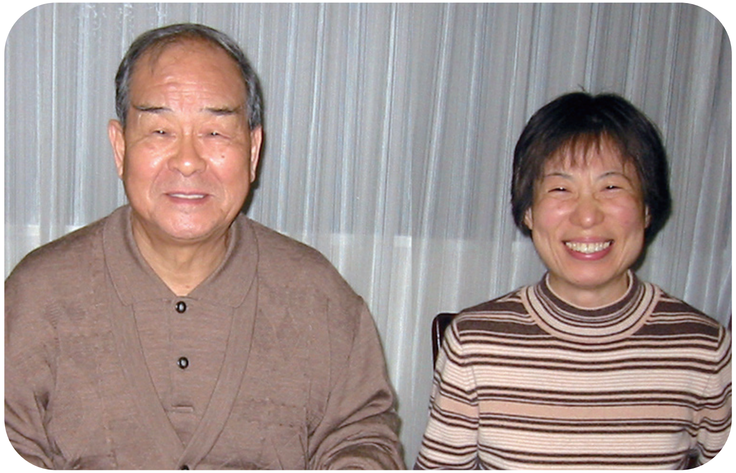
「ありがとう」増補

◇

「ありがとう」出版に寄せて

この本を手にされて如何（いかが）でしょうか。こうしてあなたと出会えて嬉しいです。

私は、「意識の流れ―アルバートとともに―」の著者の田池留吉です。



田池先生と塩川香世さん

「ありがとう」が「意識の流れ」の姉妹編として出版されたことを心から喜んでいます。

私は、約 20 年間、セミナーや著作を通して、「人間は肉ではなく、意識であって永遠に存在するものである」と、伝えてきました。「ありがとう」の著者、塩川香世さんは、正（まさ）にその証人（あかしびと）です。

私は、特に、次のようなことについて、その回答を求めている方に、是非一度読んでいただきたいと思います。

なぜ、生まれてきたのか。
自分は、いったい何者か。
死は恐怖か。死んだらどうなるのか。
なぜ、苦しみ悩むのか。
母親とは、自分にとってどんな存在か。
なぜ、人類は戦争を繰（く）り返すのか。

塩川香世さんは決して特別な人ではありません。今という時間の中で、真実の波動の世界と出会い、そして自分の世界が、肉から意識へのコペルニクス的転回の途上にあることを確信し、さらに一歩と、意識の世界の真実へと着実な歩みを続けている方だと思います。

私は、この方は喜びの波動を発信し続ける仲間だと思っています。本書からもその波動が伝わってくると思います。是非、一読してください。そして、心を見るという作業を積み重（かさ）ねていくことを始めてください。心を見ていけばどのようなことが分かってくるのか、またどのようにして心を見ていけばいいのか、本書の中で分かりやすく著述されています。

真実は、心でしか分かりません。頭では絶対に分かりません。

真実は、老若男女（ろうにゃくなんにょ）を問わず誰にでも分かるはずのものです。

真実を知らず、欲にまみれ、自分がそびえ立っていることさえ気付かずに、自分は素晴らしい、自分は正しい、自分は間違っていないとやっている人が、ごまんといるのが現状ではないでしょうか。

今がターニングポイントです。永遠の今を大切にしてください。そして、本当の自分自身と出会ってください。自分自身の本当の姿を知ってください。著者のように、「私の人生は幸せです」と胸を張っ

て自分自身に言えるようになってください。

どうぞ、「生まれてきてよかった、お母さんありがとう」「人生は喜びでした」「何よりも自分自身に出会えて嬉しい」「死も喜びでした」「ありがとう、本当にありがとうございました」と、自分の人生を全うしてください。

2006年8月　田池留吉

◇

続いて紹介するのは、著者である塩川香世さんが、「ありがとう」復刻（増補改訂）に際し書かれた一文です。

◇

このたび、絶版となっていた「ありがとう」が、10年の時を経て再び息を吹き返す運びとなりました。私は、初版（2006年）当時、そしてそこからもう少し遡って2000年辺りを、懐かしく思い起こすいい機会をいただき喜んでいます。

復刻版「ありがとう」発刊に際し、初版本を久々に手に取り読みました。

『私は、今、「私の人生は幸せです」と胸を張って言えます。自分自身に言えるのです。だから私は幸せだと思います。誰がいるからとか、何があるからではなくて、私は自分の存在そのものが嬉しいと、今本当に心から思っています。』という箇所があります。

この思いを、私は今日まで大切に自分の中で育んできました。20年余り前に、自分の心を見るという学びを始めた私が、最初に田池留吉という方に言われたことは、「あなたは、喜びが少ないですね」ということでした。そうでした。それまでの私は何でも当たり前として生きてきました。あって当たり前、してくれて当たり前だった私に、初対面の方にズバリ言われたその言葉は本当に衝撃的でした。

今思えば、田池留吉氏は真っ直ぐに「あなた、間違っていますよ」と限りない優しさと温もりで伝えてくれていたのでした。

その田池留吉氏との出会いからすでに、20年余りの歳月が流れました。学びは人生だと言われ、セミナーに心血を注いでくれた田池留吉氏も、去年2015年（平成27年）12月に90歳でその生涯を閉じられました。私は、1993年（平成5年）4月から宿泊を伴うセミナーに参加させていただき、波動の世界の真実を学ばせていただいてきましたが、まさにこれからが正念場だと思っています。「人間は肉ではなく、意識であって永遠に存在するものである」と伝えてくれて、セミナーにすべてを注いでくれた田池留吉氏の思いを熱く受け取っていこう、いかなければと心新たにしています。

田池留吉氏とともに学ばせていただいた真実の波動の世界です。その波動の世界を、田池留吉という肉がない状態でともに学ばせていただく喜びを私は今、心に感じています。肉こそそこにはありませんが、意識、波動、エネルギーとして確かに存在すると感じています。

久々に手に取り読み返した「ありがとう」は、私にとって学びの原点だと改めて思いました。愚かな肉まみれの私に、私の中の本当の私が、私の存在に気付きなさいとずっと待ち続けてくれていたんです。

心を見ること、心を中に向けることを知らなかった私だったから、私の中の本当の私は、田池留吉という肉を通して、肉を自分だと思っている愚かな私に伝えてくれていたんだということでした。「田池留吉氏の指し示す方向に、きちんとあなたの心を向けていきなさい」というメッセージを感じてきた20年余りの歳月を経（へ）て、今がどんなにすごい時なのかということ、今が本当に真実の世界と巡り合う千載一遇（せんざいいちぐう）のチャンスなのだということが、心にしっかりと響いてきます。「この道を真っ直（す）ぐに歩いてきなさい」と田池留吉の意識の世界から伝わってくる波動を心にしっかりと受け止め、着実な歩みを進めていくだけです。

先に申しました通り、2006年に書き上げた「ありがとう」は、私にとって学びの原点です。「ありがとう」復刻版発刊を機に、さらなる一歩をと思っています。

塩川香世さんとお母さんの静香さん

「母なる宇宙とともに」
（初版　①2007年3月15日
②2007年4月13日
新版　2013年4月20日
増補改訂版　2017年12月15日）

「ありがとう」が発行された半年後の2007年3月、この「母なる宇宙とともに」が発行されました。

著者塩川さんの希望で、手軽に読めるよう、厚手の本でなくページ数を減らしたコンパクトなスタイルで2分冊となりました。

確かに「I」が156ページ、「II」が121ページと、1冊の分量はお手軽に読めるスタイルだったのですが、内容のほうは、この学びの到達点ともいうべき「母なる宇宙」。つまりは、意識の誕生したところであり、意識の帰るべきところ＝「愛」に、心を向けよう、向き合いましょうという、とても気楽に読める本ではありませんでした。

学んでいる方の多くが「宇宙はピンとこない」「宇宙に向けるのが怖い」等々おっしゃっていた頃であり、そこへいきなり「愛」という直球が投げ込まれたのです。

まともにボールを受け止めた方もおられるとは思うのですが、多

くの方がボールを逸らし、球が飛んできたこと自体、気づかなかった方が多かったと思います。

かくいう私もその一人でした。

そういう意味からも、田池先生、ご存命中の2013年4月に「Ⅰ、Ⅱ」を合本した新版が出されのだと思います。

この本と向き合う準備が、誰がというのでなく、強いて言えば学びに集う意識集団とでもいうのでしょうか、この時期の後半にかけて育まれていったように感じます。

では次に、この本を合本し、新版「母なる宇宙とともに」を発行するにあたって、塩川香世さんの書かれた思いを紹介させていただきます。

「母なる宇宙とともに」

◇

合本作業を終えて

（略）自分の中の本当の愛と表現しましたが、特に私達はこの愛について、大きな過ちを繰り返してきました。愛というものが分からなかったんです。「愛のエネルギーは自分達の中にある」「自分達が愛そのもの」「私達の宇宙は愛そのものだったにもかかわらず、その愛を捨てた。捨てて全く別物の愛を愛だと信じてきた」ことを、私は、本書で、やはり書き記すべきだと思いました。「母なる宇宙へともに帰ろう」とは、私達のふるさと、「愛」にともに帰ろうということなんです。

確かに、私達人類の歴史をひも解いていけば、これまでに愛を説く人、愛の人と多くの人達から讃えられてきた軌跡が、随所に残されていると思います。歴史上の記述では確かにそうなっているでしょう。

では、そこで説かれた愛とは一体どんなエネルギーなのでしょうか。どんな波動なのでしょうか。愛の人と称される人から流れてくるエネルギー、波動はどうなのでしょうか。

有限の世界に生きる人間達にとって、エネルギーであるとか、波動であるとか、そういうことはどうでもいいことなのかもしれません。

そこで語られる文言、施される様子を見て聞いて、それで納得するのでしょう。

そして、真偽のほどはどうであれ、こういうことですと、一度、学校かどこかで教えられたら、それが後世までずっと言い伝えられていることも多々あると思います。

そして、私達は、まことしやかに伝えられたものを、そのまま鵜呑みにしているだけかもしれません。

これまで、誰ひとりとして、そこから流れてくるエネルギーとか、波動というものを判断の基準にしてきませんでした。

しかし、私達人間を含め、すべては意識の世界にあります。私達人間の本当の姿は目に見えないものなんです。だから、すべてはそこを基盤にしなくてはなりません。

目に見えない意識の世界が本物の世界だとする基盤から、物事

を見て、物事を判断していかなければ辻褄が合わないんです。

つまり、語る文言、施す表情、仕草よりも、そこから流れてくる波動、エネルギーが問題なわけです。

さらに、それが自分の心で、プラスかマイナスか、きちんと見分けがつく、この点が非常に大切なことなんです。

波動、エネルギーがプラスかマイナスか、その一点がとても大切なことだと、私達は、今世、田池留吉氏を通して、具体的に学ばせていただきました。

自分というものを全く知らずに、そして、自分というものを全く取り違えてきた私達人間のこれから先の時間は、それを自分達の中で気付いて修正していく方向に流れていきますので、当然のことながら、その気付きと修正を促していく現象が、次から次へ起こってきます。

しかもその規模は、増大の一途を辿ります。

母なる宇宙へ帰る道筋をしっかりと歩いていきましょう。この道筋にしっかりとあなたの軌道を乗せていってください。

（中略）

私達は母なる宇宙へ帰る意識です。母なる宇宙へ帰ると固く、固く約束してきた意識の集団です。

しかし、私達は特別な集団ではありません。このような集団は、今、私達のように肉という形を持っていない意識達の中にも、もちろんあります。

地球上に今現実に肉を持っている意識達、これからの転生の時間の中で肉を持ってくる意識達、その意識達も、もちろん、母なる宇宙へ帰ることを約束してきた意識達です。

その意識達を、どのように本来のこの母なる宇宙とともにの道筋へいざなっていくか、それは 250 年、300 年の地球上を含む宇宙空間に展開される天変地異の現象に、そのすべてが関わっていきます。

この現象を通して、今はまだ真実から遠く、遠く離れている意識達にも、必ず大きな、大きな衝撃が待ち受けています。

「私達は母なる宇宙へ帰るんだ、帰るんだ」、その叫びがどなたの心の中にも起こってくるんです。

私達はこうして地球上に肉体を持っています。しかし、肉体を持たない意識達がこの宇宙空間にどれだけ存在しているか、あなたはご存じですか。どうぞ、あなたの中に交信してくる宇宙、意識達に思いを向けられるあなたであってください。

それらは決して、あなたを脅かしたり、不安に思わせたり、狂わせたりはしません。

それらは、あなたの中で苦しみ、悩み、そして暗い、暗い、本当に泣き叫んでいる意識達です。

そうです、それはあなた自身でもあるんです。自分の帰るところ

が分からず、自分というものを知らずに宇宙空間に彷徨（さまよ）っている意識達です。

その意識達に心を向けて、ともに帰ろうとしっかりと伝えていってください。

心で感じた優しさ、温もりで、「母の温もりの中に私達は帰れるんだよ」「母なる宇宙へ帰れるんだよ」、そう優しく、優しく伝えてあげることが、今のあなた方の役目なんです。

どうぞ、そのように心で学ばれた方からまず始めてください。

◇

愛については、これまでの学びの中でも取り上げられて来ましたが、ここに至って、急速に「愛」ということに焦点（しょうてん）が絞り込まれてきた感があります。

「意識の流れ」に提示された250年～300年に至る天変地異、そして、その先に来る次元移行の流れ。それさえも超えた究極の到達点、それが「母なる宇宙」であり「愛」だと示され、そこへ至る「意識の流れ」が、この頃から次第（しだい）にハッキリとしてきたのです。

こう書いてしまうと「意識の流れ」って「時の流れ」のように感じられるかも知れませんが、その面もあるかも知れませんが、それ以上に「時系列」を超えた流れでもあるようです。

こうして、究極の「愛」が浮かび上がってくる中で、「あなたは愛です」というセミナーが開かれ、「愛　あなたは愛です」「愛、心のふるさと」の本が誕生してくるに至りました。

「愛　あなたは愛です」（2013年12月10日発行）

図書「あなたは愛です」

2013年7月27日～29日、同年の8月31日～9月2日、と2泊3日、2回にわたって橿原ロイヤルホテルで「あなたは愛ですセミナー」が開催され、その2回のセミナーの記録が、同年9月「体験文集　あなたは愛です」という冊子となって発行されました。

「愛」が大きくクローズアップされてきた訳ですが、同じくその年の12月に、一般の読者を対象とした「愛　あなたは愛です」が発行されるに至ったのです。

著者の塩川香世さんは、その「愛」について次のように分かりやすく記（しる）されています。

◇

私達人間は、自分の本当の姿を知りません。

私達人間は、今、目に見える肉体という形を指して、それが自分達だと思い込んでいます。その思いは非常に強いです。（この思いを、本書では「肉」と表現しています。）

今現在、世界人口、何十億の人達の殆（ほとん）どが、この肉の思いの中で生きています。肉を自分だと思って生きています。

目に見える、そして耳に聞こえるといった五官でとらえる世界に生きていると思っている私達は、当然にその中で、何とか幸せに豊かに楽しく、そして喜びで生きていこうとしています。

しかし、本当は、私達には、何が幸せで、何が豊かで、何が喜びであるのか、分からないのではないでしょうか。

人生色々とか、十人十色とか言われているように、幸せや喜びの価値基準、人生観は確かに千差万別（せんさばんべつ）でしょう。

それに加え、愛とは何かということになってくれば、それはそう簡単に語れるものではないのかもしれません。

その通りです。愛は語ることなどできません。いいえ、本来は、愛は語るものではないんです。

もっとも、五官でとらえる世界の中では、愛は、古今東西（ここんとうざい）において、たくさん語られてきました。夫婦愛、家族愛、師弟（してい）愛等々、愛と名がつくものは世の中にたくさんあるのはご承知の通りです。

たくさん語られてきた愛の話、みんなが愛だと思ってきた愛の世界なんですが、では、結局、愛とはいったい何ですかということになれば、何か曖昧模糊（あいまいもこ）としていませんか。

そこで、少し前に戻ってください。

私は、「私達人間は、自分の本当の姿を知りません。」と記（しる）しました。

それは、言い換えれば、私達人間は、自分が愛であることを知りませんということなんです。

自分が愛？

それこそ、曖昧模糊、雲をつかむような訳が分からない話、現実離れした話かもしれません。というのも、あなたがこのことを頭でとらえようとしているからなんです。

本書は、本当の私から、本当のあなたへ語りかけていく内容となっています。難しい言葉は使っていませんが、その中身はあなたの頭では分かりません。どんなに頭脳明晰（ずのうめいせき）な人であってもダメです。

なぜならば、今、そこに肉体という形を持っているあなたは、本当のあなたではないからです。

あなたの頭のてっぺんからつま先まで、もちろんそれはあなたの肉体だから、あなた自身です。しかし、その肉体を指して、これが自分だと決めつけるのはちょっと待ってくださいということなんです。

私は、本書を通して、自分達の本当の姿を知らずにずっと存在してきた私達に、自分達の本質である愛は分かるはずはないではないですかと、問いかけていきます。

そして、私は、私達が愛と言ってきた、思ってきた愛や愛の世界は、実は、真実の愛でもなければ、真実の愛の世界でもなかったということ、真実の愛、愛の世界は、私達の外にあるのではなく、私達の中にあった、つまり、私達が愛そのものだったことを、心で知っていただきたいと思っています。

今、あなたの目の前にある形あるものは、そうです、確かにそこに存在しています。それはあなたのその肉体を含むすべての形あるものという意味です。

それはその通りなんですが、それでは、そこには、目に見えて、耳に聞こえて、手に取ってみることができるものがあるだけなんでしょうか。

「そうだ」と答える人もあるでしょう。しかし、私の答えは「いいえ」です。

さらに、私の答えは、「私達は、目に見えて、耳に聞こえる形のある世界に生きているのではない。」と続いていきます。

そして、「私達人間の本当の姿は、目に見えません。私達は意識、エネルギーとして永遠に存在しています。」「私達の本質は愛です。愛のエネルギー、パワーが私達なんです。」と続いていきます。

冒頭、「あなたは愛です。」というのは、

「愛は、エネルギー、パワー。しかも、プラスのエネルギー、パワー。プラスとは、喜びと温もり。よって、愛とは、喜びと温もりのプラスのエネルギー、パワーである。

そして、それが私達の本質である。いいえ、すべての本質は愛である。」ということを、コンパクトに表現したものです。

愛のエネルギー、パワーとして永遠に存在しているのが、実は本当のあなた、本当の私達なんです。

つまり、本当のあなたに、本当の私達に目覚めていきましょうというのが、本書のテーマです。そして、そのテーマは、言うまでもなく、私達の人生のたった一つの目的なんです。

◇

この本でもう一つ大きくクローズアップされてきたものがあります。それが「波動」であり「異語」というものです。

引用文の中に、「愛は語ることなどできません。いいえ、本来は、愛は語るものではないんです」とあります。

言葉というものは物質世界のことを語るには便利な伝達手段ですが、「意識の世界」を伝えるということになると、便利どころか誤解のもとになる代物（しろもの）です。

そこで出てくるものが「波動」であり「異語」ということになってきます。

波動について、田池先生は2000年6月に発行されたパンフレットの中で、「波動は言葉ではありません。波動は意識です。あなたが出している思いそのものです」と述べておられます。

また塩川香世さんは、2018年8月に出版された「Q＆A私たちは、なぜ、生まれてきたのでしょうか?」の中で、「どうしたら波動を感じられるでしょうか?」という質問に対し、次のように答えられています。

◇

「波動とはどういうものかを言葉で説明できません。しかし、波動はあなたの心で感じることができます。あなたの心を敏感にして、つまり、波動の世界、目に見えない波動は絶（た）えず流れているんだということを知って、あなた自身に、そして色々な現象等に、思いを向けてみてください。ただし、これは、自己責任のもとでやっ

てください。自分の中に母の温もりがあると知った状態で、色々なもの、色々なことを波動としてとらえてみてください。目に見える形ではなく、すべては波動を流していると感じられたならばいいのではないでしょうか。目に見える世界と目に見えない世界があるけれど、それはどういうことなのかと、自ずと思うようになってきます。

目に見える世界のみで生きてきた心を、変えていくきっかけになると思います。」

◇

そして、少し乱暴な言い方をすれば、その「波動」を頭を使わず、口から音として発したものが「異語」ということになるようです。

塩川香世さんは、この「愛　あなたは愛です」の中で、異語について次のように述べておられます。

◇

異語とは、たとえば日本語であるとか英語、中国語というようなものではありません。確かに口から音を発しますが、そこには、主語とか述語はありません。異語で伝えるものは波動です。エネルギーです。

私達は意識、エネルギーですから、異語を通して、すべての意識達と通じ合えるんです。

◇

また、「愛」に目覚めるため、「異語」を語る瞑想を継続していきましょうとも述べておられます。

◇

「私は愛です。」私は私に伝えています。

「あなたは愛です。」と伝えてくれている私に対して、私は、「ありがとう」と受けています。ただただ私は嬉しいんです。

私は愛だった。私は喜びと温もりの中にあったんだ。私はこうして、自分の中に伝えていけることができるんだ。

そのことを知ってとてもとても嬉しい。ただただ嬉しい。

この嬉しさは、私をさらに、自分の中に進めていく大きなパワーとなっていきます。喜びはパワーです。愛、本当の自分に目覚めた喜びは、パワーを発していきます。エネルギーを発信していきます。

愛のエネルギー（本当の自分）を発信していけることが喜びなんです。私の中のたくさんの私とともに、ともに歩いていけることが喜びです。

あなたも、「私は愛です。私は愛です。私は愛です。」と自分の中で言ってみてください。そして、愛を思い、瞑想をしていきましょう。

また、異語を出してください。異語で語る喜びを知ってください。自分と自分の中が、異語で通じ合っている喜びを知ってください。

異語で語る喜びを感じながら、瞑想を継続していきましょう。素直になって瞑想をしましょう。

愛へ愛へと意識は流れています／ The consciousness flows toward love

愛へ愛へと意識は流れています。間違っているもの、真っ暗闇の世界に光が届きます。形ある世界は、色々なところから崩れていきます。それでも肉を本物とする思いは、なかなか変えていけません。表面では何かしらの動きがあっても、根本的な間違いに気付くということには至りません。そうです。余程のことが起こってこない限りということでしょう。だから必然的に起こってくるのです。愛のエネルギーが仕事をします。それが意識の流れの計画です。

心の針を向けて合わせていくことを真剣にやっていきましょう。ひとつの肉を自分に用意してきた本当の意味を心から知って、喜びの肉を持つ時間としてください。

次元移行という意識の流れからのメッセージを心で受けてください。

ともに帰りましょう。母なる宇宙へ、私達のふるさとです。そこで私達は誕生しました。ふるさとへ帰るということは愛へ帰るということです。愛から出てきた私達。私達の中へ帰っていきましょう。

The consciousness flows toward love. The light reaches the wrong and dark world. The physical world ruins variously. However, the thoughts that think the physical world as true do not change. It does not come to realize the fundamental wrongness though it moves somewhat superficially. It is right. It does not happen unless in extreme circumstances. Hence it happens inevitably. The energy of love performs the tasks. It is the plan of flow of consciousness. Let us turn and tune the heart's pointer seriously. Please learn the true meaning to have provided physical being for you and have your joyful time with physical being.

Please accept in your heart the message from the flow of consciousness toward the dimensional migration.

Let us return together toward mother universe. It is our homeland. We were born there. Returning to homeland means returning to love. We have come out of love. Let us return to within us.

（UTA の輪の中でともに学ぼう　3333）

「愛、心のふるさと」（2014 年 12 月 10 日発行）

「愛　あなたは愛です」が発行されてちょうど 1 年後、「愛、心のふるさと」が発行されました。両書共に、「塩川香世 著／田池留吉 監修」となっており、実質的に田池先生存命中の最後の出版物が、この「愛、心のふるさと」になります。

ところで、「愛　あなたは愛です」では、私たちの本質が「愛」ということが強く前に押し出されていました。そして、この「愛、心のふるさと」では、タイトルが示すように、私たちが帰るべきところとしての「愛」が強く前に押し出されています。

どちらも結局は同じことなのですが、より強く私たちの目指すゴールが前面に出されてきたのだと思います。

◇

私達は愛から出てきて、愛へ帰っていきます。それが私達の本来の姿だったんです。本来の輪廻でした。

しかし、私達は、転生をするたびに、本来の輪廻から大きく外れていきました。

「愛。心のふるさと」

愛を捨てて、本来の自分を捨てて、私達は地獄の奥底に落ちていきました。

落ちて、落ちて、何度生まれ変わり死に変わりしても、その地獄から抜け出すことができなかったんです。

だから、「人生は苦だ」と、誰かが言いました。それを聞いた人が「そうだ」と、もっともらしく語り継いできたんです。

違うんです。人生は喜びだったんです。喜びしかなかったんです。

しかし、愛、自分のふるさと、本当の自分を捨て去った心には、「人生は喜びだ」という真の意味など分かるはずがありませんでした。

そんなことより、目先の栄華を自分に引き寄せることばかりに一生懸命でした。

人生の成功者、この世の成功者、それはいったい本当にあるのでしょうか。

偉人、賢人、愛の人として、歴史上、たくさんの人物名が列挙されています。

しかし、本当にその中に、真の偉人、賢人、愛の人が存在するのでしょうか。

自分の本当の姿を知って、自分の人生を喜びで生きてきた人など、全く皆無でした。

これが、田池留吉氏とともに学びを進めてきた結論です。

みんな、これまでこの地球上に転生してきた人達みんな、全部、全部、愛から出てきて、愛へ帰っていくことを心で知り得なかったんです。

だから、苦しみました。悩みました。悲しみました。嘆きました。

そして、どんなに栄耀栄華を極めた人生であっても、また真の道を究めようと鋭意努力し、煩悩を断ち、厳しい修行を自らに課しても、その肉体を離した瞬間、真っ暗闇の奥底に急降下していくんです。

自分の本当の姿を知らずに、死んだら終わりだ、人生一度切りだとしてきた人間の心の中は、本当に生きても地獄、死んでも地獄のまま。どこにも天国などありません。

「安らかに召されました」「成仏されました」。もう、そんな嘘っぱちなことは言わないようにしましょう。

天国など、どこにもないんです。成仏とはいったい何でしょうか。

本当の自分を捨て去った人間に、天国も成仏も何もありません。

あるのは、生きても地獄、死んでも地獄の闇黒の世界だけです。

しかし、世間一般には、こんなことは全く通用しません。

全く通用しない、訳が分からないことを語っているほうがどうかしているのではなくて、それほどまでに人間というものは、地に落ちてしまったということなんです。

私達人間は、なぜ生まれてきたのか、何をするために生まれてきたのか、自分とはいったいどんな存在なのか、自分は死んだらどうなるのか、そういうことを全く何も知らずに、ただその時、その時を生きてきただけのことです。

いいえ、私はその時、その時を、ただ生きてきたのではなくて、一生懸命に生きてきたとおっしゃる方もあるでしょう。

しかし、その時、その時を、一生懸命に生きることに終始して人生を終えていくだけでは、本当の人生を生きたことにはなりません。

本当の自分に出会うことのない人生は、闇黒の人生なんです。

どんなに外観を整え、立派に見せても、自分の本質である意識の世界は闇黒のままです。

自分自身が闇黒（あんこく）の世界に沈み込んでいるのに、世のため、人のためと、いかにも善人ぶったことは、もう、どこかで本当にジ・エンドにしなくてはなりません。
「本当に、世のため、人のために尽力（じんりょく）すると言うならば、まず自分の闇黒の世界をしっかりと知り、そこから自分を脱出させる方向に、全力を尽くすべきだ」と、大阪府南河内郡河南町大宝に住まいする一介の老人、田池留吉氏という人が誠心誠意伝えてくれて、時はすでに 30 年余を経（へ）て、今に至っています。

この世の常識、慣習、道徳、規律、規範等々で、自分の心を縛（しば）り付けて、金、神、権力だけを求め続ける哀（あわ）れな姿に成り果ててしまったのが、私達でしたというところから、まず出発しましょう。

それが、人間復活の道の第一歩だと私は思うんです。

人としての道を説（と）くならば、人間復活の道を真摯（しんし）に歩くべきだと私は提唱します。

では、人間復活の道とはどんな道なのでしょうか。

それは冒頭にあります。愛から出て愛に帰る道です。

その道を自分の中で見つけ、確立することが、本来の私達のするべきことでした。

どうでしょうか。

あなたは、自分の本当にするべきことをして、死んでいけるのでしょうか。

それとも、自分の本当にするべきことをしないで、また死んでいくのでしょうか。

あなたの周りを見てください。本当に幸せな人がいますか。

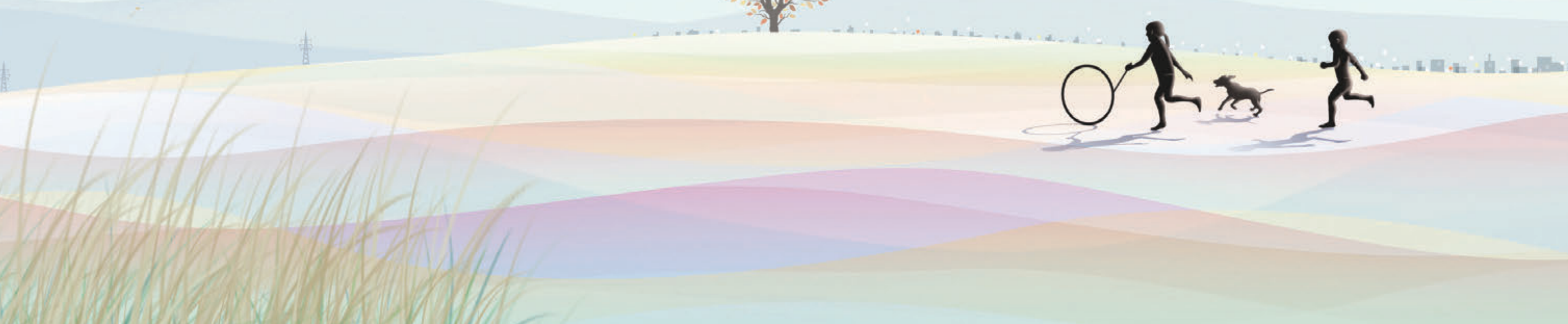
みんな顔で笑って、心で泣いているのではないでしょうか。

その自覚すらない人がごまんといます。

自分の心の叫びに耳を傾（かたむ）けることなく、あなたの今の時間を終えていっていいのでしょうか。

愛、心のふるさとに目覚め、そして、「人生は喜びでした」と心から知ってください。

自分の本当にするべきことをして死んでいくのが、真の偉人、賢人、愛の人です。



さて、前置きが長くなりましたが、ふるさとと言えば、大抵の人は生まれ故郷を思い浮かべます。

自分が生まれて育ったところ、あの山、あの川、懐かしい場所として、ふるさとを心に思い起こす人も多いでしょう。

懐かしい場所とともに、懐かしい顔も浮かんできます。お盆、お正月は、いつも帰省ラッシュのニュースが取り上げられ、飛行機、鉄道の混雑ぶり、車の渋滞ぶりが伝えられても、やはり、ふるさとでのんびり過ごしたいということでしょう。

そういうふるさともあります。

ええっ？ ふるさとって他にまだあるのですか。

そう、そうなんです。実は、そういうふるさともいいけれど、もっといいふるさとがあるんですよ。いいえ、私達にとっての本当のふるさとは、たった一つだということを知っていただきたいと思っています。

そこで、私は、ふるさとの替え歌を作ってみました。

ともに　ともに　帰ろう
遙か　彼方　ふるさと
愛は　今も　心に
思い出そう　約束

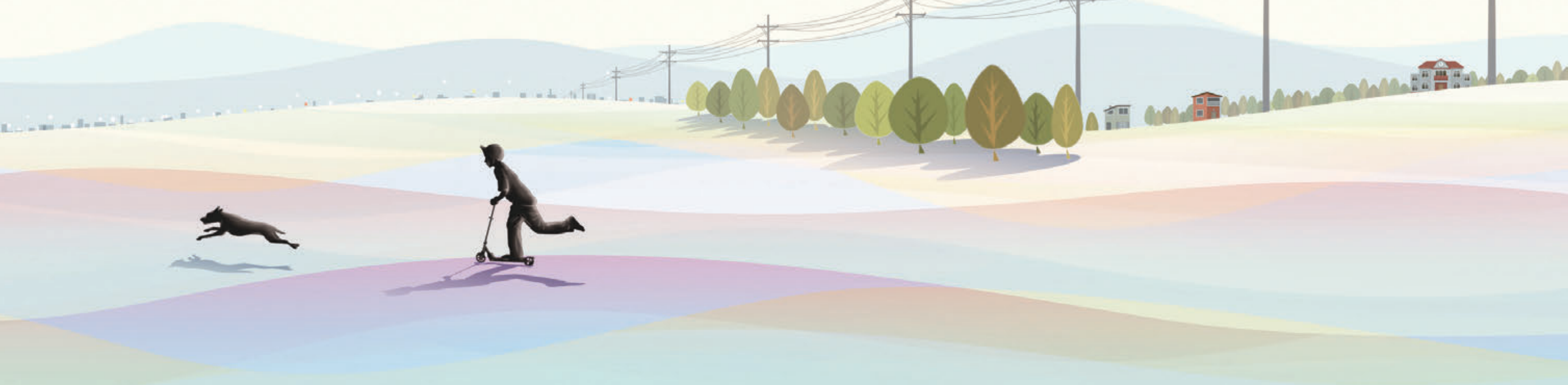
帰っておいで　我が家に
どんなときも　待ってる
ここが　君の　ふるさと
愛へ帰ろ　ふるさと

たった　ひとつ　真実
やっと　やっと　出会った
超えていこう　喜びで
とわに　ひとつ　我が友

愛へ　帰る　喜び
愛を　思う　喜び
心の　中に　喜びが
みんなひとつ　この道

皆さんもよく知っているあの「ふるさと」のメロディーで、この替え歌をぜひ、ぜひ、口ずさんでみてください。

口ずさみながら、もっといいふるさとって、いったいどこにあるのか、本当のふるさと、たった一つのふるさとって何？ と思ってみてください。



◇

先にも触れたのですが、2014 年 7 月の終わり近くになって「ふるさと」の歌詞が完成しました。

私たちの帰るべき場所が「故郷(ふるさと)」のメロディーにのって、新たな歌詞として誕生しました。原曲「故郷」が、私たちが帰るべき「愛」という到達点が示されたことで、「ふるさと」という懐かしくて壮大なイメージの「歌」として示されたのです。

塩川香世さんが作られた歌詞を Jennie Lai さんを含む 4 人の方々が英訳してくれました。英語圏に転生してくるだろう自分を想定して、ここに 4 人の方の訳を以下に掲げさせていただきます。

QR コードでアクセスいただければ、塩川香世さんが作詞された「ふるさと」を、子供たちの歌声で聞いていただけます。Jennie Lai さんの英訳の詞がついています。
また、「ふるさと」の歌詞は、2014 年 12 月に発行された「愛、心のふるさと」の見返し部分にカラーで紹介され、背景のイラスト及びブックデザインは、金子亙さんが担当されました。

Jさんの訳

1, Together with all in our hearts, let's go back
To our faraway hometown
Love still remains in our hearts
Let us remember our firm promise

2, Come home, to our hometown
Our mothers are always waiting for us
This is our hometown where we were born and raised
Let's return to love, our hometown

3, Gone far from the single truth for so long
At last, in the end, we have met it
Let us transcend dimensions with a joyful heart
We are one forever, dear friends

4, Joy in returning to love in our hearts
Joy in thinking of love in our hearts
Joy is overflowing in our hearts
All share this single path back to love

Mさんの訳

1. Let us return together, together
Far away homeland
Love is still in my heart
Let us remember the promise

2. Come back to our home
Anytime we are waiting
Here is your homeland
Let us return to love, our homeland

3. Only one truth
Finally we met
Let us go beyond with joy
Forever one, our friends

4. Joy returning to love
Joy thinking of love
Joy in our hearts
All one on this path

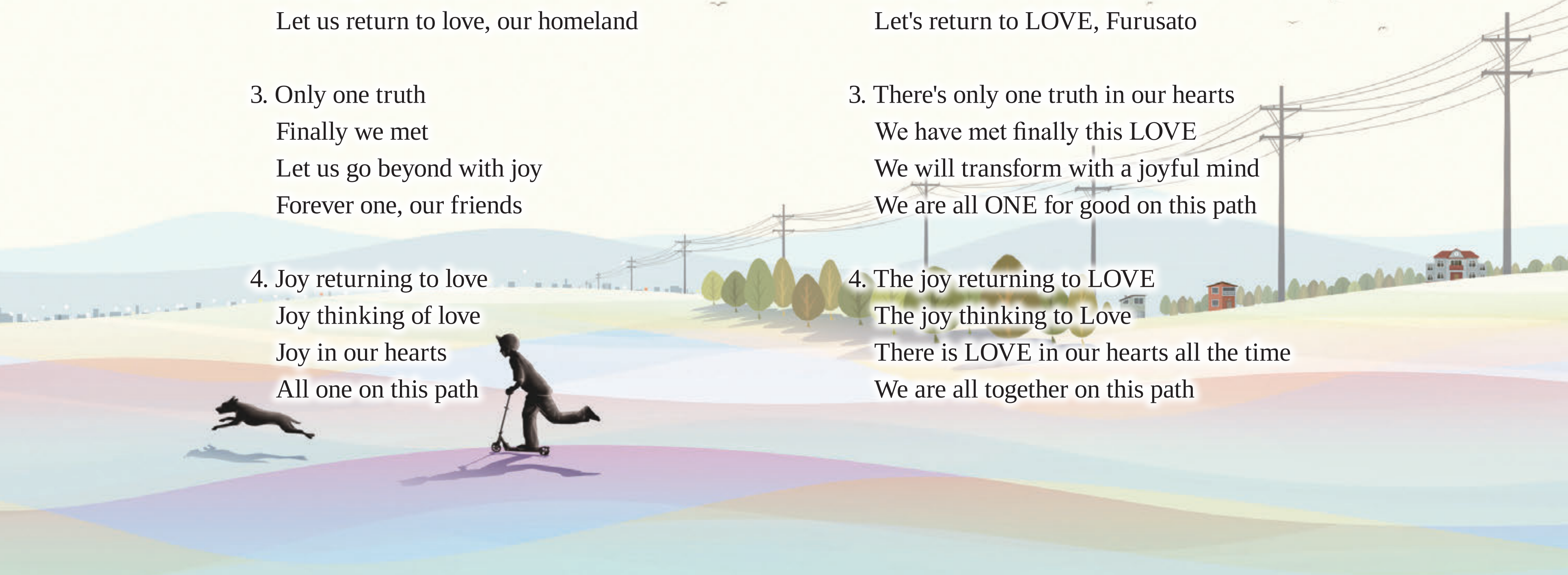
Lさんの訳

1. Together, together, we will return
Far away beyond our inner home
There is LOVE in our hearts all the time
Please recall the promise in your heart

2. Try to come back to your home
We've been waiting for your coming home
This is your true home, Furusato
Let's return to LOVE, Furusato

3. There's only one truth in our hearts
We have met finally this LOVE
We will transform with a joyful mind
We are all ONE for good on this path

4. The joy returning to LOVE
The joy thinking to Love
There is LOVE in our hearts all the time
We are all together on this path



ふるさと

ともに　ともに　帰ろう
遥か　彼方　ふるさと
愛は　今も　心に
思い出そう　約束

帰っておいで　我が家に
どんなときも　待ってる
ここが　君の　ふるさと
愛へ帰ろ　ふるさと

たった　ひとつ　真実
やっと　やっと　出会った
超えていこう　喜びで
とわに　ひとつ　我が友

愛へ　帰る　喜び
愛を　思う　喜び
心の　中に　喜びが
みんなひとつ　この道

Together, let's go home together
Far away homeland
Love exists within the heart, as always
Remember your promise

Return to this place you belong
Anytime, always waiting
This is your homeland
Love is the way to your homeland

There is only one truth
Which we finally met
Going forward with joy
Eternally one, all as friends

The joy of returning to love
The joy of thinking about love
Joy within my heart
We are all one, one on this path

Translated byJennie Lai

「意識の転回」

Ver.1　2007年8月31日

Ver.2　2011年7月25日

Ver.3　2015年6月20日（愛、自分の中の自分）

「意識の転回」ner.3

時系列で出版物の紹介を始めたのですが、「母なる宇宙とともに」を紹介していると、その流れが、どうしても「愛　あなたは愛です」へつながってしまいます。流れを手繰っていくと、本当の「愛」の覚醒が到達点と感じられるのですが、その前に大前提として「意識の転回」が必要不可欠となってきます。

出版物としては、「母なる宇宙とともに」のあと、2007年8月に「意識の転回」が発行されており、紹介順序が逆になりますが、「意識の流れ」、そして、この章の最後に紹介します「続 意識の流れ—最後は瞑想です 正しい瞑想をしましょう」とともに、この学びの中核をなす出版物になります。

では、意識の転回とは、一体、どういうことを言うのでしょうか。

例によって、本文から、その答えを抜き出してみます。

◇

約30年前（※編者注 2015年の時点から）から、あるセミナーが開催されてきました。そして、そのセミナーのテーマは、次のような内容でした。

「私達人間の本当の姿は目に見えません。肉体という形は私達人間の本当の姿ではありません。私達は、意識、波動、エネルギーとして永遠に存在しています。」

このテーマをクリアするための絶対条件が、「意識の転回」ということなんです。

上記のカギカッコで括られた文章は、どなたも自分の頭では決して理解できない内容です。しかしながら、それは、どなたも自分の心で理解できるのです。心で理解する。頭ではなく、心で。ここが大きなポイントです。

そして、このテーマをクリアするため……とありますが、そもそもクリアする必要があるのかと言われるかもしれませんが、そうです、どなたもみんなクリアする必要があります。だから、私達は、今世もまた産まれてきたんです。産んでいただいたんです。自分の本当の姿を心で知るために産まれてきた、産んでいただいたということを、まず、心に留めておいてください。

ここでセミナー云々のところまで、話を戻します。大阪府南河内郡在住の現在御歳88歳の老人、田池留吉氏という人を中心に、このテーマについて、セミナーが主に日本各地で開催されてきて、30年余りの年月を経て今に至っています。

「意識の転回」という言葉は、そのセミナーで使われてきた言葉なんです。

セミナーの中で、「意識の転回」とはどういうことなのかということを、「コペルニクス的転回」を例にとって繰り返し説明があり

ました。

この「コペルニクス的転回」というのは、皆さんご存じだと思います。いわゆる天動説と地動説のお話です。そうです。太陽が地球の周りを回っているという考え方（天動説）と、地球が太陽の周りを回っているという考え方（地動説）のお話です。言うまでもなく両者は全く違います。

このように、「コペルニクス的転回」に例えられた「意識の転回」とは、考え方の根本を一180度変える、転回をすることだと思ってください。

根本を180度変えるということですから、それは、ただ単に考え方を変える、転回するというのでなくて、物の見方、考え方の土台を全く変えるということなんです。この土台というところがポイントなんです。土台を全く変えるということがポイントなんです。

そこで、物の見方、考え方の土台を全く変えるとはどういうことなのか、どうしていくことなのか、どうすればそれがスムーズに捗（はかど）っていくのかということを、これから語っていきたいと思います。

田池留吉氏は、セミナーの中で、「目に見えて、耳に聞こえて、手に触れることができる形ある世界がすべてだ。そこに人間の喜びと幸せがある」とする物の見方、考え方を天動説に見立てました。そして、「いや違う。そういう世界はいずれ消え去る世界であり、私達人間の本当の喜びと幸せは、そのような世界にはない」とする物の見方、考え方を地動説に見立て、私達人間は、この天動説から地動説への転回を自分の中で起こすために、生まれてくるんだと語りました。

「人間の本当の喜びも幸せも、そして、人間という存在そのものも、『意識の転回』なくして、絶対に分からない。」

これが学びの中心部分、結論です。

◇

「意識の転回」ver.3「愛、自分の中の自分」、冒頭部分から抜粋させていただきましたが、そこで語られているように、人間は肉体を持った自分こそが本当の自分だと思っています。これが今の私たちの世界の土台となっており大前提となっております。

それを、この「意識の転回」では、その土台が間違っていると言っているのです。どう違うのか、「肉を土台」、あるいは「物質を基盤とする世界」が土台ではなく、意識の世界が土台なのだと言っています。

そして、この土台を転換することを「意識の転回」と呼び、この「意識の転回」こそが、心を学んでいく上での中心部分であり、大前提だと結論付けています。

それを達成するために「正しい瞑想」が必要になり「続 意識の流れ—最後は瞑想です 正しい瞑想をしましょう」が出版されることになります。

こうして「意識の流れ」からはじまり「意識の転回」、「次元移行」を経て「愛」という「ふるさと」に至る流れを出版物の推移から大急ぎで見てきました。

このため紹介できなかった出版物が数多くあります。

UTA ブック出版物の中心となる塩川香世さんの著作物でも、塩川さんが、ご自身のテーマとされている「愛と死の真実」（初版 2008 年 4 月 15 日／増補改訂版 2017 年 4 月 10 日）。

週刊朝日に掲載された広告

そして、「株式会社かんぽう」から「UTA ブック」が独立して最初に版出された「あなた、このまま死んでいっていいのでしょうか?」（2009 年 5 月 30 日）、その半年後には「第二の人生―ラストチャンスです―」（2009 年 10 月 10 日）が発行されます。

どの本もそうなのですが、この 2 冊は、特に初心者というか、仕事仕事で人生を終えようとしている方を対象に出版されたもので、その意図から、この時期としては初めて「週刊朝日」に広告を出すに至りました。

その 1 年後には、「その人、田池留吉―田池留吉の世界―」（2010 年 10 月 10 日）が出され、翌年「その人、田池留吉 2―田池留吉の世界自然治癒力―」（2011 年 11 月 20 日）が、更に翌々年には「その人、田池留吉」シリーズの最終巻「磁場と反転―その人、田池留吉 3―」（2012 年 11 月 25 日）が出版され、記念セミナーが 2013 年 3 月 17 日～ 19 日まで琵琶湖グランドホテルで開催され、参加者は、今迄で最多の 800 名を越える盛況となりました。

このセミナーでは、「その人、田池留吉」のシリーズ 3 冊がセットとして再販されました。

このほか「宇宙の風―私達人間は、死んで終わりでしょうか―」（初版 2011 年 5 月 25 日／増補改訂版 2017 年 9 月 10 日）。

塩川香世さんの著作物以外は、ここでは紙面の関係もあり、紹介はできませんが、先の出版物一覧で掲載されている出版物については、ウェブサイトで全文を閲覧していただくことが可能です。

この項を閉じるにあたって、最後に忘れてはいけない 1 冊、「続 意識の流れ―最後は瞑想です 正しい瞑想をしましょう―」を紹介させていただきます。

書店用の案内チラシと「磁場と反転」3 冊セット本

「続意識の流れ―最後は瞑想です 正しい瞑想をしましょう」
（初版 2007 年 12 月 10 日／改訂版 2010 年 12 月 10 日
／ 増補改訂版 2016 年 12 月 10 日発行）

「続 意識の流れ」

本書が何を語ろうとしているのかは、「はじめに」のところに、田池先生ご本人が要約して語っておられます。

ここでは、まず、改訂版の発行時に語られた田池先生の思いを、ご自身の言葉で紹介し、続いて著者である塩川香世さんを通して語られる、田池留吉の思いを聞いてください。

◇

本書は、真実の世界をあなたの心で知っていくための手順を簡潔にまとめています。つまり、正しい瞑想をするにあたっての実践本です。

従って、まずは、『意識の流れ』をしっかりと読んでいただくことをお勧めします。その上で、私もやってみよう、真摯に真剣に自分の人生を振り返り、自分と向き合っていこうと思われたならば、本書に沿って、ご自身の実践をお願いしたいと思います。

私達の学びは実践あるのみです。自分自身の心の体験を通して、自分の心で分かってこなければならないのです。

また、心で分かるために、今のあなたがあり、あなたの人生があることを、私達はお伝えしています。（中略）

先に申し上げましたように、『意識の流れ』に、私が申し上げたいことは、すべて網羅しておりますが、今回は、「瞑想」という観点から、真実の世界をもう少し語ってみようと思い、このように『意識の流れ』の続編という形にさせていただきました。

本書の副題に、「最後は瞑想です」、そして、「正しい瞑想をしましょう」と付けさせていただきました。

私達は、自分の思いを伝えたり、考えを述べたりするときに、通常、言葉というものを使用します。以心伝心ということもありますが、伝達手段は、言語、言葉です。そして、それらにはそれぞれ万国共通の意味合いがあります。しかし、同じ言葉を用いても、その真の意味合いを、正しく伝達するには限界があって、言葉では表現できない場合があります。

例えば、愛であるとか、優しさとか温もりであるとか、幸せ、喜びであるとか、辞書で定義づけられているものと、私がお伝えしているそれらとは、全く異なるものであるとは言いませんが、真の意味合いは違うのです。

そのことをお分かりいただくには、ひとつひとつ手順を踏んでいかなければならないのです。そして、最後に行き着くところは、瞑想です。それも「正しい瞑想です」ということを伝えたいために、私は、ここに本書を記していこうとしています。

真実の世界が、心で感じられたならば、もう言葉は必要としないのです。そして、言葉を発しながら、実は、私達は波動を流し

ていることを感じてきます。その波動が明るいか暗いか、または荒い波動なのか、それとも柔らかいものなのか、そのような様々なことが、自分の心で感じられてくるのです。

優しい言葉や態度と裏腹なものを感じたり、その反対もあったりするのは、言葉や態度では、決して誤魔化せない何かがあるからではないでしょうか。

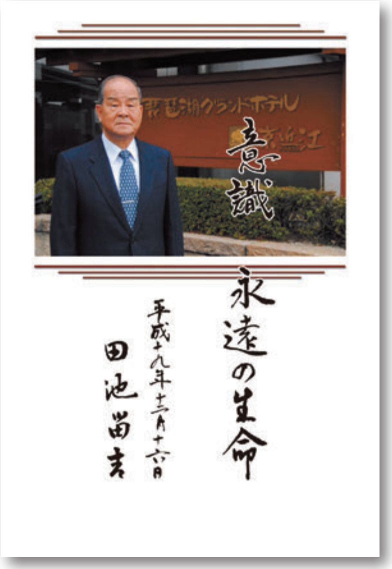
私は、その世界を、波動の世界と伝えてきました。

波動の世界とは、目に見えない世界のことですが、私はその世界が、実在することを伝えてきました。いいえ、目に見えない世界が本物の世界であって、目に見える世界は、その世界の影の世界であることを伝え続けてまいりました。

そして、目に見えない世界を、どのように知っていくのかということになれば、それは、「あなたの心で知っていってください。あなたの心でしか分からない世界です」ということも、重ねて申してきました。

本当の世界を心で知っていただくために、私は、セミナーを約20年間にわたり開催してきたのです。

そのセミナーのこと、そして、その様子の一端は、本文に掲載しておりますので、学びの推移および概略は、お分かりいただけるかと思います。



予約分と図書館寄贈分に入れられた
田池先生の写真と書です。

しかし、何よりも大切なことは、『意識の流れ』の本文に繰り返しあるように、「あなた自身の心を見る」ことに尽きるのです。そして、あなた自身を動かしているエネルギーの実体を知っていくことにあります。

そのことを知っていかなければ、なぜ生まれてきたのか、何をするために今があるのかということが、分からないのです。そのことが分からなければ、どのように生きていけばいいのか、そして、どのように死んでいけばいいのかも分からなくて、結局は、本当の人生にも、本当の喜び、幸せにも、本当の愛、優しさ、温もりにも出会えないということになります。

自分の心を見て、自分の出すエネルギーの実体を知って、さらに、正しい瞑想を通して真実を知っていく。それが本当の人生であると、私は確信しています。

私のこの思いを、「本当のことを知りたい」「人生とは何だろうか」と真剣に考えている人達に、本書を通して、真っ直ぐにお伝えすることができれば幸いだと思っています。

2010 年 11 月　田池 留吉

では、この項「出版物から見た学びの流れ」を終えるにあたって、先ほども申しましたように、塩川香世さんを通して語られる、つまりは「意識の世界」から語る田池留吉の思いを紹介させていただきます。

◇

今世、私と出会い、セミナーでともに学んでくださった私の大切な仲間達、そして、肉との出会いは残念ながらありませんでしたが、本を通して、あるいはホームページを通して、真実の世界を訪(おとず)れてくださった仲間達、本当にありがとうございます。

私の喜びは、この真実一路の道を、一人でも多くの人が、ただひたすらに歩んでいっていただきたい、歩んでいかれて、「先生、私達夫婦、親子、友達、みんなみんな今、幸せです」という思いを、あちらからこちらから感じさせていただくことに尽きるのです。

私は、みんなが幸せになる道を、一生懸命、誠心誠意、お伝えしてきたつもりです。言葉足(た)らずのところもありました。説明不足のところもありました。

しかし、私の思いは、ただ一点を指し示しているのです。

自然に、口調は厳しくなりますが、私には、他意はありません。昨日まで、全く反対の方向を向いていても、今日、たった今、私のお伝えしてきた方向に、一生懸命、自分に誠実に、自分が一番切望してきた方向に向こうとしてくだされば、私は、それでいいのです。

しかしながら、その方向を自分の中で定めるのは、決死の覚悟が要(い)ります。私は、「命懸(いのちが)け」でやってくださいと申してきました。簡単なように見えて、どうでしょうか。

また、ここで、セミナーについて言及させていただくことは恐縮ですが、皆さんとともに過ごさせていただいたセミナーは、私にとりましては喜びの時間と空間でした。本音を言いますと、私は死ぬまでセミナーをやり続けたい心境です。

皆さんの喜びの笑顔に出会うことが、私の喜びだからです。しかし、いつまでも、そうは言っておられません。

私は、セミナーを、文字通り命懸けで進めてまいりました。

また、セミナーを開催する以上は、元気で皆さんとともに学んでいきたいという思いで、やってまいりました。

私は、何とか分かってほしいという肉の思いで苦しむことはありませんでしたが、やはり難しいものなのだなあという、率直(そっちょく)な感想を持っています。

それはそうだと思います。何億年、それ以上の時間を経(へ)て、そして、数え切れない転生の中で付けてきた心の癖、他力の思いは、凄(すさ)まじいエネルギーとなって、それぞれの心に今もなお蓄(たくわ)えられています。

わずかの年数で、それが見事に変貌(へんぼう)するとは思っていません。今世には、今世の意味があります。そして、タイムリミットの 300 年には 300 年の意味があります。どうぞ、それぞれのプログラムに忠実に、この流れと合流されることを、それぞれが心に刻(きざ)んで、

これからの時間を使っていってください。

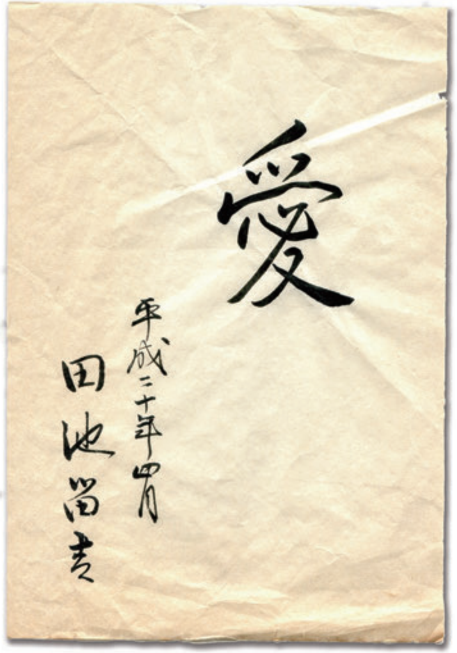
幸いなことに、UTA ブックさんから本が出版されたことによって、新しく学びの仲間に加わった人達を対象にしたセミナーも、開催させていただきました。

その人達には、充分にとは行きませんが、一応、学びの趣旨（しゅし）およびその方向を感じていただいたと思っています。あとは、しっかりと本を読んで、日々の実践を通して学んでいっていただきたいと思います。

自分を変えていこう、自分を本当に見つめ直していこうと心から思ったなら、その思いは、必ず形となって現れてきます。その形を通して、自分の心から出てくる思いを、どうぞ、真摯（しんし）に受け止めていってください。どのような思いも、大歓迎です。間違って存在してきた自分が、堰（せき）を切ったように出てくるのは、大きな喜びなのです。

こんな自分もあった。あんな自分もあった。喜びで大きく手を広げて迎え入れてあげてください。

私は、今現在、肉も意識も、幸せの中にあります。いつ死んでもいいと思っています。私にとって、生も死もすべてが喜びなのです。



塩川香世さんのお母さん静香さんから図書館への寄贈追加分として増刷費用の寄贈を頂きましたが、そのための増刷分には、この「愛」の文字を入れさせていただきました。

私は、本当の私を知っています。本当の私が、田池留吉というひとつの肉を持ってきたのです。名前など何でもよかったのです。ただ、私が肉を持つことに大きな意味があったことを、私は伝えます。

肉の次元からは、私というものを分かることはできません。私の言っている内容の本筋を理解するには、私と同じ場に立たなければならないでしょう。しかし、今世は、意識の目覚めをいただき、私達は、もちろん、すでに幸せの道を、一歩、一歩、歩んでいる次第（しだい）です。

私が、亡くなってからでもいいのです。「先生、ありがとうございました。私は、私達は、今ようやく幸せの道を歩き始めたところです。これから、焦（あせ）らずにたゆまずに、そして、自分に誠実に、一歩、一歩、歩き続けます」と、心の底から言えるようになっていただければと、思っています。

私の本質は喜びです。また、田池留吉という肉も最高に幸せ者であると思っています。幸せの道を歩む仲間の輪が広がっていけば、これに勝（まさ）るものはありません。どうぞ、あなた自身、幸せなあなたと出会っていってください。

読者投稿「私にとって特別な出版物」／後藤糸恵

「その人、田池留吉 II」―田池留吉の世界「自然治癒力」―
について書かせていただこうと思います。

なぜ特別かというと、この本の音読 CD の朗読をさせていただいたからです。

最初、音読 CD は目の見えない人のための朗読のプロの方に依頼して読んでいただいていました。そのうち（経費節約の為？）声優の卵の方に読んでいただいたようです。

次に「学びの本は学びをしている人に読んでもらいたい」ということで、誰かいないか探している、という話を聞きました。著者に読んでもらうのが一番いいのでは？ と言ってみましたが「塩川さんにとてもそんなこと頼めない」というのが当時の感覚でした。

ちょうど数カ月間仕事がない時期だったので、私が読んでみようかな、と思って田池先生に相談したら、制作側がいいと言ったらいいのでは、と言われたので、手を挙げて読むことになりました。

1ヶ月程の準備期間の後、2日かけて録音しました。準備期間の間は毎日1回音読して練習しました。プロではないけど、出来るだけ聞きやすいように、分かりやすいように、自分なりに心がけて読ませていただきました。本当は波動なんだろうな、と思いながら。

その後、ジェニー・ライさんが自身の出版した本を朗読されて、いよいよ真打登場ではないですが、塩川さん本人が著書を朗読される流れになりました。

塩川さんが読んでくださるのが一番いい、と思いますが、一足飛びにそこには行けなかったのも事実です。その流れはまるでガチガチのアマテラスが緩んでいく流れのようだと思いました。

田池先生が講話で「肥やし」の話をしてくれたのが心に響き、残っています。簡単に言えば、「肥やし（= 練習台・踏み台・捨て石）」で損、ではなく「肥やし」で幸せ、という内容だったと思いますが、私の過去の心癖とその転換を促してくれた話でした。

本の朗読もそのことを思わせる体験でした。何度も読んだことがどれほど身になっているか未だに不明ですが、いい体験だったと思います。大阪での録音だったので、大宝の鈴木さん宅に泊めていただきました。収録の時はお弁当を持たせてくださいました。本当にお世話になりました。嬉しかったです。ありがとうございました。

この時期に制作された音訳 CD part.1

（2006 年 12 月～ 2010 年 7 月　社会福祉法人 日本ライトハウス制作分）

「ありがとう」
／ 2006 年 12 月
／日本ライトハウス制作

「意識の流れ 改訂版」
／ 2007 年 2 月
／日本ライトハウス制作

「母なる宇宙とともに　1・2」
／ 2007 年 6 月
／日本ライトハウス制作

「意識の転回」「時を超えて伝えたいこと」「母親のぬくもり」2007 年 11 月／日本ライトハウス制作

「続　意識の流れ」「幸せへの道が開かれて」 ／ 2008 年 3 月
／日本ライトハウス制作

「愛と死の真実」「家族の風景」
／ 2008 年 6 月
／日本ライトハウス制作

「あなた、このまま死んでいっていいのでしょうか」 ／ 2009 年 9 月／日本ライトハウス制作

「第二の人生―ラストチャンスです―」 ／ 2009 年 11 月
／日本ライトハウス制作

「意識の流れ 増補改訂版」
／ 2010 年 7 月
／日本ライトハウス制作

この時期に制作された音訳 CD part.2

（2010 年 11 月～ 2015 年 7 月　UTA ブック制作分）

「その人、田池留吉」／合成音による朗読／ 2010 年 11 月／ UTA ブック制作

「宇宙の風」「嫁と姑の確執」／西前忠久さんのスタッフによる朗読／ 2010 年 11 月／ UTA ブック制作

「その人、田池留吉 2」「さびしい子供たち」／西前忠久さんのスタッフによる朗読／ 2012 年 4 月／ UTA ブック制作

「磁場と反転　その人、田池留吉 3」／塩川香世さん朗読／ 2013 年 1 月／ UTA ブック制作

「母なる宇宙とともに」「小冊子 UTA の輪」／塩川香世さん朗読／ 2013 年 6 月／ UTA ブック制作

「意識の転回 ver.2」／塩川香世さん朗読／ 2013 年 1 月／ UTA ブック制作

「愛、心のふるさと」／塩川香世さん朗読／ 2015 年 1 月／ UTA ブック制作

「あなたは愛です」／塩川香世さん朗読／ 2015 年 4 月／ UTA ブック制作

「愛、自分の中の自分 意識の転回 ver.3」／塩川香世さん朗読／ 2015 年 4 月／ UTA ブック制作

音訳出版から波動を伝える出版へ

ここで「音訳」という聞きなれない言葉が出てきました。「音」に訳すと書くわけですが、では「朗読」とは違うのでしょうか？

そこで盲人文化情報センターの担当者の方にお聞きしたことがあります。というのは、「意識の流れ」が発行されて、視覚障害者あるいは、お歳で本を読むのが困難という方に読んでもらうにはどうしたらいいだろうと考えたことがあります。

当時、僕は、官報に勤めており、この本の流通および発行をお手伝いすることになるのですが、僕が務める「肥後橋官報ビル」のすぐ目の前が「盲人文化情報センター（日本ライトハウス）」だったのです。

担当者曰く「朗読が『自己表現の手段』であり、『主として文学を感情豊かに読む』ことに対して、音訳は『音訳者の主観を入れることなく、書いてあることをできるだけ忠実に音声化する』ことが原則です。利用者の求めに応じてあらゆる分野の情報（図・表・写真なども含む）を伝えることが求められます。誤読が許されないのはもちろん、音訳者の勝手な解釈で原本を読み替えたり余分なことを付け加えたりすることはできません。『上手に読む』ことではなく、『正しく伝える』『正しく伝わる』ことが大事なのです」ということでした。

仕事でも付き合いがあり、ここで音訳を頼めば、全国の視覚障害者施設に自動的に寄贈発送してもらえます。

こうして新刊が出る都度、日本ライトハウスさんの音訳スタッフの方々の手をお借りして、紙ベースの出版と並行して音訳出版が行われるようになりました。

その第一弾が、2006 年 12 月に完成した「ありがとう」です。続いて「意識の流れ」へと戻り、「母なる宇宙とともに」以降は、新刊が出る都度、音訳がなされ、2010 年 7 月の「意識の流れ 改訂版」まで、4 年間に 9 種類 14 タイトルの音訳事業を行い、全国にある盲人情報施設 100 館を選んで寄贈を実施していました。

そのうち欲が出てきて、自分たちで音訳作業ができないかと、テスト的に富士通さんから「音声合成ツール」をレンタルし、これを使って 2010 年 11 月、電子音声版の「その人、田池留吉」の音訳を完成させました。

しかし、これが大仕事です。発音を単語ごとにチェックしてイントネーションを修正していきます。システムのレンタル期間は一カ月単位なので、一カ月というもの、この作業にかかりっきり。

これに懲りたというか、やっぱり「人間の声がいいなあ」と、学びの仲間で、ご自身も声優をし、声優志望者の指導もされている西前忠久さんに相談を持ち掛けました。

左ページに CD のレーベルの写真が上がっていますが、この流れが、そのまま、音訳から朗読へ、そして音を通して、情報を伝

「意識の転回」の録音風景（京都エクシブ）

えることから「波動を伝える」流れに移行していっているのが分かってもらえると思います。

一番目が、いま述べた電子合成音でつくられた「その人、田池留吉―田池留吉の世界―」。

２番目、３番目が、西前忠久さんが、彼のスタッフを使って作成してくれた「宇宙の風」「嫁と姑の確執」「その人、田池留吉２―自然治癒力―」「さびしい子供たち」の４タイトルとなります。

これが2010年11月から2012年４月までの１年半のことです。この間、この音訳作業に従事してくれた声優さんの卵に交じって、学びの仲間の一人、後藤糸恵さんが入っていました。

彼女の体験は、先に紹介した読者投稿「私にとって特別な出版物」に書かれていますが、この時点で、「波動を伝える」あるいは「波動が伝わる」ということが表面に上がってきます。

学びに集う人が音訳してくれるのがベターですが、それ以上に、著者である塩川香世さんに読んでもらうのがベストとなってきます。こうしてできたものが、2013年１月に完成した「磁場と反転―その人、田池留吉３―」となる訳です。

「その人、田池留吉」のシリーズは、１～３まで３巻が出ていますが、１は合成音、２は学びの仲間が読んでくれたもの、３は著者・塩川香世さんが読んでくれたものとなり、この間の流れが、このシリーズに集約されて面白く感じました。

さて、塩川香世さんが朗読されるようになって、当初はスタジオもないものですから、田池先生ご夫妻、塩川香世さん、スタッフ等々が、静かなホテルに泊まりこみ、外の音に気をつかいながら録音したものです。

なかでも、「愛、心のふるさと」の録音は忘れられません。三重県の霧生温泉・メナード青山でおこなわれ、山の中ということで、車の音等の騒音を気にすることもなく順調に録音作業ははかどりました。

2013年１月14日、すべての作業を終え、帰りの日となった朝。起きてみると外は雪に覆われています。

さあ大変、まさかこんな大雪になるとは……。

結果、塩川香世さんとお母さんの静香さんは、一足先にホテル

録音を終了して帰る日の朝

雪に覆われたホテルの駐車場

雪で立ち往生するホテルの送迎バス

の送迎バスで最寄り駅を目指します。

田池先生ご夫妻と、田池先生に付き添って来ていた中島一二さんご夫妻は、田池先生を車に乗せ雪道を出発、大阪を目指します。

僕（桐生）たち夫婦は、車をホテルに預け、ホテルの送迎バス2便目に乗り込み最寄り駅を目指します。

ところが、送迎バスの通り道が倒木で通行止めとなり、倒木の処理が終わるまで通行止め。

大阪へ帰りついたのは、もう夜になっていました。

田池先生を乗せた中島さんの車も、かなり遅くなりましたが、無事大阪へ到着。

逸早くホテルの送迎バスで出発した塩川香世さん親子だけが、ほとんど雪の影響を受けなかったということでした。

これ以降、ホテルに泊まり込んでの録音作業はなくなりました。

それは、この日の苦い体験のことばかりでなく、私たちが住む大宝の町に、録音設備も兼ね備えた「クボホール」が完成したからでもあります。

その第一作が「あなたは愛です」の録音作業で、この時は、録音の合間に、塩川香世さんと瞑想したり、異語の練習をしたりと、録音CD自体も、著者塩川香世さんの思いや、瞑想時間があったりと、音訳CDではなく、波動訳CDが完成したのです。

世界中、どこを探してもない「波動訳CD」の誕生です。

この後、「愛、自分の中の自分―意識の転回 ver.3―」の制作で、図書館への寄贈を前提としたCDの作製事業は終了し、以降はポッドキャスト等のインターネットを利用した音声配信に切り替わっていきます。

６．本当の喜びと幸せを、その心で知っていってください。

自分が望むものを手中に収（おさ）められれば、確かに嬉しいし、幸せでしょう。望みが叶（かな）えられれば、これもまた大満足でしょう。

アルバートを知る前なら、それは私もそうだろうと頷（うなず）きます。確かに瞬間的に感じる嬉しさも満足感も否定しません。しかし、それらの思いは同時に欲の思いを膨らませていきます。瞬間的に感じて瞬間的に消えていくものだから、もう一度、もっともっととなっていきます。もうお分かりだと思いますが、それは苦しみに繋（つな）がっていきます。

もう一度、もっともっとと思う思いは苦しみです。

思いが叶えば、さらにその思いが膨らんでいき、満足感はすぐに不満に変わっていくし、叶わなければ、呪（のろ）いと恨（うら）みに変わっていくからです。

アルバートの世界には、もう一度とか、もっともっとがありません。アルバートの世界は喜びだけだからです。もう一度と思わなくても、もっともっとと思わなくても、喜びだけです。すべてが喜びの世界だから、そういう思いが湧（わ）いて出てこないということです。

もう一度アルバートを感じたいとか、もっともっとアルバートを感じたいとか、そうではなく、ただアルバートを感じて幸せです、喜びですの思いだけが心を埋め尽くしていくのです。

6. Please come to know true joy and happiness with your heart.

Obtaining what you desire is certainly joyful and satisfying. When your desires are realized, it brings a sense of fulfillment.

Before connecting with Albert, I would have felt the same way. I won't deny the joy and satisfaction you can feel in the moment. However, these feelings also trigger a desire for more. Because these feelings are fleeting, they lead to a desire for more. As you probably can already tell, this leads to suffering.

The desire for more equates to suffering. As your desire becomes fulfilled, it only grows. Satisfaction soon morphs into dissatisfaction. When your desire is not fulfilled, it becomes a curse and a source of resentment. In the world of Albert, desires do not exist.

The world of Albert is only joy. There is no need to seek more because there is only joy. Such desires do not appear. Happiness and joy will simply encapsulate the heart just by feeling Albert; there are no thoughts about wanting to feel more or again.

2004年6月 UTA会セミナー 下呂水明館

2005年10月「意識の流れ」出版記念 セミナー
琵琶湖グランドホテル

2005年12月「意識の流れ」出版記念 セミナー
下呂水明館

2007年9月「意識の流れ」勉強会
琵琶湖グランドホテル

2008年4月「意識の流れ」初参加者の
ための勉強会 琵琶湖グランドホテル

2011年12月 第9回UTA会
琵琶湖グランドホテル

2012年11月 磁場と反転セミナー 富田林市民会館

2013年7月 「あなたは愛です」セミナー
橿原ロイヤルホテル

2014年2月 滋賀UTAの輪セミナー 橿原ロイヤルホテル

2014年12月 第23回UTA会（UTA会最後の
セミナー）琵琶湖グランドホテル

2015年4月 レベルアップとは何か 大宝クボホール

2015年4月 有馬ありがとう会
VIALA annex有馬六彩

2015年5月 大阪池田セミナー
伏尾温泉 不死王閣

2015年6月 第2回UTAの輪セミナー
琵琶湖グランドホテル

2015年7月 橿原勉強会（田池先生の
最後のセミナー）橿原ロイヤルホテル

第５章　セミナーでたどる学びの足跡

セミナーから見た学びの流れ　160 ～ 167

セミナーを体験した人たちの声　170 ～ 285

第１期／ UTA 会セミナーの頃 ―――― 170
第２期／「意識の流れ」出版の頃 ―――― 178
第３期／ UTA 会の発足 ―――― 187
第４期／ UTA の輪セミナー・少人数セミナー ―― 196
第１回 UTA の輪セミナー参加者の声 ―――― 198
「あなたは愛です」セミナー参加者の声 ―― 212
WEB 瞑想会関係者セミナー参加者の声 ―― 224
チャネリングセミナー参加者の声 ―――― 232
さまざまなセミナー、さまざまな感想 ―― 254
セミナーにクジラの出てきた日 ―――― 263
少人数セミナー、主催者の感想 ―――― 271
田池先生と過ごせた最後の時間 ―――― 285

第１回 NPO 法人 UTA の輪セミナーで塩川香世さんが語られた田池先生の死 ―――― 286

主なセミナーの記録を収蔵しています。

セミナーから見た学びの流れ

今回のセミナーも、これも例の「意識の流れ」の出版記念セミナーとして３回ですね。当ホテル（下呂水明館）が２回、それから滋賀県の琵琶グランドホテルで１回開催したわけでございまして、昔やっていたような UTA 会、これは同窓会的なセミナー、その前のエルランティの光セミナー、これらは、もうとっくに終わっておりまして、この３回はちょっと趣旨が違うんでございますが、内容はほぼ同じでございます。しかし、それも今回で終わりになります。あとは各自で、独立独歩と言いますか、一人で勉強を進めていただく、そういうふうになります。

◇

これは、2005 年 12 月 25 日から３日間、下呂の水明館で開催された「第３回『意識の流れ』出版記念セミナー」で、冒頭、田池先生が語られたものです。

ここで語られていますように、エルランティの光セミナー終了後、2002 年８月から 2004 年９月まで、まる２年、29 回にわたって UTA 会セミナーが、琵琶湖グランドホテルで 12 回（滋賀県）、下呂水明館で 10 回（岐阜県）、ホテル明山荘で５回（愛知県）、ホテルながやまで２回（石川県）が開催されました。

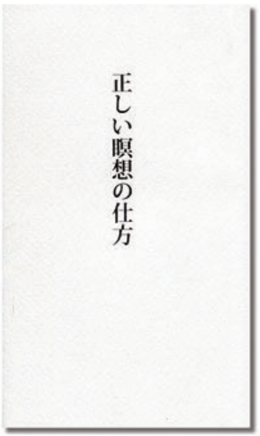
その後、2005 年９月から３回にわたって「意識の流れ」出版

第３回『意識の流れ』出版記念セミナー初日の講話

記念セミナーが、田池先生のお話のように下呂水明館で２回、琵琶湖グランドホテルで１回、計３回が開催され、これですべての学びが終わり、後は「独立独歩」で各自が心の学びを進めていくという筈だったようです。

ところが「意識の流れ」が出版されたことで、新たな動きが起こってきます。少なくとも、その後の動きを整理していると、「意識の流れ」が新たな動きを牽引している、そうとしか言いようのない事態が起こっています。

具体的には、「意識の流れ」出版によって新たな学びの層が構



築され、こういった新しい学びの層に対応するため、引き続きセミナーが開かれることになる、そんな流れが起こってきたのです。

2006年8月には、「意識の流れ」の姉妹編として「ありがとう」（塩川香世著）が発行され、さらに、この流れに拍車がかかります。こうして2006年10月からは「意識の流れ」勉強会としてセミナーが継続されますが、セミナー参加者300名中、180名が本を読んでの初参加者という状況となってきたのです。

出版物も「母なる宇宙とともにⅠ」（2007年3月）、「母なる宇宙とともにⅡ」（2007年4月）、「意識の転回」（2007年8月）、「続意識の流れ」（2007年12月）、「愛と死の真実」（2008年4月）と、次々と新刊が発行され、それによって生まれる学びの層を「意識の流れ」勉強会として吸収していき、そんな新しい学びの層を吸収して、更に、新たに「UTA会」が発足するに至ったのです。

こうして2009年8月30日、第1回UTA会が琵琶湖グランドホテルで開催されました。当初、6月開催予定が新型インフルエンザの大流行で延期となっていたのですが、参加者730名という大所帯でのセミナーとなりました。

このUTA会としてのセミナーが2014年12月まで、5年4カ月にわたって23回開催されていますが、そのどれもが700名～800名の方が参加されるという大所帯。

その中で、塩川香世さんが「節目のセミナー」と言われた「第12回UTA会」の模様を、初日の田池先生のお話から紹介させていただきます。

新しく集われた方々に対して、何のために学ぶのか、何を学ぶのかが、わかりやすく話されています。

文字起こしにあたっては、田池先生の大阪弁の雰囲気を壊さない程度に書き改めたつもりですが、編者である僕自身が関西の人間ですので、行き届かない分があるかと思いますがご容赦ください。

◇

こんにちは。それでは早速ですが、お話に移らせていただきます。今日はいつもよりも時間は半分ぐらいで終わりますので、まとめのようなことになります。初めて来られた方とかね、まだ回数が10回にもならない人には、ちょっと分かりにくいかもわかりませんが、逆に言うとわかりやすいかもしれません。

あまり多くは語りませんので、要点だけお話しますので、よく聞いておいていただきたいと思います。その前にですね、「学びのポイント」と、こういうのがあるんですよね。それから「正しい瞑想の仕方」、これでございます。古い方は皆さん持っておられますが、

新しい方は持っておられないんじゃないかと思います。
後ろの方で1冊100円で頒布してくれますので、ぜひ買ってください。特にこの「学びのポイント」というのは、これ、項目を見るだけでも参考になります。1冊の本を読むとなると、ちょっとお歳を召した方は難しいですね。やっぱり気力、体力、そういうのがなかったら、なかなか本も読めません。といって眺めているだけではわかりません。
これ見るとね、割りとわかりやすい。もう10分で勉強終わりというような感じですね。だから新しい方は、買ってください。

私の人生を振り返ってみてですね。私はずっと小さい頃から、なぜここに私がおるのかというのが、私の大きな疑問であったし、一つの課題であったわけです。
しかし、いろいろこの世の中で生きてきましてですね、私は大正15年の生まれですが、昭和49年、世の中は第2石油ショックで右往左往しているときでしたが、やっといろいろ疑問が解け始めてきたんです。それは、今申しました、なぜここに存在するか、そして私という者はいかなるものか。
これが少しずつ明らかになってきた。詳しい話は本にも書いてあると思いますし、私もいろいろお話してきましたから、もうお聞きの方が多いと思いますけれどもね。やっぱり、いろいろ体験がございました。大変な体験をしました。
振り返ってみると、というのは昭和49年を振り返ってみるとですね、なぜ人間は争うのか。腹を立てたり、人を責めたり裁いたり、そして、あげくには病気になって、病人がどんどん増えていくんだろうかと、これは一つの私の疑問でしたね。
はい、その次は、私の人生は、とにかく不思議なことが次から次に起こってくるんです。驚きでしたね。一体、これは何だろうかと。この二つのことが私の大きな課題でした。もちろん私は宗教というかね、そういう祀りごとというか、そういうの、どちらかというと、皆さんよりは真面目に真剣にやってきたつもりです。
もちろん、それは結果的には間違ったことですけれども、やってきたんです。特に聖書なんかは、かなり勉強しました。私は学校の教師をしておりましたから、生徒さん相手に聖書の講義をしたり、いろいろやってきましたが、それも全て間違いだということが、昭和49年の頃からわかり始めた。
昭和49年の時に、私は3つのことを、自分が自分に語り始めたんですね。一つは、私は短気なんです。私は、短気ということは、短所だけれども、短所とは思わなかったんですね。これは何か自分にどういうか、気づかせる、一つの性格というかね、そういうもんだと思った。
だから失敗は多いと思います。失敗は多いけれども失敗を通して何か私に気づかせようとしていると思ったんですね。
第2番目は、私が先ほど言いましたように、たくさんの人々に

神の愛を説いてきたんです。49 年までね。それは、全部、偽物だったということが、わかった――わかったんじゃなくて、自分が自分に突き付けた。私は驚きでしたね。

人生がひっくり返ったような感じですよね。

3 つめは、「いずれ、お前は世に出るぞ」と。

これは、今日こういう形になってきたことですから、それはそれなりに頷けたわけですけども、そういうのが昭和 49 年、私の歳が 47 歳のころ。

それから私は、自分が歩んできた道は、自分では一所懸命に生きたし、誠実に真面目に生きたつもりです。

ですけれども、「果たしてそれが本当に真面目で、まっすぐで正しい道だったか」という疑問を持つというかね、疑問が湧いてきましたね。

結果を言いますと、間違ってきた。だから今の私の生き方は、全く反対の生き方をしてます。

そういうことが昭和 49 年から始まりましてね。それは自分が自分に教えたんですね、誰が教えたんでもないんです。

それから昭和……そうですね、もう 50 年頃でしょうかね。ふとしたことから、母親の反省を、本当に真面目に、そして真剣に、そして継続するようになったんです。そうすると、自然にいろいろ疑問が解けてきたんです。その疑問は解けてきましたが、これは人間の頭、学問、あるいは知識情報では、とてもとてもわからない内容でした。

だから私は皆さんにいつも言うことは、心を見てください。心を見ない人は、先ほど言いましたように、人を責めたり裁いたり、自分はできていると、人を見下げたり、そして喧嘩をしたり、戦争をしたり、人殺しをしたり、人を騙したり、いろいろなことをやっているんです。これが世の中です。ただ表面的には綺麗ごとで終わらせているようですが、中身は、今、言うたようなことです。

だから、みんな病気になるんですわ。あるいは喧嘩したり、殺したり、殺されたり、それでも平気ですわな。今の人は平気です、戦争したって平気なんですよ。人を殺しても平気なんです。口では「平和」とか「命を大事にしなさい」と言いながら、全くしてない。

というのが今の世の中だと、私は思っております。

だから今言いましたように、心を見る。見ない人は何にもわかりません。はい、たとえ高学歴であろうと、生まれ育ちのいい人であろうと、何にもわかりません。わかったように表現することはできます。学者、あるいは学問、あるいはそういう勉強した人はね、言葉では、わかったように表現するというのか、話をするというのか、現にいろいろなことで講演会をしたり、説法会をしたり、あるいはたくさんの本を出しておりますが、私から見ると、何にもわかってない人がベストセラーの本を出しています。

そんな本をいくら読んでもわかりません。ただ、そこに書いてある、どう言いますかな、自分が気に入ったような、あるいは参

考になるような言葉はたくさんあります。しかし、そんな知識や情報をいくら集めたって、本当のことは何もわかりません。

だから私は、心を見てくださいと、もうずっと20何年、言い続けてきたんです。けれども、果たして「皆さんはどうでしょうか」ということなんですよ。はい。

だから、本当の自分がわからないんですよ。偽物（にせもの）の自分を、どんどんどんどん膨らまして、自分は立派だ、頑張ってきた、やってきた。われを認めよ。そういうことをやってきた人生ですね。私から見ると、そんなものは何の価値もない……とは言いません。この世で生きていく上では、ちょっとは参考になります。でも参考になるぐらいで、それで何にもわかりません。それどころか、人生の最期は哀（あわ）れなもんです。

だから心を見てくださいということを、私は今日も、もう3回ぐらい言いましたかな。もう4回でも5回でも10回でも言いたいんです。「自分の心を見る」っていうことです。「心を見る」というのはどういうことかと言うたら、皆さんはいつも自分の心からプラスの情報、思い、それを発信している。

それからマイナスの情報、思いも発信しているんです。これは皆さんだけでなくて、皆さんも既にご承知と思いますが、全てのものから、プラスとマイナスの情報が発信されているんです。

ところが、皆さんの出してる情報というのは、ほとんどがマイナスなんです。

皆さんは、そういうものを出しっぱなしで、そういうマイナスの情報を発信しているということさえも知らない。ましてや気づかない。だから「自分は立派だ、素晴らしい、認めよ」という、人を見下げて、自分を傲慢（ごうまん）な生き方にしてしまっているわけですね。

ですから、私は、そのマイナスの情報を発信していると。一体、マイナスの情報というのは何だろうかと。これが皆さんわかってないんですよ。わかろうとしない。なぜか？ それも考えようとしない。ちょっと考えただけで、深く考えようとしない、ということは、本当の自分を知ろうとしない。

偽物の自分を膨（ふく）らませて、お互いに競争したり、励まし合ったりしているだけなんです。だから、そこのところをしっかり掴（つか）んでほしいと思うんですね。

最近はですね、マイナスの情報をプラスの情報に変えるということを、私は、それを「反転」と言っているわけです。これは国語辞典見たって書いていません。

中にはね、「反転の反転は元に戻るんか」という人たちがいますが、そういう反転ではないんですよ。私の反転は、マイナスの情報をプラスの情報に変えるだけなんです。プラスに変えるだけなんです。何回反転しても、もうプラスはプラス、マイナスはプラス、そういうものなんです。

では、「そういうもんなんだ」ということは、どうしてわかるかと言ったら、心を見ていけばわかってくるんです。見ない人はわか

りません。頭をなんぼクルクルクルクル回したって、まあ、失礼でございますが、昔は「腐(くさ)った頭で、なんぼ考えてもわかりません」と言っている。言っているけど、皆さんは腐った頭ををクルクルククルクル回して、自分は素晴らしい、なぜ自分はこんなに苦しむんだ、何でこんな病気で自分はつらい目をするんだ……

全部、間違ってるからですよ。苦しんでいるのも、病気で病(や)んでいるのも、その他いろいろ事業がうまくいかないのも、全部、自分が間違っているからですよ。

それは本当の人生ではないんですよ。だから世の中に、たくさんの病人がおりますし、あちらこちらで戦争している。しかし、そこから逃げたいと思うから、人類はそのうちに、神様をつくったり、金というものをつくって、その神様とお金で、本当に振り回されているというのが人類なんですよ。

そこから平和とか、喜びとか、幸せとか、そんなものが実現できるわけがない。けれど皆さんは、一時(いっとき)の癒(いや)しとか、勇気を与えられたとか、何とか言いながら、この世を過ごしているだけなんです。

私が申し上げてる喜びとか幸せというのは、そんなものじゃないんですよ。

皆さんのは一時の喜び幸せですよ。だから皆さんは、一時の喜びや幸せを求めて、例えば音楽を聞いたり、あるいはお芝居(しばい)を見に行ったり、時には旅行をしたり、美味しいものを食べたり、中には酒を飲んだり、タバコを吸ったりしながらですね、中にはパチンコしたり競馬をやったりしながら、人生をそんなふうに考えているだけなんです。

「そうしたらいけない」とは言ってない。しかし、「それは人生ではない」と言っている。だから、結末はご存知の通りですよ。だから人間というのはすごいんですよ。

そこで過去世、それから現世、来世というのがございますね。初めての方は、ちょっとわかりにくいかもわかりませんが、人間は、それこそ何百、何千、何万、何十万……それ以上、生まれ変わり死に変わりしてきている。

生まれ変わり死に変わりするということは、そもそも人生は、全部、失敗だったんです。まぁ俗(ぞく)な言い方をすれば、全部、地獄の底に落ちていったんです。

極楽(ごくらく)というような世界はございません。もちろん地獄という世界もありません。ただその人が苦しんだり悩んだり……等々ということは、全部、地獄ということでしょう。

だから皆さん、全部、地獄から出てきた。それなのに、過去世はどうだとか、こうだとか言って、遊んでいるというのかね、暇つぶしというのか、そういうことをしてる人がありますが、そんなもんじゃないですよ。

今世は違うんですよ。

今世は、その間違いに気づく。まず間違いに気づくということは、今世の大きな意味です。

当然、皆さんは、学歴、高学歴をつけたり、たくさんのお金を儲けたり、あるいは仕事をして、成功者になろうとかね、頑張ってる、それはそれで結構ですよ。

そんなものは大したことじゃないんですよ。そんなもので人間は幸せになりませんよ。だから人間はね、やっぱり幸せ、喜び、明るい、そういうのがいいんじゃないですか。

そういうのはね、皆さんの思っている喜びというのは、一時の喜びだから、そんなものをしたって、それよりもやっぱり、もっと大きな仕事をしたり、あるいは多くの人に認められたり、あるいは歴史、人類の歴史に名を残すような、そういう人間になることが本当は目的だと考えている人がいるが、これは大きな間違いです。

ということは、皆さんは頭ではわかりません。自分の心を見ていくことによって、だんだんわかってきます。

そうすると皆さんも、今まで何年生きたか知りません。50 歳の人は 50 年、70 歳の人は 70 年間、間違ったことを営々としてやってきたということに気づくと思う。

そのときに本当に正しい生き方をしたい。そこで大いなる決意をします。「その決意から、この学びは始まる」ということを、もう 1 回再認識していただきたいと思うんですが、どうでしょうかね。まだ、今日の続きを明日もしますか。

それで、苦しい、悲しい、寂しい、お金が欲しい。そんなこと、いくら呟いて、ぼやいても仕方ないんじゃないですか。全部、自業自得ですよ。自業自得という言葉が嫌なら、自己選択自己責任、自分が選んだことですよ。生まれてくることも、そして、そういう人生を過ごすことも、そして、そういう人生をもう終わりとして、この世を去っていくことも、全部、自分が選んだんですよ。

だから、それは全部自分の責任ですよ。人のせいにしたり、親のせいにしたり、世の中のせいにするのは大きな間違いです。間違ってもいいと思う人は、どうぞ、おやりください。

中には、もう死んだらお終いだと思う人がいる。死んだらお終いではないんですよ。

死んだら終わりじゃないんですよ、皆さん。哀れなもんですよ。それは皆さんも知ってるはずなんですよ。過去、何百、何千、何万と、生まれ変わり死に変わりしてきたから知ってるはずなんだけれども、生まれて、だんだん大きくなったら、それを忘れて、先ほど言ったような人生を、何とか頑張って頑張っているけれど、そんなの、いくら頑張ったって、幸せになりっこないんですよ。

だから、「心を見てください」と言っているんですが……見ていません、皆さん。

こうして見たって、自分の心を見ている人は、本当にごく少数です。だから、しっかり勉強してください。もうあと、セミナーがどれぐらいあるかわかりませんけども、もうそんな、何十年も、50 年も、100 年もありません。だから本気でやってください。

◇

これは第12回UTA会（2012年7月29日〜31日）での冒頭の田池先生のお話です。

第1回UTA会は、先ほども述べましたように2009年8月30日にスタートし、年4回の割で続けられ、2014年12月21日〜23日、第23回UTA会（琵琶湖グランドホテル）で幕を閉じます。

ところで、この第12回UTA会のセミナーを塩川香世さんは、彼女にとって節目のセミナーと言っておられますが、ここを境に、全体的な傾向として、学びが多くの人に伝える（拡散）から、より深く核心に迫っていく求心的なものに徐々に移行していったように感じられます。

第12回UTA会の音声

それと並行して、田池先生から塩川香世さんへのバトンタッチが準備されるようになったのもこの時期のように感じます。

それればかりではありません。これ以降、UTA会の大人数のセミナーとは別に、インターネットを使っての地域ごとの瞑想会や、学びの深化を目的とした少人数でのセミナーが近畿を中心に、2013年から田池先生が亡くなる2015年までの足かけ3年の間に、宿泊を伴うセミナーだけでも23回、1日だけのセミナーなら、ほぼ60回（インターネット瞑想会24回、南河内UTAの輪勉強会22回を含む）が開催されたことになります。

第1回UTAの輪セミナー初日の模様（2015年3月8日）

こんななか、2015年3月8日、UTA会に代わって「第1回UTAの輪セミナー」が、田池先生に代わって塩川香世さんがセミナーを牽引する形で開催されました。

そしてこの年、2015年12月に田池先生は亡くなられます。

7. 意識の流れは厳然としてあり、私達はその流れの中に存在しています。

意識の流れとは次元移行を指します。私達は時空を超えて三次元のこの地球にやってきました。そして、地球時間で言えば、あと約 300 年を経てまた時空を超えていくのです。これを意識の流れとお伝えしています。

このようにお伝えしても、心に響いてこなければ、それは本当だろうか、いや、ひょっとして本当かもしれないという程度に留まってしまいます。

信じたくても心で分からないから、そうだとも言えないし、違うとも言えない、何とも言えないというのが実際だと思います。だから、今は無理にそう思おうとしなくてもいいし、また、周りにそうだと言う人がいても、そういうものにとらわれることだけはおやめくださいと申し上げておきます。

ただ、そういう方々であっても、意識の流れの中に存在している私達だから、今このような学びのチャンスを用意しているということは、何とはなしに感じておられるかもしれません。

一方で、この意識の流れを心で感じ始めている方もおられると思いますが、どちらにしても、喜んで喜んで、ただ伝えてもらったことを実践していけばいいのではないでしょうか。そうすれば、その流れは必ずどなたの心にも見えてきます。私は流れそのものであったと心に響いてくる日が必ずやってきます。それを信じてやっていくだけだと思います。

そういうふうに思いを広げていけば、どうですか、何となく嬉しいと心に響いてきませんでしょうか。

田池留吉

7. The flow of consciousness is undeniable, and we all exist within it.

The flow of consciousness refers to transitioning dimensions. We have come to this three-dimensional Earth by transcending space and time. And after approximately 300 years, we will once again transcend space and time. This is what we refer to as the flow of consciousness.

Even as I share this, if it does not resonate with your heart, it will merely remain a doubt in your mind.

Even if you want to believe, if you cannot understand it in your heart, you can't say either way, and you're left with uncertainty. For now, there's no need to force yourself, and even if people around you talk of this, it's not wise to get caught up in it.

Since we all exist within the flow of consciousness, engaging in this study may mean you sense something within yourself. Some may have already started to feel this flow of consciousness within your heart.

Regardless of your current state, please embrace what resonates within you, and do so joyfully. By doing so, the flow becomes visible to anyone's heart. There will be a time when you will feel deeply within yourself that you are the flow itself. Please continue to trust in the flow.

By opening your heart this way, don't you start feeling the sense of joy within you?

セミナーを体験した人たちの声

では次に、この時期、UTA 会セミナー、UTA 会、UTA の輪セミナー、あるいは、この時期を特徴づけた少人数セミナー等を中心に、その参加者や少人数セミナーの主催者の方たちの証言や感想を紹介させていただくことにします。

第 1 期／ UTA 会セミナーの頃

私の中が熟成された大切な時期／後藤糸恵

（2002 年 8 月〜 2005 年 6 月　UTA 会セミナー）

私にとって思い出深いセミナーは、2002 年 8 月から 2005 年 6 月の「UTA 会セミナー」です。

この頃デジカメが普及し始め「カメラマン」の人たちが、田池先生や参加者の皆さんのセミナー期間中の写真をたくさん撮影していた時期でした。

「エルランティの光セミナー」の終わり頃から、久保登さんがその写真を集めてスライドショウの CD を作成していました。愛知で共に学んでいた縁で「UTA 会セミナー」から、私がその CD を作成する仕事を引き継ぎました。

毎回セミナーが終わったら、カメラマンさんたちから撮った写真のデータが送られてきます。それをテーマ毎に仕分けて、サイズを調整して、BGM を選んで、スライドショウにしたデータを作成して、CD に焼いて、CD 面にタイトルを印刷して、ケースの表表紙と中表紙を作成して、セミナーのスライドショウ CD を作成していました。とても楽しい作業でした。

送られてきた写真の中から、きれいな風景などを CD 面のタイトル写真に選んで、ケースの表表紙の写真は購入してくださる方が一番良く写っていると思う写真を選んで、その人仕様の表紙にしていました。

表紙等のフォーマットは決まっていたけど、タイトルや文字の色を季節のイメージで毎回変えていました。その色選びも楽しかったです。

スライドショウの BGM は「ふるさと」を中心に、田池先生のころの歌や久保登さんからいただいた島田祐子さんの CD データから、季節にあった童謡や唱歌を選びました。時には井上陽水の「少年時代」やカーペンターズなどを使ってみたりして。これも楽しかったです。

スライドショウ CD は、開催された UTA 会セミナー分、全て作成しました。

　このCDを誰よりも楽しみにして、喜んでくれたのが、田池先生でした。「セミナーの記録」として大切に思ってくださって「いつかこのCDを見て涙する人がいるよ」とおっしゃっていました。

　CD作成に至る流れで、2002年9月分から作り始めたので、最初の2002年8月分がずっと欠番でした。それが気になっていて、時間に余裕が出来た時、追加で作成して田池先生にお渡ししたとき、満面の笑みを浮かべて、指でOKサインを出してくださいました。

　私も、田池先生が喜んでくださるから、田池先生のために、毎回毎回、喜んで、楽しんで、作成していました。

　写真にはいろんなものが写っていました。「意識」と言っても8割（？ 正確な数字は忘れました）は形に表れる、と田池先生も講話でおっしゃっていましたが、セミナーの大量の写真を扱いながら、写真に写るものを見て、たくさんのことを学んだように思います。

CDのお礼にと、波動の勉強に出させていただいたこともありました。（2003年10月・滋賀）私の意識にとって、強烈な、大切な経験になったと思います。

　CDの縁で、セミナー時間外のコーヒータイムや田池先生を囲む小旅行に声をかけていただけたりと、肉の田池先生と近くで接する機会をいただきました。肉の私にとっても意識の私にとっても、嬉しい貴重な体験になったと思います。

　この頃のセミナーは波動の勉強が中心でした。私も2003年6月（下呂）で初めて波動の勉強で名前を呼ばれて前に出る機会をいただきました。肉の私はまだ鈍感で、肉では全く分かりませんでしたが、「アルバーーーーート!!!」と絶叫した（実際に叫んだのは塩川さんでした）その時の現象は、忘れられない大切な体験・ポイントでした。

この頃、私の肉の生活は、私の人生で一番苦しい時でした。心が敏感で不安定な姉と２人の生活は、私も未熟で至らない人間だったので、寄ると触るとケンカして、針のムシロのような毎日でした。セミナーも毎回、今回は参加できるかな、と綱渡りのような状態でしたが、結果、毎回参加出来たのが不思議なくらいでした。ここで、私の真っ暗・真っ黒で苦しい自分の世界をイヤというほど突き付けられました。二度とはゴメンですが、私には必要な予定の教材だったと思います。（安心してください。今は姉との仲は良好です。）

2005 年５月に父が亡くなったのですが、それまで両親と３人でセミナーに参加出来たことも良い思い出で、大変だったけど、嬉しい大切な時期であったと思います。

「UTA 会セミナー」期間は、私の中が熟成され、成長していった、ありがたい、大切な時期だったと思っています。長く書きました。ありがとうございました。

自分自身が根底から覆りました／山本健次

（2003 年 4 月 20 日〜 22 日　琵琶湖グランドホテル）

2003 年 4 月 20 日〜 4 月 22 日、琵琶湖セミナーでの最終日の現象について語ります。

このセミナーで、いままでの自分自身が根底から覆（くつがえ）りました。

自分の現象を録音した音声から文字起こしをしてみました。

セミナー３日目の現象で、「男性が出ていないので」ということで、田池先生から、私ともう一人の方が指名され、会場に出ました。何が起きるかとドキドキしていた私も、現象で後ろにひっくり返ってからは、何が起きているのかわからない状態で、ただただ絶叫を続けていました。真っ白で、心には何もなく、「嬉しい、嬉しい、お母さんありがとう、お母さんありがとう」の思いが、絶（た）えることなく流れ続けました。

衝撃のセミナーでした。この現象が、学びを継続するいまの私を支えています。

（文字起こし部分）

田池先生／名前は山本健次さんですね。生まれは岐阜県。岐阜の生まれ、育ちですね。それでは始めますよ。

塩川さん／（異語）はい、いま私はここに座らせていただいて、どんな私の心が飛び出すか、少し不安でございます。でも、私はこの学びを自分なりに、まじめに進めてきたつもりでございます。でも、もうひとつ、よくわかりません。それが私の今の心境でございます。

アルバートの波動もまったくわからないといってもいいでしょう。でも、私は、何故だかここにいます。そうです、心が惹（ひ）かれるところがあるんです。だから、私の中の素直な思いに従って、これから、これから歩いて行きたいと思っております。

田池先生／私に向って異語による語りかけ

私／異語による反応（自分の思い）

塩川さん／（異語）私は、いま異語として自分の心を語りました。自分の心、己偉い心がたくさんございます。私は初めて自分の心を語ったと思います。己偉い私が見えてまいりました。でもでも、今とても嬉しいです。私は本当に心を閉ざして来たんだなと私は自分で感じました。とても嬉しいです。己偉い私が嬉しいなんて、何だかおかしいけど、とても嬉しい。

ああ、この学び、ここに来てよかったと私は思います。本当に思います。ありがとうございました。

田池先生／私に異語による語りかけ

2003. 04. 22

私／（泣きながら）ありがとうございます。本当の思い……

塩川さん／（異語）あなたの中には素直な思いがたくさんたくさんあります。素直な思いがあなたのその心を語らせているんです。もっともっと自分の心を語っていってください。自分の心を語ることは喜びでございます。本当に喜びなんです。3億6千年、それ以上やってこなかった私達でございます。自分の心を語って、その心をアルバートに返す道を淡々と歩いて行ってください。

田池先生／山本さん、目を開けてください。前のこの人（塩川さん）を見てください。じっと見てくださいよ。はい、私の方を見てください。

私／（大絶叫！叫びながら後ろにひっくり返る）

塩川さん／（異語と同時に塩川さん語る）私は、いま、本当に、心が、心がひっくり返っております。とてもとても驚きでございます。ああ、これは何という世界でございましょうか。ああ、私はこんな世界を感じたことはございません。はい、心が驚いている。とてもとても驚いております。私には、びっくり、びっくり、びっくり、驚き、驚きのその世界が広がっています。ああ、でも、とても嬉しい。心が広がっていくというのは、こんなことでしょうか。私は、初めて初めてこんな心の体験を、はい、はい、いま、はい、ああ、嬉しい、嬉しい、嬉しい、（歓喜）私は本当に嬉しい、ああ、お母さん、お母さん……（絶叫）ああ、ああ、ああ、私は生まれてきてよかったと思います。本当にありがとう。嬉しい、嬉しい、私はこの心を必ず繋（つな）いでまいります。はい、アルバート、この思いを繋いでまいります。私も250年後アルバートに出会う。その思いを、はい、しっかりといま感じさせていただきました。とても嬉しいです。250年後、私はあなたと出会います。いま、心で感じさせていただきました。ありがとうございます。

会場となった琵琶湖グランドホテル

下呂セミナーの体験は大切な宝物です／松村謙三

（2003 年 6 月 22 日～ 24 日　下呂水明館）

学びを進めていくなかで己を表し己を誇(ほこ)ってきた。

学び始めるまでたくさんの精神世界の本を読み、いろんな団体にもいった。

他力の延長で学びをしていた。田池先生に認めて欲しい、ただそれだけで学びに集っていた。その為には、先生が与える課題も認めて欲しいそのエネルギーでこなしてきた。

そのことの気付きの現象が怒涛(どとう)の如(ごと)く押し寄せてきた。もうあかん、もう何をしてもうまくいかん、もうこの学びをしていても苦しくなるだけや、一つもいいことなんかない。むしろ学びをしてからの方が苦しいことが多くなった。そんな思いが溢(あふ)れていた。

学びを続ける勇気も学びを辞める勇気もない自分との葛藤(かっとう)が続いた。

2003 年 6 月下呂セミナーを最後に学びを辞めようと思った。何もわからなくなっていた。

学びを、田池留吉を、学びに集う人、すべて否定して参加した。

意を決して行ったセミナーだったが先生の講話が始まると愚かな肉とは裏腹に心が感じていた。

田池留吉に申し訳ない思いで涙が溢れてきた。

許されている、こんな僕でも許されている。

優しい優しい波動だった。

これだ、これだった、忘れていた、又捨てるところだった……間違ってきた……間違ってきた……申し訳ございません……の思いが溢れ涙が止まらなかった。

講話が終わった直後の波動の勉強の時間、僕の名前が呼ばれた。

初めて波動の勉強で呼ばれた。それもこのタイミングで。

ただただ意識の不思議と深さを感じた。

波動の勉強の場に出た時、先生が今日は厳しいよと言われて、はい、はいと心がうなずいていた。

座った時から、申し訳ない思いいっぱいで涙が止まらなかった。塩川さんの口を通して語られる言葉は、紛(まぎ)れもなく自分の心だった。

今の心の中の葛藤そのものだった。

心が申し訳ない思いいっぱいで肉の体は床に伏していた。

目の前にいる田池留吉の存在の大きさを心は感じていた。

今まで肉でいろんなことがあったのが思い出された。

すべて自分の間違いに気付くための現象であったことが心で感じられうれしかった。

目を開け、塩川さんを見た瞬間、もうわけがわからなくなっていた。ただ涙がぼろぼろこぼれ、こんな愚かな僕でも待ち続け許されていた自分を感じられた事がうれしかった。

頭を回し続け、そびえ立っている自分が自分でわからなくしているだけだった。素直になっていくことだけだった。

この下呂セミナーの体験は大切な宝物です。

己を表し己を誇る環境を選びそのことで過去自滅していった事に気付けとばかりに起こった現象、そして下呂セミナーでした。

喜びを感じたらそれを膨らませていくのではなく己を表して聳え立っていました。

先生は「私が一番感動している喜んでいる、この波動の勉強が今世最後のチャンスです、こんな凄い学習の場があるかと思うくらいに凄いです」と言われた。

落ちても落ちても引き上げてくれたエネルギー、それは今世、田池留吉に出会う為にお母さんに生んでくださいと必死で懇願し今世こそ真実に出会ったことを無駄にしたくない本当の自分の思いからでした。

自分は肉ではないエネルギー、意識、そのことを強く感じた起こるべくして起きた体験でした。

意識は何一つ無駄はなく完璧でした。

愚かな肉は未だに肉、肉で濁流に飲み込まれてしまいそうになりますが田池留吉、アルバートに向けることをしていくだけなんだと瞑想をするたびに改めて思います。

250 年に至る道は険しいけれど、今世学んだことを 250 年後へ必ず繋いでいきます。

待っていてください……必ず必ず繋いでいきます……

ありがとう……ありがとう……待っています……待っています。

下呂の波動の勉強で塩川さんの目を見たときに、塩川さんから語られた意識が僕の今の 250 年後への思いそのものなので最後に記しておきたいと思います。

アルバート、アルバート、アルバート、私は夢にまで見てきたアルバート。今現実の世界として心に感じております。

この心で良かったんです。

アルバート、アルバート、確かに出会うアルバートが今私の目の前に存在しております。

私はこの心を感じております。とてもうれしいです。

確かな確かな喜びを私は心で感じております。

この喜びを私は必ず 250 年後に繋いでまいります。

ありがとうございます、ありがとうございます。

第 2 期／「意識の流れ」出版の頃

「意識の流れ」を手に話される田池先生（2004 年 12 月 23 日）

波動の勉強／中野文子

（2005 年 2 月 20 日～ 22 日　下呂水明館）

初版「意識の流れ―アルバートとともに―」が出版された時のセミナー（2004 年 12 月 23 日～ 25 日　下呂水明館）の中で、田池先生が「本を読んだ感想を送ってください」と言われました。私は原稿用紙半分くらいに心に残った箇所と自分の思いを書いてポストに投函（とうかん）しました。

「こんな薄っぺらい封筒を先生は開封し読んでくださるのかな？」という思いとともに、なぜか投函できることに心がおどり嬉しかったのです。

翌年の 2005 年２月のセミナーで感想を出した人の中から波動の勉強に出してくださり、先生は言われたことは誠実に実現してくださるんだなと思うと胸が熱くなったことを覚えています。

波動の勉強の中で先生は、
「自分を肉だとする思いは本当の差別です。自分を肉だという思いから解放して一人一人がアルバートに目覚めることが幸せになる道です。それ以外に幸せになる道は絶対にありません」と伝えてくださり、初めてアルバートの波動を感じさせていただきました。その時、ただ「アルバート」を呼んでいる私には肉がなく、「お母さん、ありがとう」の思いがどんどん広がっていき、この波動を感じるために私はお母さんに産んでいただいたんだ。産んでくれてありがとう。そんな思いでいっぱいになりました。

そのあとセミナーに集っているすべての人が愛（いと）おしく思え、「みんな一つなんだ」と素直に思えたセミナーでした。

本当にこのセミナーは私にとって貴重なものとなりました。

全て合点がいきました／定免裕子

（2006 年 12 月& 2012 年 12 月　琵琶湖グランドホテル）

2004 年「意識の流れ」が出版されて程なくして私の手元にその本が届きました。

会社の会議の中でのことです。

最初に開いたときは宗教のことが書かれているところから、先に進むことができなくなり、そのまま本棚に……。

でも振り返ると確実に私の中では真実の方向に意識が向いて行ったんだと思います。

両親の死をきっかけに『生まれてくる意味』『死んでいく意味』を心から知りたいと思いながら、その後約 1 年半の間、本当に地獄のような日々を送っていました。私の中は地獄でした。何をやっても何に心を向けても解決するどころか苦しみがどんどん増していきました。

そんな「もう前にも後ろにも進めない。このままでは狂ってしまう」と思ったときにやっと『意識の流れ』の本があることに気付き、ページを開きました。

最初に飛び込んできた『意識の流れ』の文字。もうそれだけで何か心が揺さぶられました。

どんどん読み進めていきました。涙が止まりませんでした。

「ああ……ここに本当の事が書いてあった」「私は間違ってきたんだ。だから苦しかったんだ」全て合点がいきました。

何故不平等な世界があるのか？ なぜ生まれてくるのか？ まだまだ全く心で分かることはできないけれど、ここに真実があった！ もっと本当のことが知りたい！

2006 年 12 月のセミナーに初めて参加しました。

「田池先生の波動を感じなさい」とのアドバイスを頂き、頭ではなく心で聞くようにしました。

すると後から後から涙が出てきて殆(ほとん)ど泣きっぱなしの 3 日間でした。でも肉の喜び、肉の幸せ、肉の成長を求めてきた時間があまりにも長くて、しかも母親に心を向けると反射的に「嫌い！」と出てきて、それでもセミナーに参加しながら母親の反省を毎日毎日繰(く)り返していると、ある時、心の中から黒い塊(かたまり)のようなモノを押し上げて「お母さん！ 大嫌い！ でも本当はもっともっと甘えたかった！ 本当は大好きだった！ 急に死んでしまってこの心をどうやってぶつけたら良いのか分からなかったんだ！ ごめん。お母さんごめん。ありがとう！ 生んでくれて本当にありがとう！」の思いがドッと出てきました。

この日から少しずつ素直に田池留吉に心の針を合わせられるようになってきたり、心を見て意識を基準に物事を捉(とら)えるようになってきたりしています。

そして、2012 年頃の『磁場と反転』の最初のセミナー。『反転』

第 14 回 UTA 会セミナー（2012 年 12 月）の模様
同年 11 月 24 日には大阪府富田林市で「磁場と反転」の一日勉強会があり、翌 25 日には、塩川香世著「磁場と反転」が出版。翌年 3 月には「磁場と反転出版記念セミナー」が琵琶湖グランドホテルで開催された。

（共に帰ろう）の威力。

『大噴出、総崩壊』からの反転は本当に中が 180 度ぐるっと回る感覚。何とも言葉で言い表すことが出来ない感覚。その後に来る大きな喜び。何度も何度も自分の心の奥底にある真っ黒な意識と向き合い、へとへとになるセミナーも体験させて頂きました。

田池先生がおっしゃっていた「量が質に変わる」を実践させて頂きました。まだまだ道半ばですが、それが楽しい。

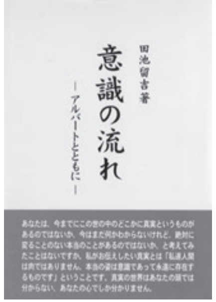
肉のことにも意識が向いてしまいますが、何故そうなるのか？心を見て自分と対話するのが楽しいです。

これからも一歩でも半歩でも前に進めるように『正しい瞑想』を継続していきます。

ありがとうございました。

出版記念「意識の流れ」勉強会／矢持和美

（2007 年 3 月 18 日〜 20 日　琵琶湖グランドホテル）



本格的なセミナー初参加で、初めて現象で前に出てメッセージをもらったセミナーでした。

まさか呼ばれるとは思ってもいなかったので、番号を呼ばれて訳もわからない状態で前に出たのを覚えています。その時のメッセージ一つひとつに、私が今世すべき全てがありました。

全て蹴散らして、軽く見ていた私に、田池留吉はとてもとても優しかった。「それが本当の自分ですよ」と懇切丁寧に伝えてもらっていました。待ってくれていました。

これからも、いつもそこに戻って、素直になって、本当の自分に帰って行こうと思います。

初めて夫婦でのセミナー参加／楠本光代

（2008 年 4 月 27 日〜 29 日　琵琶湖グランドホテル）

第 1 回「意識の流れ」初参加者のための勉強会が、2008 年 4 月にありました。

同伴者もともに参加出来るということで参加したいと思ったけど、周りにともにセミナーに参加してくれる人はいないと諦（あきら）めていました。

そんな時に友人から、「夫は誘ったのか」という電話がありました。「夫は、私がセミナーに参加することに反対はしないけど、俺は行かないから、と言っているから誘っていない」と答えました。それでいいのかと聞かれました。

田池先生は講話で夫婦で学ぶのが大事ですと言われていましたが、一人での参加は自由に出来るし無理に誘わなくてもこのままで良いと思っていました。チャンスかもしれないと思いました。

夫に初参加者のためのセミナーがあるから同伴者も行けるし、私をセミナーに連れて行ってくださいと頼みました。

夫婦なのだから私が何を学んでいるのか一度セミナーに参加して確かめて欲しい、自分は一緒に学べないと思うならそれでもいいと言いました。

夫は参加してみると言ってくれました。うれしかったです。

そして、夫婦での参加になりました。

会場では仲間たちが夫を歓迎してくれました。「初めて会った人ではなくて、ずっと前から知っていた」とハグしてくるので、夫は戸惑（とまど）っていましたが、うれしそうでした。

田池先生の所に挨拶に行って、「良かったなあ」と言われて、心が飛び跳（は）ねるようにうれしかったです。

それからは年に一度だけ参加してくれて、１０年目にやっと前に座って現象参加になりました。ゆっくりペースの夫は欲一杯で焦（あせ）って学んでいる私にとって心を見る教材になってくれます。

セミナーに参加してくれたから、田池先生の話、セミナーの話、仲間達との話が通じるようになって、学んでいると思っていたけど方向が違っていたということにも気づきました。

朝、夫婦で瞑想の時間を持ち、夕食前は手をつないで故郷の歌を歌うことが日課となっています。

夫はまだＺＯＯＭ瞑想の参加には至っていません、いつ参加するのかなあ。

セミナーが開催されれば、志摩セミナーに行くよ、とは言っています。

母と参加した最初で最後のセミナー／宇田美津子

（2008 年 4 月 27 ～ 29 日　琵琶湖グランドホテル）

母と一緒に参加した最初で最後のただ 1 回だけのセミナーは、確か 2008 年 4 月 27 ～ 29 日の「第 1 回意識の流れ初参加者のための勉強会」だったと思います。その前年 2007 年 10 月 10 日に娘が突如自ら命を絶ち、私は「これも意識の流れの一環なんだ」と自分で自分を納得させようとがんばっていましたが、心の中は「何でだ?」と悲しくて悲しくて泣き叫んでいました。できるだけセミナーに参加して、「なぜ娘は死んだのか」を意識の流れから見てちゃんと納得したいと私はあせっていました。そのころはセミナーに参加できる人は制限されていて、古い人は新しい人と一緒じゃないと参加できなかったのです。そこで母に「一緒にセミナーに行ってくれないか」と声をかけてみました。

その時母は 81 歳でした。2001 年私が娘と一緒に帰郷したころ、母は熱心に真如苑の活動をしていました。何事も真面目に一生懸命やる母は真如苑でも地域の幹部になっていて、帰郷した当初は私とも小さな衝突がありましたが、娘を一人で育てようとする私を黙って支えてくれました。娘の奏でるピアノが母にとっても心地良いものだったようです。真如苑だけでなく、神棚も仏壇も熱心に拝んでいる母、セミナー行きは拒否されても仕方がないと半分あきらめていましたが、返事は「いいよ」でした。

4 歳の私と母

理由は「亜由美ちゃんの供養だから」とのこと。4 月 28 日は娘の 22 歳の誕生日でした。理由は何でもいい、とにかくセミナーに行けることが私はうれしくてうれしくて心から母に感謝しました。

花巻空港から LCC の飛行機で名古屋空港へ、そこから私鉄で新幹線の名古屋駅へ行って京都へ、さらに湖西線に乗り換えておごと駅までというルート、交通事故の後遺症で左足を少し引きずって歩く 81 歳の母にとっては過酷な強行軍だったと思いますが、母は文句も言わず、黙々と歩き続けてくれました。とかく岩手の人は人見知りの人が多いので、ホテルのお部屋が 2 人部屋だったことも母にとっては快適だったようです。そしてセ

セミナー会場で穂積さんに撮っていただいた写真。
穂積さんには 1992 年学びに集った当初から、カセットテープや写真の CD をたくさん送っていただきました。お母さんのようにずっとずっと温かく見守っていただきました。ありがとうございます。

ミナー会場や廊下ですれ違う人たちに私が「お母さんと来れてよかったね」と声をかけられるたびに、母もうれしそうでした。

この学びについて、私は母に本は渡していましたが、言葉では説明したことがなく、というか言葉で説明できるくらい私はこの学びについて理解していなかったし、田池留吉を本当に信じていたかも自信がなかったのです。それでもここにこそ真実があるという思いだけはなぜか強くあり、岩手に帰ってからも毎回は無理でもできるだけセミナーには通っていました。母はそれを何も言わずに見ていてくれました。それどころかセミナーに行く日は前の日にクッキーや和菓子を作って「皆さんにあげなさい」と持たせてくれたのです。今思い出すと母の愛をいっぱい感じるのですが、当時はこんな田舎のお菓子なんて恥ずかしいと半ばありがた迷惑に思っていました。その母と今セミナー会場にいる、私にとって奇跡のようなできごとでした。これは娘が命をかけて設定してくれたんだなと思いました。

私達は椅子席の一番後ろに座っていましたが、セミナーが終わって「どうだった？」と感想を聞いたところ、母の感想は「あの人（田池先生）は私と同じ年なのに、1 時間も 2 時間も立ちっぱなしですごいな」という一言だけでした。セミナーの内容については一言もありませんでした。そう言えば、母はその後、盛岡で行われたスカイプ瞑想会や地域の勉強会にはほとんど参加していますが、学びの内容については何も言ったことがありません。母の反省についても、一応ノートを渡していますが、あまり書いてはいませんでした。

母はこの学びについてどう思っているんだろう。母は田池留吉を信じているのだろうか。母は意識の流れを感じているのだろうか。今までたくさんたくさん他力信仰をしてきたけれど、それについてどう思っているのだろう。私には現在の母の意識については何もわかりませんが、たったひとつ、母は私を信じてくれている、

私を信じてただただ黙って見守ってくれている、私はいつでもどこでもどんな時でも母の愛に包まれている、ということだけはわかります。そしてそれだけでいいんだと思います。それだけしかないんだと思います。

母はあと 2 か月で 97 歳になります。この 2 月、盛岡のサービス付き高齢者向け住宅からうちの近くの住宅型老人ホームに転居してきました。ここには訪問看護ステーションが併設されているので、最期の看取りまで安心して預けられます。シルバーカーを押して何とか自分でも歩けますが、日常生活は食べることと排泄だけで精いっぱいで、すぐ「横になりたい」と言います。

全盛期には 70 キロ近くあった体重が今は半分になりました。ほとんど骨と皮ばかりになっても、「なんだか調子が悪い」と言いながら死力を尽くして歩き、私の言葉がけには「なっても（何にも）わがらなぐなった」と笑顔で答えてくれる母、本当にすごいと思います。「肉体細胞はいつでも命がある限り最後の最後まで愛を流してくれてるんですよ」という田池先生の言葉を母は実証してくれています。

小さく小さくなった母の肉体細胞からは愛がいっぱい流れています。また母は、何かを読むということもできなくなりましたが、自室の机の上に、私の本『ごめんなさい　そして　ありがとう』を大事そうに置いてくれています。お母さん、「私達は愛です。ひとつです」の波動をそこから感じてくれていますか。

ああ、お母さん、私は今世あなたに産んでもらって本当に幸せです。私はあなたの愛から生まれ、あなたの愛に帰ります。そこは母なる宇宙でした。永遠に無限に広がる愛の宇宙でした。私はそこに娘の意識も感じます。娘は自ら命を張って、私に母の愛に目覚めるよう促してくれていたのでした。

私は初めて、「意識の流れ」から見た娘の死の意味に納得できました。娘と私と母、私達は母なる愛の宇宙の中にひとつでした。ずっとずっと永遠に無限に母なる宇宙の中にひとつでした。

亜由美ちゃん、ありがとう。お母さん、ありがとう。私は今高齢者ではありますが、幸いまだ健康な肉体を持っています。自分が今いるこの環境と状況を喜んで受け入れながら残されたこの命、この肉体を、「意識の転回」を達成するために、精いっぱい活用していきます。ありがとうございました。

セミナー参加の思い出話／十川雅子

（2008 年７月６～８日　琵琶湖グランドホテル）

第２回「意識の流れ」初参加者のための勉強会のことです。

セミナー現象の時でした。田池先生が私の真ん前にいらして、「あんた、オキナワの目しているね」と言葉を発せられたとたん、私は正座をしているのに、先生の胸あたりまで飛び上がってしまい、先生も、瞬時に左側に避けられました。

私はあの広い会場内で、枯れ葉が風にあおられてぐるぐる舞っている感じ。

「これは人間の動きじゃじゃない、動物か何かだ、そうだ、以前飼っていたワンちゃんの動きだ。近くの、雪一面の駐車場で、ワンちゃんと雪遊びをして楽しんでいるのだ」と……。

動きが緩（ゆる）くなり、犬の気分、四つん這（ば）いの格好で席に戻ったところで、先生が声をかけようとされたのに、逃げ出してしまった。私はチャンスを逃（のが）してしまったと悔（くや）みました。

しかし、現象の後は、もう別世界、地面からちょっと浮いた感じで歩いているような身の軽さ、身近な学びの友たちも喜んでくれている。みんな嬉しくてたまらない。優しい暖かさに包まれているような感覚。なぜか懐（なつ）かしい思いがしている。私は「この思いを忘れない」と思いました。あの思いが、その後のセミナー参加に背中を押してくれていたように思う。

第２回「意識の流れ」初参加者のための勉強会（2008 年７月）

そして、現象においては、とりあえずどんな自分でも素直に受け入れて行こうと思った。それが何だったのかは、分からなかったけれど、ひも解（と）きは後で、ということにしようと。

今は正直、学びの一年生に戻れることが嬉しい。塩川さんの「ありがとう・復刻版」との再会が楽しみです。

「“**つなぐ**”とはどういうことか、私は肉であるという思いをだんだん薄めていくこと。」との一文を全身で受け止め、自分の学びを一歩でも半歩でも進めていきたい。

田池先生、塩川さん、出会いを本当にありがとうございます。UTA ブックさんありがとうございます。

私の意識の世界／下境田良子

（お送りいただいた原文は、かなりな長文となるため、ここでは 2013 年 12 月 15 日～ 17 日「あなたは愛です」出版記念セミナー参加の体験を紹介させていただきます。）

2008 年 7 月に学びに出会い、同年、10 月、12 月のセミナーに参加、現象の場で狂った方々を目にしても、私の中からは、ただただ私だ、私だ、私だの思いしか出て来なかった。（中略）

2013 年 12 月のセミナーは、同月 1 日に開催された鹿児島宮崎スカイプ瞑想会から供養し続けた宇宙のパワーの確認でした。

義兄も学び始めました。義兄を通じて桜島に思いを向ける瞑想もありました。先生は、宇宙のパワーを握っている方々の現象をしてくれました。輪の中は満杯でした。先生の「宇宙のパワーを思って下さい」に瞬時に反応して行きました。私は、ただただひれ伏すこととなりました。

嬉しくなりました。もう、そうなっているんだと……

そして、「学びが進んでいると思っているあなた、これから先は夫婦で学ばなければ、あなたの学びは一歩たりとも進みません」と話されました。私のことだと感じました。

ここから、夫の学びが始まり、夫婦でのセミナー参加となって行きました。

学びに出会って、セミナーに参加して、ことあるごとに、田池先生は、「私のこと、我が一族のことを話されている」と勝手に感じては嬉しくなり、帰るところ、姿形無き波動、田池留吉と、その度、伝えてきました。勝手に感じていることが、我が一族のことなんで、他人に語れません。所謂、思いの世界が３次元では立証出来ない、的外れの世界です。

今、つくづく感じていることが当たらなくて良かったと、本当に良かったと……当たれば当たる程、真実から遠い、過去のチャネラーになってしまう。「当たることの虜」になる危険性が多分にあるからです。ただ瞑想して行き、姉、母、夫に話す自分が出て来たら、いよいよそうなった思いと共に瞑想しました。

姉や母は喜んで聞いてくれました。夫は嫌いました。そうして、また、田池留吉、共にひとつの瞑想を重ねて行きました。私の意識の世界は、セミナーと共にありました。意識の流れ、そのものでした。「ふるさと」の替え歌が出て来た時も、私が作ったと思いが出て来てびっくりして瞑想……意識の世界、喜びの波動の世界のなせる業なので、肉は分からずとも、共にひとつの意識の世界の、ただ、「ありがとう」と「ごめんなさい」が仕事をしたんだと納得して行きました。

どのセミナーも、ただただありがとうの思いだけです。

「田池留吉と思う」ことの凄さを教えていただきました。本当にありがとうございます。

第 3 期／ UTA 会の発足

（この時期、UTA 会、UTA の輪セミナー会場は、すべて琵琶湖グランドホテルでした）

おいしかったわぁ～、またよろしくね、お母さん／四方田奈加子

（2009 年 12 月 20 日～ 22 日　第 2 回 UTA 会）

《波動の勉強》

先生がちょっと考えて「私も最近ちょっと変わってきたんですけど、これほんとかな、そう思う人」と言ってくれて、もうほんとにその通りに思っていた私は迷わず前に出ました。嬉しかったです。先生、よく言ってくれたなあ。

この学びはほんと難しい、一生懸命やっているつもりが、いつのまにかずれている。試行錯誤しながらの学びでは普通のことですが、この時の波動の勉強ほど自分の軌道を大きく変えるよう促された事はありませんでした。

え？ 違ったの？ そうじゃなかったの ??? 自分の事は自分で、そうでしょ、先生。

私頑張ってきた。頑張ってきたの。どんなに頑張ってきたか。精神疾患のあるお母さん……頼らないようにと、現実は頼りたくても頼れなかった。お願いしたくても出来なかった。もう諦めた。寂しくても、辛くても、みんなはいいなとどれだけ思っても、そう出来ないと知ったから。苦しくなるだけだから。

そうだ、この学びは自分で……そうだ、そういう学びだからいいんだ。丁度いいんだ。むしろその方がいいんだ。そんなお母さんをあてにしないで、だから自分で心を見て、自分の事は自分でしていくように、夫と協力して二人でやっていける。やっていけばいいんだ。そう思ってきた。言い聞かせてきた。

「甘えからの脱却」そうじゃなかったの？

言葉通りにやってきた私がいた。やってきたはずなのに……どうして違うの？ どこが違うの？ だから難しい。この学びは難しい。本当にそう思った。……基本に忠実に、分からないことはみんな本に書いてある、人に聞かずとも自分に聞けばよい……。ああ、そんな私が、ああ……。

先生が「もっとお母さんにね、甘えていかな。甘えるということも大事ですよ。」

もう、何がなんだか分からない。軌道修正は一人では出来ない。

ああ、とても無理だったと思いました。セミナーがあって、先生がいて、ということをこれ程痛感したことはなかった。

ズレないようにするには基本に徹すること、それが大事と、いつもそこに戻るように、お母さんの反省と、そして他力の反省なら「ああ、そうか」って、苦しかったなあって、心の向け先違っていたなあ、ああいう人に、ああいう場所に、こうして、こんな思いで向けていたなあって少しずつ修正しながら歩いていく。それは可能な範囲でした。

でもこの時は違いました。

塩川さんから出された私の思い

「寂しい、お母さん寂しい」

寂しいなんて予想外。思ってもいなかった。全然思っていなかった。子供が３人、日常は賑やかで騒がしい。予想外の衝撃は、だるま落としそのもので、積まれた真ん中を横からガーンと金槌でたたかれた感覚。「甘えなさい」にはもっとびっくり。

私の心から地鳴りのように呻き声が出る。うなり声が上がる。苦しくて、空しくて、寂しくて、お腹にいっぱい抱えて、私は頑張っていた。苦しかったということも分からずに。どこかでほっとしていました。「甘えからの脱却」はどうなった？……意地を張っていただけなのか……。頑なにそうするしかなかった自分に、先生のコメントは優しかった。

「響いた？ 響いたやろ？ 寂しいやろ？ なあ、なんで寂しいか分かるやろ？」

でも……。さあ、どうする？ 甘えなさいって言われても、甘えるってどうしたらいいか分からない。お母さんは、お母さんは……そんな甘えられるようなお母さんではありません。甘えても動じないドーンとしてくれてるお母さんならいいけれど、ちょっとの事でも反応が過敏。言葉を慎重に選びに選ぶ私がいつもいる。心の浮き沈みが激しいからお母さんを刺激しないように、いつも様子をみて波が立たないようにしてる。甘えるなんてほど遠い。想像が出来ない。想像出来るとしたら、おっぱいを無心で吸っている赤ちゃん……お母さんの腕に抱かれてスヤスヤ委ねて眠っている０才の赤ちゃん……そういう

ことかなあ。

　困っていると、同室のお友達が「聞きに行こう」と言って、「先生、聞きたいことがあるそうです」と連れていってくれた。

「あんたも色々あったけどな」お母さんの事を知っていてくれた先生は、「お母さんがケーキを買うてきたら『おいしかったわぁ~、また買ってきて』って甘えたらいい」子供のような無邪気な身振り手振り付きで楽しそうに言いました。

「なーーんだ、それなら出来る」もっとなにか難しいことを言うと思った。

　ああ～それなら私にも出来る。

　意識のお話をされるのかと思った。そもそも「甘える」っていうことを難しく深刻に考えてしまうこと自体がもう無邪気じゃなくて、いっぺんに気が抜けました。先生の周りは楽しくて、ノリノリの先生は、そこにいた一人の方に「あんたは甘えすぎや！」って言ってました。へぇーー、と私は感心してしまい、みんな同じじゃないんだ……。先生は死んだら一人一人それぞれ一斉にメッセージを送るって言ってたけど、そんな感じでした。

（写真には、いつもあまりこういう所にいない私が、嬉しそうに写っています！）

　聞いて良かった！　ありがとう友達！　聞かないでこのまま帰っていたら……。

　本当に良かった。

　堅かった私の心は、最初は肉で、この事を実行していきました。父から送られてきたみかんの箱。届いたら電話するんです。「おいしかった。また送ってね」

　今までそんな普通のことが言えなかった私でしたから、なにかしら、母と父はほぐれたでしょう。それまでの私にはむこうも身構えていたと思います。

何も出来なかった。心も変えられなかった。でも先生に言われたことは最初は意識的に、でもいつの頃からか自然に、あれからずっと継続して、座右(ざゆう)の銘(めい)になっています。いつも先生の言葉を思ってそうしているんです。思うんです。

まるで昨日先生から聞いたかのように、いつもやっている。パート先の上司が差し入れにお菓子を買ってきてくれた時も、いつものようにあの先生の言葉を思って頂きました。「四方田さんて、小さい事をすごく喜ぶよね」って上司が笑って言いました。

もう、いつ何時も、単純にこれでいってる感じがします。お菓子ということではなくて、お世話になっている方々、関わって下さる周りの方々に、ほとんどこれで行ってる気がします。なんて素敵な事を教えてもらったんだろう。日常の中にいつも先生のあの言葉が溶(と)け込んでいる感じです。

あれから月日が流れ、母に対する思いは変わりました。頼りなく不安定なお母さんではなくて、私の中のお母さんは、絶大なる信頼と、私を信じてくれた、揺るぎない、そんなお母さんです。心を見せてくれたお母さんです。

病気という形を通し、役を演じて、体を張って、体当たりで懸けてくれていたお母さんでした。今世に懸けて、今世を信じて、私を信じてくれていた思い。命懸(いのちが)けの思いを感じました。それは私も同じと……。同じ覚悟だと伝え、教えてくれたお母さん。

こんなに努(つと)めてくれていたなんて。

病気になってから、何もしない、何も出来ないってどれだけ思ったか。

私にはこんなお母さんがいてくれた。ありがとうしかありませんでした。

一人だと思っていた私に、元気 100 倍、勇気満タン。こんなに心強くて優しい、幸せなことはありませんでした。こんなに満たされることはありませんでした。お母さんってすごい。信じて待ってくれていました。

どんなに恵まれていたか、愛されていたか、心を見ることを教えてもらって良かった。

「なんで寂しいか分かるやろ?」

はい、本当の事を知らなかったからです。

たくさん頂いたアドバイス／金澤知子

（2010 年〜 2011 年　第 5 回〜第 9 回 UTA 会）

今回の原稿募集の為、Taike Tomekichi part.3 の期間のセミナー参加日と反省文をチェックしてみました。学びはあまり進んでないけど、肉の勉強はそれなりにしていたのだと、少し嬉しくなりました。

膨大な資料の中から、これが一番とかは決められないのですが、いくつか挙(あ)げてみました。

2004 年に母が亡くなったのをきっかけに第２期のセミナーは頻繁(ひんぱん)に出席していた。そして第３期のセミナーはクジ引きがあり、当たると前に出て田池先生に話を聞いてもらいアドバイスをもらい瞑想できた時期。

2010 年 2011 年の第５回、６回、８回、９回の UTA 会で不思議とこのクジに当たり田池先生に「あんたよく当たるね、宝くじ買うたら当たるんちゃう、買わん方がええけど」と言われるほど当たり、その都度アドバイスを頂き貴重な体験ができた。

第５回「他力を掴(つか)んでいる、命がけでやって行かないとわからないよ、お母さんの反省をすると少しずつゆるんでくる、最高の環境を選んで生まれてきた、命がけでしないと無理ですよ」

第６回「母を何度も殺してきた、もう藻屑(もくず)になって消えてしまいたい」の私の訴えに「お母さんが死んで、悪かったなあ〜、と思ったんやな。夫婦も一緒ですよ。夫婦喧嘩は土俵の中でするんですよ」「ゼロ歳の時の自分を思い出して心の中でお母さんを３回呼んで」と言われ、心の中にお母さんがあった、ありがとうと言えました。

第９回「磁場と反転やで、思うということは波動、エネルギー。エネルギーは仕事をする。敵は存在しない」などのアドバイスを沢山いただいた。

手取り足取り、教えて頂いたと思います。この後のスカイプ瞑想会では「神様仏様を見ている、他力の反省が全くできていない」とまた言われ、そこから本気で反省が始まったようだ。2009 年に主人の悪性リンパ腫の発病もあり、反省せざるを得ない状況になっていた。

体も頭も壊れていく主人をどうしたらいいのか、会話は成り立たず、汚(きたな)く、臭(くさ)く、見苦しい主人に怒りしか出てこない、そんな自分に嫌気(いやけ)がさし、この学びは何なんだ、、と何度も訳が分からなくなっていた。その度、この時のセミナーの音声を何度も聞いて直接言ってもらった事を反芻(はんすう)した。お母さんの事を言ったのに、なんであの時先生は夫婦の事に替えて、言われたのか後になってわかった。セミナーに繋(つな)がっていなかったら、どうなっていたのか、と思う。肉から意識への転回、至難の業(わざ)とはわかっているが、この肉の苦しさが転回へと促(うなが)してくれているのだと、今になって感じる。250 年後に繋ぐべく、今世の残りの肉の時間を使いたい。真摯(しんし)に学びを続けて行こうと思う。

大噴出と総崩壊／神原正和

（2013 年 5 月 18 日～ 21 日　第 16 回 UTA 会）

『田池死ねーーーーー !!!』『殺せーーーーー !!!』『鬱陶（うっとお）しい、どき去らせーーーーー』

　どんなに、あらん限りの力を振り絞っても、罵詈雑言（ばりぞうごん）を浴（あ）びせてもビクともしない。

　田池留吉　なんという存在？

　自分が今まで培（つちか）ってきたものは一体何だったのだろうか？

　次元が違う。あまりにもかけ離れた世界。

　茫然自失（ぼうぜんじしつ）の今、手を差し伸べてくれているこの時、何をぐずぐず、ふらふら、のろのろとしている自分なのか。

　中から訴えている『今です！ 今しかない！』

　この時を逃（のが）してどうする？

　そうです自分との約束です。

【ありがとう。ありがとう。ありがとう。】が出てきます。

　３次元最終時期

『田池死ねーーー !!!』『殺せーーー！ !!!』を起爆剤に

　次元移行を目指します。

　ありがとうございました。

決して忘れることはありません／大槻明子

当時海外に在住しておりましたので、本セミナー以外にも、たくさんの貴重なセミナーに参加させていただきました。

長きに渡り両親とも参加することが出来ましたので、思い出は尽きません。

今思えば何と幸せなことだったのかと思います。

心の記憶はこれから250年後に至るまで、決して忘れることはありません。

お母さんありがとうございます。

写真は、2011年12月20日
琵琶湖グランドでのお見送り光景です。
古いiPadでのピンぼけ、ご容赦ください
塩川さんの赤子のような目がたまりません。

8．宗教では人は救えません。

私達は意識です。宗教は肉です。

だから、宗教では人は救えない、結論は簡単です。

宗教の世界は心を説いていかにも心の世界を語っているようですが、人間を肉としてとらえ、神、仏、宇宙のパワーを崇高な世界だと位置づけているから全く間違いです。

また、肉だから金銭等々を要求し、要求された側は見返りを求めます。それが肉の世界の常識です。

アルバートの世界は無償です。しかし、肉の宗教の延長線上にアルバートの世界もあると思っている方々にとっては、無償という意味が分かっておられない、従って無償だからと軽くとらえる傾向にあります。

また、全く違うと言っても、どのように違うのか、その根本がお分かりにならないから、アルバートを思う思いの向け先は、助けてください、救ってください、何とかしてくださいとなっていきます。真実の世界、アルバートの世界は、救ってください、導いてください、救ってあげましょう、導いてあげましょうの世界ではなく、自分を救うのは自分、自分を導いていくのは自分だと、はっきりと申し上げています。

これから宗教の世界はことごとく崩壊してまいります。もちろん、宗教に限りません。医学の世界もそうでしょうし、教育界等々もそうでしょう。それらの現場はますます混乱していきます。人を救うということ、人を導くということのエネルギーの凄まじさと、肉では不可能だということが、人的現象を通して示されていくことでしょう。

8. Religion cannot save people.

We are consciousness; religion is based on the physical.

It's self-explanatory to conclude that people cannot be saved by religion. While religious teachings seem to address the soul and the world of consciousness, they fundamentally view humans as physical beings, erroneously placing the power of God, Buddha, and the power of universe in a higher realm. As it is grounded in the physical, it demands monetary and other tangible exchanges. This exchange of demands and returns is a common principle in the physical world.

The world of Albert is unconditional. However, those who perceive the world of Albert as merely an extension of the physical fail to grasp the concept of 'unconditional,' often treating it with a lack of seriousness as they operate under the assumption that it is a constant.

Even when the differences are explained, if one does not grasp the underlying distinction, the thoughts that arise are pleas for help, salvation, or intervention when one turns one's heart towards Albert. The world of truth, the world of Albert, is not a world of saviors or guidance but a world of self-salvation; you are the only one who can guide yourself.

All realms of religion will begin to collapse entirely. This is not limited to religion but also extends to medicine, education, and any other domain grounded in the physical. As things descend into chaos, the immense negative energy associated with the desire to save or lead people, coupled with the limitations of the physical, will continue to manifest through various human phenomena.

第４期／ UTA の輪セミナー・少人数セミナー

第1回 UTA の輪セミナーを終えて／塩川香世

今、2015 年3月 10 日、午後 4 時です。セミナーを終えて家路に着き、ほっと一息して、この原稿を書いています。

やれやれ終わったというのが偽らざる感想です。肉体的な疲れは特にありません。ある程度の達成感、満足感があります。私は自分の思いのままにセミナーを進行させていただいたことを喜んでいます。

自分の心に感じ信じている世界を、私はそのままストレートに学びの友に伝えました。異語を通して、あるいは日本語で伝えました。また、ワンポイントを伝えた人もいます。どの程度、それをしっかりと受け止めてくださったかは分かりませんが、瞬間、瞬間、自分の心の中から田池留吉のメッセージを波動として伝えることができる現象を、私は楽しんでいました。

心がガチガチでしっかりと自分を閉ざした意識の世界、また、どうすればこの苦しみを自分の中に受け入れていけるのかと七転八倒しながら、暗い、真っ暗な中で苦しみ喘いでいる意識の世界、その他、学びに集ってくる動機の修正がなされていない人、

特別意識が強くて、どうしてもそこから自分を解き放つことができない愚かさ、様々な局面に出会いました。

　それでも、しっかりと心で感じていく学びですということを本当に知っていただくために、出来る限り現象の時間を作って、ともに心を向けていきたいと思いました。

　今世の出会い、この千載一遇のチャンスを一人でも多くの方が、自分の心で、そうだ、そうだと叫ぶ喜びに出会っていただきたいと心から思いました。

「私達はずっとひとつでした」この思い、この波動を心にしっかりと感じて、さらなる歩みをそれぞれにしてまいりましょう。

　日々の生活の中で悩んだり、苦しんだりするとき、また学びについて何かどん詰まりを感じたとき、「私は何をするために生まれてきたのだろうか」と自分にしっかりと問いかけてください。

　母の温もりの中へ帰る、愛、心のふるさとへ帰る道を、どうぞ、どうぞ、自分の中で確信できるよう、自分の心を見ていきましょう。

　たくさんの意識達が待っています。宇宙に点在する意識達とともに、愛へ帰る道を歩んでいこうと、絶えず、絶えず、呼び掛けてくれています。

　意識の流れにスムーズに乗ってください。250 年、300 年に至る道は厳しいですが、喜び、喜びの道です。次元移行という意識の流れ、どうぞ、あなたの心で感じられるように、自分を成長させていってください。

第１回 UTA の輪セミナー参加者の声

（2015 年３月８日～ 10 日）

第１回 UTA の輪（動画）

■ UTA の輪を終えて……

この３日間を通して、感じたことは、全ては、繋がっているということです。段階を踏みながら進められた、証人「香世さんのセミナー」今の自分に気づき そして、同じ学びの仲間からの促し、それが、助言であろうが苦言であろうが、中傷、噂話、根掘り葉掘り聞かれる問いかけさえも、今の自分に気づけるキッカケに思えることができました……。

ましてや、共に共に学びを深めていこうとしている「学びの友」と共に、「他力だけど頑張ってください」という、ワンポイントメッセージを再度頂き、その自分に、その他力の自分に思いを向けて、感じてきたものに思いを向け合うことができました。

今、喜びで、溢れています。

幸せな思いに、闇を喜びに、そして喜びに思いを向けられる、向け合えるセミナーでした。

ありがとうございました。

■ 点と点が繋がってきた……

橿原の少人数セミナーから UTA の輪セミナーまでの１ヶ月ほど、「１・２・３」の瞑想を繰り返していました。そこにはいつまでも肉の判断基準に悩む自分がいました。

こうあるべき……。こうするべき……。

自分で決めた肉の判断基準で、イライラしたり、怒りが出てきたりしました。自分の出した、そして使った心を見ても、感情が出てきて、おさまらないのです。マイナスエネルギーを出し続けていました。そうです。「１・２・３」が実践できなかったのです。パッと、瞬時に思いが向けられずに２日も、３日も感情が出たまま、振り回されていました。

そんな時「愛、心のふるさと」が読みたくなったのです。読み始めると、そこに全てがありました。読んでいたはずなのに……。

感じることが幾つもありました。そうです。

私は、「１・２・３」で思いを向けられなかったのです。さらに、肉の判断は、小さくしていくようにすることにも気付きました。

毎日、「１・２・３」の瞑想をしているのに……

肉をもって教えてくれているのに……

「１・２・３」と思いが向けられませんでした。

この時から、落ち着くと、思いが向いてきました。ありのままの自分の気持ちに気付けました。これも自分だ、これに気付くために、起きた現象でした。素直に、瞬時に思いが向けられる。そして「あ

りがとう」と、今は言えます。

これが UTA の輪セミナーに参加する前のことでした。

そして、セミナーを迎えました。初日からの感想をセミナー直後に記しておきました。その時の思いです。

セミナー初日

今、終わりました。底の底の底の　そのまた底……。

ゼロ歳の瞑想をしたら出てきました。

取り繕う、嘘つきな自分。見栄を張り、素直でなかった。妬んで、私だけを見て欲しい……そんな自分が出てきました。

第1回 UTA の輪セミナー２日目（2015 年３月９日）アマテラスに向けての瞑想

ゼロ歳のとき母に守られていた、ぬくもりそのものに戻りたかった、そしてこれを探していたことに気付いてきました。物凄（ものすご）く嬉しく、お母さんって心から呼べました。「自分がしなければ」の人生でした。

自分がして欲しかった、寂しかったね、

共に帰ろう、と抱き止められました。

これまでにも増して、「ありがとう、ありがとう」が湧き出てきた、一日目でした。

セミナー２日目

さらに、自分が出てきました。本当の自分が出てきました。そして、タイケトメキチにこころを合わせること……この嬉しさでいっぱいになりました。そして間違ってきた人生。絶望も味わいました。

参加のご夫婦たちが、ご夫婦単位で思いを向けあいました。私は今、独りです。ここまで来ないと、この状況にならなければ、わかりませんでした。この学びで、思いを向けること、思いが全てであることを本当に、本当に感じつつあります。また、思いを向けた時に、出てきた気持ちに、ゼロ歳の瞑想で感じたぬくもりを重（かさ）ねる……そんな感じ方を今日 、塩川さんの促（うなが）しで、感じられました。

新たな自分を発見できた喜びを味わいました。本当に自分に、内なるタイケトメキチにありがとう。これしかないと思えました。

私は愛。あたたかなぬくもりだったこと……嬉しく、嬉しく思いました。

そして、肉の上でも、思いを向け合える、ぬくもりを感じ合える、共に学びができる方に出会えた、これも改めて嬉しく、嬉しく思いました。

「今、幸せ」と感じた、セミナー２日目でした。

セミナー最終日

終了して感じたことは、今まで点と点であったものが繋（つな）がり始め、瞑想が変わってきた感じがします。

塩川さんのアドバイス、促しがあってのことです。感情、マイナスエネルギーに胸がいっぱいになっていた時期もありました。セミナー前に、ぬくもりで包むということが頭ではキャッチしてきたのですが、このセミナーで、塩川さんから感じることができつつあり、とても嬉しく、半歩、進めた気分です。

セミナー終了後、塩川さんにご挨拶をさせていただきました。塩川さんも、喜んでくださり、「共に、共に学んでいきましょう」と言葉をかけていただきました。

田池先生、ありがとうございました……

ふと言葉が出てきました。

死ぬまで仕事。「１・２・３」の瞑想の反復ですね。

今回のセミナーでは、これまでになかった感情や思いが出てきま

した。それと同時に、ゼロ歳のときに思いを向けた気持ちで、瞑想した時に出てきた思いを受け止められるようになってきました。受け止められるだけのぬくもりが感じられてきました。これまでにない、感覚です。「１・２・３」の瞑想を反復することで、先生、塩川さんが言わんとすることが理解できるようになってきました。自分の状況を知ることのできた、有意義なセミナーでした。

これからも「１・２・３」の瞑想……

死ぬまで仕事です。

■ 愛は最初から流れていました

「愛は最初から流れていました、愛は初めから流れていたんです」と、３日目、宇宙に向けての瞑想で、前に出た瞬間苦しい思いが来ました。まだだよ、もう少し待っててね、と思いながら「宇宙、暗黒の宇宙」を合図に身体が回転します。もう自分では止められない動きに肉の私は任（まか）せます。その思いに逆（さか）らわないように素直に声を張り上げ出していきます。

今回、１日目「底の底の底」、２日目「アマテラス」、３日目「宇宙」と前に出て瞑想。２日目に出たとき「負けへんで」という言葉が塩川香世さんの肉目掛けて出てきました。そこからの瞑想は最初から嬉しくて嬉しくて全身でギャーギャーと回転、途中で「こんな凄（すさ）まじいエネルギーを流していたんだ」という思いがふっと出てきて、そこから懺悔（ざんげ）になりました。言葉などで語れない思いがぎゅっと詰まっていて、これで分かったとかいう次元の問題じゃない、少し、垣間見（かいまみ）ただけの世界は壮絶（そうぜつ）な波動を流し、すべてのものを暗黒の世界に巻き込んでいく、その思いを反転し、ともに愛に帰ろうと声をかけることができる嬉しさ。

席に帰ると目を閉じて、さっき感じた思いに向けて反転した途端（とたん）、そこがお母さんのお腹の中、このセミナー会場が、お母さんの、あの温かな思いに包まれている、その思いがどっと来ました。ただただお母さんのお腹の中にいる、その思い、その思い、その思いが田池留吉に向ける瞑想に変わる。ただただ、ただただ、静かに涙が流れる、ここに帰っていけばいいのだという思い、ふるさとの替え歌、ここが君のふるさと、そう思える幸せ、どこに求めていかなくても、ここに自分が帰る場所がある、田池留吉の世界、アルバートの、お母さんの温もりの世界、己の肉を表すこともいらない世界、何もない、何もないけれど幸せな世界、田池留吉の世界には遠いけれど、まだまだ、まだまだ、ほど遠い遠い世界にいるけれど、そのことが分かる、底の底、そのまた底の底、底がいくつ付いても足（た）りないような世界、その世界に私がいる、そのことが心で分かる、その幸せを知りました。

３日目、「暗黒の宇宙を受け入れてください」というメッセージで瞑想、身体がバラバラになるかと思えるような波動の中、身体が回転し始め、声を上げ、肉の私は、ただひたすら頭を止め回転

に任せていく。暗黒の宇宙は喜びの雄叫びを上げることがまた励みになる。回転している中で反転をした途端、身体を何かが触り、異語が聞こえ、ギャーという叫び声、全身で表すのは喜びの思い、何が何だか分からず瞑想が終わり席に着いた途端、「愛は初めから流れていた、愛を流そうとしてきたことが間違いだった」との思いがドーッと押し寄せて、「間違ってきた、間違ってきた」との思い、「最初から愛は流れていた」との思いでいっぱいになった。

でも冷静になって、自分を見ている自分の存在というものを感じ、何かほっとしていた。まだまだこれからが私の学び、そう思い、冷静に自分を、そんな自分を受け入れてくれていた、その思い、田池留吉の波動、待ってるよ、いつまでも待っているよの、その思いが胸を熱くしていく。

望まなくても、欲しがらなくても、肉という思いで遮らなければ、初めから愛は流れていた、溢れるほどの愛が流れていた、と、その体験を初めてしました。

ゼロ歳の瞑想の中で感じてきた思いは、言葉にはできないけれど、この愚かな肉を通して仕事をしていく。それが自分の暗黒の宇宙に愛を流すという、アマテラスの目覚めを促していく起爆剤になっていく、そう思えることが、また暗黒の世界の深さを実感していくことに繋がり、いい循環に自分をいざなってくれる。そこからさらに暗黒の世界の深さを知り、自分を救いゆく実践をやることで、また暗黒の世界を知り……と、これから300年をかけてまっ

たく意識の世界を小さくゆがんだ世界に変えてしまった愚かしさを知っていくのかと思うと、感無量です。

■ 娘が、初めて、塩川さんからメッセージを頂きました

2014 年は、肉の私にとって、様々な現象があり、今も続いている感があります。

現象が次々と出ていく中で、「第 1 回 UTA の輪は、もしかしたら行けなくなるかもしれないなあ」と、暗い肉の私の思いがありました。

けれど、行けました。いや、むしろある意味、肉は、難なく、行って帰ってくることができました。

時に帰りは、高速道路に入って、どんどんと雪が降っては積もり、運転中の前も、ときどき見えなくなることがありました。あと少し遅れていたら、名神が通行止めになってしまうところで、けれど、何もなく、自宅に戻ってしまいました。

学びの皆さんも、これくらいのいわゆる整（ととの）った経験は、たくさん、たくさん、お持ちだと思います。私も、実は、今まで、数えきれないくらいに、学びへ学びへ、といざなってくれたことがあったのです。

それが私の場合、どれだけ、中の私が命がけで応援しているかを、ものの見事に、さらりと見過ごしてしまったことが多いこと。

今回、「今までの私が、どれだけ恵まれていたか」、そして「今も」を、帰った直後からひしひしと思いました。

これこそ、も、「己偉し」「傲慢（ごうまん）」の私そのものだと思いました。

今回、私も娘もグループに入れてもらえて、それぞれに、前に出させて頂きました。

「1・2・3」の瞑想は、すさまじい私の世界を感じさせて頂きました。

明らかに、WEB瞑想会等での地域の集まりや、自宅で行うのとは違うのです。

本当は、自宅や地域にても、同じようにやれて当たり前なのに、「この違いは何なんだろう」が、今後の私の課題です。

頭では、この違いは、それなりに記（しる）すことが出来ます。けれど、もう頭で作った語句は、私は綴（つづ）れなくなりました。

明らかに感じたのは、あの会場が温かいこと。いや、セミナー中は、ホテル全体が、温かかった、ということを、今回も、さらに確認できました。

食事のとき、お風呂のとき、娘とオーリングをやりました。一発で、とても固いのです。これは、頭では、とても理解できないと、素直に思いました。

今回、私は 2 回、娘は 1 回、前に出させて頂きました。

私は、1 回目は、「1・2・3」の瞑想で、「抹殺（まっさつ）してやる」から始まり、「我は神なり」が出ました。そして、やがて、息ができないくらいの中から、「苦しい、苦しい」と叫んでいた私がありました。

「苦しかったね。ともに、お母さんへ、愛へ、帰ろうね」と、ようやく呼びかけていくと、スーッと涙が出てきました。

私は、今まで、「ワーワー」と叫んでばかりでした。お粗末(そまつ)だと言われても、仕方がない状態でした。

それが、昨年からの少人数セミナーに参加させて頂いてから、ようやく、というか、お粗末そのものの私でも、実は、ずっと中の私が、「一緒に帰ろう」を待っていたか、今回のセミナーでも、さらに、感じさせて頂きました。

けれど、まだまだの私だ、と私が伝えてくれています。

それでも、少しずつでも、少しずつでも、「何のためにお母さんに産んで頂いたか、何故(なぜ)、死んでいくのか」への道を、歩まなければ、中の私に対し、お母さんに対し、田池留吉に対し、あまりにも申し訳ないと思いました。

２回目は、「暗黒なる宇宙」でした。

もう、真っ黒なんてもんじゃあないくらいに、苦しいだけの世界を感じました。

「ああ、私は、これでいかに狂ってきた過去を持っているか、つまりは、狂いまくっている私が、たくさんあるんだ。だから、命がけで、お母さんに、田池留吉に出会わせてください、と血反吐(ちへど)を吐(は)きながら、お願いしたんだ」と思いました。

暗黒なる宇宙は、私には果てしなくある、と思いました。それでも、もう、逃げたり、誤魔化(ごまか)したりできない、という私があります。

「もう狂うことは怖くありません。だから思いっきり出して、本当の自分に帰してあげてください。暗黒の宇宙は待っています。」

何故か、ゼーゼーとしながら席に戻った私に、私が、こう伝えてくれていました。肉は、涙が自然に、こぼれていました。

娘は、この学びに 20 年以上集って、今回、初めて、塩川さんからメッセージを頂きました。

終わって、席に戻ってこようとしている娘の表情を見ると、もう、笑顔一杯、ニコニコの顔がはちきれんばかりのように、私の目には映（うつ）りました。

「どういうメッセージだったの？」という私に、娘は、ニコニコと伝えました。

「お母さんのこと、好きですか？ 心で答えてください。」

私は、理由は何でもいい、あれほどの笑顔一杯の娘の顔が、焼き付いてしまいました。

娘は、私の最高の学びのパートナーです。オーリングも、「学びがとてもとても」の私には、娘がいないと出来ません。

毎日、寝る前に、1 日もかかさず、娘の「うた、いいよ」の声がけで、故郷（ふるさと）を四番まで歌って、「おやすみなさい」になる日々です。

娘は、ひどい音程（笑）ですが、それでも、私は、この点だけでも今世のあまりにも恵まれすぎている環境に、「幸せだなあ」と、ひしひしと、ようやくです。ようやく、感じさせて頂いています。

私のワンポイントは、「己が偉い」です。

ずっと、田池先生のその口を使って、素晴らしい文を書けても、「波動が大事です」の、波動がなっていない私ですから、どんどんと、文を綴（つづ）れなくなっている、肉の私がありました。

けれど、今回、素直に UTA ブックさんに送らせて頂こうと思いました。何故（なぜ）、送らせて頂こうと思ったのか、分かりません。けれど、ふつつかな文を、思い切って、送らせて頂きます。

最後に、「UTA の輪」になっても、たくさんの方のご協力によって、今回のような学びの場を作っていただきました。

ありがとうございます、本当に、本当に、ありがとうございます。

私は、娘とともに、UTA の輪のセミナー参加の場を設定していただき、そして、「こんな幸せな肉はない」と、今、しみじみと思っています。

琵琶湖畔（琵琶湖グランドホテル前）

■ 夫婦で向かい合って

印象に残っているのは夫婦で向かい合って田池留吉を思う、リングを思う、相手に向けるでの体験でした。

向けた途端身体が転がりました。エネルギーが私の身体を動かしている体験でした。それから相手のエネルギーを避けたい思い、逃げても逃げきれない思い、だんだんあきらめになっていく心がとても辛く逃げきれない。何とも出来ない。そんな中に自分がいました。最後になって待っていても相手は変わらない自分が歩み寄っていくしかないとの思いが出てきました。そして相手の手を持ちました。

この現象は今までの私の夫に対する思いそのものだと思いました。確かに肉の生活は、仲良く喜びです。しかし過去世たちの思いはまだまだこの状態だと思いました。いったいどれほどの恐怖と恨みで逃げ切ってきたであろうと思うと自分の中の沢山の意識がかわいそうでならないでした。

はっきりと向かい合うことを避ける心癖。責任を問い詰められれば理屈ではとうてい勝てない頭の良さにいつも身構えるようになったのかなあとこの歳になって感じています。お互いの教材を自分の心を見るにいかしていくことを真剣にやっていこうそしてなりよりも田池留吉を信じる信をここからまなんでいこうとおもいました。

先生がよく以前言われた言葉「あなたは夫をとりますか、アルバートをとりますか」がずっとずっと心の底に響いてあります。

今世選んできた環境を大切にただこの道ともに愛に帰ろうと思いを向けてまいります。ありがとうございました。

■ 夫婦で学ぶ大切さ

第１回 UTA の輪セミナーで初日にＳさんからある一言を言っていただきました。

「あんた、主人がセミナーに来てないやろ、何してんの」

そしてニッコリして「ごめんね」でした。自分の事をもっと大切にしなさい、大切な主人と学ぶということをおざなりにしている。という指摘でした。グサッとささりましたが、意識の世界は厳しいの、本当に一番大切なことしか肉も言えないの。と言われてるように感じました。私はセミナー中、夫の事を思いました。なぜ主人はきてくれないのか……いいえ、もう来てくれないと決めつけてしまっていました。

そんな中、前では夫婦が手を取りながらの実践でした。塩川さんが「夫婦というのは殺しても殺したりない程の相手なんです」と言われました。夫婦の人が前で喚き散らしている光景を見ながら、私の心は霧が晴れたように納得納得でした。

腐った肉の頭はなんだかわからないけれど、やってやろうじゃないのという力が湧いてきました。お金や孫、姑のことより、何よりも大切に夫に接していきたい、夫婦で学びたいという思いです。

これまでにも夫婦の大切さは聞いてきたつもりです。でも心が否定してきた……無理と決めつけていたんです。腐った頭が判断していた。一つ違えば本当に殺してしまったかもしれない夫ですから……。

私は今、笑いが出るほど愉快なんです。「良い旦那さんやね」と、100 人いたら 100 人ともにそう言われる主人です。

それを殺してしまいたい相手と聞かされてうれしいんです。大切にします。このチャンスを活かして見せます。S さん、ありがとうございました。塩川さん、ありがとうございました。

■ 凛とした静けさの中に

第 1 回 UTA の輪セミナー、期待通り凄いセミナーでした。

皆一丸となっている感じがしました。UTA の輪の運営に携わる方々の気配り、ご配慮が隅々にまで感じられ本当にありがたく頭が下がるばかりでした。これからも宜しくお願いします。

新たに始まった学びの場に心引き締まる思いで臨みました。

凛とした静けさの中に漂う温もり、優しさに、緊張した心は自然に解きほぐされ、安らぎの喜びが心に広がっていきました。

私は何となく心の変化が感じられました。波動が響いてきました。やっと厚い皮が剥けたのか、それともピッタリ引っ付いていた渋皮が剥けたのか、今まで手こずっていた物からの脱出を感じました。

しかし、“千載一遇の出会い”私のそれはまだまだ底の浅い薄っぺらなもの。肉を貰った喜びも学びに出会った喜びも肉の域。

真剣さが足りない。人が気になる。絶えず比較競争が過る。共に学ぶ仲間を疎かにしている。学びの質の粗さ。こんな反省材料を頂いたセミナーでした。有難うございました。

■ 全身がはじけそうになりました！

自分が作ってきた闇の宇宙へ向けると、指先までピーンと突っ張って、凄まじいエネルギーで全身がはじけそうになりました。その時、塩川香世さんが異語を 2 回言ってくださいました。すると一変して嬉しい思いに少しずつ変わっていきました。間違ってきたって感じになりました。そして、とんとんと飛び上がっていました。済んで席に着くと涙があふれてきました。次の番の方が出られた時一緒に心を向けると「ともに帰ろう」って自然に出てきてくれました。嬉しいです、ありがとうございました。

■ 凄いセミナーに参加させていただきました！

アマテラスに思いを向ける瞑想／「清く正しく美しく」なんて、嘘っぱち。己を現し、己を聳え立たせ、全てを牛耳り、従わぬも

のを容赦なく切捨て抹殺し、残酷極まりないブラックのエネルギーで恐怖の世界へと追いやり、苦しめ地獄の奥底に突き落としてきた意識。そしてその凄まじいブラックのエネルギーで自らもまた苦しみ喘ぎ、地獄の底の底の底のまたその奥底に落ち身動きも取れない固まった状態。呼べども呼べども誰も応えてくれない真っ暗闇の世界で、苦しみのたうち回り、ただただ泣き叫ぶしかない世界に住んでいました。

途中頭が割れそうな鈍痛に見舞われました。子供の頃から頭痛持ちでした。この時、子供の頃からアマテラスのエネルギーを使い続けてきたことの確信でした。納得、納得でした。

そんな自分（アマテラスの意識）に、「ともに帰ろう。愛へ帰ろう」と、温かい優しい思いを向けると、アマテラスの懺悔が始まりました。身を捩りながらの懺悔です。懺悔、懺悔、懺悔、もう懺悔しかありませんでした。「愛を捨てた。お母さんを捨てた。自分で捨て去ってきた。お母さん、ごめんなさい、ごめんなさい、ごめんなさい」と、異語で泣き叫んでいました。

そんな時、UTA の輪の核からの異語にアマテラスの意識が反応し、喜びが噴き上り身体が吹き飛んでいました。

ずっと、ずっと、ずーーーーっとお母さんを呼びたかった。お母さん、お母さん、お母さんと呼びたかった。やっと、やっと、やっと、お母さん、お母さん、お母さんと呼べる、嬉しい、嬉しい、嬉しいと喜びが噴き上がっていました。床に這いつくばって、「お母さん、ごめんなさい、ごめんなさい、ありがとう、ありがとう、ありがとう」と、異語で泣き叫び続けていました。

この現象で今世も、アマテラスの凄まじいブラックのエネルギーで家族を苦しめ、地獄の奥底に突き落としていることの確信でした。そして、こんなに凄まじいブラックのエネルギーが、母の温もり、優しい波動で自分の間違いに気付き、喜びに変っていくことの体験でした。

暗黒の宇宙に思いを向ける瞑想

全てを牛耳り、己の意のままに操り、戦いのエネルギーで暗黒の宇宙を広げてきた意識。戦って、戦って、戦い続け凄まじいブラックのエネルギーを広げてきました。アマテラスのブラックのエネルギーと同じく、己の使っている凄まじいブラックのエネルギーで自らを地獄の底の底の底のまたその奥底に突き落としてきました。

そんな暗黒の宇宙で苦しみのたうち回っている自分に、「ともに帰ろう。母なる宇宙へ帰ろう」の思いを向けるだけで、懺悔が始まり、終いには喜び喜びで体が飛び跳ねていました。思いを日本語で語るにはまどろっこしく、異語で思いっきり語らせていただきました。

自分と同じように暗黒の宇宙で苦しみのたうち回り彷徨い続けている、たくさんの意識達に真実を伝え、「ともに心のふるさと愛へ帰ろう、母なる宇宙へ帰ろう。」と、呼びかけていく実践を死ぬまで元気で積んでいこうと、強く深く決心させられた嬉しい、嬉しい体験でした。

そして、これらの体験を通して、間違った自分を認め受け入れ許せる喜び幸せを、いっぱい、いっぱい体感させていただきました。

今世、真実の世界から肉を持った田池留吉の意識と出会い、ともに真実を学ばせていただいた喜び幸せが異語とともに噴き上がってきます。そして、これから先何年肉体時間を持てるか分かりませんが（現在 65 歳）、UTA の輪の核とともに学べる喜び幸せが異語とともに噴き上がってきます。

田池留吉を信じられる喜び幸せ。田池留吉を呼べる喜び幸せ。お母さんを呼べる喜び幸せが広がっていきます。

ありがとうございました。

第1回 UTA の輪セミナー２日目（2015 年３月９日）夫婦で向かい合って

第１回 UTA の輪のセミナー、本当に素晴らしいセミナーでした。沢山の体験、喜び、本当に嬉しかったです／檜木奈美

一番嬉しかったことは、アマテラスに向ける瞑想を通じて、何度も何度も温もりで包むという体験をさせていただけたことでした。

ゼロ歳の自分に向けて温もりを感じ、その温もりで自分の闇を包む、何度も聞いていたけれど、やっぱり難しい。

塩川さんが異語で、言葉でアドバイスされている様子を見て、そして目を閉じて瞑想して、どこまでもどこまでも限りなく広がる温もり、何とも言えない優しさと温もりを感じて、ものすごく嬉しくなりました。この体験は田池先生のセミナーでも何度も感じさせていただいていたのですが、この次のステップ、温もりで自分の闇を包むという実践がとても難しかったのです。

今回、アマテラスに向けて、ともに帰ろうという思いとともに、私たちはいつもこんな温もりに包まれていたね。と語りかけました。すると何とも言えない温もりと優しさで、ああそうだった、いつもいつもこの温もりに包まれているんだという思いが溢れて一杯になり、なんと自分のアマテラスもその嬉しい思いに包まれていくのが感じられました。

しかし、疑い深い私は、嬉しさ一杯であったにもかかわらず、「私の中のアマテラスはきっと苦しいはずだ。喜びに包まれたなんて自分が思い込んでいるだけかも」と思い、アマテラスに向ける瞑想で何度か同じように繰り返してみました。始めは苦しい思いが噴出しても、温もりを思えば、嬉しくて温かくて、私の中のアマテラスが喜びで包まれていくことが感じられました。

ああこんな風に自分の中の闇も他力の神々も包んでいけばいいのだなあと学ばせていただきました。

嬉しくて嬉しくてびっくりの体験でした。

今回の体験を大切にして、日々の瞑想を実践していきます。

しっかりお勉強して、喜びで次のセミナーに臨みたいと思います。

ありがとうございました。

第１回 UTA の輪に参加して／楠本光代

　母の温もりがとても大切だということが心に響いています。

　セミナーではゼロ歳の瞑想のあとで前に出させてもらいました。

　1、2、３と思う時間はありませんでした。

　塩川さんの「田池留吉はあなたの心のなかにいます。どうぞ向けてください」と言われた瞬間、体の中からエネルギーが待っていましたといわんばかりに突き上がってきました。

　喜びの中ではこんなにも喜んで出てくれるのだと体験しました。

　地域に学ぶ仲間がいない状況の中で、日々の瞑想の仲間はライブラリーです。

　自宅で行う瞑想との違いをはっきりと知りました。

　思う存分出してあげよう、苦しくてたまらなかった自分だと、そんな自分との出会いは苦しいけれど、うれしかったです。

　終わりの「ありがとうございました」の声が聞こえなかったことも初めての体験でした。

　どんな思いが出てきてくれているのか書いていました、その時の思いです。

「長い長いときを超えて俺たちはお前に伝え続けてきた。

　幸せとはなにか、愛が欲しいと訴えてきた。その思いを分かってほしい。

　ただただ優しさと温もりを求め続けてきた結果、この地獄の奥底に沈み込むしかなかった俺たちの心をどうか分かってほしい。

　そして伝えてくれ、どうすればこの地獄の奥底に住む俺たちが温もりのなかに帰れるのか伝えて欲しい。」

　前に出ての瞑想で真っ先に叫び声が聞こえてきました。温もりのなかで泣き叫びながら出てきてくれました。

　私は冷たかったと思います、外にのみ心を向けて生活していくことは間違いだと思うようになりました。

　そして、あの温もりをどこにいても蘇（よみがえ）らせていけるようにすることがとても大切だと心に響いています。

　どれだけ闇に伝えていけているのか分からないけど、あきらめることなく、本当に自分に真摯（しんし）な思いを持ち続けていくことをやりつづけていきます。

　UTA の輪を開催してくれてありがとうございます。自分の思いを書くということを伝えてもらって良かったです。

会場となった琵琶湖グランドホテルから見た琵琶湖

「あなたは愛です」セミナー参加者の声

（2013 年 7 月 27 日〜 7 月 29 日／ 2013 年8月 31 日〜 9 月 2 日）

ここでは参加者の体験から少し離れて、セミナーで塩川香世さんから語られた参加者の心の声や、田池留吉からのメッセージ、その一部を紹介させていただきたいと思います。

塩川香世さんを通して語られる、田池留吉からのアドバイス

名簿を見て名前を呼びますから……。

特別どうということはない、ただ私は、数字遊びをしながら名前を呼びますから、当たった人は「ノー」の場合は出なくて結構ですから、「イエス」であれば出てください。

A さんへ／私の中には、ああああ、まだまだ他力のエネルギーがしっかりしっかり詰まっています。田池留吉、ああこの心、苦しいです。このエネルギー苦しいです。ああ、ここに来て、ようやくその自分が苦しかったことが、少し感じ始めました。ああ苦しかった苦しかった。お母さん、苦しかった。

B さんへ／他力のエネルギーをしっかり掴(つか)んでいると言われました。ああ、私なりに反省をしました。しかし、もう一つもう一つ心の中にいろいろ感じるんです。だけど、私は、心の底の底にある自分の汚(きたな)いエネルギー、愛から外(はず)れたエネルギーにまだ到達しておりません。ああ、身体がこんなに動くのに、まだまだ凄(すさ)まじいエネルギーを隠し持っています。

C さんへ／ああ私は素晴らしい。ああ私は崩したくない。こんなに素晴らしい私。ああああ嫌だ嫌だ、崩したくない。ああああ嫌だ嫌だ、私は肉にしがみついています。

田池先生／C さん、崩したら、もっと素晴らしいものが出てくる。偽物(にせもの)を掴まないようにな。

D さんへ／ああああああああ、もう凄(すご)いエネルギーを隠し持っていました。ああ、何が素晴らしい、ああ、そんなことない、ああ私は素晴らしく、素晴らしくあらねばならなかった。しかし、私の中から出てくるエネルギーは、凄い凄いエネルギー。

ああ黒煙どころではありません、ああ凄い、ああ、こんなエネルギーをみんなに使ってきました。

E さんへ／ああ、お母さん、ああああ苦しい、ああ苦しい、あんな母親。ああ私は、ああ母親の温もりをまだ感じていない。ああ、ごめんなさい、ああ、お母さんごめんなさい。ああ私の、私の中

に温もりがあったなんて、まだまだ信じられません。

田池先生／どうですか？ 頑張りや。これ大事やよ。これ大事ですよ。

F さんへ／はい、はい、はい。パワーを求めてきました。ああ、パワーを求めてきた。パワーをください、パワーをください。パワーこそ私、私が幸せになる一番の道。パワーをください。この心が、まだまだしっかりと心に残っています。

田池先生／どうですか F さん。これは間違いですよ。絶対幸せになりません、パワーを求めたら。ただし「愛」のパワーは別ですよ。「愛」はパワーですよ。それ以外のパワーを求めたら絶対なりません。最後は落ちます。分かった？

F さん／すべてが間違って……。すべてが間違って……。

田池先生／すべてが間違って……、ほんまか？ ほんま？ すべてが間違っていたと、今言いました。

塩川香世さんを通して／はい、グゥワ〜、そんなことはない。私の求めてきたパワーは素晴らしい。田池留吉、認めろ。私を認めろ。私は素晴らしいんだ。素晴らしいパワーを求めてきた、この私を認めろ。認めろ。だからこうして日本にやってきたんじゃないか。お前、私を認めろ認めろ、認めろ、認めろ。

田池先生／ F さん、あんなこと言うてるよ。どうですか？ 正直に……違う？ そう？ 素直に正直に言うのがいいんですよ。全部ばれていますから。

塩川香世さんを通して／私は田池留吉の世界を信じていない。田池留吉の世界が、そんなに素晴らしい愛の世界なのか。私は信じられない。私は愛を説いてきました。過去において愛を説いてきた。そんな私の世界を、お前は否定するのか。信じられない。お前は私を否定するのか。殺してやる。私のエネルギーです。

F さん／その通りです。

田池先生／その通り、ね。その通りと認めたら、しっかりと自分をクリアしていくんですよ。そうしないと最後は駄目ですよ。分かった？ ありがとう。

G さんへ／はい、心を見るのがまだまだ恐怖です。私は自分の中を感じるのが恐怖です。凄まじいエネルギーを心は感じているけ

れど、まだまだこの肉体をどうして……まだまだ恐怖です。狂っていくのではないかと恐怖です。

田池先生／恐怖？

G さん／恐怖と思っていると思ってなかったです。

田池先生／思ってなかった？ 今どうですか？ こんなことやってたら狂うの違うか？ と。

G さん／分からないです。

田池先生／分からない？

塩川香世さんを通して／はい、もっと凄まじいエネルギーを出したいという思いがあります。それは欲に繋がっていると私は知っています。だから私は、ああ、母の温もりを知らないから、狂っていく。ああ私はそのように自分を思ってしまうんです。お母さんの温もりを、まだまだ感じておりません。

田池先生／温もりを知らんの？ だから、どんどん温もりを知って、どんどん出したらええの。絶対に狂わない。狂たら治すから。ただし、お母さんの温もりをやらないかんで。な、分かった？ 一生懸命やらないかんな。

H さんへ／他力のエネルギーが、ああ苦しい、苦しい、苦しい、苦しい。私は自分を解き放すどころか、まだまだしっかりと握っています。ああ、どんなにどんなにこの中から出たかったか。しかし私は、はい私も怖いです。怖いです、怖いです。

田池先生／ H さん、怖い？ 怖い？ 出したらええねん、怖くないよ。治したるって。な。心配せんでええねん。ただし私の言うた通りせないかんで。な、心配せんでええ。

I さんへ／ああ、私はパワーを求めてきた。その自覚が私の中にはない。パワーが大好きでした。パワーが大好きでした。パワー、パワーを求めてまいりました。

J さんへ／どんなにどんなに反省しても私の反省はまだまだ喜びに繋がっていない。ああ私は己が偉いからです。私の反省は上から物申しています。私は喜びに繋がっていないことを感じています。

田池先生／どうですか？

塩川香世さんを通して／ものすごく己が偉いということを今回ものすごく出てきました。はい。ものすごく己が偉いということを出てきました。

田池先生／そういう職業に入った頃、己偉い心がグゥッと出てくるんです。学校の先生したらみんな己偉いんです。私も教師やったんです。分かるんです。いくら教育は愛だと言ってもね。だから、それをしっかり見つめて、それをクリアせないかんな。

K さんへ／私は心が敏感なんです。いろいろ掴（つか）んでいるんです。だけど私も母の温もりが今ひとつ自分の中にしっかりとしないから、私はそちらの方にしっかりと心を向けられない。私は、私も狂っていくのが嫌。ああ、私は身を守ってしまいます。

田池先生／田池留吉を信じていけば。愛を信じていけば怖くないね。頑張って。

L さんへ／どれだけ己が高く聳（そび）えたっているのかと思うほど、凄（すご）い、凄いエネルギーを蓄（たくわ）えてきました。ああ今回本当に感じました。ああ凄いですよ、私は凄い。ああ、もう、苦しい苦しい苦しいだけです。

L さん／……反転をしているんですけど。前回、お母さんが抱きしめてあげるみたいな反転をしてあげなさいって教えていただいて、やっているんですけど。

田池先生／これを機会に頑張って。偉いのが悪いのと違うのよ。偉いということに気が付いたらいいんです。何を間違っているか、なぜ間違ったのかということを、しっかり確認したらええんです。それをしないで、「私はいいよ、いいよ」してたら駄目だと言っているんです。よろしいか。そんな立派な人間おらないの一人も……。そこを間違ったらいかんよ。立派と思ったらもう落ちてます。絶対に幸せになれませんの。皆さん自分の過去世を知らないからですよ。凄いですよ。そんな 10 年 20 年やったって、なるもんじゃないですよ。ましてや大学出て勉強できたとか、そんなんで分かるわけがない。もし思うんやったら大馬鹿者ですよ。だから学者先生とか科学者とかいろいろおるでしょ？ 出来てる、偉い、素晴らしい、いうて、みな大馬鹿ですよ。そんなことする暇があるんやったら、自分の心をしっかりと見なさい、ということやな。そのほうが人生、最後は喜びで終わるの。

M さんへ／ああ、他力のエネルギー。ああ、ごめんなさい、ごめんなさい。私は他力のエネルギーの中で、ごめんなさいを発しています。お母さんの温もり、お母さんの温もりですね。はい、お

母さんの温もりに帰ってまいります。

N さんへ／はい、はい、何度も何度も反省を重ねています。はい、私の今の現状を、はい、しっかりと心に感じています。これからやっていきたいと、何度何度思い返してきたことか。その度に私は自分の己偉い思いを感じてきました。ああ、間違ってきた。お母さん、お母さんごめんなさい。お母さん、お母さん。この原点に戻ってまいります。お母さんごめんなさい。

足蹴にしてきました。踏みつけにしてきました。

O さんへ／ああ、私は、そう、忘れられないんです。やはり私はああ、ああ、やはり私はチャネラー。この思いをまだしっかりと抱えています。「どこが立派なチャネラーなんですか?」と田池留吉からいつも言われていました。ああ、その度に私の心は掻きむしられます。ああ、私は立派なチャネラー、その思いがまだまだしっかりと残っています。

O さん／間違ってました〜。ああ、ごめんなさい。間違ってました〜。ごめんなさい。

P さんへ／私はパワーを求めてきました。パワーを求めてきた心を、まだしっかりと見つめていません。パワーは素晴らしいという思い、その思いの中に、私は素晴らしい、この私を認めなさいという思い、その思いがしっかりと残っている。それを私は心でまだまだ感じておりません。

田池先生／どうですか？ 愛はそんなもの認めません。私も認めません。よろしいか。認めるのは悪魔。悪魔しか認めない、こういうふうに思ってください。よろしいか？ それでよけりゃ、「認めよ〜、認めよ〜」そうやったら悪魔が認めてきます。狂ってきます。間違いなく狂います。よろしいな。（P の息子さんに向かって）聞いときや。もしお母さんに……お互いにな。間違いなく狂ってきます。もうはっきり言いますからね。

Q さんへ／あなたの心はどこを向いていますか。田池留吉を思っていますか。お母さんを思っていますか。あなたの心は、ああ、はい、あなたが以前に、以前に心を向けてきた先です。しっかりと、そちらの方に向いています。田池留吉を素直に呼べません。

田池先生／どうですか？ 以前の方に向いてるよ。もう 30 年近く勉強してるなあ。安曇川では一番最初に出会った人ですね。だから田池留吉にしっかり向けないかん。この肉の田池留吉を言ってるんじゃないですよ。中におる田池留吉、それ以外のものは駄目なんです。いや、駄目でないと思う人、前へ出てください。証明し

ますから。田池留吉より立派なのおる、いう人は前へ出てください。即座に証明します。場合によったら、どうなるか知りませんよ。だからそれ程、私も真剣にやってるんだからな、皆さんも真剣にやりなさいよ。……で、狂ってからね、「先生、狂いました」言うたって、もう相手しません、自業自得(じごうじとく)ですから。よろしいか、こういうチャンスにどんどん挑戦しなさいよ。私はいい加減なことやってるのと違う。分かりますか？ だからね、やめなさいと言うことはやめてください。それも自由ですよ。その代わり結果は、あなたのものですから、そうなった時に、「先生狂いました。なんとか……」は、知りませんよ、ということや。お間違えのないようにな。そんな面倒を見る、そんなことはしません。「愛」はそんなことしません。それは人間の欲ですよ、そういうこと言うのはね。……で、そういう、やってくれる人は優しい人、慈悲のある人、それを拝(おが)んだらいいねん、仏さん拝んだらいいのや、なんぼでも。狂うだけですよ。仏は狂ってるやないですか。お寺行って仏を見なさい、みんな狂ってますよ。何やったら帰りに、滋賀県、ここは奈良でしょ、沢山おりますから行ってみなさい。

そういうことはやめなさい。いや、やめなくてもいいんですよ。その代わり結果はあなたのものだから、狂ったら「この学びをしたから狂った」んではないですよ。学びをしなかったから、反抗したから狂ったんですよ。そこを間違えないようにしてください。そこさえはっきりしてください。この私に逆(さか)らったから狂ったんですよ。この肉の私じゃないですよ、あなたの中におる田池留吉に逆らったから狂ったんですよ。お間違いのないように。そこだけはっきりしてください。そうしないとね、「この学びで狂った」と言われるとね、私は構わないけどね、他の人が気の毒ですからね。そういう可能性のある人は、この中におりますよ。それはいちいち暴(あば)いたりしません。自分から言えば「そうです！」と言ってあげますけどね。認めない人に「認めろ！」と、そんなことはしません。

R さんへ／はい、以前に申しました、パワーを求める心がとても強い、と。あなたは今日までその反省をなさってきましたか。やはり、やはり前の、前のどこか心を向けているのではないですか。パワーを求めてきた心はどんな心なのか、お母さんの反省の中で自分の心をしっかり見てきましたか。

田池先生／どうですか、R さん。パワーは駄目ですよ。絶対駄目ですよ。分かるな。良かったら「良かった」って言ってくださいよ。かまへんよ。ここでやってもうて、もうそんなんやったら帰れ！ そんなん言いません。分かりましたか。だから勉強ですからね。やっぱり勉強は先生に質問せないかんし、時には反抗もせないかん。それで間違ったと気が付いたらサッと変わる。これが勉強するコツですよ。分かったな。遠くから来たんでしょ、頑張りや。

S さんへ／苦しいけど、ああ私の苦しみはこれ程でも、これ程でもない。もっともっと凄いんだ。ああ、私の中から突き上がるエネルギーがあります。それを止めているのは私自身です。やはり私は立派なんです。立派なんです。そのエネルギーを、ああ、押し込め閉じ込めています。もっともっともっともっと自分を解き放していきたい、今そんな思いです。

田池先生／欲しい気持ちは分かるけど、どうですか？ 立派。その通り。ええか、それが学習の目的として。立派じゃないんですよ。そういうものを立派と言わない。立派というのは、愛に目覚めたときに立派と言う。分かりますか？ 分かりますね。それをしっかりやってください。分かりますね。

T さんへ／お母さん、お母さん。お母さんと呼んで瞑想しても、まだ私の中は広がる思いがない。ああ、この心が、私の己偉い心なんですね。お母さんと素直に呼んでいるつもりが呼べない私がある。私はその自分をまだまだしっかりと感じておりません。

田池先生／呼べないの？ 呼んでごらん。はい、目を閉じて呼んでみ。お母さんって。はい、呼んでみて。お母さ～ん。そうそう。はい、呼んでみてどうですか？ あの人を通して語ってください。

塩川香世さんを通して／はい、私がお母さんに抱いていたイメージとは全然違います。私の、ああ私の思っていた母は、小さな小さな世界の母でした。「あんな母親、なんで呼ばなければならないんだ！」私はそのように思ってきました。これが己偉い私でした。今、お母さんと呼んだとき、私の中に温かい温かいものが流れてきました。これが私だったんですね。

田池先生／そうか。良かったね。良かった。

U さんへ／ああ、自分の世界、ああ己が一番一番一番一番、ああ苦しい～苦しい。こんなエネルギーを抱えながら、私はこの世を生きてきました。何が素晴らしい人生だったのか、今、私の中でぐらつき始めています。私は素晴らしい人生を描いてきたつもりでした。しかし私の足下は崩れ始めています。

田池先生／U さん、はい目を閉じて。私の手を見てください。はい、私は愛、あなたも愛、ひとつ、と言ってください。

　田池留吉を呼んでください。田池留吉を呼んでください。

　はい、U さん、語ってください。

塩川香世さんを通して／田池留吉の世界。田池留吉を小さく小さく捉えてきました。ああ、私の方が大きい、と。どれだけ田池留

吉に歯向かってきたか、ああ今田池留吉の世界をほんの少しだけ感じさせていただきました。申し訳ございません、申し訳ございません。

V さんへ／はい、他力をしてると、こんなに苦しいエネルギーの中にあったのか。私はそのことを、初めて体験しました。苦しかったです。本当に苦しかったです。私は本当に苦しかった。ああ、ああ自分に冷たかった。お母さん、お母さん、私は自分に冷たかったことを知りました。

田池先生／私の顔を見んでもよろしい。他力を止めないかんよ。他力を。子供がおかしくなったでしょ。前に、他力でしょ。あの時ピシャッとやめないかん。元気になったな。子供、良かったな。今度は、あんたがせんといかん。分かった？

はい、この指を見て、軽く目を閉じて、はい、田池留吉～と呼んでください。

V さん／苦しかって、温もりとか気が付いたら、温もりがなくなって……。

田池先生／温もりがなくなった？ 初めからなかった。初めから別のものを感じてた……。それをやめなさいと言っているんです。そしたら本物を感じる。そしたら本物の温もりが分かってくる。その温もりはなくなったりしない、本物の温もりは、だんだん大きくなるねん。消えたり点いたり、消えたり点いたり、そういう安物の電灯みたいにはならない。なるのはそれは本物ではない。それは多分に肉の喜び、肉の幸せ。分かりますか。お母さんの反省をやって、そういう方向へいっているんです。分かった？

塩川香世さんを通して／はい、私は愛、あなたも愛、ひとつ。私は私なりに何度もこの言葉を自分に言いました。しかし、私は他力の思いで言ってきました。欲で言ってきました。苦しい私を助けてください。救ってください。私は愛、あなたは愛、ひとつ、これでも私の中は楽になりませんでした。今違いました。ただただただ私は愛、あなたも愛、ひとつ、波動が違っていた。そのことを学ばせていただきました。

田池先生／はい、ありがとうございました。

W さんへ／心で感じるものがあります。しかし私はまだまだ不発、不発、不発。すっきりしない。はっきりしない。もう一つもう一つ自分の中がはっきりしないです。

田池先生／こう言っていますが……。

W さん／はい、その通りです。

田池先生／はっきりしてるね。あんた、お医者さん、まだ医者やってるんやろ。いや辞めんでもいいけど、商売の医者は辞めても、ほんまの医者やったらええね。な、分かった？ そういう風にやってください。「愛」の医者になってください。な、分かった？ 折角ここに来たんだからな、こういう医者がほんまの医者になったらいいんですよ。
　地域の世話をしているようですね。してない？ これをやって自分がまず自分の世話をして、そして沢山の困った人にね、医療を通して愛を伝える、分かりましたね。
　今の私の言葉を聞いてどうでしょうか。

塩川香世さんを通して／はい、お母さんの反省をやっていきます。お母さんに抱かれていたゼロ歳の頃を私は思い出します。お母さんの温もりで、私にかかわってくる人達を、はい、心を何か何か伝えたい、私は今そんな思いでいます。優しいお母さんの温もりを私が伝えれば、その人達の肉体細胞に何か伝わっていくような、そんな気がします。

田池先生／そういうことですね。はい、目を閉じて、目を閉じて。まず、田池留吉を思ってください。はい、お母さ～んと呼んでください。お母さ～ん。はい、声を出してください。

W さん／お母さ～ん（絶叫）

塩川香世さんを通して／ああ、お母さん。お母さん、ありがとう。お母さん、ありがとう。私はお母さんから産まれて良かった。ありがとう、ありがとう。この思いを伝えていきます。伝えていきます。

田池先生／頑張ってくださいな。はい、愛を伝える医者になってくださいね。

全員の方へ／はい。心を小さくするのもあなたです。心を大きくするのもあなたです。その言葉を肝に銘じてください。みんな同じなんです。みんな同じ地獄の奥底の底から這い上がったきた意識です。
　どうぞどうぞ、誰が進んでいる、誰が遅れているとは関係ありません。みんな同じ、みんな同じ。お母さんの温もりを感じていってください。お母さんの温もりを感じていってください。
　そのメッセージをおくります。

寂しい心について

この一文は、「あなたは愛です」セミナーで、田池先生から参加者に語られました。
（2013 年7月 28 日）

寂しい心っていうのは大事なんですよ。例えば今の生活がありますね。夫が外に心が向いていると、女は寂しいね。でも、そういう寂しさじゃないんですよ。それもあるかもしれないけど、そういうのでなくて、皆さんは愛から離れている。自分の故郷から離れている。本当の自分を忘れ去っている。その寂しさがあるんです。

人間の根底にはその寂しさがある。だから、その寂しい心をくすぐっていくと、皆さんは乗ってくるんです。わかりますか。もし私が、そんじょそこらの宗教家であれば、それを突くと、みんな乗ってきますよ。

寂しいんです、みんな。その寂しさがどっから来るかわからない。そうすると、これは夫が外へ向いているからとか、あるいは子供が病弱であるとか、あるいはその他で寂しいんだろうと思うけど、そういう寂しさじゃないんです。これは人間の根源的な寂しさです。それは自分を捨てた。だから多くの人はね、ただ目先の色々なことをお願いしてですね、神様に祈ったり、祀（まつ）ったり、頼んだりするんですが、根底的に寂しさがあるんですよ。

それを癒（いや）してほしいという気持ちがある。自分では気が付かないけど、みんな、ある。だからそこに宗教が入り込んでくる。誤魔化（ごまか）しの宗教は大きく膨らんでいく。わかりますか。皆さん寂しいから、何かこう、神の恵みとか、神の愛とか、なにかそういう言葉を垂（た）れると、みんな寄ってくるんです。そうすると「金を持ってこい」と言われたら金を持っていくんです。よろしいね。また、このあと、「ウワーッ」とやりますから、やっていくうちにね、そういう寂しさをまた見つけてください。

それから沢山の占（うらな）い師がおります。占いをやる人ですね。それを僕は「拝（おが）み屋ババア」と言ってたんだけど、そんな拝み屋ババアが、ぎょうさんおるんですよ。

そういう人は自分が偉いんです。「自分は色々なことがわかるから」「それで商売してるから」「人が集まってくるから」、だから自分は偉いんだと思ってる人がいる。

集まってきますよ、人間は根底にそういった寂しさがあるし、不安から何か将来を知りたい……だから来るんです。私もかつては占い師はやらなかったけど、占い師みたいなことやってましたよ、私もね。一時、昭和 20 年頃ですね。今から 68 年位前の話だけどね。やってましたよ。やりながら、だんだんやっているうちに、「こんなバカげたこと」とわかってきた。（中略）

で、ここは飛鳥ですね。この地域は飛鳥ですよ。神武天皇がここへ来て都をつくった。だから日本の建国の地ですね。ここからずーっと行ったら桜井があって、山を越えると二上山（ふたがみやま）、二上山（にじょうざん）がある。だからね、卑弥呼（ひみこ）がおって、たくさんの巫女（みこ）が出た。皆

そういうことやってきた。どんな生活というか、人生を送ったか、皆さん心でわかると思います。もう、たくさんの人がメールで送ってきてます。自分は巫女であった、卑弥呼であった、色々ね。

あるいは卑弥呼の意識はこうだった。みんな、すごいですよ。結局、みんなダメということですな。

何にもわかってなかったということが結論です。

けれど、当時としては卑弥呼は、もう女王みたいなもんですね。で、みんな寄ってくるんです。蟻のようにたかってきて、そして、どんどんどんどん神の言葉を伝えた。みんな「そうか、そうかそうか」と寄ってきた。それで権力闘争しますしね、女同志は争います。引きずり降ろしますね。嫉妬、妬み、男を手玉にとる、もう色々やってきた。皆さんの過去世がそういうことなんです。

皆ではないですよ。そういう人が多いんです。何もそれを知ったからといって卑下することもないんです。その時はそうであったなと、その時使った心がどうかを見て、それを「反転」していくというのが人生であって、過去に悪いことをしたから、間違った人だからと、それで小さくなる必要はありません。それをプラスに変えていくということが人生です。

お間違えないようにね。それを見ようとしないで、自分は「立派」「立派」というのは、これは一番愚かな生き方です。わかりましたね。

私にとっての「あなたは愛です」セミナー／畑　美了

私にとって心に残った特別なセミナーは、橿原ロイヤルホテル（2013年７月＆８月）で開催されたセミナー、「あなたは愛です」です。

当時、４歳と１歳半の子育て真っ最中の時期のセミナーで、両親の協力を得て、参加できた本当に貴重なセミナーでした。

また、その時の思いは、「体験文集あなたは愛です」に書かせて頂き、私にとって大切な本になっています。今回その本を読み返すきっかけを頂き、とてもうれしかったです。

あれから10年経ち、子供たちの成長は著しく、変化をとげていますが、私の流す思いは……と思った時、「自分の思いを縛っているのは自分」という思いがこみ上げてきました。

あなたは愛ですセミナー
第１回動画

もっともっと心は広がっていく。もっともっと自由に羽ばたいていく。お母さんの温もりの中に帰っていく。

その帰っていける道筋を、妨げているのは己偉しの自分。誰のせいでもない。自己選択、自己責任。私は今世こそ、その間違いに心で気づき、修正をしていく。その機会を幾度もいただきました。「あなたは愛です」と、そう心の中から伝えてくれる温もりの中へ、帰っていきます、という思いを感じました。

自分を縛る思いを感じたら、ぎゅっと掴んだものを離す。

「あなたは愛です」のセミナーで何度もそんな心の体験をさせていただきました。

原点に戻ってまた思いを振り返る。「あなたは愛です」のセミナーはそんな私の原点です。

あなたは愛ですセミナー
第２回動画

WEB瞑想会関係者セミナー参加者の声

（2014年8月10日～12日）

台風11号接近下、橿原ロイヤルホテルで開催されたセミナーです。若干の交通の乱れはあったものの、無事、支障もなく開催されたことが、今になって思えば不思議でもあり、ありがたくもありました。

WEB瞑想会関係者セミナー

WEB瞑想会関係者セミナーに参加して／安西志保美

私は、肉の自分が肉の力で肉の人生を切り開いていく、そして幸せになってやるという思いが非常に強かった。

我は神なりのエネルギーを基盤に、この思いを田池留吉に突き付けてきました。

間違っていると頭で思っていても、心で気付けませんでした。

でも、肉の人生は、どんなに努力して頑張っても、その努力に見合った結果が出ない、ガツンと大きな壁に突き当たったようにどうにもならないものを感じていました。

そして、今回のセミナーの直前から、自分の向いている方向が間違っているのだと少しずつ心で気付き始めてきました。

私が間違っていたのだと思いました。

以前から、田池先生の言われることは一通りやってきました。

今でしたら、必須三題と課題四題は、自分なりにやっていました。

でも、私の基盤は肉であり、その肉の自分は「我は神なり、我を認めよ、我に従え」と叫ぶエネルギーでした。

密教のパワーをはじめ、今まで自分の中に作り上げてきたたくさんの神仏、宗教者のエネルギーを基盤に肉で頑張ってきた、その思い、その方向が間違っていました。

今回セミナーに参加させていただいて、はっきりとその間違いを確認しました。

そして、嬉しかった。本当に嬉しかった。

私は間違っていたと気づけたことが本当に喜びでした。

田池留吉に向けたとき、今までは、密教のパワーで田池留吉を殺し、母親を殺すエネルギーしか出ませんでした。

我は神なりと誇るエネルギーが噴出してきました。

でも、7月の琵琶湖セミナー辺りから少し変わってきたような感じがしました。

今回のセミナーでは、そういうエネルギーがお母さんを呼んで、狂いながらも喜んでいるように感じました。

お母さんごめんなさい、お母さんありがとうの思いが噴出してきました。

愛に向け、宇宙に向け、反発する思いも出ました。
愛が何だ、田池留吉の宇宙が何だ、私の宇宙の方がずっとずっと素晴らしいと、自分が支配し君臨（くんりん）する宇宙を絶対に崩すまいとするエネルギーもたくさんたくさん出ました。
でも、嬉しい思いも出てくるのです。
自分でも不思議でした。
宇宙に向けてあれほど苦しかったのに、喜びが爆発するように体が動いていくことが不思議でした。
苦しみと喜びが混在しているような感じです。

ワンポイントメッセージでいただいたように、お母さんの反省を中心にしっかりと学びを進めていきたいと思っています。
お母さんに使った心をしっかりと見て、修正して、苦しかった自分を優しい思いで包んでいけるような自分に変わっていきます。
必ずお母さんの温もりを心に広げ、自分を変えていきます。

今回はWEB関係者の少人数セミナーに参加させていただき、本当にありがとうございました。
貴重な体験ができました。
神奈川県のみなさんに、心から感謝しています。

無限の空間を感じました／宇田美津子

私には縁がないと思っていた少人数セミナーに思いがけなく参加させていただき、本当に感謝です。
本セミナーとは格段の差がありました。田池先生や塩川さんが真近にいらして、その波動がビンビンと伝わってきます。愛の波動が凝縮（ぎょうしゅく）されていて800人の会場とは全然違うと感じました。本セミナーの会場でも愛の波動は同じように流れているのでしょうが、やはり大会場では拡散されていくのはしかたのないことだと思いました。
今回の勉強会で強く感じたことは、自分では「心を見ている」「私は意識だ」と信じてきたつもりでも、私の思いは「肉」の次元でしかなかったということでした。それがワンポイントメッセージで指摘された「自分を小さな小さな中に閉じ込めていた」ことだったんですね。
「もっともっと素直に心を広げていって下さい」塩川さんのメッセージを受けました。先生に促（うなが）されて手を大きく大きく広げていった時、広い広い何もない無限の空間を感じました。肉のことなどどうでもいいと思いました。
私は「心、心」と言いながら、必死に肉を整（ととの）えようと生きてきました。整えようとすればするほど、肉の世界はどんどん崩れていき、これでもかこれでもかというくらい何にもなくなりました。

しかしすべてが愛でした。
肉の世界では悲しい、苦しい、辛い、くやしい、寂しいことも、意識の世界から見ればすべてが愛でした。
「肉の心」と「意識の心」の違い、ああ、こういうことだったのかと、22年目にしてようやくはっきりつかんだような気がします。私が求めている真実はここにしかないと今まで漠然と信じて、私なりに真面目に学んできたつもりでしたが、「つもりはつもり」の域を出ていない、私にはスパッと切るいさぎよさがないのです。いつまでものんべんだらりと肉にしがみついて、ぶつぶつ、ぐちゃぐちゃとやってきました。
厚い雲間からようやくすっきりとした青空が見えてきた今、私はスコーンと厚い雲をぬって、あの無限大に広がる青空へ、宇宙へ心を広げていきたいと思いました。
様々な愛のグッズを用意して下さって、至れり尽くせりの方法で私たちを導いて下さっている先生、塩川さん、周りのスタッフの皆様、そして快く私を送り出してくれた岩手、青森の仲間たち、本当にありがとうございました。

ここからは、岩手ではセミナー以外みんなで集まることがなかなかできないので、岩手の仲間に報告するつもりで
雑談的に書かせていただきます。

・うれしかったこと

① 台風11号が接近しているなかでのセミナーでしたが、私は8月10日は花巻空港から名古屋の小牧空港に飛び、名古屋から近鉄特急で橿原神宮に行くつもりでした。朝9時出発の直前、岩手の仲間のOさんから「台風だけど大丈夫か」とメールが入りました。それから延々と午後3時にセミナー会場に着くまで、飛行機が無事着陸できたこと、特急が運休のため急行で3時間かかって橿原神宮に着いたことなどを報告しながら、メールのやりとりをしました。ここに参加しているのは私一人ではない、仲間とともに学んでいるんだと実感でき、うれしかったです。

② 同室のMさんに私の話を聞いてもらい、またMさんの話を聞き、全く違う人生を歩んできた二人だけど、求めてきたものは同じ、目指すものも同じ、「あなたは私、私はあなた」を感じました。

③ 2日目、お風呂に入っている時、陽子さんと静香さんが来られ、偶然隣に座られたので、少しお手伝いさせてもらうつもりで、陽子さんの背中を流させてもらいました。温かいやさしい波動が伝わってきました。陽子さんの背中は赤ちゃんのように柔らかかったです。お母さんのぬくもりと0歳児の波動を同時に感じました。

④ ホテルの部屋の窓から真近に見える橿原の山々、やさしいな

と思いました。それは夫の故郷伊勢の山々と似ていました。どこかなつかしさを感じました。

⑤ 杉村さんの生伴奏で「ふるさと」を歌えたこと。杉村さんの演奏、オーケストラのように重厚で、かつ子守唄のようにやさしかったです。（歌詞をこの３日間で覚えるぞと意気込んでいましたが、頭で覚えようとしても、似たような言葉がたくさんあって、４番までなかなか覚えられなかったです。その点、子供たちは素直だからすぐ覚えられるんですね。すごいです。）

セミナーで感じた一番の宝物／大槻千鶴

３日目の前半のセミナー（トイレ休憩前）、体調が悪く、体調の心配ばかり。

田池先生の話は頭にすら残らず、心も外へ外へ。

「顔が暗い人が３人」「病気は自分が作っている」というような言葉に、先生に対する反発の思いが、出てくる。

心はさらに外へ。セミナーのことは全く耳に入らず、怒りと、さらに強い胃腸の不快感のみを感じて暫（しばら）くしたところで、十分休憩。

十分休憩。不思議なことが起こった。

誰も、目があっても挨拶をしない。避けて通られているような気がする 。

何故（なぜ）かわからないまま、後半へ。

前を出て、宇宙を思うことになった。色々と感じることがあり、心は自然と中へと向いていく。

講話はすっと自分の中へ入っていくようになった。

塩川さんの波動を思い、喜びでセミナーを終了。

なぜか先ほどと違い、声をかけてくれる人達。避けられていない。

なぜ、さっきと違っている。違うのは、私が心を外に向けていたぐらい。

それで気付いた。セミナー中、心は田池留吉から遠ざかっていた。

休憩中、すれ違った人達は、形でそれを示してくれた。遠ざかっていたのは私だ。田池留吉から離れている、と。

そこでふっと思った。

これって、意識の流れと同じじゃないのか。

違うものに心を向け、勝手に避けられたと思い、固まって、沈む。

一方、田池留吉に向いている意識達のみで進んでいく。

だから、心を内に向けていれば、喜び、喜びで、同じ喜びの意識同士が集まり、流れにのる。

セミナー前半の思いのまま肉を失っていれば、私は流れから自（みずか）ら遠ざかり、宇宙の藻屑（もくず）となるところだった。

この、感じた思いは違うかもしれない。

だけど、違ったら、違うよ、と信号がくる。だから、今はこれでいい。

　このことに気付かせてくれた意識は、なんて、なんて優しいんだろう。
　これが、今回のセミナーで感じた、一番の私の宝物です。

　そして、もうひとつ。
　２日目にチャネリングしてもらったあと、先生が「今出た人はスパッというのができない」と言った。
　２日目でグッサリ自分に刺さったのはこの言葉だった。
　本当に、肉でもスパッと止める・始めることができない。ダラダラが私だ。
　でも、折角(せっかく)突き刺さった言葉だ。
　母親の温もりを感じるために、反省・瞑想をしっかりとやっていきたい。
　そして、瞑想日誌。もうすでに始めている。
　瞑想日誌に書くことは田池留吉を遠ざける思いばかりなのに、読み返すと、何故(なぜ)か嬉しい。
　闇を温もりへ返していきたい。
　ありがとう。

「WEB 瞑想会関係者セミナー」体験談 ／後藤糸恵

　とてもうれしい幸せな３日間でした。参加できたこと、参加させていただけたことがとてもうれしく、ありがたく、感謝しています。ありがとうございました。
　前日の台風から「もう始まってるなー」と思いました。電車で通る予定の三重県に警報が出ていたけれど、なぜか心は落ち着いていて「なるようになる、なんとかなる」と思っていたら、結果、セミナーの始まる前にホテルに到着することが出来ました。
　ただこのような場で学ぶ機会が得られたことがうれしかったです。とても贅沢(ぜいたく)な時間でした。
　ワンポイントでは「お母さんの反省から始めてください。お母さんに使った心をもう一度丹念に見つめてください。」ということでした。そして田池先生から（お母さんの温もりが分かっていないので）「本当の世界では劣等生」というコメントをいただきました。厳しいけれど、私には大切なポイントであり、コメントでした。
　だけど、愚かな肉は少し落ち込んでいました。その日のセミナーの後、お風呂に行ったら、香世さんが湯船でふるさとを口ずさんでいました。少し離れたところで聞いていたら、何か心に響いてじわーーーっと涙が溢(あふ)れてきました。劣等生に補習授業をしていただいたように思ってうれしかったです。
　３日目の宇宙に向ける瞑想は「待ってました。私は宇宙に向けた

かった」という思いがしました。席でと前に出て向けさせていただいて、何も分からなかったけれど、「よかった。うれしかった」という感想です。

香世さんが前に出ての瞑想は、何か分からないけれど心が反応して叫んでいました。頭を回さず素直に思いを出していこうと思います。

セミナー会場以外でも、お部屋の人も、参加者の方もみんないい雰囲気で、楽しくてやさしい時間を過ごさせていただきました。こんなすばらしい学びに集えてつくづく幸せだと思いました。だからなおのこと、しっかりと結果を出していきたいです。

帰るときに田池先生と香世さんに挨拶する機会があって、にっこり笑って手を振ってくれたこともうれしかったです。

セミナーを終えてから自分を振り返ると「なんて己が偉いんだろう」と思う自分ばかりが見えてきました。そこまで自分を聳え立たせることができるのは、神を握っているからに他ならないと思いました。「私は素晴らしい。私ほど素晴らしい者はいない。」この思いがこびりついている私はアマテラスに向いているのだと思いました。「少しは田池留吉に向いているだろう」とんでもない甘い考えでした。

もう一度、母に使った心を見つめることから始めて、お母さんの温もりを心で分かるようになることを目標に、絶対評価で日々反省と瞑想を積み重ねていきます。

思うことを大切にして素直に心を見つめていこうと心新たに思いました。

WEB 瞑想会関係者セミナー(最終日　2014 年 8 月 12 日)

根本的に間違っていました／野﨑和佳子

今回もまたワンポイントメッセージをいただきました。

「あなたも自分の心を見つめてください。聳え立っている心があります。『時間を作ってください』と前回のセミナーで申し上げました。どうぞどうぞご自分の心をもっともっと見つめる時間を作ってください。」

はい。ああ、聳え立っていました。聳え立っていた。イエ、聳え立っているということの意味をはき違え、どれだけ聳え立ってきたのかを自覚することのないまま、のうのうと、本当にデカい顔をして、図々しく、当然のように、当たり前のように存在をしておりました。

少しずつ、少しずつでありますが、その聳え立っている自分を思った時「恥ずかしい、顔から火が出る、どのツラ下げて、何様のつもり、無知……」そんな感覚がグルグルと自分の中を駆け巡ります。聳え立っているの意味をはき違えてまいりました。聳え立っているという本当の意味がわからないまま来てしまいました。

間違ってきた自分がどれだけ受け入れられているのか、闇をまき散らしてきた自分に真実を伝えてくれている田池留吉のありがたさ、すごさ、そこに対する感謝の思い……。私の「ありがとう」は薄っぺらかった。自分で感じます。どんなに涙を流して絶叫しようとも、私のありがとうは薄っぺらかった。どれだけ受け入れられているのかわかっていなかったから、どれだけ間違い続けてきた上で許され愛されチャンスをいただいたのかわかっていないから、「ごめんなさい、ありがとう」と思えば「ハイ喜び、ハイ嬉しい、ハイ出来た、ハイわかった。」……幼いというか幼稚というか。心の見方が浅い。チャンスを生かし切っていない。まだまだ自分に都合のいいようにしか心を見ていませんでした。

田池留吉を軽く見る思い、バカにする思い、疑う思い、あしらう思い、委ねきれない思い、舐めている思い、あります。あります。あります。あります。さらにそれらを反省につなげることなく野放しにし、でも先生にはバレてはいないだろうという思い。聳え立っていながら、一生懸命に学んでいる自分を前面に出しているつもりで頭隠して尻隠さず、愚か。客観的にというか、そんな自分を感じれば感じるほど、肉でも本当に顔から火が出る様な恥ずかしさを感じます。

ですが嬉しい。落ち込んでいる場合ではない。とにかく前を向いて、恥ずかしいからと言って隠れて間違っている部分を直してまた直ったら出てくるとか、そういうんじゃない。

はい、そうです。どんどんどんどん田池留吉に向いて行ってください。もっともっともっともっと田池留吉に心を向けて行くんです。愚かな自分、間違ってきた自分、どうしようもないほど聳え立って

きた自分、それにも気づかずに当然のような顔をしてのさばってきた自分等々、そんな自分をしっかりと自覚しながら受け止めながら、前を向いていくんです。田池留吉に向いていくんです。まだまだまだあなたの心の見方は甘いです。もっともっと掘り下げてご自分の心を見てください。愚かな自分に気付いてください。ありがとうの思い、厚くなりますよ。熱く、そして厚くなりますよ。愚かな自分に出会うことは喜びです。人ではありません。自分です。「はい、どうしようもないほど聳え立っておりました。でもその事に気付けて本当に嬉しいです」と心の底から言えるあなたになってください。頭の反省はいりません。共に喜んでいきましょう。共に喜べるあなたになってください。待っています。

以前、友達の現象での姿を見ていて「どうしようもない自分でした」という思いを感じました。「でもそれが嬉しい。こんな自分が学べることが嬉しい。こんな自分に真実を伝えてもらえて、田池留吉ありがとう、ありがとう、ありがとう、ありがとう、嬉しい、ああ本当に嬉しい、ありがとう、ありがとう。」そんな思いが伝わってきました。今回のセミナーで別の友達からも同じような事を感じ、ごめんなさいの深さ、ありがとうの厚み、質が私とまったく違うことを感じながら感動をしてしまいました。相対評価になってしまいますが、友を通して学んで行ける、それもまた嬉しいし、ありがたいです。

今回の体験を無駄にしないように学んでいかなければ、生まれてきた意味がありません。日々の瞑想の時間を大切にしながら自分の愚かさにもっともっと出会っていく、それが次に続く喜びの流れ、ワンポイントからいただいた課題だと感じています。

貴重な少人数セミナーに参加させていただいて本当にありがとうございました。

チャネリングセミナー参加者の声

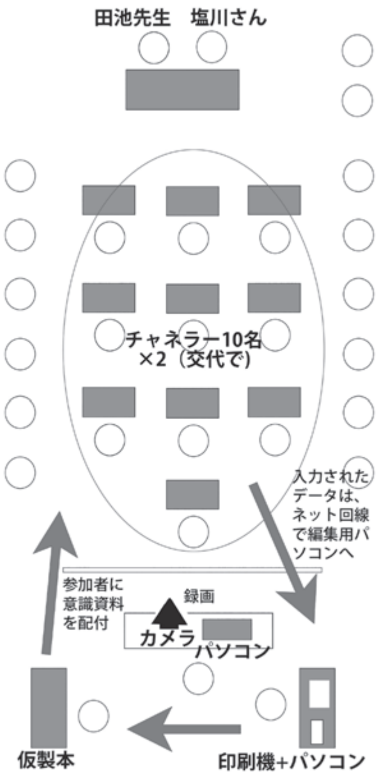
（2014 年 10 月 13 日 ~15 日）

このセミナーは田池留吉の意識をチャネリングで受けるという練習のため、全国から参加者 30 名を抽選で選び、奈良県の橿原ロイヤルホテルに集まってのセミナーでした。台風 19 号が日本を縦断する中で開催され、WEB 瞑想会関係者セミナーと共に「嵐を呼ぶセミナー」となりました。

田池留吉の意識を受けるというのは、田池留吉という一人の人格の意識をチャネリングで受けるという意味とは随分と異なるように思います。田池留吉が示す世界観、つまりは意識の世界、本当の自分とか、究極の愛のエネルギーに思いを向け、そこから自分に伝わってくるものを感じることだと思うのです。

ということは、受ける人が、その軸足を肉の次元に置いているか、意識の世界に置いているか、つまりは「意識の転回」がなされているかどうかが問われるのが、田池留吉の意識を受けるということだと思います。そして、田池先生が存命中に、この練習をしておこうというのが、このセミナーの狙いでした。

そこで、体験者の思いを聞く前に、まずは、このセミナーで出された 36 名（参加者 30 名＋スタッフ）の方が受けた「田池留吉の意識」を以下に紹介します。



セミナーでは、1 日目に田池先生と塩川香世さんによる導入があり、2 日目の午前中、グループに分かれ、持参したパソコンで田池先生の指示にしたがって、それぞれが受けた意識を入力する作業が時間を限って行われました。

参加者の皆さんが受けられたデータは、その日のうちにプリントアウトし、仮製本して田池先生以下、参加者に配布し、3 日目（最終日）は、その結果を踏まえての勉強会になるという流れです。

田池留吉の意識を受ける

① 毎日、瞑想していますか。田池留吉に向ける瞑想が究極の反省です。たゆまず、繰り返し瞑想してください。それがあなたの仕事です。そうすれば、あなたが何ものかわ

かってまいります。あなたは愛ですよ。あなたは喜びですよ。意識の流れを感じてください。すごいでしょう。うれしいでしょう。愛に目覚めてください。

② お母さんの温もりを感じていますか？ お母さんの温もりがどれだけ大事か心に響いてきていると思います。
焦らなくていいんです。けれどもしっかりとお母さんの反省、そしてお母さんを思う瞑想、ゼロ歳の瞑想をしてください。心の中の意識、たくさんの自分が待っていることをもう心で十分感じているはずです。自分の中に針をしっかりと向けて、そして、優しいあなたを信じて伝えていってほしいのです。日々動く心、付き上がってくる思い、愛だと信じられますか。共に帰りましょう。そんな優しい思いを向けられるあなたになってください。
自分の心を救いたかったから生まれてきたのでしょう。
お母さんに産んでもらったんでしょう。お母さんの意識があなたに伝えてくれている思いをもっともっと心で感じてほしいのです。愛でないものなど一つもない。そのことを心で分かるまで心を見続けてください。ありがとうございました。

③ 愛は喜び、愛はぬくもり、愛はパワーこの愛はあなたのこれからも永遠の指針です。いつもいつも愛を思い、その愛をどのように自分が感じているのか検証することが大切です。反省をする、その反省をする中であなたがすることは愛を思い、ただただ愛に心を向け、お母さんのぬくもりをその心に広げていくだけです。無限の広がりです。

④ あなたの本質に目覚めてください。あなたは愛、愛が本当のあなただということに目覚めてください。日々心を見ていますか。自分の優しさに気づいていますか。苦しみが本当のあなたではないことに気づいていますか。お母さんを思っていますか。優しい思いでお母さんに心を向けていますか。田池留吉はどうでしょうか。あなたが向けている先は本当に田池留吉でしょうか。日々心の精査をしていってください。苦しいあなたに出会ったら、優しい思いで苦しみを受け止めていってください。苦し

みは苦しみではありません。その苦しみを通して本当のあなたに気づいていてください。あなたの中で沢山の本当に沢山の苦しみが待っています。思いを向けてくれることを待っています。その苦しい思いとともにお母さんのふるさとへ帰っていきましょう。帰っていけるあなたを信じてください。今世生まれた目的を思い出してください。あなたを産んでくれたお母さんの思いを心に思い起こしてください。優しい思いで今ある苦しみを包んでいってください。あなたの心は大きいです。もっともっと大きくて広い心です。本来のあなたに蘇(よみがえ)ってください。苦しみは苦しみではありません。苦しみを喜びに変えるパワー、愛のパワー、あなたの心に呼び起こしてください。ともにともに帰っていくパワー、あなたの本質に目覚めてください。

⑤ 今あなたはこの会場に座っておられます。あなたの心を私に向けておられます。この波動を、この優しい思いの世界を、どうぞこれからの学びに役立てていってください。
私たちは、ひとつです。それぞれ肉は違っても意識のあなた達はひとつの愛ひとつの温もりです。心に作ってきた苦しい思いをひとつづつ思い出し包んでいってください。待ち続けるあなたと共に進める幸せを感じていけるあなたになっていってください。優しいあなたの世界に進んでこられることを私は、楽しみに待っています。

⑥ 愛はいつもあなたの中にあります。
常に外に心を向けているご自分を見てください。
私は肉のあなたに、何も求めてはいません。
ただ、田池留吉に心を向けていくのです。
肉ではないご自分を信じてください。
本当は溢(あふ)れるばかりの愛の中に存在しています。
肉ではないあなたは、愛なのです。
意識です。
意識を信じていくのです。
私はあなたにいつもお伝えしております。
心を見てください。
肉ではなく、心を見て本当のあなたが大きな愛であることを信じていってください。
時はきます。
肉にまぎれている間に、時がきます。
そのときに、あなたはどんな心を出しますか？
私は愛ですと、心から思えるでしょうか？
大きな愛の中に存在しているご自分を信じているでしょうか？
私は、いつでも待っております。
田池留吉に心を向けていく、それがすべてなのです。
ありがとうございました。

⑦ 田池留吉は愛です、あなたも愛です。そして、今日は、「私は神ですとお伝えしました。当然、あなたも神です。神でない神を心につくりあげてきたあなたの歴史を、どうぞ元あった自分、愛に返してください。我は神なりと宇宙に君臨（くんりん）してきたたくさんの自分に、私は愛です、ともにともに帰りましょうと伝えてください。
真実はひとつ、私たちは愛です、神ですと、心に広げていきましょう。喜び、温もり、優しさ、それがあなたです。母の温もりの中で生かされ続けてきた自分たちであったと、どうぞ喜びの声を大にしましょう。
たくさんの仲間たちが待っています、宇宙たちが待っています。これからの激動の時を、喜んで喜んで迎えていきましょう。私は愛です、あなたも愛です、私は神です、この言葉をいつも送っております。どうぞ心をひとつにして、ともにともに愛に帰りましょう。

セミナー２日目の午後、水の反転を通しての勉強

⑧ あなたは田池留吉を小さく小さくとらえています。あなたが仕事をするのではありません。田池留吉が仕事をします。愛の仕事します。田池留吉が愛の仕事をします。メッセージはいつもいつも流れています。愛の仕事をします。愛の波動が仕事をします。愛はいつも流れています。あなたは田池留吉に心を合わせるだけです。あなたが仕事をするのではありません。しかし、あなたも、あなたも愛だと信じてください。あなたが愛だと信じてください。あなたが信じた愛、それが仕事をします。田池留吉、愛を信じる分だけ、愛が仕事をします。肉のあなたが仕事をするのではありません。愛が、波動が、愛のエネルギーが仕事をします。あなたは愛です。どうぞ心から信じられるあなたによみがえってください。ありがとう。このチャンスをありがとう。どうぞ喜んでください。このチャンスを活（い）かして、勉強を進めてください。あなたは愛です。

⑨ あなたは愛です。信じて信じていくのです。私に心を向けて受けていってください。心を広げていってください。あなたは愛です。

⑩ 信じてください。信じてください。
あなたが愛だということを信じて、進んでいってください。
母のぬくもりを思い出して下さい。
あなたは愛なんです。それを信じていってください。
しっかりしっかり、自分の心を見ていってください。

⑪ あなたは私、田池留吉は愛だと本当に信じていますか。その信はどの程度でしょうか。しっかりと、しっかりと田池留吉に心を合わせられるようになってください。そこから流れる愛の波動を、心で感じてください。
私は愛です、あなたは愛です。この波動、思いを伝えていきましょう。あなたが愛を信じた分だけ、愛が流れます。あなたは愛を信じているか、いつもいつも自分に問いかけていきなさい。
田池留吉を思い、私は愛だと確信していきましょう。
愛が待っています。沢山の意識たちが待っています。愛に目覚めていくこと、それがあなたの人生です。

⑫ ありがとうございます。喜んで喜んで歩いてください。肉で幸せになれなかった……心の歴史の中で千載一遇のチャンスを今世いただいています。どうぞ信じてこの道を歩いてください。喜びの道です。共に共に歩いてください。待って待って待ち続けているあなたの中の意識と共に……心を田池留吉に向けて歩いてください。
あなたの中で待ち続けています。あなたは愛です。喜びの意識、愛です。信じて歩いてください。

⑬ あなたは喜びの嬉しい嬉しい存在です。それをしっかり信じていって下さい。喜びだけです。すべてがそうです。あなたの心の中にすべてがあります。苦しい思い、嬉しい思い、沢山の闇の思いもあります。それらすべてが愛です。愛しか存在しないのです。それをあなたの心で証明していって下さい。

⑭ はい、素直になればいいんです。ただ、それだけです。
ああ、私はできない。なぜ呼ばれたんだろう。それは傲慢です。
誰でもできる。それを信じていってください。素直に、素直になっていってください。
もっともっと心を広げていってください。あなたは愛、素直に信じていきましょう。

⑮ 田池留吉です。私にしっかりと心を合わせてください。あなた

の心をしっかりと私に向けてください。私たちは愛です、とお伝えしてきました。あなたの中でどれくらい信が育っているでしょうか？ しっかりと自己評価をお願いします。
私たちは意識の流れをお伝えしました。
あなたの中にたくさんの愛があります。広がっていく世界がしっかりとあるんです。それを信じていってください。
小さな小さな世界にとまっています。もっと心を広げてください。本当に限りない世界が広がってまいります。宇宙、宇宙は待っています。宇宙にどんどん心を向けてあなたの思いを語っていってください。私たちは待っています。
喜び喜びで待っています。

⑯ 人間の本質は意識ですと伝えてきました。私もあなたも意識ですと伝えてきました。
意識とは愛です。
そして愛とはすべてです。
そのことをあなたの心で知っていってください。

⑰ Each and everyone of us is love. Each and everyone of us is consciousness, Each and everyone of is energy. Do you understand that we are all energy?

This warmth, this energy is infinitely spreading. lt is so warm and all encompassing. When you think you know what this love is I want you to take that to the tenth power. What you know now is just a fraction of what the warmth is. Can you understand that?

Now is the time to make the right decision and return to the warmth in your heart. Now is the time to make the right decision and return to the warmth in your heart. Now the then is upon us all to return to consciousness. Please open your heart and feel this warmth and ready yourself to make the trip back to the warmth, to the core Now is the time. Your heart waits for you to return to the warmth.

⑱ 今日はお集まりいただきましてありがとうございます。このセミナーに来られる前のあなたの思い、台風 19 号に対してどのように思ったでしょうか。そして今のあなたの思いを見つめなおしてください。すべてが愛であることに気づかれたでしょうか。台風 19 号から流れる愛をあなたはどのように感じたでしょうか。私は一つの出来事から私へ対する信をどんどん強固なものにしていっていただきたいのです。すべてがあなたの周りのすべてが愛である、そしてあなた自身が愛であるという確信を

深めていっていただきたいのです。愛の中にすべてが存在する、それを知り感じることが今世のあなたが生きる意味です。みなともにともに愛に帰りましょう、心のふるさとに帰りましょう。
今日初めて神という言葉を使いました。素直に受け止めることができたでしょうか。もっと前から感じていたかもしれませんね。神という言葉がすとんと心に入ってきた、そのようであればいいと思っています。
この学びの基本、心を見る、そして田池留吉へ心を向け合わせる瞑想をかさねていってください。
ありがとうございます。

⑲ 私達は、次元移行に向けて学んでいます。いいですか、しっかりとメッセージを受けてください。どんなときも、田池留吉はいつもあなたにメッセージを送っております。どうですか、今のあなたは、まだまだ、私のメッセージをしっかりと受け取っていませんが、どうぞ、これからも継続して、メッセージを受けていってください。
間違って来た自分の思いを大きな愛の財産として勇気を持って前に一歩進んで下さい。ありがとう、ありがとう、お母さん、ありがとう、ごめんなさい。すべて間違ってきました。
お母さん、私は約束した事を思い出しふるさとに必ず帰ります。
田池留吉有り難うございます。

⑳ 母の温もりを感じてください。それがあなたです。母の温もりは愛です。あなたの闇を優しく包んでください。愛は永遠です。
愛しかありません。それを信じていくだけです。
心一杯に愛を広げてください。あなたの愛を小さく捉(とら)えないでください。あなたがいつもアルバートを思えるように瞑想の時間を取ってください。瞑想の時間は大切です。すればするほどアルバートに向いて行きます。
愛しかありません。あなたは愛です。心の中に愛があることを信じてください。田池留吉はあなたです。アルバートもしかりです。来世に繋(つな)いでください。来世アルバートに出会い、しっかりとアルバートの道を歩いてください。私は待っています。
私の波動を感じてください。あなたは私です。一つです。今まで苦しんできたあなたの闇に愛を伝えてください。愛は待っています。あなたがふるさとに帰ることを待っています。
あなたは愛です。しっかりと愛に向け、メッセージを受けてください。メッセージを受けることは喜びです。宇宙は愛です。
愛しかありません。喜んでください。私とともに四次元移行を果たしてください。
あなたは私です。しっかりと愛に向けてください。愛は永遠です。あなたの心がどこに向いているか、それを確認してください。
愛に違いはありません。一つです。愛の波動をしっかりと受けてください。

愛にしっかりと心を向けてください。あなたが信じれ信じるほど、愛は深まります。愛の中に生かされているあなたを信じてください。メッセージは愛です。愛を信じてメッセージを受けてください。

㉑ 私はあなたの心の中にあります。どうぞ、しっかりと私の方に心を向けてください。あなたの中の田池留吉に、あなたの心をしっかりと向けてください。あなたの中から、愛の波動をお伝えします。あなたは愛ですとお伝えします。この波動、愛の波動をしっかりと心に感じられるようになってください。
間違い狂い続けてきたあなたを受け入れていけるのは、あなたの中の愛だけです。真実を忘れ、ぬくもりを捨ててきたあなたを受け入れていけるのは、この愛の波動だけなんです。だから、私は愛を伝えています。愛を信じてくださいと伝えています。あなたは愛ですと伝えています。これが私の仕事です。あなたはあなたの中の愛に目覚めてください。それがあなたの人生、あなたの仕事です。それがあなたの中の約束です。

㉒ 私たちは、愛です。初めから、愛の中にありました。
嬉しいです､嬉しいです。本当に本当に嬉しくて仕方ありません。私、田池留吉と出会ってくれて本当にうれしいです。待っていました。あなたを信じて待っていました。本当に待っていたんですよ。私はあなたとは、肉の接点はありません。それでも、私はあなたを信じて待っていました。ありがとう､ありがとう､ありがとう。私は、あなたに感謝しています。私、田池留吉の証人になってくださいました。共に、共にこれからも学びを進めていってください。本当にありがとう。

㉓ 心をしっかりと私のほうへ向けてください。あなたの心は今どこへ向いていますか。もっともっと私を思ってください。
心を大きく大きく広げていくのです。自分を信じて心を広げていくのです。愛はあなたの心の中に溢(あふ)れています。
田池留吉を信じる心が、あなたの心を押し広げていきます。
喜びです。すべてが喜びです。どんなことも喜びにつながっていくのです。
田池留吉はすべての方々の心に流れています。存在しています。嬉しいですね。嬉しいですね。この真実を、皆さんの心に伝えていくために、私は肉を持ちました。
もっともっと私を信じてください。私を信じて信じて、あなたの心を広げていくのです。
肉のことはもういいのです。ただただ私に心を向ける、一途に思う日々と出会ってください。共に歩いていきましょう。共に歩いていきましょう。共にあることを心より信じて、心より喜んで

いけるあなたであってください。
田池留吉です。

㉔ 喜びです。優しさです。温もりです。あなたの心に響いてきたものを信じてください。あなたの肉は何も出来ません。あなたはただ私、田池留吉に心を向けるだけでいいのです。お母さんの温もりを思い出してください。お母さんをただただ思うのです。そしてあなたの中の苦しい思いを包んでいく、共に帰ろうと呼び掛けていく、その作業を日々淡々と喜んで進めていってください。あなたはそのための時間をたくさん用意しています。そのことを喜んで喜んで、ただひたすら瞑想の中で感じた温もり、お母さんに伝えてもらっていた喜びを信じていってください。あなたが今そこにいることがどれだけ幸せなことなのか、どれだけあなたが望んできたことなのか、どうぞ何度もあなたの約束を思い出していってください。あなたのこれまでの人生を振り返りながら、そのすべてがたったひとつの方向を示していたことを感じながら、あなたの出してきた凄まじいエネルギーと共に、愛へ帰る道を歩いて行こうと呼び掛けていってください。

㉕ いつもいつも私に心を合わせてください。それがすべてです。それがすべてなのです。それ以外は何もありません。合わせて私とあなたは一つだということを知って行ってください。私は愛、あなたも愛、共にひとつ、永遠に一つ。いつも私に合わせてください。過去も、現在も、未来もすべてひとつとなって私に合わせてくださり、そして私のもとへ帰ってきてください。私は待っています。永遠に待っています。これからも待っています。帰ってくるのを今か、今かと待っています。宇宙に心を向けてください。宇宙は本当の故郷。宇宙が故郷が待っています。心で待ってくれている宇宙を知っていってください。今か、今かと待ってくれている故郷を知っていってください。私は愛、あなたも愛、信じてこの学びを進めてください。

㉖ 思って思って思って行きなさい。
ただただ誠実に純粋に田池留吉を思って行きなさい。そうすれば、あなたの中で愛が仕事をします。
あなたと私は一つだからです。ああああ
嬉しい嬉しい中からぬくもりが、愛がせりあがってきます。ぬくもりです。喜びです。私はあなたでした。初めに愛がありました。愛が全てでした。すべてが愛でした。このメッセージを頂いてから何年もの年月が経ちました。でも、いま心に上ってきます。そうです。初めから愛しかありませんでした。ああああ田池留吉、あなたは私の全てでした。私とあなたは一つでした。ありがとうございます。ありがとうございます。ああああお母さん、お母さん、ありがとう。ありがとう。ありがとうだけが私の心

を満たしています。ありがとうございました。

㉗ あなたの思いを信じてください。
心に響いてくる思いを大切にしてください。

㉘ あなたのお母さんを思ってください、いつもいつもあなたのことを待っているお母さんを、いつも思ってください。あなたの心がもっともっと広がっていくでしょう。もっともっと心を広げていきましょう。あなたはずっとずっと愛されてきたことを知ってください。あなたはずっとずっと待ってもらっていたということを、心で知ってください。あなたの心の中で、ずっとずっと、今もこれからも、ずっとずっとお母さんは待っています。そのことを心で分かってください。「お母さん、ありがとう」と言えるあなたになってください。

㉙ もっとあなたの中を信じていって下さい。あなたの中の田池留吉を信じていって下さい。あなたは偉大なのです。あなたの中は偉大なのです。外ではありません。あなたの意識、中の存在を信じていって下さい。本当の自分が確実にあなたの中に存在していてます。長い年月の中、外に心を向ける事しかしてこなかったあなたは、本当の自分を忘れ去ってしまいました。そうではないのです、真実はすべて自分のなかに存在しているのです。あなたの中に本当の愛、田池留吉は存在しているのです。信じて、信じて、信じ続けて下さい。

㉚ 田池です。己を誇(ほこ)る思いを見ていってください。己を誇り、自分を表そうとすることを人類は延々とやり続け、自(みずか)ら落ちていってしまいました。己を誇る思い、エネルギーを膨らまし続ける限り、人類は帰ってはこれません。真実は絶対にわかりません。「母親の温もりです」と肉の田池留吉は伝えました。そうです、母の温もりだけが、真実に帰る道です。母の温もりを思い出し、母の温もりをその心の中によみがえらせていったとき、真実への道が心の中に見えてきます。
どうぞ、母の温もりを思い出していってください。誰と競争するのでもなく、自分の心ですべてが分かってきます。あなたは愛、あなたは私、私はあなた、一つということが、あなたの心でわかっていきます。そして、その心の中に愛のエネルギーが膨らんでいきます。どこまでもどこまでも膨らんでいき、苦しみ、さまよい続けた宇宙に真実の愛が伝わっていきます。
今という時を大切に過ごしてください。肉ではわかりません。今という時の大切さ、凄(すご)さはあなたが頭で思っていることよりも、想像を絶するほど物凄いことです。
どうぞ、一歩一歩、田池留吉が指示した道を歩いて行ってください。肉は愚かで良いです。しかし、肉がなければ真実はわ

かりません。己を誇る、真実から遠い遠いエネルギーであるということ、そしてその思いを修正し、その思いと共に帰ってきてくれることを私は待ち続けています。どこまでもどこまでも待ち続けています。

㉛ あなたの心をいつもどんな時も田池留吉に心を向け、合わせることをしていくことが大切なのです。私は、あなたの心の中に存在している田池留吉です。あなたが、私を思うとき私はあなたにいつもメッセージを送っています。

参加者 36 名が受けた意識に目を通す田池先生

㉜ ありがとうの思いを大切にしてください。あなたの中に沢山沢山詰まっています。今まで言えなかったんです。今まで田池留吉を知らなかったから、あなたは田池留吉にありがとうと言えませんでした。今世出会えました。だから言ってください。その思いを出してください。あなたの中にたくさんたくさん詰まっている「ありがとう」の思いを、田池留吉に向って出してください。

お母さん、ありがとう、産んでくれてありがとう。その思いも同じです。一緒です。あなたが今まで出してきた「ありがとう」はすべて偽物です。本当の「ありがとう」の思いを、これからどんどん出していってください。使っていってください。

㉝ この地球になぜに生まれてきたのですか？ 生まれてきた思いが突き上げてきます。
思いを受け止めることができますか。

はい。受け止めました。

㉞ お母さんのぬくもりに帰って行きましょう。田池留吉はあなたの中で、ずっとずっと語り続けています。田池留吉に思いをむけ、お母さんを呼んでください。素直にただただ思ってください。
ずっとずっと、寂しかったあなた、愛を忘れたあなた。これから、それを包む本当の人生を、あなたの足で一歩また一歩と歩んでいきましょう。

㉟ 自分を知ってください。本当のあなたを知ってください。自分の中の愛を知ってください。自分の中のぬくもりを知ってください。ただただ、あなたの中をどんどんどんどん知っていってください。

私は愛、あなたは愛、ひとつ。ただそれだけです。いつもいつも待ち続けてきたあなたに出会っていってください。

生まれたいから生まれてきました。愛に帰りたいから生まれてきました。ぬくもりに帰りたいから生まれてきました。あなたの声を聞いて行ってください。待ち続けてくれたあなたを知ってください。

㊱ お母さんはあなたを待っています。

あなたの心の中であなたを待っています。

どうぞお母さんの信に応えてください。

心を田池留吉に向けてください。

やさしい温かいお母さんの温もりを心に広げてください。

あなたの苦しい心をやさしい思いで包んでいけるあなたとなってください。

チャネリングセミナー動画

チャネリングセミナーに参加された方々の感想

安西志保美さん（2014 年 10 月 18 日）

今回のセミナーも、本当に嬉しい嬉しいセミナーでした。

セミナー２日目、みんなで一斉に田池留吉に向けてメッセージを受けたとき、本当にうれしかった。

あんなにも喜びの思いの中でメッセージを受けたのは初めてでした。

メッセージをパソコンに打ち込んだ後も瞑想をしていて本当に嬉しかった。

ただただうれしかった。

お母さんありがとう、田池先生ありがとうと思いました。

嬉しかった、ただただ私は嬉しかった、受けたメッセージが本当の田池留吉のメッセージでなくても、とてもうれしかった。

それで十分でした。

チャネリングということについては、この学びに集って間もないころからいろいろ悩んだり疑問を持ったりしてきました。

自分では A さんの意識だと思って受けていても、本当に A さんの意識であるか、確証が持てないところに悩みがありました。

田池留吉のメッセージも同様です。
そして、ある時期から自分の受けるメッセージは本当の田池留吉のメッセージではないということに気付き、それでもメッセージを受ける意味はどこにあるのだろうかと思っていました。
チャネリングセミナーに参加すればその疑問が解(と)けるのではないかという期待もありました。

参加して、メッセージを受けることは本来喜びで、その点では、田池留吉に心を向けて瞑想することと同じなのだと思いました。
目を閉じて田池留吉と思っても、今の自分の段階では本当の田池留吉に向くことは難しい。
でも、少しでも向けばとてもうれしい。
だから、常に自分の状態を検証することは大切だけど、本物でないからどうしようとかあまり悩まずに瞑想しています。
メッセージを受けることもそれと同じでよいのだと思いました。

今の段階の自分が受けるメッセージは、愛に帰りたい自分が肉の自分に送っている思いなんだと感じました。
とてもうれしくなりました。
だから、メッセージの文言がUTAブックの本や田池先生の講話と照らし合わせて、内容に大きな誤(あやま)りがなければ、そのメッセージを大切に、自分なりに実行していこう、それが自分に対する誠意だと思いました。

セミナー中にスタッフの方々が配(くば)ってくださったホチキス留めのメッセージ集を手にし、全体を一読し終わった時、愛に帰ろうという思いを感じて本当にうれしくなりました。
３日目の田池先生の講話にあるとおり、すべて田池留吉のメッセージではないけれど、それでも私はうれしかった。
ホチキス留めのメッセージ集が、愛に帰る流れの中にあるように感じられました。
その中に肉を持って参加できたことが本当にうれしかった。
大きな台風が来ているときに、何の支障もなく開始から終了までセミナーに参加できたことに、愛を感じていきましょうというお話が田池先生からありましたが、本当にその通りだと思いました。
自分の中を振り返れば、心の底の底まで他力のエネルギーがいっぱい詰まっているのに、間違いだらけの自分なのに、一斉(いっせい)にメッセージを受けましょうというセミナーに参加できた、本物ではないけれどメッセージを受けて、真実の方向に向いていこうという流れの中にありました。
どんなに間違っていても、愛の中にありました。
愛に帰る流れの中にみんなみんなありました。
学びに集う人たちは、ともに愛に帰る大切な大切な仲間でした。
私はそれを感じられたことが嬉しかったのです。

何度もみんなでふるさとの替え歌を歌いました。
愛に帰ろうという思いの現れのように感じました。
本当にうれしかった。
優しい温かい波動も何度も感じました。

嬉しい嬉しいセミナーでした。
参加させていただけて本当に嬉しかった。
田池先生、スタッフのみなさん、一緒に参加してくださった皆さん、本当にありがとうございました。
セミナーで感じたことを大切にしていきます。

宇野直子さん（2014年10月20日）

一斉に田池留吉のメッセージを受けるお勉強の時間、パソコンの前に座って田池留吉に心を合わせた時、まず伝わってきたのは、「自分を知ってください」というメッセージでした。これは本当の自分、愛の中にひとつを心で知ってくださいというメッセージであると同時に、自分の現状、宇宙の底の底の奥底で凝り固まったあなたを知ってくださいというメッセージなのだと感じました。

セミナーに来る前より、「クソ田池、田池がなんじゃ、田池死ね、田池殺してやる」という思いがボコッ、ボコッ、ボコッと出てきて、心の中がざわつくというか、落ち着かない状態でした。

暗黒の宇宙の底の底の奥底で凝り固まっている意識たちに、何としてもお母さんのぬくもりを伝えていきたいという思いがあります。田池留吉を信じる信が強くなればなる程、愛が自然に流れていくのだということを、水の実験や、お部屋の仲間とのオーリングテストで、改めて実感させていただきました。

セミナーの後半は、底の底の底に握ってきた神・仏に心を向ける現象が何回もありました。数十秒出しただけでもヘトヘトになるのですが、先生が「次は３分いきますよ。」と言われた時、中から噴き上がってきたのは、「ああ、嬉しい、嬉しい、３分も出していけるんだ――」という思いでした。本当に私の中の意識たちは、この時を待ち続けていたのだと感じました。愛の中に自分のエネルギーを放出していくことが喜びでした。体はヘトヘトになるけれども、心は嬉しくて、嬉しくて、次から次へと「田池死ね、田池殺してやる、お前がなんじゃ」と噴き出してきました。まず、肉体を使って出すことが大切でした。出さないままで、愛を伝えたい、ぬくもりを伝えたいというのは、ズルイというか、順番が間違っていました。

だから、こうして生まれてきました。自分の中のエネルギーを、自分の肉体を通して存分に出していける今という時を、私は待ち続けてきました。出てきてくれた意識たちに、ともに帰ろう、狂って、苦しみ続けてきたけれども、ともにぬくもりへ帰ろうと伝えて

いくだけでした。

田池留吉をどれだけ信じているか、いつも自分と向き合いながら確認していきたいと思いました。

当日はパソコンを同時に何台も繋(つな)いだのに、エラーが出なかったことにびっくりしました。スタッフの皆さん、本当にありがとうございました。

岡田有弘さん（2014 年 10 月 20 日）

セミナーの始まるまえに、「ふるさと」の歌をみんなで歌っている最中に、不思議なことに「約束」「ふるさと」「わが友」「この道」のフレーズのところで、温かいぬくもりを感じました。そして、ずっと大きな声で歌いたい思いが出てきて、うれしくなりました。

先生の講話はこれまでにも話されていた内容でしたが、悉(ことごと)く納得、納得で、とくに、「肉はほどほどに、、、」というくだりが印象的でした。

「田池留吉の意識をを受ける」時には、心を田池留吉に向けて受けようとしました。パソコンのキーボードを打とうとするのですが、どんどん何か感じて、キーボードを思うように打てませんでした。

とにかく心に聞こえてくる言葉を、何とかキーボードに打ち込みました。

セミナー中の自分の「パッパッの体験」では、自分の思いを向けたコップのＯリングテストの結果と田池先生が向けられたコップのＯリングテスト結果に、あまりもの違いに驚き、驚きでした。その驚きが嬉しかったです。０．1秒の世界は凄(すご)いです。Ｏリングテストは心を科学する実験と思いました。

原因と結果がある世界でした。

セミナーの最後の日だったと思いますが、みんなで、①田池留吉に心を向ける瞑想、②田池留吉に心を向け、「肉体細胞に、ありがとう、ごめんなさい、ありがとう」の瞑想、③田池留吉に心を向け、心の底の底に向ける瞑想、をしました。3 番目の心の底の底に向ける瞑想は、凄かったです。表現することがうまくできませんが、金属のような硬いものから響いて出てくるようなエネルギーが出てきました。自分が作った神かも知れません。このマイナスのエネルギーが肉体を完全に支配していて、自分でどうすることもできませんでした。

数えきれない転生をして、数え切れない間違って人生を送ってきた結果、心には、まだ、まだマイナスのエネルギーが蓄積していると思いました。残された人生、毎日、毎日、心を見て、瞑想してマイナスのエネルギーをプラスのエネルギー・愛に帰る道を、真剣に真剣に進もうと思いました。

桐生由美子さん（2014 年 10 月 18 日）

今回、私はとても田池留吉のメッセージなど受ける状態ではないと思っていました。肉のいろいろなことで、心が満杯になっていて、苦しい状態でした。なので、メッセージを受けることは、できたらパスしたいと思っていたのです。

でも、いざその場に座って、皆さんと一緒に田池留吉に心を向けたなら不思議でした。

どんどん入ってくるのです。

肉のことで、闇の中にいるような状態でしたが、受けているうちに霧（きり）が晴れてくるのがわかりました。

ただ、田池留吉に心を向けていく。

そのことの、意味がよくわかりました。

その場に座らせていただけたことが愛だったとわかりました。

田池留吉のメッセージを受けることが大事なのではなくて、田池留吉に心を向けていくことが大事でした。

メッセージを受けることは、その中の一つのプロセスに過ぎないと思った次第（しだい）です。

ただ嬉しい時間をいただきました。

田池留吉に心を向けていく凝縮した時間をいただきました。

本当にありがとうございました。

近藤徳子さん（2014 年 10 月 18 日）

パソコンの前に座った時は緊張で、田池留吉に心を向けてから始まりましたが、キーボードを押すのも手が震（ふる）えていて、心に響いてきたメッセージを打たせてもらいました。その時に心に田池留吉の温もりが広がっているかなどは感じる余裕もなかったです。

終わったあとが何とも言えない心地良い思いを感じました。

パッ・パッのオーリングで、心にも肉にも響いてきた愛のエネルギーは、凄いの一言でした。「愛」の言葉を田池留吉氏が発せられるたびに、心が反応して喜んでいるし、私の肉体もそれに反応してだんだんと軽くなっていく、本当にすごいエネルギーを体感しました。

今もキーボードを打っていると、あの時の思いを思い出します。心が喜んでいる、ありがとうだけです。

自分の心の底の底の、底にあるエネルギーを体験と実感する瞑想の時間を頂きました。自分の中から噴（ふ）き上がってくるすさまじいエネルギーに驚きながらも、こんなものでないもっとすごいものが自分の中にあるのも実感しました。あの場にいたから思いきり出させてもらえたんだと。

今回の、２泊３日のセミナーで、セミナー会場だけでなくお部屋でも、いっぱいの心の体験をさせてもらいました。てんこ盛りの課題、私の肉は何もできないんだと、つくづく実感しました。

そして、私の意識が必死にこの馬鹿な肉に訴えてくれている思い

を、ひしひしと感じさせてもらい、知るセミナーでした。
　嬉しい、嬉しいセミナーでした。

平　里恵さん（2014年10月21日）

　一斉のチャネリング実験の当初、自分はメッセージを受け取れるのかと、一抹の不安を感じていました。しかし、ひとたびチャネリング前に田池留吉を思うと、そんな不安や緊張は霧散しました。そして、自分の思い違いに気づかせて頂きました。

　私は、「自分がチャネリング（仕事）をする」と思いこんでいました。しかし、いざ、あの場で田池留吉に合わせて実践してみると、仕事をしていたのは、愛のパワーでした。仕事をするのは、自分ではなく、田池留吉でした。自分が仕事をすると思うことは、田池留吉を小さく小さくとらえることでした。また、「波動が仕事をする」ということも、軽く軽くとらえていました。

「チャネリングにおいて、大切なのは言葉の正誤ではない、波動だ」という反省もしていましたが、それも根本が違っていました。たとえ、どんなに正しい言葉、波動を受けることができるようになったとしても、主体はあくまで、どこまでいっても肉の自分でした。そもそも主体が肉である限り、そこに正しさはあり得ません。にも関わらず、間違った土台の中で、「正しい瞑想」、「正しいチャネリング」、「正しい、正しい」を目標に掲げていたんです。

「愛を信じる分だけ、愛が仕事をする」も、いつのまにか自分勝手な解釈にすり替わっていました。「愛は自分が流すのでは無い」と、何度も聞いて分かっていたはずなのに、いつのまにか、「自分、自分」にすり替わっていました。

　学びの中で、「自分が」と思っている時点でずれている。それでも、自分ですべきことは何か？ 提示されている学びの手順を、しっかり踏むしかありません。まだまだ質的変換が起きる前の、肉の努力が必要なレベルです。気がつけば、「自分」を前に出して間違えていますが、努力し続けようと思います。

　また、「母の温もりに尽きる」ということも、改めて感じさせて頂きました。

　貴重な勉強のチャンスを頂き、本当にありがとうございました。

中村康一さん（2014年10月19日）

　自分は敏感ではないから、メッセージは受けられないという思いがあります。たとえメッセージを受けても頭でつくっているだけだしなと思ってしまう、今の自分はまだそんな状態です。ただ、心で感じることを大切にしていこうと思うようにしていましたので、今回も呼ばれたとき、一瞬たじろぎましたが、素直になってメッセージを受けて、そのとき何かを感じるかもしれないと思いやってみましたが、結果は頭がグルグル回り、正直、何もわかりませんでした。

ただ、そのあとに行った水の実験では、自分が持っているコップの水に田池先生が思いを向けた瞬間、一瞬、何かを感じました。そして、水の味を確かめて、あっ、まろやかだと、それは遅まきながら初めて思いました。

人と比較することはもうやめて、今の自分は、心で感じることを大切にしていこうと、さらに思いました。

野崎和佳子さん（2014 年 10 月 18 日）

今回はパソコンを持参して田池留吉のメッセージを一斉に受けるという、初めての試みに参加させていただきました。

普段肉的には一人でこもってする作業です。今回はガヤガヤと周囲に人がいる中で設定を確認したりしながら行ったので、周りを気にしないようとにかく集中。接続がスタンバイできた段階でパッパッと田池留吉に、そしてパソコンに思いを向けました。

「ありがとう」という単語が心にポワッと浮かんだのでそこに思いを向けてみました。

『田池留吉に出会えたから田池留吉にありがとうと言える、過去世は知らなかったから言えなかった、今世ようやく出会った、だから言える。田池留吉ありがとう。そしてお母さんの温もりありがとう。そのありがとうの思いをもっともっと大切にしていってください』……田池留吉に思いを向け自分が感じたその思い、波動を出来るだけ肉の思いを挟まずに文章化しました。受けていて「ああ、そうなのか、そうなんだ」と、そのメッセージに感動して、涙をボロボロこぼしながらパソコンのキーを叩いてしまいました。自分が出来る精一杯のことをやったと後悔はありません。

結果、翌日の先生のお話で「全員が田池留吉のメッセージではない」とのこと。予想はしていたのでショックは受けませんでしたが、あらためてA君の例え話を思い出しました。回答に間違いの線を引かれてもまた持って行く。間違っているとわかっていてもやり続ける……。間違っているからやらないではなく、その思い、そのエネルギーを確認しながら、本当の田池留吉に出会える時まで、ともにともにの思いで、またこれからも田池留吉と称するメッセージを受け続けてみようとあらためて思いました。

貴重な体験を本当にありがとうございました。

ノダショウジさん（2014 年 10 月 21 日）

２日目に頂いた資料を自由時間がかなりあったので何度も繰り返して読むことができました。自分が受けた内容がもっとも自分に響いてきました。何度も繰り返し読んでみるとそれはまさに田池先生からの遺言のように感じたからです。受けていた時はただひたすら受ける事に集中し内容云々に関してはあまり気にかけなかっ

たのだと思います。ひたすら受けた内容をこれから実行していきます。そうすることがワンポイントの課題をこなしていく事になると気がついたからです。

水島美恵子（2014 年 10 月 17 日）

参加に応募するときは、田池留吉に向いてない自分がメッセージを受けるなんてと尻込みしていました。でも応募２日前、自分の現状をはっきり知るにはこんな千載一遇のチャンスはないとメールを送信しました。そして抽選に当たった喜びもつかの間、台風が来てるさなかに出かけることや、足や腰に不具合をもちながら、重たいパソコンをリュックで担いで行けるかどうかの方が不安でしたが、段々と嬉しい思いが湧いて参加できました。それでもメッセージを受ける不安は残ったままでした。

１日目、水の実験で呼ばれ、順番を待つ間、心に響き渡っていたものは、あの場にある自分を思うと、ただただ、お母さん生んでくれてありがとうありがとう、お母さん嬉しい、ありがとうを連呼していました。パッパッの実験では相手の方のオーリングが自分でやった時よりも、先生の一瞬のパッのときは、岩盤のように固くて驚きました。後で自分がやったお水を飲みましたが、トイレのお水なんて嘘のようにまろやかでとろりとした水でさらに驚きました。これは誰もができるんですよとお話があり、お部屋で同室の方と何度かしましたが、２度３度同じ水でやると味も変わっていました。

水の実験をする水島美恵子さん（右）

印象に残ったことは先生が「私は神です。みなさんもですよ」と言い切ったことでした。25 年学んできましたが、先生の口から「私は神です」といわれたのは初めてでした。その時、ズズンと自分はなんてすごい学びをさせてもらっているんだろう、それなのにこれまでどれだけ学びを軽く捉え、先生の誠意をないがしろにして

きたのか、自分に懺悔でした。

　肉体細胞に向ける瞑想でも満身創痍の身を思うと、自己選択の結果がこうやって間違ってきたこと、肉体細胞にどれだけ逆らって生きてきたか、それでもこの場にあることを思うと細胞はどんな時もただひたすら愛を流して待ち続けてくれている。愛は無限、その思いがお母さんありがとう、ありがとうとなっていました。

　３日目の奥底の底の底の瞑想の３分の時はへろへろでしたが、心はすっきりして、喜びで嬉しかったです。コメントで、まだまだ底にあるものはこんなものではないとか、本当に死ぬまで元気でこの闇出しに少しでも呼応できるようにしなくてはと、心を新たにしました。

セミナー２日目午後　参加者全員で瞑想

セミナー最終日　参加者全員で瞑想

9．天変地異は喜びのエネルギーです。

これこそ、まさに波動の世界を心で感じられなければ、絶対に分からないことです。肉の次元では、なぜ天変地異が喜びなのかと思うだけです。肉の喜びと幸せを打ち砕く天変地異は恐怖そのものであり、人類にとってマイナスの要因だと位置づけられるだけです。

しかし、アルバートの波動、アルバートの世界を広げていったとき、天変地異は喜びのエネルギーだとはっきりと分かります。天変地異はアルバート、すなわち、プラスのエネルギーであり、アルバートの中で起こるべき出来事ですと伝わってきます。立っている基盤が違えば、両極端です。

全く無知なままに存在してきた人類に、最終的な救済の道が用意されています。このことを喜ばないで一体何を喜んでいくのでしょうか。自（みずか）ら予定してきた道筋を辿っていける人類は、本当に幸せな存在であると言えるでしょう。

無知とエゴと欲が作り上げた実在の世界は架空の世界でしたと知っていく手立ては、もう天変地異以外にはないことは明白です。すべての存在は喜びであることを、波動の世界は伝え続けてくれています。

田池留吉

9. Cataclysms are an energy of joy.

This is something that can only be understood by touching on the world of vibrations within one’s heart. From the perspective of the physical dimension, one can only wonder why cataclysms are a source of joy. Cataclysms, which shatter the joys and happiness rooted in the physical, are nothing but fear itself, and can only be categorized as a negative factor for humankind.

As one broadens one's heart through the vibrations and the world of Albert, it becomes clear that cataclysms represent an energy of joy. Cataclysms are a manifestation of Albert, embodying positive energy, and are inevitable events within the world of Albert. When the foundational perspective differs, polar opposite views emerge.

For humankind, which has existed in a state of complete ignorance, a final path to salvation has been prepared. There is nothing greater to rejoice in. It is truly a moment of happiness to be able to follow the path we have planned for ourselves.

Experiencing cataclysms is the only way to realize that the physical world, shaped by ignorance, ego, and desire, was merely an illusion. It is clear that there is no other way. The world of vibrations continues to convey to us that every existence is joy.

さまざまなセミナー、さまざまな感想

Taike Tomekichi part.3 を編纂するにあたって、自分にとって大切なセミナー、転機になったセミナー、忘れがたいセミナーを募集しました。これまでのページで紹介したセミナーについては、その個所にそれぞれ紹介させていただきましたが、その他のセミナーについての感想につきましては、以下に紹介させていただきます。これまで紹介した少人数セミナーは残された資料等の関係もあり、どうしても UTA ブック関係のものが多くなりましたが、それでも少人数セミナーの雰囲気や、参加者の思いは伝えられたと思います。また、ご応募いただいた原稿には、2002 年以前のものも一部含まれますが、大切な思い出や体験だと思いますので、あえて掲載させていただきました。ご了解ください。
少人数セミナーを主催された方々の声は、項を変えて紹介いたしますので、併せてご参照ください。

橿原「ぬくもり会」／穂積徳造

（2015 年5月9日～ 11 日　橿原ロイヤルホテル）

ある日、近藤徳子さんより、「田池先生は具体的な行動をしなければ、そして、結果を出さなければダメなようですよ」と言われた。

私は余計なことでご迷惑を掛けてはならない、田池先生を思っていればそれで良い、と思っていました。

そして、2014 年 7 月 5 日から 2015 年 12 月 1 日まで、ほぼ毎日、田池先生に 359 回自分の思いをメールしました。

そうした中で、2015 年5月のぬくもり会の会場、昼休みに突然、先生に呼ばれました。

「あなた自身、自分できっちり生きているつもりやけど、オドオドしている、その原因は何か……」

「この人は私と 30 年以上の付き合いですが、私への背信行為（はいしんこうい）です」と言われました。

そして、他力信仰、生長の家、谷口雅春への思い、他力信仰の反省に対して塩川さんに現象を出してもらいました。

その後、私の中に何か大きな変化がありました。

当該セミナーの大分前に、急に痩（や）せる現象もあり、その後病院に通うこととなり、厳しい局面もありましたが、現在も勉強を続けられる肉体を何とか維持できています。

大阪池田セミナー／長濱溶子

（2015 年 4 月 19 日～ 21 日　伏尾温泉不死王閣）

意識の流れの学びに出会えて今とても嬉しいです。ひとつも、一生懸命学んでこなかった。

田池留吉 !!　申し訳御座いませんでした。ふるさとに帰りたくて、この肉を願って、そして、田池留吉に出会わせて頂いたのに……

私の転機になったのは、大噴出と総崩壊のファックス送信と池田のセミナーの時、前に出ていった時は、次から次へと、この肉は訳分からずでしたけど、飛び出てくる衝撃にびっくりでした。

ごく自然に自分の中を出せたことがとても嬉しかったです。

その時に田池先生は、「私はもういくばくも無いんです。私はこの方（塩川さん）を通してメッセージを送りますと仰っていました。そして、その 12 月にお亡くなりになりました。

私はそれがそんなに早く肉とのお別れになるなんて……あんなにお元気で、つやつやしたお顔で、セミナーをやって下さったので、最後の方のセミナーで私達に気付いて行くよう、どれ程のエネルギーを送ってくれていたかと思うと、とても貴重なセミナーでした。嬉しかったです。

田池留吉、有り難う !! 有り難う御座いました !! お母さんの温もりを広げていきます。

第1回 NPO 法人 UTA の輪セミナー／板倉直子
（2015 年 12 月 6 日～ 8 日　伊勢志摩ロイヤルホテル）

子ども達と一緒に前日泊させてもらいました。夫はそのままセミナーに参加し、私たちは近鉄電車で志摩から橿原を経由し喜志へ到着する頃、夫から「田池先生が亡くなった」と聞きました。もう先生の姿を目にすることはできないんだな、最後まで先生の伝えてくれたようには喜べなかったし、心からありがとうとは言えなかったな、と思いました。

もう一度先生に会いたい、そして先生の教えてくれたことは全部本当だった「ありがとう」と伝えたいと思いました。

2015 年 12 月 6 日セミナー帰りの駅

250 年後会いに行くにはどうしたらいいんだろう、ここからが本番だな、と自分に言い聞かせながら大宝でバスを降りて子ども達と歩いて家へ帰りました。

第1回 NPO 法人 UTA の輪セミナー／辻田和子
（2015 年 12 月 6 日～ 8 日　伊勢志摩ロイヤルホテル）

私にとって忘れられない、転機になったセミナーは、三重県志摩市ロイヤルホテルで初めて行われた第1回 UTA の輪セミナーです。それまでも、たくさんのセミナーにも少人数セミナーにも数回出席させて頂いたけれど、決定的に転機になったのは、田池先生が亡くなられたことを知らされた第1回 UTA の輪セミナーでした。

田池先生を思うと、私は放蕩（ほうとう）息子（娘）そのもので、申し訳なかった思いばかりがわいてきて、涙が溢（あふ）れて止まりませんでした。帰りのバスの中でも、外の景色を見ながら、また思い出されて涙が流れて仕方がなかったことを覚えています。

そんなセミナーの中で、田池先生を思った時に伝わってきた思いがありました。「お母さんの温もりから始めていくんですよ」そんな優しい優しい思いが私の中にはっきりとしっかりと伝わってきたのでした。この第 1 回の UTA の輪セミナー、志摩というところから新しい一歩を踏（ふ）み出していこうと、私は心に誓（ちか）ったのでした。

その転機となった地で、今、暮らしています。不思議といえば不思議です。奇（く）しくも、この志摩市は、私の今世の故郷佐世保市と姉妹都市だと、後に聞きました。

母の温もりという安らぎの中で自分を知っていける今です。この安心感の中で、自分の培（つちか）ってきた世界を宇宙を見つめていく。マイナスを膨らませ、暗黒を培い続けてきた私達にも、こんな時が待ってくれていた、こんな幸せなことはありませんでした。田池先生、本当にありがとうございました。ありがとうございます。お母さん、懐（なつ）かしい懐かしい私達の故郷へ、心の故郷へ帰ってまいります。転生を憎（にく）み恨（うら）み呪（のろ）い続けてきたけれど、転生ほど有り難（がた）い時はなかったんですね。本当に幸せな幸せな私達だったと実感しています。今をありがとうございます、心から、心からありがとうございます。この心を繋（つな）いで、次の私へ、そして250年後のアルバートとの出会いを待ちます。そして、次元移行へと私達は進んでまいります。遥（はる）か遥か彼方（かなた）からの私との約束、必ず必ず果たしてまいります。

伊勢志摩ロイヤルホテル　客室からの眺め

大阪池田セミナー／板倉充宏
（2015 年 4 月 19 日～ 21 日　伏尾温泉不死王閣）

田池先生との最初で最後のセミナー、いつまでもあると思うなセミナーでした。
「お母さんの反省、順子さんがお母さんではないんやで、みっちゃんの本当のお母さんはあれじゃないねんで」
ここからがスタートとなりました。

2015 年 1 月 3 日ごろ大宝のバス通り

前妻が亡くなってから初めての参加セミナーにて／東野　治

1997 年 8 月に前妻が亡くなりました。

彼女は、何度かセミナーに参加して、田池先生の顔を知っておりました。

亡くなる半年程前に、一人で熱海のセミナーに参加しました。

「一緒に行こか……?」って何度か尋ねたのですが、一緒だと「私、行けへん！」と言われました。

かなり体調が悪かった様子でしたが、ぜひセミナーに参加して貰いたかったので、一人で参加して貰いました。

そこで、何かを感じたようで、少したってから入院した時に「退院できたら、今度は一緒にセミナーに行きたい……」と言ってくれました。

嬉しかったです。

でも、それは叶いませんでした。

亡くなってから、初めて参加したセミナーで、田池先生に妻が亡くなったことを告げました。

一瞬驚かれた様子でした。

そして、「奥さんを殺したのは、あんたやで……」と言われました。

それから、その言葉をいつも反芻しながらの生活でした。

ありとあらゆる所で、妻を殺してきたことを確認しました。

というより、結婚してからず〜っと殺し続けてきたとさえ感じました。

もし、今度結婚することがあったら、二度と同じ過ちは繰り返すことのないようにしたいと思いました。

田池先生からは、「今度結婚したら、新しい奥さんと一緒に前の奥さんの供養をしたら良い」と言って貰いました。

今もその思いは私の心の中に、しっかりと息づいています。

新しい奥さんと生活するなかで、田池先生からのアドバイスを守りながら（自分では守っているつもりですが）夫婦の調和を目指しておりました。

それが、最近になってやっと気付いたことがありました。

肉・肉・肉……、ぜ〜んぶが肉やったんです。

だから、どれ程頑張って、必死になってやっても心はついて行きませんでした。

嬉しくなっても、その時だけでした。

そして、それは今までの生活全てが肉だったと思いました。

当然、セミナーに参加して感じた思いや、エネルギーも肉中心で感じているものでした。

そこで、終わってしまっておりました。

それを、意識の転回に繋げられてませんでした。

何ともったいないことをしてきたと感じました。

自分自身に、本当に申し訳ないです。

今より、この思いをしっかりと心に刻みつけ、意識の転回に繋げていきます。

過去世のすべての意識が、それを待ち望んでいるのを感じます。

苦しみは神の慈愛である！

セミナーに集った頃、よく耳にした文言です。

今やっと、そうだ！ そうだ！ と響いてくる時があります。

そんな時は、めっちゃ苦しいのに、とても嬉しいんです。

心が喜んでいる！

肉の僕よりも、意識の方が賢いなー……

いや、意識の方が素直なんやなー……って思います。

肉の私も、もっともっと素直になって、田池留吉、アルバートに委ねて生きます。

ありがとうございます。

1996年5月の雄琴セミナー／大槻文英

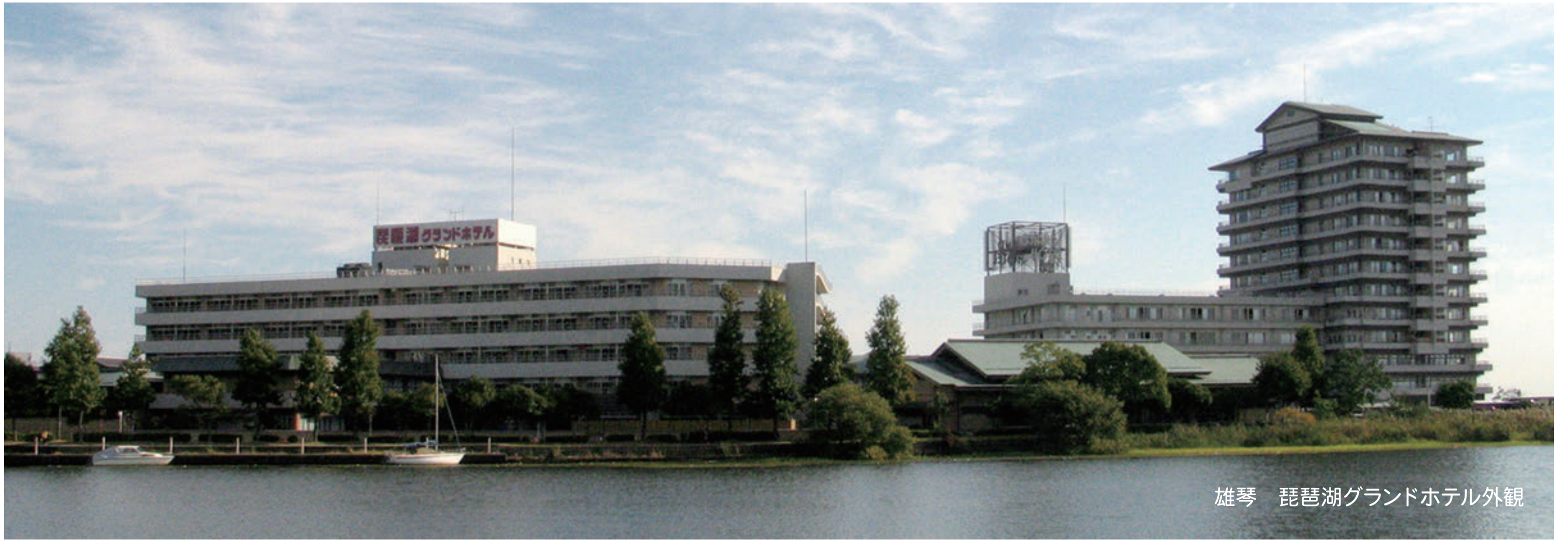
僕がこの学びを知るきっかけとなったのは、1996年3月に母が仏壇を処分したいと話しているのを聞いて、妻の玲子が、「何てことするのですか、それでは内に引き取ります」という会話が発端(ほったん)でした。

僕は何の話をしているのか全く分からず質問すると、妹が「お兄ちゃんにはわからんと思うけど読んでみる?」と『エルランティの心』を渡してくれました。

その本は衝撃的でした。今まで真実を探し求めてきた自分にとって正にこれだ！ すぐにセミナーの日程を聞いて5月12日からの雄琴セミナー初日に日帰りで参加しました。

最前列に陣取って田池先生の講話を聞きました。５・３・２の話はまだよく分からなかったのですが、タバコは止(や)めた方が良いという話で、肉体細胞に優しくないという理由を聞いた時の衝撃も強烈でした。

今まで30年近くタバコを吸い続け、何度も身体に悪いからと禁煙の努力をしたのですが常に挫折(ざせつ)。



雄琴　琵琶湖グランドホテル外観

身体に悪いじゃなくて肉体細胞に優しくない、これだけの違いだけれど「身体に悪いことをした」という思いが噴き出てきて、わずか1週間で禁煙できたのでした。

これだけの衝撃を受け、セミナーとの出会いを感激していたのですが、今になってみると甘く甘く捉えていたのが分かります。

喜んでセミナーに参加して、学びの友と一緒に勉強する、もうこれだけで勉強が進んでいくと軽く捉えていたのです。

思いの向け先と、正しい瞑想、これにたどり着くまで28年も要してきました。これからが漸く本番です。

それでも今に至るまでの出発点の雄琴セミナーは大変懐かしく、欲いっぱいで始まった当時が何だかとても愛おしく思えます。

セミナー参加、大切な最高の宝です／大槻玲子

田池留吉に出会い、学ぶことが今世の目的でした。

セミナー参加、大切な最高の宝です。

「皆あんたやで」「愛の中で生かされてる」が響きます。ホームページが現在の道しるべです。

ありがとうございます。

福島セミナー／山崎美由紀

その頃のセミナーは、壇上に手を挙げた希望者何名かを田池先生が指名して上げ、異語と共に「意識を向けて」と語りかけて下さった現象の時間がありました。

何かに動かされるように手が上がり、指名されて壇上へ。

「胸の辺りに意識をむけて」と言われた言葉と同時に偽物の自分の殻を突き破り、中から本物の自分が解き放たれるような不思議な感覚が致しました。

イメージとしてはとてもスプラッターですが、その現象の後とても産まれたてのように清々しく不思議な経験をさせていただきました。

後から考えるとその出来事がきっかけになり、私の学びは肉から意識へと舵を切っていったのでした。

福島県「ホテル華の湯」

田池先生と出会って……／上野淑子

私の父は、女に学問は要らぬという人でした。

中学３年生の時、祖母の家（幼い頃に育った所）からは、この家から学校へと、そして、先生である叔父からも言われたが、親がいるのに出来ない、しませんと好意を断った。

その時の自分に思いを向けてみる。学びに繋がるための道筋が、もう心の中にあったと思う。周りの誰もがそうして、自分の決めてきた道を歩むために、色んな方法で、私の心に揺さぶりをかけてくれていました。ありがとう、ありがとう。自分が求めてきたことを教えてくださった、田池先生と出会い、私は今、とても幸せです。

もう、亡くなった先の皆さんに伝えたい、あなた方は、今、幸せですか。本当の幸せが分かりますかと、尋ねます。

私たち人間は、その形ある者ではなく、自分の思いの中で苦しんでいるだけですと。それを知るために生まれてきます。（肉を産んでもらいます。）お父さん、お母さん、私は今、この幸せを感じ知るために肉体を頂きました。ありがとうございます。私は今とても幸せです。ありがとうございます。

親を見下し、罵ってきたこの心に、自分の間違い、そして本当の思いに出会い、私は今、この肉体のある自分を通して、自分を学ぶ。本当のことは心の外にない。本当のことは心、自分の心の中に全てがある。本当の愛が分からなくなってしまった自分とともに今、少し、本当の自分とは、心を見ることにより解明されてきたと感じられる。愚かな自分を知っていく中に、すべては愛に導かれ、すべては、喜び、喜びの中に、愛の中に私は育まれてきたことを確認しています。

これこそ、本当の喜びの道だと、ハッキリ言えることが嬉しいです。ありがとうございます。私は今、とても幸せです。ありがとうございます。

2007年10月30日　出版記念「意識の流れ」勉強会

セミナーにクジラの出てきた日

2015 年 4 月 10 日、カズハゴンドウという歯クジラの仲間が、茨城県鉾田市の海岸に打ち上げられました。その数なんと 156 頭。そのうち生きて海へ放流されたのは 7 頭のみ。
2015 年 4 月 12 日〜 13 日、VIALA annex 有馬六彩で開催された「有馬ありがとう会」の最終日、田池先生が、このクジラのマス・ストランディング（集団座礁）について話されたことがあります。この他、2014 年 12 月 7 日〜 9 日の「池田セミナー」でもイルカが言葉でなく思いが通じ合う私たちの仲間だと話され、2014 年 9 月以前にも「クジラの群れの意識」について話されています。
そこで、少しページをいただき、クジラ・イルカのことに触れさせていただきたいと思います。

僕は「イルカ」や「クジラ」の研究者でも、マニアでもありません。
でも「イルカ」や「クジラ」が大好きです。
大好きになったのは、一人の老人の一言からです。
この老人は、2015 年 12 月に亡くなりました。90 歳でした。
みんなから「先生」「先生」と慕（した）われているおじいさんでした。
「あなたの先生は？」と、もし誰かに聞かれたら、あなたが思い浮かべるのはどんな先生でしょうか？
あなたが中学生や高校生なら、もちろん担任の先生か、クラブの先生か、それも若くて、ハンサムで、それとも美人なのかな――まあ、いやな先生の場合だってあるでしょうが。
ところが僕ときたら、「先生」という言葉にどんな思いを抱くかというと――自慢じゃありませんが、僕は今年で 76 歳を迎えた、歳だけは立派な老人なのであります。
ひょっとしたら、あなた方の４倍も５倍も年を食っているかもしれません。お年を召（め）された方には「何を偉そうに、76 歳など、まだまだヒヨッコだ」とお叱（しか）りを受けるかもしれません。
とは言え、この歳になると、友だちや知り合いの中にだって、「先生」と呼ばれる職業をしている人間だっている訳であります。だから「先生」などと聞いたって職業の一種ぐらいに考えていて、ビクとも心は動きません。それどころか「先生と呼ばれるほどのバカじゃなし」、そんな川柳（せんりゅう）が思い浮かぶほど、ねじれて成長してしまったわけであります。
そんな僕ですが、敬意を込めて「先生」と呼んでいるのが、この老人なのです。
「先生」と呼ぶのは、この老人が、大阪府立高校の校長先生をしていたためで、決して僕が、この先生の授業を受けたり、昔、担任の先生だったりとかいうわけではありません。まして、どこかの宗教の教祖様みたいに「先生」と呼んでいるわけでもありません。
見かけは、はっきり言ってよくありません。コップの中に浮かべた入れ歯をはさんで向かい合って座ったりすると、やっぱり「先生」

と思っていても、ゲンナリするものです。
では、どこが偉いのかって？
何か不思議な超能力を持っていたりとか、ずばぬけた数学の天才だったりとか、政財界ににらみをきかす、実は日本の陰の実力者だったりとか —— 君はそんなことを思ったかも知れませんね。
——思わない？！
（思ってくれないと、話が前に進まないのですが——まあ、いいか。）正解です。思わなくて正解なのです。
何の変哲もない老人ですが、言うこと、することが、少しおかしいのです。
「人は、みんながみんな、たとえば○○さんなら○○さんという名前を与えられた、その肉体こそが自分だと思っていますが、それはどうでしょうか?」と、そんなことを言いだすんです。本当の自分は、教育やら道徳やら習慣やらに縛られた○○という名前の肉体ではなく、何にも束縛されない「心」や「意識」こそが「あなた自身」だというのです。
現実の世界からみれば、「少しずれてるんじゃない!」、そんな感想が出るかも知れません。
でも、その現実から外れた、そのおかしいところが、僕が敬意を込めて「先生」と呼ぶ所以でもあります。スタンダールだって言ってるじゃないですか。「天才は、凡人の敷いたレールに自分の思想を乗せないことである」って。

さて、この老先生、ご自身の後半生をかけて、今言ったような「人間は意識で、肉体ではない」「肉体を中心とした、あるいは物を基盤とした生き方は破綻する」「肉から意識への転換が必要」と、日本国内ばかりか、アメリカや韓国にまで足を運んで訴え続けてこられました。
そんなセミナーの中で、その老先生から、お亡くなりになるちょうど一年前、まるで謎かけのように、こんなことを言われたのです。
「イルカやクジラは人間に近い存在です。自分も昔から注目していましたが、思いが通じる相手です。一度、試してみたらいいと思います。」「イルカに『ふるさと』を歌ってあげてください。」
そんなことを言った後、急に砕けた調子で
「なぁ桐生さん、頼みましたよ。」
と、名指しで、こんな妙なことを頼まれたわけです。
ちなみに「ふるさと」とは、究極的な「愛」という、僕たちの帰るべき場所を「故郷」のメロディに乗せて歌うようつくられた曲です。「ふるさと」を歌ってあげるとは、とどのつまりは、すべてを超えて、イルカさんたちと思いの世界でつながることだと思っています。そして、ここから僕の、イルカやクジラをめぐる旅がはじまったというわけです。
最初はおもしろ半分、なんてったって好奇心にかけては、君たち若い人、もちろん大先輩の方々にも、引けをとるものじゃありません。アマゾン検索で、 1円から数百円程度の「イルカ」「ク

ジラ」に関する中古本を買いあさりました。本って高いですから、集めるのが大変なんですよね。かと言って図書館へ行く時間もない。そこで「アマゾン」に生息する「イルカ・クジラ本」の捕獲・調査作戦が開始されたわけであります。

しかし、調べれば調べるほど、知れば知るほど、「イルカ」や「クジラ」というのは、魅力的な存在です。たちまち心を奪われ、「イルカ」や「クジラ」から心を離せなくなってしまいました。

ここで「イルカ」や「クジラ」と並列して書きましたが、実は「イルカ」もクジラの仲間というか「クジラ」そのものなのです。成長して５メートル以前の「クジラ」を「イルカ」という次第です。クジラは、大きく「歯」のある「ハクジラ」（イルカやシャチ、マッコウクジラ等）と「髭板」のある「ヒゲクジラ」（ザトウクジラやシロナガスクジラ等）に分類されます。

彼らも僕たちと同じ「哺乳類」で、海で生まれ進化の過程で陸へと上がりました。僕たち人間は、陸で進化を遂げ今のような形におさまりますが、クジラさんたちは、いったん陸に上がったにも関わらず「海へ戻る」選択をし、海で進化し続け、今の形におさまったという次第。いわば人間とは兄弟であります。

知能は人間以上という方もおられますが、人間の物差しでは測れない所が多々あります。たとえばザトウクジラは何百キロも離れた相手と唄声で交信することが可能です。イルカは、エコロケーションと言って、オデコから発した超音波みたいなもので遠いものを見分けることができます。僕の知人で、この超音波みたいなものをまともに直撃された方がいますが、その瞬間、お腹のあたりから身体中がカーッと熱くなり、幸福感に満たされ「何もいらない」といった感じになったそうです。

イルカやクジラの話になると、止まらなくなりますので、この辺で話を戻しにかかります。

実は、ともに田池先生のもとで心を学ぶ仲間のお一人、この方は、当時ニュージャージーに住んでおられましたが、彼女が、「黄色いクジラ」という一文を投稿されていたのです。

釧路沖のシャチの家族（2016 年 11 月撮影）

まずは、その全文を紹介します。

黄色いクジラ／キョウコ　サエグサ

いよいよこの学びも最終段階に入って来て、今このチャンスに、自分の思いをまとめてみたくなり、書いています。

田池留吉、本当に肉を持って下さって、ありがとうございます。

私の今世の人生は、前代未聞の人生を歩かせていただいています。まだまだ私の感じている世界は小さい事は承知です。でも、それでも、こんなにも幸せな人生が展開していく事に感謝と驚き、そして、益々、この道一筋でいこう、という思いが自分の中から湧（わ）いて来ます。はい、自分の死期をふまえて、どのような人生をこれから歩いていくのか、道が見えています。

そして、肉の事はとるに足（た）らない事を現象（自分の周りに起こる）を通してみせてもらっています。今まで、こんなに楽な、そして、心が満たされた人生を歩いた事がありません。それにもまして、心を田池留吉にあわせるだけだと、つくづく瞑想とそして、その結果変わっていく自分の周りの現象とのフィードバックで、再確認させていただいています。ただ、これからは、もっと自分の死後に焦点（しょうてん）を合わせ、そして、必ず250年後に意識を伝えていけるよう、これからの時間を過ごしていかねばならないと思っています。

愛の円盤、愛の水素水、愛の霧吹き、本当にありがとうございます。一昨日も、ニュージャージーの海岸に、愛の円盤を浸（つ）けてきました。これが2回目ですが、前回浸けた時、とても不思議なことが起こったので、それをここに書きます。

海に浸けたその翌日だったと思いますが、電車の中のテレビで、私の周りの子供たちが「クジラだ、クジラだ」と叫んでいるので、ふっとそのテレビを見ると、何と黄色いクジラが、私の真ん前のその画面で、潮を噴（ふ）いて、泳いでいるのが見えました。説明によると、その黄色いクジラは、20年か30年か、よく覚えていないのですが、とにかく姿を現すのはとっても稀（まれ）だという事です。その黄色いクジラが、潮を噴いて元気に泳いでいる姿が目に入り、私は、ハッとしました。愛の円盤を浸けた事に反応してくれている！　えっ！　田池先生が、クジラの群れの意識という事をセミナーで言われていました。それとのマッチもあります。とにかくそのタイミングが、愛の円盤のせいだとしか思えないタイミングでした。今でも思いを向けると、涙が出てきます。人間たちの何と愚かな事か、心に響いて来ます。

私達の姿を見て下さいと心に伝わってきます。

喜びでしかないその姿が、潮を噴くというその姿が、今でも瞼（まぶた）に焼き付いています。嬉しい喜びで波間を泳いでいたその黄色いクジラが、本当にありがとう……と私の心が反応しています。

だから私もクジラのように生きていこうと思います。本当に優し

い本当に優しい。でも力一杯、その喜びを体一面にみなぎらせ、喜びで海の中に生きているクジラたち、本当にありがとう。愚かな人間のその人生を、私は終わりにします。これからは、意識一筋で生きてゆきます。

本当にありがとう。愚かな愚かな間違った人生しか歩いてこなかったです。

過去、その転生の繰り返しでした。しかし、田池留吉、有り難う、私は、この千載一遇の人生を決して無駄にしません。残されたセミナーの時間、そして、その後、自分が肉を放すまで、私のこの意識を必ず 250 年後に繋いでいきます。そして、決して、決して宇宙のモクズにならないように、毎日を歩いていこうと、ここ、ニュージャージーで、今思って書いています。

ありがとうございます。ありがとうございます、このチャンスありがとうございました。

さて、サエグサさんがこの原稿を書かれ、UTA ブックに投稿いただいたのが 2014 年 8 月頃のことになります。

この頃、日本では広島市で、土石流などで 74 人が死亡・家屋の全半壊 255 軒という大型土砂災害が起こっていますし、翌 9 月には御嶽山の噴火、翌年 4 月になって、茨城県鉾田市の海岸にカズハゴンドウ 156 頭が打ち上げられ、かろうじて 7 頭だけが救われ沖へ放されるという事件が起こりました。

東京の国立博物館ではイルカやクジラのストランディング（座礁）のデータベースをつくり公開しておられますが、一度に 100 頭以上のストランディングが起こるのは、日本では初めてのことではないでしょうか。と言っても、100 頭以上のストランディングとなると海外でもまれなことで、2011 年にニュージーランドでマグニチュード 7 クラスの大地震が発生し、その直前にヒレナガゴンドウが 100 頭以上、被災地の近くの海岸に大量にストランディングしています。日本の場合、大量ストランディングの翌年 4 月、熊本大地震が起こっていますが、果たして、これと因果関係があるのかは不明です。

田池先生は、「有馬ありがとう会」の 1 泊 2 日のセミナーで、2 日目の講話の中で、このことを次のように話しておられます。

「例えばイルカが、こないだ、どっと上げられた。100 頭ほどだったが、死んじゃったの。なぜ上がってきたかわからない。説明できないんですよ。3 頭ぐらいが沖へ放されたらしい。あんだけの数がドーンと来て、何で死ぬのか？ 誰も分かっていません。

もう、そういう時代に突入しているんです。だから皆さんだけでもね、こういうふうに集まってね、勉強している人だけでも、頑張ってほしいと私は思います。」

田池先生の言われるように、この原因は、今も解明されていません。解明されないまま、日本ではイルカ、クジラのストランディングは、年間 300 頭を超えており、とどまることはありません。昨年も、今年も、大阪湾にザトウクジラが迷い込んできましたし、北海道ではシャチの群れが流氷に閉じ込められたニュースも耳新しいことです。

アメリカでも 2022 年の冬、ハドソン川にザトウクジラが現れ、自由の女神とツーショットが撮られたりしています。

サエグサさんが 2014 年、ニュージャージーの電車の中のニュース画像で見たという「黄色いクジラ」というのは、調べてみると「アメリカオウギハクジラ」というハクジラの一種で超珍しい種で、今も実態は分かっていない謎のクジラのようです。ただ胴体はグレーで、個体によって黄色い線状の模様の入ったものがいるようですが、これも不明。ただ海水面の近くまで浮上してくると、光の関係で淡く黄緑状に見えることがあります。

このように日本でも、アメリカでも、いえ世界中で、イルカやクジラが人間の生活の場に姿を現すことが報告されています。

この本の表紙画像は、天草のミナミバンドーイルカの群れですが、これにも興味深いエピソードがあります。

僕が田池先生の話に触発されイルカ遍歴を始めた翌年、天草のミナミバンドーイルカを訪ねました。熊本地震から立ち直ろうと町が動き出した頃でしたが、ホテルも営業している所はまだ少なく、宿泊にも苦労するような時期でした。

ミナミバンドーイルカは、バンドーイルカとは違い、沿岸に群れをつくります。このため、人間の生活と近接しているのですが、熊本地震の前後は、ぴたりと姿を消したそうです。

ぼくが訪問した 5 月の末には群れも復活しており、何百頭という群れが、ウォッチング船に沿って泳いでみたり、船底を横切ったり、まるで船の僕たちを意識しているかのように、船と行を共にしてくれ、あたかも自分がイルカの群れに溶け込んでしまったかのような不思議な時間を体験させてくれました。

熊本県天草・通詞島沿岸のミナミバンドーイルカ

　そのミナミバンドーイルカの群れに不思議なことが起こりました。それは訪問時から15年も前のことになりますが、2001年に群れの中の雌雄2頭のイルカが、群れを離れ、日本海を1000キロ以上も北上し、石川県能登島は七尾湾に定住するようになったというのです。

　イルカは母系社会です。オスは成長すると群れから離れていきます。繁殖のときだけ別の群れを探し接触します。産まれた子は群れ全体で子育てし、群れのリーダーは大お婆さんになります。

　僕が石川県の能登島を訪問したのは、天草を訪問したのと同じ2016年のこと。

　ガイドしてくれた大克丸の船長は、もと能登島の郵便局に勤務されていた方で、定年間近の頃、このミナミバンドーイルカのカップルが七尾湾に住み着くようになったと言います。

　彼は定年を迎えるや、退職金で船（大克丸）を買い、釣り船とイルカのウオッチングを仕事として始めました。

　以来、このイルカのカップルが群れをつくる様子をまじかに見てこられましたが、不思議なことに、群れの始祖となったオスは今も群れにとどまっているのです。できたオスの子供たちはルール通りに群れを離れていきましたが……。

　このイルカのカップルは、なぜ天草を離れたのか、群れができた後も、始祖のオスが群れにとどまっているのはナゼか？

　ミステリーはとどまりませんが、それ以上に、今年、2024年の1月冒頭、この能登島を震源とする大地震が起こったのです。

　ミナミバンドーイルカと地震の関わりを云々するには、あまりにも根拠が薄弱ですし、彼らミナミバンドーイルカが能登島へ移動してきたのは23年も前のことです。しかも、地震がある場所へわざわざ移動してきたというのも不可解です。

　ただミナミバンドーイルカが生息する場所が、日本にもう一か所あります。伊豆諸島に属する御蔵島の海域です。

　世間で言われているような、クジラやイルカの動きと巨大地震を結び付けて考えるのは無理があると思います。

石川県能登島・七尾湾のミナミバンドーイルカ

ただクジラやイルカ類が、人間の生活圏に頻繁に登場するようになったのは間違いもないことで、しかもイルカやクジラが、人間に関心を寄せているのも事実です。人間がイルカを助けた、逆に、ザトウクジラがサメに襲われた人間を助けた、こんな関係が頻繁に起こるようになったのは近年のことだと言われています。

一昔前は、イルカやクジラの水中写真は稀なものでしたが、今では SNS を検索すれば、ビックリするような写真や動画があふれています。

「海のことはイルカに聞け」と言われていますが、人間は海に何をしてきたのでしょうか。都合の悪いものは、みんな海に流してきたように思います。そして、そのしっぺ返しを受ける時期が近付いているように思うのですが、真っ先に被害を被るのは、実はイルカやクジラたちなのです。

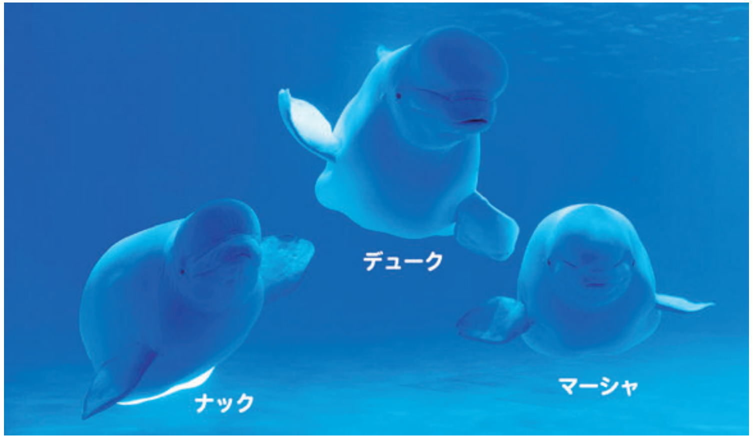
彼らは海洋で食物連鎖の頂点にあり、陸上の動物以上に、化学廃棄物等に無抵抗なのです。捕食によって体内に取り込まれたた有害物質は脂肪層に蓄積され、授乳によって次世代へ受け継がれていき、世代を経るごとに薄れるどころか、逆に、その濃度は増え続けていきます。

すでにカナダのセントローレンス河のシロイルカのポッド（群れ）は壊滅しました。生き残ったシロイルカたちも泳ぐ産業廃棄物となり果ててしまいました。もちろん他の海域に生息するシロイルカは、いまだ健在ですが、これも時間の問題でしょう。

そして、次に絶滅するのが「シャチ」だと言われています。

大きい目で見れば、クジラやイルカたちは、それを恨むことなくすべてを受け入れて、人間に先駆けて絶滅していくのだと思います。でも、もっと近視眼的に見れば、集団座礁をはじめ、イルカやクジラたちが人間の生活範囲に積極的に姿を現すようになったのは、彼らの「SOS」あるいは、「海を殺さないで」という警告のように思えて仕方がないのです。

田池先生から与えられた課題＝「イルカに『ふるさと』を唄う」ことについて、以上、今世での一応のまとめとさせていただき、来世、あらたに向かい合うことになると思います。



鴨川シーワールドのシロイルカ（ベルーガ）

少人数セミナー、主催者の感想

この時期も終盤になって、700 人〜 800 人の大所帯でのセミナーだけでなく、学びの深耕を目指した少人数セミナーが併催されるようになりました。

2013 年 7 月の「あなたは愛ですセミナー」を筆頭に、田池先生が参加された最後の「橿原勉強会」(2015 年 7 月)まで、まる 2 年にわたって「滋賀 UTA の輪セミナー」「有馬海外勉強会」「有馬六彩ミニセミナー」「WEB 瞑想会関係者セミナー」「橿原チャネリングセミナー」「京都鷹峯セミナー」「大阪池田セミナー」「UTA 会ありがとう会」「橿原ぬくもり会」「橿原勉強会」「有馬勉強会」「レベルアップセミナー」等々、宿泊を伴う少人数セミナーだけでも 20 回を超えるセミナーが開催されたことになります。

ここでは、そんな少人数セミナーを主催された、あるいはお世話いただいた方々の感想を紹介させていただきます。

2013 年 7 月〜 9 月にかけて、UTA ブック主催の「あなたは愛です」セミナーが 2 回に分けて少人数編成で行われました。そのあとも 2014 年 2 月「UTA ブック関係者セミナー」、4 月「有馬海外勉強会」と、UTA ブック主催の少人数のセミナーが続きますが、この頃から、田池先生の呼びかけで、有志の方が主催する少人数セミナーが数多く開催されるようになります。

主催者は UTA ブック以外に、宇野敏一さん、金子恵さん・育子さんご夫妻、桐生由美子さん、久保徹夫さん・明子さんご夫妻、杉村和子さん、竹田恭子さん、中島一二さん・智子さんご夫妻、沼田順子さん、そして森保之さん・布美子さんご夫妻が、会場の手配から運営まで仕切っていただき、密度の濃いセミナーの時間を持つことができました。

この中で、森さんご夫妻については、実は、編者(桐生)が無理を言ってお願いした経緯があります。

と言いますのは、当時、セミナー会場を手配するのがなかなか苦労するところでした。

会場になった場所を列記すると、兵庫県の「VIALA annex 有馬六彩」、「有馬エクシブ」。京都府の「京都鷹峯 &VIALA」、「京都エクシブ」。奈良県の「橿原ロイヤルホテル」。大阪府の「伏尾温泉・不死王閣」。

見ていただいて分かるように、いずれも近畿圏。しかも温泉があって――というのは田池先生が言うには温泉があるところは自然が豊かなところで身も心もゆったりできるということ。そのうえ少人数といっても 30 名程度の人間が一堂に会して大声をあげても大丈夫なところという条件が付きます。当時は、自分の中の闇に気付き、それを吐き出し、立派な自分を崩していく「総崩壊」、そして、その抱えた「闇」を「愛」に変えていく「反転」がセミナーの中心的な課題になっていました。

それらの条件を満たすということで、会員制のリゾート施設が主に利用されていたのです。しかし、リゾート施設の会員になっていたのは金子さんと久保さん、それに中島さんぐらいでした。後に杉村さんも会員になられますが、新たに会員になろうとすると、その権利を獲得するのに、かなりな出費が必要となってきます。

田池先生も、一回でも多く少人数でセミナーができるようにと思っておられた時期です。かと言って、UTA ブックには、それだけの経済力はありません。

こうして相談してみたのが森さんご夫妻だったのです。ご主人の保之さんには、一番最初の「光の中へ」出版時からお世話になっており、何かにつけ、こちらのことを気にかけてくれた「UTA ブック」にとっても個人的にも恩人的存在です。

話を切り出すや、一も二もなく快諾していただき、森さんご夫妻と僕たち夫婦で、意気揚々(いきようよう)、「VIALA annex 有馬六彩」に、会員登録に向かったのが、まるで昨日のことのように思い出されます。

さて、「Taike Tomekichi part.3」編集に先立って、これら少人数セミナー主催者や関係者の方々に、覚えている限りで結構ですので、思い出話を書いていただくようお願いしたことがあります。

以下、その際に送っていただいた手記を紹介させていただきます。諸事情により、「すべての方のものを」とはいきませんが、先に紹介したセミナー参加者の声と併(あわ)せて、当時の雰囲気はつかんでいただけると思います。

宇野敏一さんの手記／ぬくもり会、男子会等

もう生きているのが辛(つら)すぎるという自分と、今に見ていろ、負けてたまるかという自分。肉の天国と地獄の繰(く)り返し。真っ暗闇で苦しみの頂点の時、一冊の本に出合いました。「エルランティの光」です。読み終えるとすぐに、八尾の「神の子の道」という看板が屋上に掲(かか)げられた研修所に出かけました。そこで初めて田池先生と出会いました。「黒煙もうもうとした心でやっとここにたどり着きました」というチャネリングを聞いてその通りと深く納得しました。今思えば必死の思いで田池留吉の元に、この肉を運んだのでした。

2015 年 5 月 9 日～ 11 日　橿原ぬくもり会初日

あれから30余年。次々噴き上げてくるすさまじいエネルギーに戸惑いながら、心に広がる喜びと安らぎに包まれる瞬間に涙する私もいます。

学び始めて20年がたった頃、田池先生の治療に毎週ご自宅に伺うようになりました。淳子奥さんと中村美由紀さんと3人です。11時頃にご自宅に着いて、お昼ご飯を淳子さんが作ってみんなで頂きながら先生のお話をお聞きするという、ぜいたくな時間が続きました。セミナーの時の講話と同じです。多い時は3時間以上も続きました。

そんなある日、「あんたが思うようなミニセミナーをやったらどうや」というお話を頂きました。

その当時、愛の水道水と愛の水素水を通じて学ぶ時期でした。沼田さんと私がお手伝いして「ぬくもり会」が橿原ロイヤルホテルで開催されました。初めて伊勢の地に学びは移るというお話やアマテラスについてのお話があり衝撃的なセミナーでした。

女性陣に比べて男子の方がもっと勉強しないといけないのでは

2015年5月9日～11日　橿原ぬくもり会2日目午後（塩川香世さんアマテラスを語る）

ないかという素朴な思いを田池先生にお話ししたところ、男性陣のレベルアップを図るという趣旨で男子会が開催されました。

また、自然形体療法という治療をしている仲間が７人学んでいました。そこに滋賀県の仲間が加わってのミニセミナーも行われました。みんなと一緒に勉強できる機会を持てることが嬉しくて、喜々として準備に取り組みました。田池先生に報告しながら、いくつかのアドバイスを頂いたうえ決定していきました。

いずれも２泊３日のミニセミナーで、会場は橿原ロイヤルホテルでした。前日、誰かの部屋を会場にしてのミニセミナーをして下さったこともあります。その時、廊下や他の客室に音が漏れないようにベッドを壁に立てかけたり、ドアに防音シートを張ったりしてみんなでミニセミナーの会場設営したことも楽しい思い出です。

こうして至れり尽くせりの勉強の機会を頂きながらも、肉の思いが強すぎて学びが進まないことに忸怩たる思いがありました。いつまで経っても「パワー、パワー」という言葉が出てきます。

今でこそパワーの自分の源をようやく少し自覚できるようになりましたが、長い間一貫して私の学びのテーマでありながら反省が進みませんでした。

先生とお話ししているとき、パワーと治療についてどうしたらいいんですかとお聞きしたことがあります。その時の言葉が今も息づいています。

「治療の前にちょっと瞑想して修正するんや。治療をするについては田池留吉に心向けてやるんやで。自分がするのではなくてさせられている感じ。

本当の自分があんたを喜びにしていく。そういう体験をする。患者さんがその時、今日は違うなあと感じる。自分がするのではなくて、私の能力や、技術や、経験ではなくて何かもっと大きなものが……そうすると喜びや。それを誇ったらいかん。わしはこうやぞと誇ると竜神になってしまう。あんたのグループみんなでそうやってやったら、そしたら変わりますよ」と教えていただきました。

田池先生の元にこの肉運んで 30 年。今も一緒に学べる仲間がいる。よく今世ここに集うことができたと思う時、やっぱりお母さんありがとうです。

この原稿のお話を桐生さんから頂いて、あの頃の動画を初めて全部見直しました。

今、こうして振り返ってみて、つくづくいい加減な学び方だったと思っています。

これ以上ない学びの機会を頂いていたと痛感します。お陰様ですっかり忘れていたこともずいぶん思い出しました。

思い出しながら、毎日、私の中の田池先生とお話しするようになりました。とても楽しい時間です。今もあの時の田池先生を感じます。田池先生、タイケトメキチありがとう。ありがとう。ありがとう。お母さんありがとう。そして、学びの友よありがとう。

金子恵さん・育子さんご夫妻／少人数セミナーのお礼とお詫び

少人数セミナーを開催させていただけたこと、本当に嬉しく思います。

肉肉肉で、失敗しないように、そつのないように……等々、そして、己を表し認めさせる、そんな汚い凄まじいエネルギーを垂れ流しながらの真っ暗真っ黒の波動の中に沢山の人を引きずり込んでいました。今、本当に皆さんに、申し訳ありませんでしたと、懺悔の思いが噴き上がってきます。

でも、それも、田池留吉の波動の世界の中で、そのすべても、優しい優しい、温かい温かい、喜び温もりの波動に包まれて皆さんと楽しい楽しいセミナーの時間と空間を持たせていただきました。そして、沢山のスタッフの方々にもお手伝いをいただいて、ありがとうございましたと、喜びが湧いて出てきます。

どんなセミナーの時も、肉は不安、心配、迷い、うまくいくようにと、肉一辺倒でした。でもそんな中でも、本当の私は、どんな事があっても、すべてを受け入れてくれる、優しい優しい喜びの波動、田池留吉をキャッチしていたのだと思います。

そして、田池留吉の波動の中で、皆さんはひとつ。参加された皆さんも、その真っ暗真っ黒を受け入れて下さったのですね。ありがとうございます。本当にありがとう。

今、心からセミナーの時間と空間を皆さんと共有できた、なつかしいなつかしい嬉しい喜びが思い出されます。こんな真っ暗、真っ黒な私たちを受け入れてくださってありがとうの喜びと感謝の思いが噴き上がってきます。楽しいセミナーをありがとうございました。田池先生ありがとうございます。田池留吉ありがとうございます。

橿原ロイヤルホテルでの講話

いつの橿原ロイヤルの少人数セミナーの時か記憶にありませんが、２日目の後半時、セミナー最中にホテルの女性スタッフが司会の私の所に来て「もう少し静かにお願い出来ませんか、隣のお客様の申し出があります。よろしくお願いします」と言いました。

セミナーの区切りがついた時に田池先生が「何やった？」とお尋ねがありましたので女性スタッフの言葉を伝えたところ、先生は即座に「橿原ロイヤルでも

うセミナーはしない」と言われました。私はびっくり仰天途方にくれました。

セミナー終了後に先生から教わりました。「セミナーの開始から終了まで、こちらの方が優先で使用できるはず、先方は契約時間より早く部屋に入って、こちらに文句を言ってきた。本当は文句は言えないし、時間より早く隣部屋に入れたホテルが間違っている」と教わりました。

私は橿原ロイヤルのスタッフに、「言ってくること、そのものが間違っている。早く部屋に入れたことも間違っている」と言えなかった私はセミナーをお世話させていただく使命感、自覚の希薄さを痛感しました。

橿原ロイヤルの責任者も、どうお詫びしたらよいやら途方に暮れていました。田池先生が命がけで私達にして下さっているセミナーを私は軽く考えていた証しで起きた現象でした。

今思うと、田池先生や皆様にも貴重なお時間、無駄にして申し訳ありませんでした。

後ほど田池先生はお許し下さり橿原ロイヤルホテルでセミナーが再開できるようになりました。嬉しかったです。ありがとう、ありがとうございます。

何べん言っても尽きないほどありがとうでした。

桐生由美子さんの手記／池田の不死王閣でのセミナー

たった一回だけ、先生からのご指示で司会をさせていただいたことがあるのです。

最初に不死王閣へ下見に行った時「古いとこやなぁ！」そう思いました。小さい頃にテレビのコマーシャルで聞いた名前だったから古いのは当然でした。

（60 年近く前ですから！！）

「ここでのセミナーは無いかな！」

そんな思いを抱きながら、担当者の方とお会いしました。

彼の思いを感じました。

伏尾温泉不死王閣の会場を下見

懐(ふところ)が深いという感じなのです。
（担当者）「ぜひ、こちらで開いてください」
「こんな硬い床張りの会場は座るには難しいですよね」
（担当者）「全部のスペースに畳(たたみ)を敷き詰めますから！！」
そんなことが本当にできるのかな？
そう思いました。
でも、当日の会場は昔から畳敷きの和室だったのかと思うほどになっていました。
最初のお食事の時間に、女将さんと担当者の方が田池先生に挨拶に来てくださいました。
三つ指をついて挨拶してくださったのですが「そんなん要(い)らんのに！！」と思っている私でした。
でも、先生は違っていました。
「ここはなんか心を感じる会場やなぁ」
そう言ってくださったことを覚えています。
大勢のセミナーでもあり、当然ながら毎回色々な制約はつきものです。
例えば、同じＴシャツを着てロビーを歩かないでください。
スリッパや浴衣で、ロビーやレストランに来ないでください。
そんな当然といえば、当然の規約です。
その制約の詳細を聞こうとして尋(たず)ねると彼は言いました。
「なんでも大丈夫です。
是非、同じＴシャツを着て皆さんでロビーを歩いてください」
なんだか温かい場所だと思いました。
建物が古かったり、足の悪い先生に優しくないロビーの高低だったりしましたが、ここで開催することになったのです。
指名された司会は別に何も考えずに、ただ進行をしました。
先生がユーモラスに色々指示を出してくださって、楽しい時間をいただいた感覚でしょうか。
でも、その回のセミナーで私は大きな温も

2015 年 4 月 20 日　池田セミナー 2 日目

りをいただきました。
　会場を支えるホテルスタッフの心。
　先生の大きな愛。
　参加者さんのリラックスして解放された心。
　色々なものが相まって、本当に心に残るセミナーだったのです。
　会場選びから参加させていただき、私は幸せな時間をいただきました。
　本当にありがとうございます。
　こうして思い出させて頂けたことも感謝です。

小東めぐみさん／「あなたは愛です」セミナー

　2013 年に開催された「あなたは愛ですセミナー」にスタッフとして初めて参加させていただきました。その頃の私は、東京での過酷(かこく)な日々に終止符を打ち、地元の大阪に帰ってきて派遣社員として働いていました。その中で、場当たり的ではなく、今後も勉強を続けていく、セミナーに行く環境をどうやって作っていこうかと考えていた時でした。
　セミナー開催の数ヶ月前に桐生敏明さんから「セミナーで写真を撮(と)ってくれないか。田池先生、塩川さんにも OK はもらっている」と声をかけてもらいました。まさかそんな形で声をかけてもらうと思っていなかったので動揺(どうよう)しました。「なんで私？」と思いました。以前写真に関わる仕事をしていましたが写真を撮ることについて詳(くわ)しい訳ではなかったので、何か間違えているのではと思い、改めて桐生さんに説明をしました。そうすると、その頃、私は Facebook に家の猫の写真をよくアップしていたのですが、そんな写真を撮ってくれればいいと返ってきました。ちゃんとしないといけないと思う私は、「被写体は猫じゃないし……」とハテナハテナでした。もう一つ、田池先生や塩川さんに対しても今思っているよりも距離があるように感じていたので、スタッフとして参加というのがしっくりこなかったというのもありました。
　しばらく時間をもらって「私にできるのか」というところからあれやこれやと自問自答を繰(く)り返しました。最終的に出した答えは、「桐生さんができると言ってくれているんだからできるんだろう」「ごちゃごちゃ言っていないで、できると言ってくれているんだからやってみよう」というものでした。
　参加を決めてからは、流れに身を任(まか)せてできることをしようという思いに変わっていました。学びに集ってから 10 年以上経(た)っていたのでセミナーには何度も参加させてもらっていたのですが、そのセミナーはいろんなことが新鮮に感じました。特に初日、会場だった橿原ロイヤルホテルの 1 階のカフェに田池先生、塩川さん御一行がいらっしゃって、近くに座らせてもらったこと、ホテルのロビーでアメリカから来たジェニーやワンさんと初めて面と

向かって挨拶したことも昨日のことのように思い出します。
　桐生さんは、その時からずっとそうですが、事の「詳細」を決めません。「ここはこうしてこうしてくれ」と言ってもらったら楽なんですが、そういう細かい指示がなくて、その時も写真をどう撮ってくれと言われた記憶がありません。ただ「冊子にしたい、好きなように撮ってくれたらいい」とそんなことを言われました。その時だけでなく、その後UTAブックで働かせてもらうことになるんですが、それからも同じです。やりたいことを聞いて、いったん「えーっ?!」となるんですが、一呼吸おいて自分で作っていた枠を外(はず)して自由にやってみる、そんなふうにして自分の硬さを感じながら、一緒にやらせてもらっています。
　実際にセミナー会場で写真を撮らせてもらっていた時、現象の場で涙が止まらなくなりました。私はそこで瞑想をしているわけではなく、瞑想（その頃は主に闇出しでした）している人の写真を撮っているだけなのに、嗚咽(おえつ)しそうなぐらい何か込み上げてくるものがあって、自分でももう訳がわかりませんでした。初めての体験でした。
　セミナーの中で前に出る機会をもらって、「お母さんの温もりをやらなあかんで。一生懸命やらなあかんな」というワンポイントメッセージをもらいました。もう一度一からやろうと強く思いました。
　セミナーが終わった時、何かわからないけどめちゃくちゃ嬉しくなって桐生さんにありがとうございましたと気持ち的には抱き合って喜びたかったんですが、拒否されたことも覚えています。
　間違いなく、あのセミナーは、私にとって今世の学びのターニングポイントになったセミナーでした。参加させていただいてありがとうございました。

2013年8月31日〜9月2日　「あなたは愛です」セミナー2日目

杉村和子さんの手記／「京都鷹峯」と「有馬六彩」

「少人数で勉強会を」とのご意向を受け、会員制リゾートホテルを手配し、セミナーは「京都鷹峯」と「有馬六彩」を主催させて頂きました。

寝食を共にして勉強、闇出しを心行くまで出来た、凄い環境でした。

大きなセミナーとは違い、濃厚な内容でした。けれども、ある種の特別意識が働いていたのではとも思います。主催者も例外ではありません。

回を重ねるに連れて、自分の勉強をやらせて頂いたと感じています。ホテルで先生をお迎えしてからお見送りするまで、「私を田池留吉が使われているんだ」と言う感じがありました。

最後の挨拶をしようとしても立ち上がれず、先生が「この人は今、硬直しているんや。チン！」と言われた途端、立ち上がれた事がありました。

不思議でも何でもない、私の肉を「田池留吉が使っていますよ」と言う事を、教えて下さったのだと自覚しました。

東急ハーヴェストクラブ 京都鷹峯から見た鷹峯（左は京都の街／手前の建物は宿泊棟）

キーボードの演奏では、「田池留吉に心を向けて弾いているんやろうなあ?」と釘を刺され、ある時には「今日は、この楽器を治療せんとアカン」と言われ、愛を入れて下さった。

その後、どう「ふるさと」を弾いたのか、もう「凄い」の一言だった。田池留吉の愛のエネルギーがキーボードを通し、私の指を使い、流れて行きました。涙で何も見えなかった、無我夢中で弾いていました。

先生の代わりに、リングに愛を入れると言う実験もありました。私は「エエッ、そんな事をして良いのかなあ?」と思ったのです。直後、「ああ、私は落第だなあ……私は先生に『愛を入れてみなさい』と言われた時、既に田池留吉になっている。それを躊躇した私は傲慢だった。愛の自分が信じられない、田池留吉が自分だと信じていなかった」と反省しました。

田池留吉には、「はい」しか無い。その時、既に私は田池留吉と一つになっている。そう学ばせて頂きました。

大きなセミナーでは学べない、貴重な体験です。

先生はセミナーに命を懸け、心血を注いでおられました。

私は間近で見せて頂いた、先生の学びに対する真摯な姿勢を、自分の目標にして行きたいと思います。

決して特別な人達の集まりではない。参加の可否に関わらず、それぞれが、どう受け取って行くかの勉強でした。

主催者として勉強させて頂いた事も、先生が打って下さった布石の数々だったんだなあと、今は思えるんです。

無駄な事は何も無かった。全て学び、全て良し、全てが愛の中の出来事だった。そう振り返っています。

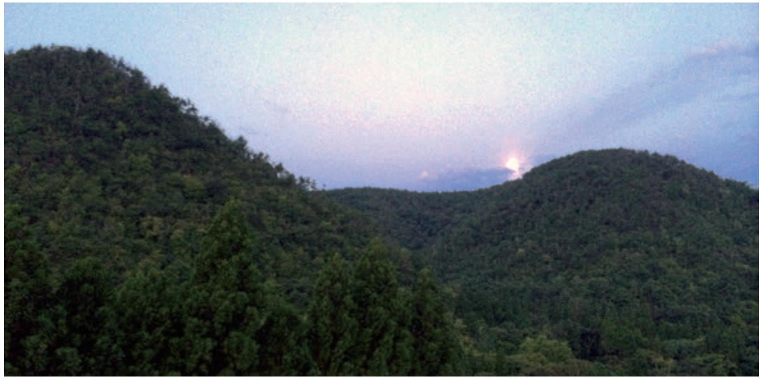
先生、使って頂いて、ありがとうございました!

あの時、言って頂いた言葉、

「この人なあ……今、高島屋でドレスをあつらえてるんや。『ふるさと』弾く時は、ドレスを着てなあ……」。

気持ちは、いつもドレスです、高島屋であつらえたドレスです。

田池留吉、「はい!」で行きます!



早朝5時　鷹峯に月が沈んでいきます

竹田恭子さんの手記

私は、肉を基盤に生きてきていました。今でもなかなか意識への移行が難しいです。そんな真っ只中、少人数セミナーに何度か参加させていただきました。10人、20人という人数では夕食時など田池先生の隣に座ることも多くありました。

私は「私を認めろ」という思いがあまりにも強い為、その思いが苦しく、食事どころではなく、心暗く、真っ黒く、ただただ辛い思いを出していました。その反動ともいうのでしょうか、次の闇出しの時間では、徹底的に心の中を出させて頂きました。半狂乱な自分を感じながら、自分を誤魔化すことなく、とことん闇の自分を出させていただきました。

今、思い出してもその時の自分の心は鮮明に思い出されます。なんと貴重な体験をさせていただいたのか、私に必要とはいえ強烈な闇出しでした。その場で狂うのではないかと思う程の凄まじい闇出しを、じっとゆっくりと包み込むような波動で先生は待って下さっていました。今思うと、いえ、今もあの時も、いつでも心は一つですから、すっとあの時の闇出しが心から出てきます。これからもその思いを心にして瞑想していこうと思います。

中島一二さん・智子さんご夫妻／エクシブ京都八瀬セミナー

この度 UTA ブックの桐生さんから少人数セミナーを開催した人にその時の感想を聞かせて下さい、というお話を頂きました。

2013 年の秋でした、先生に京都エクシブで少人数セミナーをやりたいのでホテルをとってくれないかと頼まれました。

正直いってセミナーに向いている部屋はないだろうと思いながらも「分かりました」と答えたと思います。

XIV（エクシブ）京都八瀬の中庭

開催は 2014 年 1 月 13 日から 2 泊でした、初めての経験だったので友人 3 人にお願いして、2 泊 3 日でホテルに一緒に下見に行ってもらいました。

夕食はどこで？ 昼は？ とか皆で試食をしながら相談しました。それも今思うと楽しかったです。

人数は 13 名、それに先生夫妻、塩川さん母娘、計 17 名

何度も先生と打ち合わせをしながら、ことは運んでいきました。

セミナーは濃厚でとても良かったです。

少人数だったので何度も何度も前に出して頂きました。

参加した方の中に、「初めて夫に対しての思いが出てとても嬉しかった」と涙して先生に報告していた方もいました。

一番印象に残っているのは塩川さんがアルバートに向けたときに椅子から転げ落ち、それは凄（すご）い波動でした。

3 日間、何とか無事に終わりホッとしたのを覚えています。

翌日若い人たちが先生の家に行ったら、歌を歌いながらいいセミナーだったと何度もおっしゃっていたらしいです。

私たちは肉のことに奔走（ほんそう）していましたし時間が経（た）って記憶が薄れましたが、その時の資料が残っていたので思い出しながら綴（つづ）りました。

沼田順子さん／橿原レベルアップセミナー、橿原ぬくもり会

田池先生が一所懸命、命を削（けず）って準備してくださった「橿原レベルアップセミナー」、更に田池先生がお亡くなりになった最後の年――2015 年 5 月の「ぬくもり会」に主催者側として出席させていただきましたが、どれほど先生の肉体に負担をかけてしまったか……。

本当に申し訳なく、その年の 2015 年 12 月 5 日に田池先生は 90 歳で、この肉を脱がれました。私のような出来の悪い者を最後の最後まで教え導いてくださって……先生の肉体の状況も気付かずにいた自分のバカさ加減にあきれます。

田池先生の深い愛、命懸（いのちが）けで教え導いてくださっていたのに、なんて傲慢（ごうまん）で己偉い自分であったのか。本当に何を言っても、田池先生の肉は帰ってこないのですね。

私は幼い頃より、誰に甘えることも、気を許すことも出来ず、信じられるのは自分の肉だけ。田池先生にさえ、本当の意味で委（ゆだ）ねることも出来ず一人で頑張ってきた、そんな思いがありました。

真実が分からずに……本当に、本当に大バカ者でした。本当にごめんなさい、ごめんなさい、ごめんなさい。己偉い自分、何もかも間違っていた……田池先生、私は大バカ者でした。

久保徹夫さん・明子さんご夫妻
／東急ハーベストVIALA＆有馬六彩

二十数年前から持っていた東急ハーベストで、田池先生がセミナーをしてくださる話が舞い込んできました。

でも持っている会員権だけでは参加人数が30数名程度でしたので、一人でも多く参加できるように、同じ東急の「VIALA＆有馬六彩」を買い足しセミナーを開くことになりました。

私はいつも、田池先生、塩川香世さんが来てくださるセミナーは、参加を希望する多くの方々を受けたいと思ってきました。

2014年秋、田池先生から、少人数セミナーを一本にまとめてくださいとの依頼がありました。その後も2015年7月迄少人数のセミナーは続きましたが、終了に伴(ともな)い数名の主催者様から参加費用の残金を頂き、その後のNPO法人UTAの輪の最初の資金に当てました。

2011年5月神奈川県の橋本から大阪の大宝に転居して間もなくダイワロイヤルのメンバーの購入の話もあり、数年後に役立ち、橿原セミナーと志摩セミナーからはダイワロイヤルホテルで大勢の参加者を受けることができました。

それから、2015年2月志摩ホールの建設の依頼と同年4月ふるさと苑の建設のお話も頂き、心身とも大変な事業の展開をしてまいりました。

そんな最中、UTAの輪を法人化してくださいと田池先生から依頼を受け、友人の協力も得ながら2015年11月15日NPO法人UTAの輪の設立、2016年11月志摩ホール完成、2017年1月31日ふるさと苑完成に至りました。

田池先生が亡くなられて早くも8年が過ぎ、再度、桐生敏明さんから「Taike Tomekichi part.3」の原稿依頼を最後の仕事と思って打ち込みました。何かホッとし「ありがとうございます」と心が言っております。

今はもう若い方達で運営していますので、私たち2人はふるさと苑で暮らし、ズームの勉強と共に、セミナーが開かれないコロナ下でも、ふるさと苑の皆で志摩ホールでの勉強会が続けられたのも本当に有難いことでした。

また、この4月から再開されるNPO法人UTAの輪主催の志摩セミナー、橿原セミナーも、ふるさと苑からセミナー会場のホテルの玄関まで、そしてホテルからふるさと苑への送迎バスの手配も準備され、歳を重ねても日々学びながら参加できる環境をつくってくださった田池先生に感謝でいっぱいです。そして、身近な方々にお世話になりながらも、35年もの長い間セミナーのお世話をさせて貰(もら)えた私達は幸せでした。ありがとうございました。

最後になりましたが、長年にわたり参加くださった皆様、ご協力、本当にありがとうございました。

久保徹夫・久保明子

田池先生と過ごせた最後の時間

田池先生は、橿原勉強会（2015 年 7 月 26 日～ 28 日）に出席されたあと、８月７日（金）、中島一二さん、智子さんご夫妻に付き添われ近畿大学病院に緊急入院されました。

そして、お亡くなりになるまでの４か月間、中島さんご夫妻が何かにつけ田池先生の側に付き添われてきました。この間のことを中島智子さんに無理を言って語っていただき、下記に掲載させていただきました。

なお、塩川香世さんが受けていただいた田池留吉の意識「意識の流れ－田池留吉からのメッセージ」を「UTA タイムカプセル」のレファレンスルームに保管しております。右端の QR コードから入室できますので、併せてご参照ください。

田池留吉からのメッセージ

長かったようで短かった。

主人のマッサージを、どんなご馳走（ちそう）よりも嬉しいと待っていてくれるので、病院には出来るだけ行きました。容態によっては日に３度行ったこともありました。

それにしても、あの年齢で６回の手術に耐えたことは凄（すご）いことだったと思います。

大宝の友人たちにも助けてもらいました。一緒に病院に行ってくれて喫茶店や夜は暗い廊下で待っていてくれました。

入院される 10 日目、橿原勉強会での田池先生のお話です。

また車がない時にＫさんのご主人、Ｉさんのご主人が病院まで快く送ってくれて有難（ありがた）かったです。行き届かないことも多々あったと思います。お叱（しか）りも受けました。

次から次へと状況が変わるので、どう対処してきたのか、日を送ることで精一杯でした。

セミナー中に何人の方たちが「先生のこと、ありがとう」と、心を落としている私に言ってきてくれた言葉、気持ちに救われました。こちらこそ、ありがとうです。

これを書くにあたり、何か月か一緒に時間を過ごせたことを思い出して本当にいい時間だったと改めて思いました。

田池先生、ありがとうございました。

中島智子

第 1 回 NPO 法人 UTA の輪セミナーで塩川香世さんが語られた田池先生の死

2015 年 12 月 6 日、第 1 回 NPO 法人 UTA の輪セミナーの初日、久保明子幹事長から田池先生が肺炎で亡くなられたことが伝えられました。そのあと、塩川香世さんが思いを語ってくださいました。

私が田池先生が亡くなったという一報を受けたのは近鉄特急の中でした。12 時 22 分に亡くなったという知らせを受けたんですけれど、実は私はホームページに書いています通り、田池先生の意識っていうのは、もう何週間も前から肉体を離れています。そして田池留吉の意識の世界からは「もう帰ってきなさい」というメッセージを確実に受けさせていただいていました。

だから昨日受けたときは、特別に何の感情もっていうか、そういうものはあまり出なくて、「そうだ、そうだ」と淡々と受けさせていただいて、それから少ししてから、「やっぱり田池先生ってすごいなー」って思いました。

なぜならば、もう肉体の機能はほとんど動いてない状態で、機械で呼吸してる状態がずっと続いていたんですけど、やっぱりこの伊勢志摩セミナーを待っていてくださったっていうか、これはどう言うか、肉的な思いも入ってるんだと思うんですけど……。もう本当に先生は常日頃、「死ぬのは一人でひっそりと静かに死にたい」ということを周辺の方に漏らされていましたし、セミナー会場でも言われていたかもしれないんですけど、まさにその通りに実際に息を引き取るときは、どなたも周りにいなくて、病院の関係者の方だけがいらっしゃったという状況です。

その中で静かに息を引き取って先生のご意思の通り、直送ということで、病院からすぐに葬儀屋さんっていうんかな、そういう事業者のところへご遺体は運ばれて、もう今頃は荼毘に付されているというのが実情です。

しかし皆さんも、もうおわかりの通り、田池先生は肉ではございません。私達も肉ではありません。そのところをしっかりと踏まえて、どうぞ、本当にこれから真剣に、一人ひとりが田池留吉の世界に心の針を向けて、合わせて、しっかりとその波動、愛の波動を、愛のエネルギーを心に感じていける、そんな自分になって、その肉をお離しください。

それでも難しいです。それでも難しいです。

しかし、それぞれに残された肉の時間、しっかりと瞑想をしてください。田池留吉を思う瞑想です。愛を思う瞑想です。私は田池留吉から、そのメッセージを、もう何度も何度も、毎日毎日毎日毎日受け取っています。

あなたは田池留吉に心の針を向けて合わせていくだけです。

何も案ずることはございません。ただ、私に思いを向けていく

セミナー冒頭、田池先生の死について語られる塩川香世さん（QR コードは、その音声にリンクしています。
また下の QR コードは、「NPO 法人第 1 回 UTA の輪セミナー」全体の動画ファイルにリンクしております。）

だけです。それが田池留吉のメッセージです。

私はそのメッセージ通りにセミナーをやっていくつもりです。

そして、また田池先生も、前々から、「あんたの思う通りにセミナーをしいや」というふうに言っていただいていますんで、私は、まだまだ皆さんと同じで、肉の思いも強いですし、自分勝手っていうか、なんか自分の生き方っていうか、そういうところを捨て切れずにいますけれども、しかし、私の意識の世界は田池留吉をしっかりと指しています。

私から流れる波動は、田池留吉の波動だと、私は知っています。

だから私の肉にとらわれる人は、この学びから離れていくでしょう。私は、自分の肉の……塩川香世という肉からメッセージを発しません。

セミナー会場にいるときは、田池留吉とともに、一つの意識の中でセミナーをやってまいります。

そのところをしっかりと、それぞれがわかっていただきたい。それが、それぞれのレベルアップなんです。皆さんのレベルでは残念ながら、なんていうか、私の感じてほしい、知っていただきたいというところまでは、まだまだ行っていないというのが現実なんですけれど、でも、まだこれから時間がございます。

私も「あんた、20 年やりや……」と（田池先生から）言われていますんで、何とか一生懸命に務（つと）めさせていただくっていうか、ともに学んでいきたいというのが、私の今の思いです。

（2015 年 12 月 6 日　伊勢志摩ロイヤルホテルにて）

10. 私達は喜び、すべてが喜びです。そして、すべてはアルバートとひとつです。

アルバートとひとつ、肉を持ちながらこのことを心で感じさせていただきました。私はその事実を淡々とお伝えしているだけです。誇(ほこ)る思いも特別だとする思いも何もなく、ただアルバートとひとつの喜びと幸せ、その現実を語っています。

その一方で、肉は肉の思いをすべて捨て去ることはできません。肉を持っている以上、それは不可能です。

アルバートを感じるとはそういうことではなく、ただアルバートを思っている私には肉がない、肉でない私がそこに存在している、その私がアルバートとひとつを感じている、そして、それが私自身であると私は信じている、そういうことです。

そういうことであり、それだけのことですが、それは大変な喜びです。この出会いをずっと待ち続けてきた意識にとって、それは大変な出来事でした。私はその喜びと幸せを伝えています。

同時にすべてがひとつですから、必ずということが信じられるのです。その信じる信が波動となり、意識達に伝わっていくのだと思っています。

私達は喜びでした、そう喜び合えるその瞬間を私達は心待ちにしています。

田池留吉

10. We are joy. Everything is joy. We are all one with Albert.

Being one with Albert. I was able to comprehend this with my heart, while having a physical body. I am merely communicating this fact. I have no desire to boast or to say that I am special; I am only sharing the reality of the joy and happiness of being one with Albert.

At the same time, I cannot abandon all my physical desires. As long as I have a physical body, that's impossible.

Feeling Albert is not about that. It means that when I align myself with Albert, my physical self ceases to exist; only the non-physical remains, feeling as one with Albert, and I believe that to be my true self.

It is just that and only that, but it is a tremendous joy. For all the consciousness that has long awaited this encounter, this is a significant event. All I am doing is conveying this joy and happiness.

Because everything is one, I can believe with certainty. This trust transforms into vibrations and is transmitted to all consciousnesses.

We were joy, and we are all eagerly waiting for the moment when we can share this joy together.

「ともに次元を超えていこう」と、思いを向けて瞑想をすればどうですか、あなたの中の宇宙達、挙ってアルバートと叫んでいませんか。アルバートを求めて、求めてきたこの思いをどうか分かってくれ、そんな思いを心に感じませんか。私は感じるんです。だから、アルバートと異語とともに発することがもうたまらなく嬉しいんです。この感覚は、田池留吉の肉があってもなくても全く変わらないものです。

「ああ、私達はこんなにもアルバートを求めてきた。母なる宇宙に帰りたいとどんなに切望してきたか。そして、今それが現実のものとして自分の中にはっきりと広がっていく、感じられる喜びは、本当に何にも例えようもないものだ」と、私は瞑想の中で語ります。

そうすれば返ってきます。波動で答えてきます。このやりとりがたまりません。田池留吉、アルバートは波動だ。私達は波動だ。通じ合える喜びをどんどん広げていこう、自ずとそう思えるのです。こんな喜びの時間を自分に用意してきたなんて、本当にありがたいことです。自分を見限り、裏切り、切り捨てて、悪の限りを尽くしてきた愚かな自分の中に、脈々と息づいている愛のエネルギーでした。

If you meditate towards "Let's transcend dimensions together", what do you feel? Do you feel the space within you all call out for Albert? Do you feel the energy of your heart calling out for Albert and begging for this call to be heard? I feel it. So calling out for Albert through Igo (language of consciousness) is just pure joy. This feeling does not change with or without Taike Tomekichi's physical body.

"We've longed for Albert for so long. We wanted to return to the space of mother. And now, this reality spreads within me more and more clearly, and the joy to feel this in my heart cannot be truly expressed." I'm calling through meditation.

Then, there is an answer. The answer comes through vibrations. These exchanges are incredible. They are the vibrations of Taike Tomekichi and Albert. We are vibrations. The feeling comes naturally to spread the joy of being able to connect. These moments of joy have incredibly been prepared for ourselves. Thank you so much. The energy of love continued to pulsate within us, even though we had betrayed and abandoned ourselves and committed so many atrocities.

最終章　次元移行と天変地異

「次元移行と天変地異」瞑想会（ZOOM ウェビナー）

参加者からの感想　意識の流れ　294

参加者からの感想　アルバート　303

参加者からの感想　愛、母なる宇宙　308

参加者からの感想　エトセトラ　316

◇　この学びとどう向き合ってきたか　336

◇　瞑想会に参加するにあたって　341

「次元移行と天変地異」

「Taike Tomekichi part.3」出版に先立ち、塩川香世さんに「次元移行と天変地異」に関する瞑想会をお願いして、2023 年 6 月 10 日、ZOOM ウェビナーを使って瞑想会が開催されました。この章は、この瞑想会終了後に、参加されていた方に瞑想会で感じられたことを提出していただき、それを瞑想会の流れに沿ってまとめさせていただいたものです。

ただ感想を集めただけではなく、これまで出版された書籍（「意識の流れ 増補改訂版」「愛、自分の中の自分～意識の転回 ver.3 ～」「宇宙の風」「母なる宇宙とともに」「ともに次元を超えていこう」等々から「次元移行」に関する箇所を併催しており、活字という媒体を通して「次元移行と天変地異」という瞑想会を共有できればと制作したものです。

「次元移行と天変地異」瞑想会（ZOOM ウェビナー）
2023 年 6 月 10 日 午後 2 時～2 時 35 分

桐生敏明（UTA ブック）：今日はお忙しい中お集まりいただきまして、ありがとうございます。始まる前に5分だけお時間をいただいて、今回の瞑想会に至った趣旨と簡単な説明をさせていただきたいと思います。

「意識の流れ」の初版が出て、来年 2024 年で 20 年になります。増補改訂版が出てからでも 13 年になります。エルランティの光セミナーは 2001 年に終了しておりますが、田池先生はよく、「これ以降は同窓会云々（うんぬん）」の話をされるのですが、僕らからしたら同窓会どころかここからが新しいステージに入ったとそう感じております。

UTA ブックとして出版活動をお手伝いさせていただいて、田池先生がお亡くなりになるまでに書店に並んだ本がこれだけあります。「意識の流れ」から始まって、「意識の転回 ver.3」が出たのが 2015 年 6 月、その後には田池先生はお亡くなりなられてるんですが。

田池先生に言われてたことで「出版物、最後は次元移行と天変地異だよ」と言われておりましたが、形にならないままずっと今まできました。どうしてかなと思ってちょっと調べてみると、「次元移行と天変地異」について詳しく書かれた本はこれだけあります。

「意識の流れ」「意識の転回」「宇宙の風」「母なる宇宙とともに」「ともに次元を超えていこう」、これでほとんど田池先生の言う「次元移行と天変地異」というテーマについては語り尽くされているという感じで、これ以上のものはないのかなと思っています。

そこで、何が抜けているのかなと思ったら、「学ぶ側がどうとらえてきたか？」その1点だと思っています。「総合的に自分はこの学びとどう向かい合ってきたのか」、その総決算としての「次元移行と天変地異」というテーマ、これこそ田池先生に示唆（しさ）された UTA ブックの出版物の仕上げだと思うようになりました。

ということで、原稿を出していただく前提の瞑想会を開きたい

ということで塩川香世さんにご相談させていただいたら、前に出る方は15名、原稿は400字以内ということでご提案いただきました。ただ、こういう趣旨ですから、ZOOMを通して参加されたすべての方、今であれば311名の方が（ZOOMで）参加されておりますが、その方達にも瞑想後、こんなこと感じたよと色々あると思いますので、原稿を送っていただけたらと思います。

寄せられた原稿はこちらで編集、整理させていただいた後、塩川香世さんの監修のもと秋に出版予定の「Taike Tomekichi part.3」の最終章に掲載させていただきたいと思っています。掲載については、出していただいた方全員のものを掲載させていただきたいと思っております。その際にお名前を記載させていただきますことをご了承いただけたらと思います。よろしくお願いいたします。

では、塩川香世さん、準備ができました。

よろしくお願いします。

このQRコードは、2023年6月10日、ZOOMウェビナーを使って開かれた「次元移行と天変地異」瞑想会の模様を記録した動画にリンクしております。

塩川香世さん：今、UTAブックさんから説明がありました通り、今回の瞑想会の趣旨ですね、どうぞ、喜んで受けていってください。

それと瞑想会の題が「次元移行と天変地異」となっていますけど、私の中ではどちら側の比重が大きいかと言ったらもちろん「次元移行です」。そちらのほうに思いを、比重を向けて瞑想していただけたらなと思います。

それでは、そこで目を閉じて丹田呼吸をしてみてください。

ホームページから読ませていただきます。

（HP「ともに次元を超えていこう」から）

私達は、ともに次元を超えていこうと呼び掛けを受けています。真っ直ぐにそのいざない、呼び掛けに応じていく覚悟はありますか。決して平坦な道ではありません。間違ってきた道を自らが正していくためには、決死の覚悟が必要です。それは、これからの転生によって明らかにされていきます。何を大袈裟な、未だ来らない未来のことがなぜ分かるんだという反論を持たれるかもしれません。反論とまではいかなくても、本当にそうなのかといぶかしげに思っておられる人もあるかと思います。

反論も結構だし、なかなか信じられないというのも分からないではありませんが、そういう方達は、殆ど全員の方が母の反省が滞っているということだと思います。どうぞ、自分の頭を過信

せずに、自分の今の肉がある間に、もう一度、いいえ何度も何度も、なぜ自分は生まれてきたのか、なぜ今ここにいるのか、何をするためにここにいるのかと、母の反省を通して自分に問いかけてください。素直に真摯（しんし）に問いかけてみてください。そして、お母さんに産んでいただいた今を心から喜べるまで、母を思う瞑想を継続してください。

あなたの中の田池留吉、そしてアルバートを思ってみてください。（瞑想　3分15秒）

ありがとうございました。 ありがとうございました。

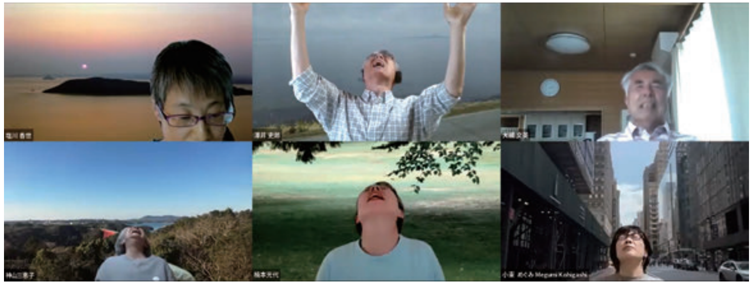
参加者からの感想 **意識の流れ**

それでは今回、パネリストの方が15名おられるので、5名ずつ前に出ていただきます。

はい、それではこういうふうにして、5名さん1回ずつ3回します。3回、私のほうから言葉を発しますので、そちらのほうに思いを向けて自見ながら瞑想をしてください。

それでは、まいります。

「意識の流れ」



（瞑想　3分）

ありがとうございました。 では、次の5名の方と交替していきます。

意識の流れに思いを向けると、アメリカの景色というか画像が何点か浮かんできた。長い長い間、この時を待っていた。この思いに出会いたかった。会いたくてただその一心で肉を繋いできた誰かの目に思いが向いた気がした。

この流れに任せていくだけ。頭はいらない。何もなくていい、ただ委ねていく。幸せな私達でした。

意識の流れにありました。田池留吉ありがとう、ありがとう。私は愛です。

意識の流れに思いを向けて、その流れに沿って行けばよい。自分がその流れを妨げてはいけない。意識の流れに沿って行けば自分が喜んで行ける、そう思える。

自分が意識の流れの一部であるのに、その流れを妨げてはならない。自分を見つめてその流れに同化して行きたい。

自分の中にはその流れが感じられるし、その流れの一部として流れて行けることが喜びであり、自然であると……、自分はそんな風には思って来なかった。

自分が自分を妨げている。自分が自分を苦しみの淵に追いやっている。

この学びを始めてから、ずっと肉の自分の頭を使っていつも考えて来た。それは今もそのままだ。

しかし、意識の流れはその自分の肉の思いとは別の所で、自分の中をしっかり流れてくれている。自分が「自分の中を流れる意識の流れに沿って行こう」と思いを向けて行くことが、唯一自分を救いゆく道なのではないかと、今更ながら思わされた。ありがとうございました。

同じ流れの中にありました。愛の中にありました。

ともに帰れる流れの中にありました。一つが嬉しいです。

全て全て私達の中にありました。

包みこまれている。たとえようもない温もりの中に包みこまれているのを感じました。

厳然としてある流れを感じました。そしてこの流れにすべてを委ねていくことも感じました。粛々と ”意識の流れ” は流れています。

パネリストとして前に出て、「意識の流れ」という文言を聞いた瞬間、身体全体が反応しました。ああ、僕は意識の流れの中にいる、間違いなくその中にいる、鮮明にそれを感じました。

意識の流れは次元移行を指している、そして次元移行に欠かせないのは天変地異、これまで拒絶していたのが、当然のように受け入れていました。

それほど鮮明に感じたのは初めてでした。それを妨げていたのは、肉を本物とする思いでした。

今日感じたものを、瞑想で何度も何度も確認していこうと思いました。意識の流れにある自分を感じて本当に嬉しかったです。嬉しかった思いを信じていきます。

今日の瞑想会、とても、とても、良かったです。

「意識の流れ」。初めて体験させてもらいました。

私の心の中、思いの中で間違いなく、「意識の流れ」が在りました、在りました。

遥か遠くの方に、淡いながらも、明るい感じの何かが見えます。

「ああ、私は、この道を、ただ歩んでいけば宜しいのですね。」

有難うございます。

伝えて頂き、有難うございます。

私の宇宙の友が同行をしてくれています。

思わず、ありがとう、ありがとう、の思いが溢れます。

エッ、田池留吉、アルバートも一緒です。

有難うございます。

嬉しいです。嬉しいです。

今、私は、喜び、喜び、の思いです。

一歩、また、一歩、としっかり歩みを進めます。

「意識の流れ」塩川さんがそう口にされた瞬間、

私達はこの時を待っていた、他力のエネルギーを解放できる唯一この時を待っていたんだ、他力の神々の思い、肉を本物として苦しみの底に沈む闇のエネルギーがその解放を求めて心の底から一斉に叫びました。

田池留吉に出会いたい、出会いたかったんだ、私達は帰りたかったんだ、おかあさんおかあさんおかあさん。その叫びの中で、ああ本当に肉の小さなところで自分の思いを表面だけ包んで学んでいると思っていた自分、この学びへの甘さ不誠実さ冷酷さに詫びました。

けれど、やっていくんだやっていこう。この道を歩いていくんだという力強い思いも湧き上がり、心から波のように優しい温かい思いが伝わって私の肉体細胞に浸透していく温もりの波動、そしてその波動は私の肉体を突き抜けてどこまでも広く過去から未来まで浸透していく波動だった、ああうれしいです。お母さんありがとうございます。

意識の流れと聞こえた途端に、私の中にあるエネルギーが動く、肉の私は真っ暗の中でよく分からないのに、響き伝わってくる底知れぬ強く、働き掛けて来る流れを感じる。ただ感じ伝わるすごさに、ありがとうと思う私がいる。今の思いを文字に打つと嬉しく、お母さん生まれてこれてよかった、ありがとう。田池留吉に出会っ

て本当のことを学べる今が嬉しいです。アルバートの声に、出会える喜びと、爆発が起こったような衝撃を感じながら、今の私はまだまだ何もできていない、ただこの道を素直に歩こうと思います。愛、母なる宇宙。この響きは、とてつもなく大きく、優しく広く、温かく、今世の私から飛び出した、すべての私、皆一斉(いっせい)に解(と)き放(はな)された喜びを感じました。帰りたい、帰りたい、帰ろう、帰ります。帰っていく喜びを感じさせてもらった、波動の時間でした。本当の私に、こんな喜びが待っていることを信じて歩いてくるんですよと伝えてもらっています。

「意識の流れ」の中で私は生かされているんだと嬉しいなと思いました。

　意識の流れに逆らって生きてきました。
　やればできる。やらなければと、苦しさは我慢と、意識の底に押し込んできました。

　意識の流れに逆らって逆らって生きてきました。意識の流れに向けた時、間違ってきた。ごめんなさい。そんな思いばかりで、それでも許してもらっていることが嬉しかったです。

「意識の流れ」がはっきりと形を通して示された。あだや疎(おろそ)かにしないように、その流れに素直に従っていきなさいと自分の中から伝えてくる。すべてを意識・波動として捉(とら)えられるようにと伝えてくれている。これから、現象の受け止め方が変わってきます。すべてが誘(いざな)いです。あなたの心は喜びで受けとめていくことでしょう。

　意識の流れに思いを向けます。
　広がっていく、広がっていく、思いが溢(あふ)れてくる。
　くそったれ！　ぶっ殺してやる。待っています、待っていますよ。
　帰りたい、帰りたい、私の中から伝わってきました。
　なぜこんなに暗い真っ暗な中にあるのか、と叫んでいます。
　お母さんありがとう、アルバートありがとう、ともにともに帰ります。
　宇宙と思いました、仲間たちの思いが響いてきます。
　ともにともに超えていこう、お母さんの中に、故郷へ、約束したね、約束だったよね。
　本当に私は待っていたんですね。意識の流れの中にある私を感じました。
　ずっとずっと待っていたんです。約束でした、必ず帰りますという約束でした。
　お母さん、ありがとう。
　どれだけ間違い続けても、私は信じて待ってもらっていました。
　だから私は帰りたかった、心の中の思いでした。

お母さんに帰りたかったです。
瞑想後も心が軽くてうれしくてたまりません、ありがとうございます。

帰りたい！ 帰りたい！ 帰りたい！ 帰りたい！……帰ります！
帰ります！ 帰ります！ 帰ります！

私も次元を超えていきたい。
次元を超えていきたい。（6月11日朝に受けたもの）

自分の中を崩していく……
しっかりと握（にぎ）りしめて、どうしても離す事の出来なかった思い。
良しとして来た思い、悪いとして来た思い。それらが総崩れになって行く。
肉から、意識への転換
そんな思いが広がりました。

意識の流れに向けて瞑想しました。
苦しい中から生まれてきました。帰りたい、帰りたい、帰りたい。
アルバート、出会いをありがとうございます。
おかあさん、ありがとう。
苦しい思いとともに、ありがとうでした。

意識の流れは、本当に真実を伝えてくれていました。
その重み、凄（すご）さをもっともっと深く信じていきます。

ずっとずっと求めて参りました。私はずっと求めて参りました。
意識の流れを教えて頂きました。本当のことを教えて頂きました。
そこに向かってただただ進んでいくだけです。
私はもう自分を見捨てません。自分の中に生きているたくさんの意識達と共に意識の流れにのって次元移行を果たしてまいります。
お母さん待っていてください。必ず帰ります。
はいありがとうございます。私は幸せです。
本当のことを知ってとても幸せです。
お母さんありがとうございます。

やっとの思いで、今世こうして肉を持たせていただきました。こうして今集わせていただいていることが本当にすごいことだと伝わってきます。すべて自分の中にありました。私はそのことを自分の中で確認していくだけでした。お母さん、ありがとう。アマテラス、ありがとう。みんな、ともにともに帰っていく道筋にありました。
次元移行も私の中にありました。思いを向ければ、嬉しいです。私という肉はここにありません。喜びの思いが広がっていきます。
だから、私は私を信じて歩いていくだけです。私は喜びの中にあることを確認しながら、たくさんの宇宙とともに歩んでいきます。

「意識の流れ」を思いました。
苦しくて地の底を這いずり彷徨ってきた私にやっとお母さんの優しさが伝わってきます。荒んだ寂しい心に届き始めました。

ああ、どれ程この時を待ち望んできたことか……

ありがとう。嬉しい。この伝わってくる波動と共に生きていけば、私はふるさとへ帰れる。温もりに帰れる。本当の私に戻れるのだ。

お母さんが肉をくれたから、生き直しのチャンスを貰ったから。

田池留吉に出会い、真実を伝えてもらえたから。

信じて待って貰っていると分かったからです。

「この流れに融合して行くのですよ」といつもどんな時もノックしてもらっていました。帰りたかったのです、お母さん！ と呼びたかったのですと。

クソ！ クソ！ と叫んでいる私が、口々にありがとう、嬉しいと、温もりの中に溶けていきます。

意識の流れは、大きな、大きな、雄大なうねりでした。

ありがとう！ のうねり全てを吸収していくうねりでした。

私も吸収されていきます。ああ、幸せ。ありがとう！ ありがとう！

小さな狭い世界でああでもない、こうでもないと繰り返し生きてきました。現象がでてくる度に恐怖や不安、他力の心が出てきます。愚かな肉でした、今も愚かです。でも私はこの学びに出会いました。これは私の中の奇跡です。田池留吉 アルバート お母さんを思える今、本当に嬉しいです。なぜ、生まれてきたのか。何をする為に今ここにあるのか。愚かな肉の思いにとらわれず、心の針を確認して田池留吉 アルバート お母さんを思っていきます。

何か心に響いてきましたが、それが何なのかは今の私には分かりません。ただ、周りを見渡せば、すべて次元移行に向けて流れているのを感じます。

それから自分の学びの姿勢を振り返った時、己が偉過ぎたなあというのが感想です。

これからもっと、もっと素直になって、元の自分に戻っていこうと思います。

なぜか分かりませんが苦しい思いしか出てきませんでした。

怖がらないでください。

意識の流れに抗っていては次元移行はできません。

意識の流れは、愛です。

宇宙とともに次元移行をしていく意識の流れを思いながら日々瞑想を続けてください。

次元移行はあなたの心の中で起こる喜びです。

全て、あなたの計画です。

中から何か込み上げてくる思いがありました。その思いに対して「気付くことなく、全く素通りばかりでごめん、ありがとう」という思いを発していました。

たいへん嬉しかったです。

そして、今回の瞑想参加で、意識の流れの本を読み返すことで、新たにいくつも響いてくる個所がありました。

自分の現状を確認する機会を得ることができ、ありがとうございました。

何だかわからないけど、嬉しい思いがふつふつと湧いてくる。

田池留吉、アルバート、宇宙、母なる宇宙に思いを向けあなたの思いを語っていきなさい。それでいいのですよ。

意識の流れはアルバートとともに次元移行。

私たちはひとつだよ。ともにともに愛に帰ろうと伝えてくれました。

意識の流れのなかにある今を喜んでその流れとともに歩んでいきます。私たちは苦しみではなかった。苦しみは愛でした。嬉しいです。ありがとうございます。

まず嬉しい思いがぶわっと広がりました。すごく嬉しい、嬉しい、お母さん、ありがとう。

「意識の流れ」に向けて、グワッと異語が出てきました。エネルギーが出てきます。そして頭が痛くなりました。他力なのだと肉だと、認めようと思ったら、頭痛が消えました。そして大きな恐怖の心が温もりに吸収されていきました。

温もりでした。私は温もりでした。嬉しかったです。とてもとても嬉しかった。

大きな闇が温もりに吸収されていく。

何がどうとか上手く書けませんが、温もりが私ですと思えたことが、私の次元移行なのかなと思いました。

大きなチャンスをありがとうございました。

うれしい。広がっていく。お母さん、ありがとう。

異語を発しながらただおかあさんと呼び続けた。まだ実感はないのだが日常の中で肉でない流れに乗っているのを感じるのはあります。

意識の流れに心を向けますとお母さんと出てきます。

意識の流れはずっと私の心の中にあってその流れの中で母が取った行動が許せなくて死んでも許さないの思いをずっと持ち続けてきました。

しかし、お母さんは意識でもって私と対峙してくれ、私は肉で

受け取って苦しんできたことがわかり、自分のバカさかげんを知るに至り、母の愛の大きさ命がけで意識の流れに私をのせてくれたことに脱帽です。

アルバートを思っても、愛、母なる宇宙を思っても、お母さんと出てきます。その事がただただ嬉しいです。ありがとうございます。

お母さんありがとう、お母さんありがとうの思いが胸いっぱいに広がり、嬉しさが異語と共にあふれてきました。

お母さん、お母さん、ありがとう、ごめん、ありがとう。

お母さんに帰る道。愛、心のふるさと、母なる宇宙へ帰る道。

お母さんを呼ぶ、アルバートを呼ぶ歓喜の雄叫び（おたけ）びが宇宙に響き渡ります。

私達は、意識の流れの中にありました。

ありがとう。ありがとう。ただただありがとう。

次元移行。天変地異を経て次元移行へ。

あぁ何もなかった。要（い）らなかった。肉から意識へ。肉から意識へ。

ただ、それだけが待たれていたのでした。

全て、あなたの計画です。

次元移行と出てきました。いざ行かん。はっきりと心の中より出てきました。

温かい暖かい温もりに包まれていました。

しっかりとはっきりと乗って行きます。“そして、それが意識の流れの中のあなたの計画です”と伝わって来て嬉しかったです。天変地異も受け入れて行ける自分をしっかりと、確立して行きます。

嬉しい、ふるさとの歌を、セミナー会場で、みんなと歌っているような感じでした。意識の流れの中にある私たちです。

アルバート　アルバート　アルバート。

みんなみんな一つでした。私は田池留吉、アルバート。やさしいやさしい私が存在しておりました。お母さん、お母さん。アルバート、アルバート。ありがとう。

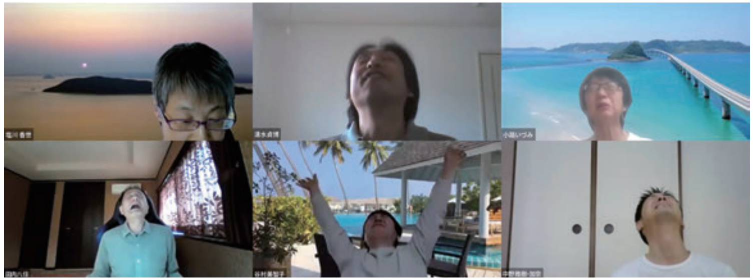
下呂温泉とセミナー会場（1990 年 12 月～ 2002 年 12 月）となった水明館

参加者からの感想　アルバート

それでは瞑想していきます。この５名の方には……。
よろしいですか、目を閉じてください。

「アルバート」

（瞑想　３分）



ありがとうございました。

呼びたかった、呼びたかった。どんなに呼びたかったか。優しい、優しいやさしい。お母さん、お母さんありがとうございます。愛でした。

懐かしい。呼びたかった。呼びたかった。
ただただ呼びたかった。ああ、出会いを待ち望んできました。
アルバート、会いたかった。

私がアルバートを呼ぶ思いは必死でした。
何度も繰返し繰返し呼んだ呼べたこと本当に良かったです。

温かい温かい波動に包まれる。

アルバート、殺してやる！ アルバート、よくも今頃……
250年後、アルバートと出会った時、噴出していく喜びのエネルギーで、私たちは次元を超えていきます。今世学んだことを思い出し、喜び、喜びのエネルギーを噴出し、喜び、喜び、喜びで、喜びの自分を思い出し、元あったところへ帰っていく喜びに沸き立っています。元の自分を心に蘇らせた、素直な思いに帰っていけた喜びは地球に肉を持ってからそれまでのすべての苦しみを包んでいきます。暗黒の宇宙は温もりに包まれて、暗黒が温もりを思い出して、喜び喜びあっています。やっとやっと帰れる喜びは宇宙に広がって

いきます。お母さんを呼ぶ思いが暗黒の宇宙を包んでいきます。

痛い、いつもの持病どころではない。全身の骨が軋む痛さ。このまま死んでいくのか。どれほどの闇を垂れ流してきたのか。癌になっても飽き足りない程の闇なのか。苦しい、助けてくれと叫ぶ意識。でもアルバートと叫んでいる意識もいる。アルバートに会いたい思いが伝わってくる。

今回、このような機会を頂き、ありがとうございます。

最初、「次元移行と天変地異瞑想会」の案内を見た時は、自分にはあまりよく分からないかもなぁと少し遠慮がちな気持ちになっていましたが、参加締め切りが近づくにつれて、なぜだか分かりませんが、分からないからこそやってみるべきだという気持ちになり、応募させて頂きました。

瞑想会では２組目に名前を呼ばれました。

アルバートに向けた時、すごい勢いで思いが噴き出してきました。

「帰りたい、帰りたい、苦しかった、苦しかった、本当に苦しかった、帰りたい、帰りたい、必ず帰ります」

このような思いが次々と噴き出しました。

頭ではまったく分かりませんが、自分の奥底の叫びのようなものを感じることができました。本当にうれしかったです。

ずっとずっと待って待って待ち続けて来ました。苦しかった。苦しかった。田池留吉、アルバートを思うと凄まじいエネルギーが、飛び出してきます。帰りたい帰りたいと叫びます。お母さんを呼んでいます。広ーい広ーいすべてを許し、包み込んでいく心がどんどん広がっていきます。そこには何もなかった、ただただ喜びだけでした。ありがとうございます。こうして苦しみ続けてきた自分から学べることがうれしいです。この喜びで田池留吉、アルバートと共に真っ直ぐに「愛母なる宇宙」へ帰る道を歩き続けて行きます。

瞑想会が始まる前、ZOOMにつながった時から、心の中から「自分自身に申し訳なかった」という思いが出てとまらず、ずっと涙が溢れてしかたありませんでした。

自分に冷たく、このままでは次元移行は厳しいという現実も改めて感じました。

私は、２組目にパネリストとして呼ばれ、一緒に瞑想させて頂きました。

塩川さんが、「アルバート」と言われた途端に、

「アルバートと出会うために、今世のこの肉を頂きました。ただ、アルバートを思う、思える。これだけでいい。これだけで充分。それ以上何もいらない。ただ、アルバートと思える、それだけでいい。そのための肉。ただ、この一点のみ。一番大切なこと、大事なことを、今までないがしろにしてきた。自分に冷たかった。申

し訳なかった。」そういう思いが溢（あふ）れました。
素晴らしい瞑想会に参加させていただけて本当にありがとうございました。

アルバートと呼べる今が嬉しいと何度もさけんでいました。

意識の流れ、「次元移行と天変地異瞑想会」に、ともにともに参加できたこと、ストレートにありがとうございます。
まさに千載一遇のチャンスを頂き極上の瞑想を体験できました。
まだまだ力量不足なので宇宙を思う中で藻屑となる覚悟でいましたが。
私がアルバートを呼ぶ思いは必死でした。
何かは分かりませんが宇宙は静かでした。
寄せては返す込み上がってくる思いに万歳です。
アルバート、アルバート、ずっとずっとずっと呼んでいたかったです。
必ず必ず 250 年後に自分を繋（つな）いでまいります。
ともにともにふるさと母なる宇宙へと帰ってまいります。
今こうして肉を持って学べること、お母さんありがとう。
この一本道をしっかりと歩いていきます。
アルバート、塩川香世さん、ブックの皆さん、仲間達すべてに本当に心からありがとうございます。

あたたかい、安らぎを感じることはできませんでした。

先ほどの（意識の流れの瞑想で感じた）目はアルバートに出会った自分の目だと感じた。凄まじいエネルギーが異語となって飛び出していった。苦しいのか嬉しいのか分からないけど、凄いエネルギーが一点を目指して飛び込んでいくのを感じた。

自分の心の中に思いがどんどん向いて行きました。
どんどん広がって行く。
渦（うず）を巻きながら、どんどん深く入って行く。
そんな感じがしました。

何もない広い広い世界。だけどある、広い広い世界。
喜びが喜びを誘（いざな）っていきます。
アルバートとともに、異語のリズムを奏（かな）でます。

進め！ 進め！ どんどん進め！
どんどん進め！ 前へ！ 前へ！ 力強く進め！ 進め！

アルバート　アルバート　アルバート……呼び続ける。叫びたかった。ただただ呼び続けたい。お母さん、ありがとう。お母さん、ありがとう。

心の底から、中がアルバート、アルバートと、力強く叫んでいます。 ああおかあさんありがとう。嬉しい。ただ嬉しい。

どんな自分でもいいよって優しい思いが伝わってきて、この中で自分を見つめていけば大丈夫って思いました。 どんな思いも受け入れてもらっていることが嬉しいです。

アルバート、あなたにやっと出会えました。

今世、田池留吉を通して、やっとやっと出会えました。

私は遥か過去より、アルバート、あなたをずっと探し求めてきたのです。

恐怖と絶望の中でずっとずっと探し求めてきました。

あなたがいつもそばにいてくれたのに、全く気が付かなかった。

ありがとう、うれしいです。

やっとです。

必ずあなたのもとに帰ります。

アルバート、私のふるさと。

アルバート、お母さん。

ありがとう、必ず帰ります。

ありがとう、ありがとう、ありがとう。

250 年後の出会いを感じました。 喜び、喜びの出会いを感じ、そこから最終３次元への移行が始まります。アルバートとともに、３次元移行のスタートを感じました。

アルバートとの出会いは天変地異。 思い出す。必ず思い出す。田池留吉。すべてを振り返る。

すべてが転じていく。とけあっていく。ひとつにとけあっていく。

次元移行はアルバートとともに、みんなでともに次元を超えていこう。

アルバート、アマテラスとともに、ともにともに帰ります。 帰れる喜びを信じてともにアルバートを思える今が幸せです。

ぬくもり、あったかい、ひろがっています。

みんなみんな待っていてくれました。 お母さん、お母さん、ありがとうございました。

聞いた途端、喜びが爆発です。 アルバート、アルバート、アルバート、あちらからこちらからアルバートの雄叫びです。

嬉しい、嬉しい、嬉しい思いが仕事をしていく。

熱海温泉とセミナー会場となった「つるやホテル」
（1997 年 5 月～閉館間際の 2001 年 10 月まで）

ありがとう。ありがとう。アルバート。
出会いたかった。出会いたかった。ただただ出会いたかった。
何もない。何もない。ただただ出会いたかった私でした。

必ず出会って参ります。あゝ心が広がって行きます。懐かしい、アルバート、心の中にありました。

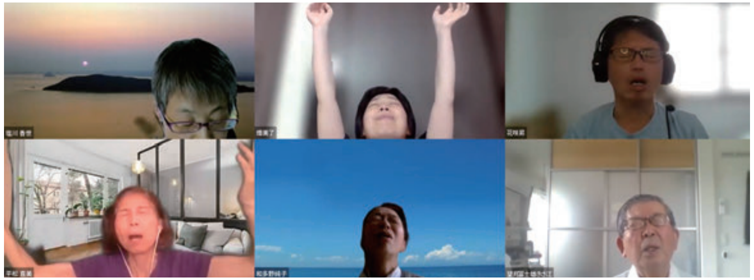
250 年後、すさんだ心であっても、電波と言うか、波動をキャッチして、キャッチするという事が凄い事ですけど、必ずして行きたいと思います。アルバートの世界を NY の地で再び学ばせて頂きます。

参加者からの感想 **愛、母なる宇宙**

はい、それでは目を閉じてください。
行きます。

「愛、母なる宇宙」

（瞑想　３分）



ありがとうございました。

帰りたい。懐かしい。呼んでくれている。私の中から聞こえる。私の中にある。私の中にある。ただただそこに心の針を向けていきなさい、と伝わってくる。

一転して静かな自分を感じる。何もいらないこの思いの世界に委ねていくだけ。ここに帰りたかった、懐かしいあの時感じた懐かしい思いこれが自分が目指してきた出会いたかった切望してきた世界だと感じる。

ありがとう、ありがとう、間違ってきた、間違ってきました。

お母さん、お母ーさん、おかあさーん。

内から帰りたい帰りたい帰りたいと悲痛な思いが上がって来ました。何をしている何をしているお前はどんな思いで生まれて来たと思っている。もっともっと真剣に思いを向けていけ。全てがかかっているんだぞ、ぼやぼやしている暇などない、との思いが上がって来ました。

確かに甘かったしぼやぼやしていました。田池留吉・アルバートに母なる宇宙に向けているつもりでいました。

もっともっと真摯に真剣に瞑想して参ります。

ありがとうございました。

私の帰るところ、本当の宇宙が知りたかった。本当にそうだったんだ。間違ってきたなと思いました。

意識の流れに心を向ける
心の奥底に、意識の流れがあることが響いてくる
何があっても変わらない。
アルバートに心を向ける
みんなで次元を超えていこうという呼びかけが伝わってくる
心の中でたくさんの意識たちが呼応していました。
愛母なる宇宙へ心を向ける
こんなものいらないと捨ててきた。
でも心が一斉に帰りたい、
お母さん、お母さんと叫んでいた。
何度も足蹴にして捨ててきたけど、
一人残らずみんなここへ帰りたかった。
心が広がっていきました。

素直になろう、素直になろう、素直になろう……
お母さん、お母さん、お母さん……帰ろう、帰ろう、帰ろう……お母さんを呼び、母なる宇宙を呼んでいた。250 年後の私がともに呼んでいる、私とともに学んでいる。それを思えば、へこたれてなんていられません！

宇宙の中で、宇宙の自分を見て行こう。自分を前へ、前へ推し進めて行くんだ！
素直になろう、素直になろう、素直になろう……
道遠しなのは分かっている、けれど私は「愛へ帰ります！」

アマテラス。アマテラス。
愛を取り違えてきました。宇宙を取り違えてきました。
その世界は真っ黒、真っ暗でした。
外には何もなかった。全ては私の中にありました。
私は幸せです。私は幸せでした。
肉の思いを回収、薄める方向に舵を切っていきます。
帰りたかった。帰りたかった。帰りたかった。
ありがとうございました。

アマテラスを表し続けてきたけど、共に母なる宇宙に帰って行く宇宙ですと伝えて頂き、今、嬉しいです。アマテラス、UFO と共に今世伝えて頂いた母なる宇宙、田池留吉、アルバートの世界を250 年後に繋いで行く事が、自分と約束して、頂いた肉なんだなあと感じさせて頂きました。有り難う御座いました。感謝です。

3 つの言葉によって瞑想がなされました。一番心に深かったのが「愛、母なる宇宙」という言葉でした。

瞬間、言葉に向いた瞬間、反応した。暗黒の宇宙、私の中のブラック、私そのもの。ものすごい勢いで雄叫びながら噴き上がった。ひとつ前の「アルバート」の時も殺してやると出たけれど、桁が違う。ああ、でも、ものすごい勢いで、同時にそれは喜びだった。どんなに凄まじくとも、喜びだった。凄まじい分、喜びだった。

次元移行に向けて、自分と自分の中で学べることを喜んでいきます。ありがとうございました。

テーマの母なる宇宙に向けたとき、私の心の奥底の闇がどっと出てきた。ここに至るまでにいかに苦しい闇の中をさまよってきたか、その暗さがとてつもなく、いとおしかった。苦しかっただろう、本当の自分が何かも知らずにさまよってきた。年数など数えられない位に、次元を超えて私はこの学びに出会った。そして田池留吉、アルバートの波動に出会った。今自分の心を見て、３次元の肉体を終えて、次元を超えるために、来世生まれることがどれほどの愛だったか、その愛を伝えてくれた田池留吉に感謝です。そして生まれてくれた私に感謝、産んでくれた母に感謝です。大きな愛の中に生きていました。それは３次元の肉体のみならず、意識はいつも永遠に愛の中に包まれていました。

母なる宇宙、その大きな愛が私を待ってくれています。次元移行を経て、かえっておいでと私を包んでくれています。必ず帰ります。

彷徨って来たと感じました。

必死に異語を叫んでいるのを聞きながら、帰りたいんだと、ふるさと、愛に帰ろうと宇宙に呼び掛け、瞑想しました。

私事ですが、当日の午前中にオータム会（50 歳オーバーの瞑想会）に参加した際、闇では無く、意識として、純粋に心から異語を発する事が出来たと感じていました。

広がる思い、宇宙へと、ただただ嬉しく素直にお母さんと呼べた気がしました。

肉では何も出来ませんが素直に委ねていければ、お母さんの方に、アルバートに思いを向けられる、そんな安心感に包まれ嬉しかった。

その流れでの午後の瞑想会では必死に異語を叫ぶ自分、宇宙、一緒にアルバートへ帰ろうと、ただそれのみであっという間に終わりました。

嬉しいです。

肉の自分、意識の自分、ただ素直に、アルバート、宇宙を感じたらただ誠実に真摯に、今の僕の目標です。

生まれてこれてよかった。よかった。お母さんありがとう生んでくださってありがとう。嬉しい、嬉しい帰ります。帰りたかった、帰りたかったお母さんの温もりに帰ります。

これが温もりなのか……清々しい心地の中でうれしい、うれしい、うれしくてたまらない。うれしい、うれしい……

心が広がります。
どこまでも、どこまでも広がります。
知ってる。知ってる。この状態を、この思いを確かに知っている。
暖かいです。温もりです。
そんな感じがしました。

塩川さんより３つの提言を頂きましたが、私が一番心に衝撃を受けたのは【母なる宇宙に向けて】の瞑想でした。
姿形もない、肉でない自分の思いが母なる宇宙に向けて飛び出していく思いに駆られました。
何もない世界、ただその世界に浮遊しているようなそのような感じでした。
自分の中にもこのような世界があると、その思いを大切にしていきます。
終了後、【大噴出・大崩壊】の自分の闇だし現象を見ました。『田池死ね……。殺せ……。』と大声で喚いている自分に初めて喜びが湧いてきました。
今、まさにこの肉の世界にあっても【母なる宇宙】の中で生かされていると思いました。ありがとうございました。

私は愛です。愛を間違えた。間違えた。お母さん帰ります。必ず帰ります。
私の喜びはあなたの喜び、あなたの喜びは私の喜びです。と母の思いが溢れてくる。ごめんなさい、ありがとう。帰ります。必ず必ずともに帰ります。

「愛、母なる宇宙」を思った時、
肉の私の出る幕はない、ただただ温もりの波動として生かされているんだ、ありがとうしかなかったんだ、と思いました。
ありがとうございます。

お母さんです。母なる宇宙、お母さんの思いを感じ、ありがとう、ありがとうが飛び出してきました。すべてはここから始まり、ここに帰ることを感じました。ここにすべてがありました。

250 年後の出会いを感じました。喜び、喜びの出会いを感じ、そこから最終３次元への移行が始まります。アルバートともに、３次元移行のスタートを感じました。

ああ、お母さんお母さん。
たった一つの真実。愛、母なる宇宙。
私達は宇宙でした。

母なる宇宙に帰りたかった意識、宇宙。切なる思いを抱き続けてきた意識、宇宙でした。

帰りたかった。帰りたかった。ああ、帰りたくて帰りたくて切なる思いを、抱き続けて来ました。

私達は、必ず必ず帰ります。

ああ、おかあさんありがとうございます。愛です。愛です。

アルバート　アルバート　アルバート……ひたすら呼び続ける。

思いは、お母さん、ありがとう。ごめんなさい。ありがとう。

あっという間に終わってよくわからない。こんな感想送れない。宇宙に向ける瞑想をしていない、向けていない。瞑想会に参加したら何か変わるのではと他力本願、神頼みでした。こんな他力の思いが抜けていないと確認。ホームページのメッセージをよく読んで素直に実践をと思いました。

私の心は、肉いっぱいの間違った、喜びの思いだけで、いつものような瞑想が出来ず、心が焦(あせ)れば焦るほど心の中は真っ白でした。会が終わり冷静になって、思うことは、瞑想の時、

1　田池留吉に、針が合っていなかったこと。

2　お母さんの温もり、母なる宇宙の愛等、本当の意味で、分かっていないからだと思いました。

心の温もりは、もっともっと時間をかけて、自分の心をしっかり見て、母なる宇宙の愛を、繰り返し感じていくことが必要だと思いました。

苦しいと叫ぶ意識、嬉しい思いも伝わってくる。

ありがとう、ごめんなさい、ありがとう。

アルバート、母なる宇宙に帰りたい思いが伝わってきます。

自分の意識を揺すぶる感激の瞑想会でした。

苦しい苦しい胸が突きささるような思いを感じ、思わず心癖で、押し込めようかと思ったんですが、思い切って声に出して言ってみました。苦しい、苦しいって、恐怖もありました。ぬくもりを思い、ふうっと、愛。そうすると、苦しい自分が、ぬくもり、あったかい、ひろがりに包まれました。しあわせでした。

嬉しい、何か暖かいものを感じました。広がる世界は感じられなかったです。

日々の肉の生活を振り返ってみると瞬間出る思いに対して、田池留吉・アルバートを思うことが少なく、肉の自分の思いが正しい、傲慢(ごうまん)で自分の頭を過信して本当の自分の思いに沿っていないからだと思いました。

優しい、優しい、優しい波動が流れています。何と幸せなんや。ずっと、ずっと、ずっと、ここに居たい。

幸せが広がって行きます。幸せでした。

嬉しい嬉しい瞑想でした。沢山のくそ田池があるのもしっかりと確認です。

有り難うございました。

愛、母なる宇宙、私達のふるさと宇宙

意識の流れは次元移行を指しています。私達は喜びで次元を超えて行くんです。アルバートとともに、宇宙とともに、私達は帰ります。

沢山の宇宙が待っています。あなた自身です。あなたが広げてきた宇宙が、闇黒の宇宙が喜びに帰れる。母なる宇宙に帰れるこの時を、どんなに待ち望んできたことか、喜びでした、愛でした、愛の中にありました。

優しさに包まれて、愛に包まれて、愛しい思いを伝え合って、ともに帰りましょう。ともに帰ります。ともにともにひとつです。私達はひとつ、愛の中にひとつ、お母さんありがとう。母なる宇宙に帰ります。私達は愛でした。喜びの存在でした。

帰っていく。帰っていく。

私の中の決意の思いが溢（あふ）れてきました。

私は私は帰ります。やさしいやさしい母の元へ帰ります。

母なる宇宙に思いを思いを向けた瞬間、「私の帰るところ、帰る」と伝わった。

いつも、異語で何を伝えてもらっているか分からない私だが、中から伝えてくれる自分がいてくれた事を知れ、とても嬉しかった。

ともに帰りましょう、母なる宇宙に帰りましょう。

他力の中で生きてきたけど……間違って来たけど。

沢山の苦しい自分と共に帰ります。母なる宇宙に帰ります。

寂しい自分、我は素晴らしいの自分。アマテラスの自分と共に帰ります。

私は嬉しいです。母なる宇宙に帰ります。今世の肉をありがとう。お母さんありがとう。と思いました。

嬉しい自分を信じて……。田池先生が伝えて下さった真実……頭では分かりませんでした。

意識の転回の度合いによって自然に心で分かる学びなんだな～と思いました。

肩の力が緩（ゆる）んで……やっとやっと前に一歩歩けそうです。嬉しいです。ありがとうございます。

本当の自分ありがとう。これからもともに歩きます。

愛に帰れるんですね、嬉しいです。こんなに真っ黒なのに、帰ってきなさいと、優しいいざないを受けています。

今までになく大きな広がりを、感じることができました。

嬉しくて、嬉しくて、大きな声で嬉しいと叫んでいる私がいました。

とても嬉しい瞑想ができました。これからも正しい瞑想の純度を上げる様に、瞑想を重ね、心の底からの「帰ります。帰ります。必ず帰ります」の思いが出てくるように、日々の瞑想をやっていきます。

嬉しい、喜びのエネルギーが仕事をしていく。

瞑想、嬉しい、お母さん、ありがとう。

終始、嬉しい思いでした。

心が広がり、安らいでずっとここにいたかった、この真実の道をまっすぐに歩いていきたい、歩いていきますと心の中から伝わってきました。

私は、私の中のアマテラスが少し変わっていくのを感じてうれしかったです。

ディアアマテラス、、ディアアマテラス、アマテラスとともに、ともに次元を超えていきたい。

次元移行という意識の流れを伝えてくれてありがとうございます。

田池留吉ありがとうございます、ありがとうございます、お母さんありがとうございます、うれしいです。

琵琶湖湖西の雄琴温泉とセミナー会場（1995 年 2 月～ 2015 年 9 月）となった琵琶湖グランドホテル

参加者からの感想　エトセトラ

何もなかった。

ただ、静かに広がる世界があった。

自分の内へ、内へ向けて広がっていく。

そこには私、と言う思いはなく、ただ広がっていく世界だけ。

心の遠くの、奥の底から微かに「お母さーん」という思いが響いてくる。

その思いとともに、自分の中に広がる、どこまでもどこまでも広がる世界を感じた。

広がっていく。どんどんどんどん広がっていく。

自分の内に向ければ向けるほどに、広がっていく世界が私の中にあった。

そこには何もありませんでした。「意識の流れ」「アルバート」「愛、母なる宇宙」という言葉、確かに塩川さんから発せられた言葉ではあったけれど、そこには何もない、ただうれしい、喜びしかないと思いました。これが愛なんですね。この世界には愛しかない、いえ世界という言葉もいらない、そんな何かを区切るような言葉もいらない、無限に永遠に広がっていく。何色でどんな状態かと説明するような言葉もいらない。何にもないけれど、必要なものはすべて整えられている。私達は、いえ私はもうそこにいました。ずっとずっと前からそこにいました。ただ気が付けばいいだけでした。

うれしいです。ありがとうございました。

意識の流れ、アルバート、母なる宇宙。ただただ温かかったです。温かくて、懐かしくて、力強くて、安心して委ねられて、ああ私が帰りたかったのはこの宇宙でした。本当に間違ってきました。間違いしかなかった私達にも、こんな宇宙が待ち続けてくれていた。これ以上の喜びはありません。ただただ、ごめんなさいと、ありがとうの思いだけです。そして、ともに次元を超えていこう、私達と一つになってともに次元を超えていこう、このメッセージが私の中から届きます。次元を超えていかなければ意味がない、漠然とそう思い続けてきました。それは、私の中の全意識たちの切なる思いだったのだと、今、心から納得です。お母さん、本当にありがとうございます、田池留吉、本当にありがとうございます。母の温もりを道標に、全ての意識たちとともに次元を超えていくために、ただ淡々と私の中で私を学び続けていける今を、本当にありがとうございます。

意識の流れの中でした。

アルバートと一つ。アルバートは、私。私は、アルバート。

上もない、下もない、前もない、後ろもない。みんな一つ。

なんにもない、なにもない、ただただ愛でないものなど何一つない。

ただただ、ひとつ。みんなとひとつ。全てとひとつ。ひとつでした。
全てが自分と自分の世界でした。

私は肉ではなかった。本当の自分、私はエネルギー、お母さんの温もり、田池留吉、アルバート、宇宙……。思いは、繋がり広がっていきます。私自身が意識の流れの中にある意識の流れそのものだった。自分がすべてを計画してきた。

「帰りたい、帰ろう、帰ります」という自分の心の叫び心に響き渡っています。その思いになんとしても応えていきたい、ただそれだけでした。何もいらなかった、なんとも言えない喜びが湧き上がってきます。喜び温もりはこの心の中にあった。愛が私でした。愛なる自分の中に帰ります。

肉で積み上げてきたものは総崩れになっていきます。そこから心を締めつけてきたものに気づき、離していきなさい。

「**肉の思いを全部離してください。**私達は肉ではなかった。私たちは意識でした。愛のエネルギーでした。母なる宇宙、心のふるさとへ帰っていく意識でした。素直に心を向け、どんどん心を広げていってください。私達は愛へ帰る意識でした。」
嬉しかった。心に伝わってくる思い、本当に嬉しかったです。（肉は程々に）納得です。

意識の流れ、アルバート、愛　母なる宇宙に思いを向けました。
喜びが広がってうれしかったです。
この思いを知りたかったのです。だからお母さんに産んでもらいました。お母さん生んでくれてありがとうございました。必ず帰ります。待ってください
わたしはうれしいです。この思いに出会わせていただきありがとうございました。

肉を持てたことがうれしい……お母さんありがとう。
田池留吉、アルバート、アマテラス……ありがとう。
必ず帰っていける、帰っていきます。母なる宇宙へ帰っていきます。
アルバート、アルバート……
お母さんありがとう……
肉を持てたことがうれしい……
何度も何度もこのような思いが温かく静かに穏やかに出てきて
うれしかったです。
久々に意識の流れの本を読んで、以前読んだ時よりも心の響き方が強くなっているのを感じました。
胸に温かいのを感じながら、一言一句が文字なんだけど文字じゃない心にスーッと入っていく、そんな感覚でした。
その事を妻に話すと同じ事を感じていて、本から波動が流れているんだと改めて感じました。

ありがとうございました。

とても嬉しい瞑想の時間でした。

次元移行、アルバート、母なる宇宙を思うと暗黒の宇宙が喜びます。

その喜びが嬉しいです。ありがとう暗黒の宇宙、ごめんなさい暗黒の宇宙。

本当にありがとう。沢山の宇宙とともに、ともにともにアルバート、母なる宇宙を思えることが嬉しいです。帰るところがあったことが嬉しいです。

お母さんありがとう、ずっと信じてくれてありがとう。

嬉しい瞑想の時間でした。

ありがとうございます。

瞑想しながら「お母さん、ありがとうございます」と繰(く)り返し出てきました。

以前、Zoomで塩川さんに指名された時に1度「お母さん、ありがとう」という思いが出てきて以降、今回で2度目です。

普段の瞑想ではこんな思いは出てきませんし、「間違ってきた」とか「帰りたい」とかの、よく皆さんが口にされる思いも出てきたことはないので、うれしかったです。

次元移行については「250年後、絶対に照準(しょうじゅん)を合わせて生まれてくる！」と肉での決意はあります。そう思うと泣けてきます。

残された肉の時間、精一杯自分と向き合っていきます。

どの文言も私にとっては喜びしかありませんでした。

お母さん、ありがとう、嬉しいですがこだまします。

私は意識、エネルギー、この思いが心を満たしていく。

本当の私にどれだけ愛されてきたことか。真っ黒を垂(た)れ流し続けてきてもなお「宇宙へ帰ろう」とうながし続けてくれている。

あぁ、お母さん、私はこんな壮大な計画を立てて生まれてきたのですね、

本当にそうでした。お母さん、お母さん、思うだけでただ嬉しい私がいました。

天変地異は母のぬくもりと同じ。次元移行はすでに私の心の中にありました。

お母さん、お母さん、呼びたかった。お母さんに会いたかった。お母さん、ごめんなさい。まちがってきました。まちがって、まちがって、まちがい続けてきました。

アルバートを呼んだ瞬間、吹き上がってきました。まちがってきました、本当にまちがってきました。心が大きく広がっていくのを感じました。まちがってきた、と叫べることが、こんなにうれしい。

温かい中で思いを出していけることが、本当にうれしい。どこまでも優しい波動の中で、出させていただきました。懐かしいふるさと、母なる宇宙に必ず帰っていきます。すごい波動のお勉強でした。ありがとうございました。

ありがとうありがとうありがとうお母さんありがとう、ありがとうございます。

私達は帰ります。必ず帰ります。

お母さんありがとうありがとうございます。

この思いが湧きあがってきました。嬉しい優しい波動でした。

この思いとともに生きてる今という時、大切に存在していきます。

お母さんお母さん何度も何度も生んでもらってありがとうありがとう！

ずっとずっと間違って来ました。苦しかった、辛かった、悲しかった、やっとやっと出会えた。帰りたい帰ります帰るんです母なる宇宙へ。

そんな思いが次から次へと出てきて、私たちは愛のエネルギー、私たちは意識でしたと。そしてみんなみんなともに帰ろうと！ああ幸せでした。嬉しかった嬉しかったです。

そんな意識基盤の思いが出て心の針の向け先を再度確認する時間でした。

今世、母に産んでもらえてよかった、うれしいと思いました。

意識の流れも、アルバートも、愛もすべて私の心の中にありました。

肉をもたせていただいたから、こうして学んでいけるのだと思うと、今あるこの肉に繋いでくれた、私の思いにありがとうしかありません。

そして、いつも、どんな時も、絶えず伝えてくれる思いは波動でした。私はそんな中に、ずっと存在してきたのだと思うと、母に、申し訳ありません、ありがとうございます、うれしいです。

アルバートを思い、母なる宇宙に喜びで帰ろう。そんな瞑想会でした。

ありがとうございました。とてもよかったです。嬉しかったです。

お母さん、お母さんと心の中から、ありがとうの思いが、とめどなく溢れてきました。

そして、アルバートが怖かった。アルバートの目を見ることが怖かったと出てきました。

勉強不足です。お母さんから離れて離れて遠くに、そして、未だに一途に歩けない、そんな状態でありながら、それでも、とめどなく溢れてくる思い、喜びに、ありがとうしかありませんでした。

夫婦でともにこの瞑想会に参加できたこと、喜びでした。このような機会を与えて頂いたこと、喜びでした。ありがとうございます。

どんなに愚かな自分であっても、次元移行に向けて、自分は自

分にエールを贈っているんだと、そんな風に感じさせていただき嬉しかったです。ありがとうございました。

ありがとう、ありがとう、お母さん、ありがとう。私は喜びでした。みんなみんな私でした。

何度も何度も教えてもらっている事ですが、ゼロ歳の赤ちゃんのように素直にまっすぐお母さん、田池留吉、アルバートを思う。それをただただ、真摯にやっていく。そう思いました。

過去何千何万の転生の度に愛を求めてさまよってきました。
本当の愛が知りたい何処に本当の愛があるのかと、家族、友人達外へ外へと愛を求めてさまよってきました。
挙句の果てには裏切られたり裏切って言葉にならない程経験してきました。
全部が肉の愛、外には満足するものは何もなかった。今世こそはと中の意識が必死の思いで待ちわびてくれていました。
肉は愚か、本当におそまつでした。肉の欲の限りをしてまたしても地獄行きの切符を目の前にしております。
やっとやっと辿り着いたたった一つの真実。
強情で欲深く己偉い自分の中に、やっとお母さんごめんなさい。私に、肉をくれて田池先生に、会わせてくれてありがとうございます。一条の明かりを大切にアルバートの道一筋に残りの人生学ばせて頂きます。

長い間、田池先生の肉とともに学ばせていただきながら、肉、他力の思いしかぶつけてこなかったけれど、意識の流れの計画に素直になっていきたいと思いました。肉の思いを離せない、崩せない。だからずっと矛盾の中で苦しんできました。セミナー会場で、田池先生の目の中のアルバートと出会ったことは今世の宝物です。自分の中がアルバートと叫んでいました。だから２５０年後、アルバートの目の中に田池留吉を思い出す、喜びで次元移行を超えていく、本当の私は信じています。必ず出会うと。
今は肉を掴んでるから何度も天変地異を経験し、自分に間違ってきたことを伝えていくんだと思います。肉は愚かでも、本当の自分は知っている。意識の流れ、母なる宇宙を呼んでいきます。

塩川さんが発した言葉
「意識の流れ」
空っぽな感じでした。
「アルバート」
実在するんだという感じでした。
「愛・母なる宇宙」
遠い遠い温もり

全員で「田池留吉・アルバート・意識の流れ」

自分の中の闇・暗黒の宇宙も一緒に瞑想に参加しました。

異語が嬉しい。一緒にいる暗黒の宇宙も異語なら怖くないかも知れない。

でもやっぱりお母さんの温もりがないと怖い……。

これから瞑想が楽しくなっていくんだと思いました。

瞑想会に参加させていただきありがとうございました。

真実（愛）に歯向かい、反逆し、徹底抗戦してきたすさまじいエネルギーが、天変地異の愛のエネルギーとなって返ってくるその天変地異を喜んで喜んで、喜びで受け入れていく、自己供養の喜びの大輪の花を咲かせて、次元移行を遂行（すいこう）していきます。

待って待って待ち続けてくれている母なる宇宙へ、本当の自分自身へ帰ってまいります。

お母さんありがとう。田池留吉、アルバートありがとう。

本当に甘い甘い、肉どっぷりの自分、特に欲どおしい、肉を前に出す自分、「宇宙」を汚しまくっている自分が見えてきました。

ここで、自分の出してきたエネルギーと、もう一度立ち止まって、どれ程愚かで、未だに気づけていない自分に。

心に迫る思いです。指さしのように、心を、見なさい。出してきたエネルギーを見てみなさい。言葉にすれば、厳しく鋭（するど）く感じました。

ドス黒く、真っ黒に、住みにくい宇宙にしたのは私でした。

しかし、包み込んでいきます。そして、ともに帰ろうと呼び掛けてくれる、私の宇宙に、本当の自分に心を向けていきます。

寂しかったね。本当に寂しい寂しい私でした。戦い、闘いぬいている私です。悪戦苦闘。今もなお、同じ状態でした。

ですが、ほんの少し、嬉しい、ありがとうの思いも出てきました。心が軽い。

田池留吉、アルバート。お母さん。「意識の流れ」ありがとうございます。

どんなに真っ黒でも、本当の自分は、見捨てない、待ち続けているという言葉が胸に響いた時、私は、本当に一体何を見ているのか、肉ばかり、外ばかりを見てきた、タイケトメキチと私の世界だけしかないのにと思った時、怒涛（どとう）のように迫ってくる私の宇宙が本当にどんな思いで迫ってくるのか、すごいとしか言いようがなく、田池先生が今世、肉を持ち、教えてくれたことがどれほど、すごいことなのか迫ってきます。

言葉では、言い尽くせない、すごい、すごい、すごいエネルギーが迫ってきます。

意識の流れ、アルバートを思った時、くそっ、くそっと、凄（すご）く苦しくなった。次元移行を妨げているのは、阻止しているのは肉の自分

だ、そんな思いが出てきました。帰りたい、帰りたい思い、そんな自分の思いがせり上がってくるのにその思いを無視し、ドーンと塊（かたまり）となって己偉しの自分が立ちはだかっている。これでいいのか？ このままでいいのか？ 押し問答している自分の現状を確認しました。

投稿までの間、段々と真っ黒けの自分が何だか、いとしく感じられてきました。肉はただただ素直に思う、思えるようにすればよいだけでした。真っ黒けの自分と共に一緒に帰ろうねと、そんな自分に変わっていこうという気持ちが強くなってきました。何と言っても母を思う瞑想が圧倒的に不足していると、痛切に感じました。今回の瞑想で、私の中がやっと動き出してきている、嬉しい体験です。

田池先生が、「苦しみは愛、苦しんでいるあなたが間違っています」と言われるたびに、反発、反発、怒り狂ってきた。そんな言葉聞きたくない、消え失（う）せろ、と。「どうぞ真実に目覚めてください」と言われると、誰がお前の言うことを聞くかと拒否続けてきました。

意識の流れ、アルバート、愛、母なる宇宙に向け瞑想すれば、広い広い、どこまでも広がってゆく。宇宙、宇宙、アルバートは宇宙、愛。私は愛、あなたも愛、ひとつ。

愛、母なる宇宙。暖かくて広い広い広い。お母さん間違ってきました。間違ってきましたごめんなさい、ごめんなさい。

帰りたかった、帰りたかった、母なる宇宙に帰りたかった。必ず必ず帰ります。お母さんありがとう。ありがとう。産んでくれてありがとう。

苦しみは愛。苦しんでいるあなたが間違っています。どうぞ真実に目覚めてください。

喜んでいる自分がいます。お母さんありがとうと素直に言える自分になりました。ありがとう。

後ろ指をさされない、立派な人間を演じてきました。

成り上がってやると、肉を酷使して闇を積み上げてきた。

苦しい、母さんごめんなさい。

心からまず飛び出してきた思いは、「私には分かりません、不安と恐怖があります」でした。その後、ほんのりと心が広がって嬉しいと感じましたが、宇宙に対して、まだまだ心を閉ざしていると思いました。心は正直だなと思いました、やっぱりというか母の反省が滞（とどこお）っていると再確認です。塩川さんの「私たちは宇宙です」というコメントが心にずっしりと残りました。時間は経（た）てども、なかなか学びは遅々として進んでいませんが、それでも嬉しいな、と感じるようになってきた自分が嬉しいです。地道に、正しい瞑想をやっていきます。ありがとうございました。

ほんの微(かす)かですが、喜びが伝わってきました。静かな解放感に包まれたような広がりが伝わってくる。嬉しい。宇宙と思うだけで嬉しい、喜びが返ってくる。広がりが返ってくる。喜びと広がりが溶(と)け合って、その中で漂(ただよ)っている。暖かな温もりが流れてくる、大きな、大きな広がりの中、何もないけれど嬉しい。ああ、この時を待っていました。素直に嬉しい。私の中の宇宙たち、結集してきたみんな、一人残らずみんなで一緒に帰ろうね、帰れるあの場所へ、壮大(そうだい)な母なる宇宙へ。

250 年後の自分へ

私達は真実を知らずに、ずっと真っ暗な中に生き続けてきた意識ですが、今世初めて田池留吉という一つの肉を持って、本当の波動を伝えてくださいました。瞑想を通し、肉の思いの苦しさ、小ささを肉を持って感じ、知りました。しかし、田池留吉・アルバートに自分の心を向けた時、温もりと共に、自分の心が優しい波動に変わっていきます。私のすることは、喜びで田池留吉・アルバートに心を向けて生きていくこと、ただそれだけでした。250 年後に必ず、喜びで会えるように、心を繋(つな)いでいきます。待っててください。

「次元移行と天変地異瞑想会」の最後に塩川さんの話された文章の中で「毎日明るく穏やかに過ごしていますか」「宇宙に心向けましょう」というのがあり、何故か心に残りました。瞑想してそのことを思いました。今の私には大切なことでした。明るく穏やかに過ごすにはどうしたらいいのか。肉から意識の転回が急がれます。また、肉に翻弄(ほんろう)されることは程々にして、心広く宇宙を思ってみるようにすること。なかなか宇宙を思う瞑想が出来ない今の私にはポイントでした。タイケトメキチを思う瞑想と母を思う瞑想を軸に、今回心に残ったことにも思いを向けていこうと思います。

帰りたい、帰りたい、心の叫びを感じながら、肉持つ時間、真っ黒、真っ暗でした。

瞑想会の後、「嬉しいよ」と叫び、涙がとまりませんでした。子供たちに「何が嬉しいんよ」と聞かれました。「真実に触れたことが嬉しい」と答える自分がありました。やっと、ようやく自分の流してきた思いが間違ってきたと思える今世が、嬉しいです。

「意識の流れ」「アルバート」「愛。母なる宇宙」を思う瞑想をしていく中で、今世を転換期に、愛へと帰ろうとする喜びの雄叫(おたけ)びが、心の中でどんどん目覚めていく力強さを感じました。そして、その思いが天変地異という形の崩壊とともに、これからますます沢山の思いが噴(ふ)き出し、その思いがまた次元移行へ帰る道標(みちしるべ)となり、真実に触れた意識から、愛が流れ、次元移行を果たしていく事を感じました。

心を見ることを大切に、共に喜びの雄叫びをあげようと、そう

約束した瞑想会でした。

意識の流れ、アルバート、愛・次元移行……瞑想の時間を頂き、嬉しかったです。

私は初めから愛されていた。

帰りたい、帰ろう、本当に出会いたかった。

小さな肉の思いを握(にぎ)りながら、そう叫んでいる自分の心を縛りつけたまま、長い時間を過ごしてきた事にただただ申し訳ない。

意識の流れに心を向け、もう一度やり直します。

自分の中に膨大な宇宙がある、怖くて逃げて来たけれど、そうではなかった。少しずつ受け入れて次元移行へ繋(つな)いでいきたい。

ありがとうございました。

喜びです。喜びです。ずっとずっと待ち続けてきました。どれだけ間違った思いで生きてきたか、出て来る思いに愛など全くなかった。真っ黒な思いを垂(た)れ流すだけ流してきた。これから回収していくんですね。その機会を頂きました。それを今世教えて頂きました。私の中の意識は次元移行に向けて必死なのに、愚かな肉はまだまだ呑気(のんき)だと感じました。肉の私は、本当の自分に従って生きていくのみ。それを強く感じました。

セミナーが始まった途端(とたん)に、喜びのエネルギーが飛び出しました。

ありがとう、ありがとうと。

最初は、汗が出る程、暖かかったです。

どこまでも続いて行く、ずっとずっと続いて行く、喜びのエネルギー。

帰るんだ、帰るんだ、帰ろう、帰ろうと、ずっと響いていました。

地球を飛び出して行く、凄(すご)い喜びのエネルギーを感じ、本当のパワーだと、思いました。

私たちは宇宙です。瞑想会ありがとうございました。

田池留吉・アルバートに思いを向けると、暖かく、柔らかい感覚を感じ、自分の中から「間違ってきました。間違い続けてきました。お母さん、ごめんなさい」と叫んでいるのを感じます。「こっちだよ、こっちだよ、アルバートに思いを向けて行くことだけで良いんだよ」と沢山のお母さんが、後押ししてくれていることを感じます。今世、肉を持ち生れ、田池留吉・アルバートの波動に出会えたことの凄さを感じます。

「はい。私は意識、愛です。」アルバート、母なる宇宙に思いを向けて、ただ思うことを続けていきます。ありがとうございます。

今、生きている３次元での私。そして肉体がなくなり４次元へと移行した心だけの私。最近やっと「意識の世界」の学びを理解し始めた。

「わからない。わからない。心で感じる世界？ 何をどんな風に？ もっとはっきりと教えて！」

頭を使いすぎていた。

今、リラックスした状態で「田池留吉。アルバート。おかあさーん……」と呼んだ時、私のほほをなでてゆくそよ風に、なごむ心、ゆったりした安らぎ、を感じていつまでもこのままで居たいと思う状態。これが愛の波動なんだ。

欲でつかまえようとしていた波動は今、私の心で感じられる。

あなたは私。私はあなた。穏やかなこの心。これが「田池留吉の愛の心」愛を信じて再出発。今、世界のいたるところで残酷（ざんこく）な痛ましい戦争や自然災害。これらの天変地異は、神のエネルギーのなせる所業。宇宙の一部分として生まれた有限の肉体で消滅するけれど、神と同質の無限の愛の心を持っている。天変地異を恐れず、すべて自然に任（まか）せていこう。

意識の流れ……たった一本、示された道。本当の自分に帰る道、宇宙の中を流れる愛の道、本当の自分が流れる道。

大きな大きな宇宙、全ての宇宙を愛へ誘（いざな）う宇宙、母なる宇宙と一つ。私は自分の全ての意識、宇宙を、このアルバートの宇宙へと誘って行きます。全てをアルバートに託します。

アルバート目掛けて突進する歓喜の雄叫（おたけ）びが、次元移行への大きなエネルギーとなって行く。歓喜の大爆発を引き起こす宇宙の存在、次元移行を完遂（かんすい）させて行く宇宙。ともにともに存在して行くこれから、未来永劫（みらいえいごう）一つ。

無限、無限、無限、無限、無限、無限、無限、無限……私は無限、母なる宇宙と一つ。母なる宇宙は私自身、私自身、私自身、私自身……一つ、一つ、一つ、一つ、一つ、一つ……愛、愛、愛、愛、愛……どこまでも愛。

母なる宇宙を思った時、「私自身です」と言う思いが強烈に広がりました。ああ、私自身、私自身、母なる宇宙……一つ……

私の思い

帰ります、帰ります、愛に帰ります。

帰るところがあって、嬉しいです、嬉しいです。

お母さん、ありがとう、ありがとう、生んでくれてありがとうございます。

私は愛、あなたも愛、ひとつ。ひとつが嬉しいです、嬉しいです。

田池留吉 アルバート私達はみんなひとつ

私は愛、あなたも愛、ひとつです。このメッセージこそがすべてです。

私達はともにともに次元移行、母なる宇宙に帰るために田池留吉との出会いがあり、そして250年後アルバートと出会います。

次元移行のために、そして私達は意識だからこそ天変地異に出

会い、そして、母なる宇宙に帰れるのです。天変地は愛です。
愛があるから、母なる宇宙、私達のふるさとに帰れるのです。
愛は喜び温くもり愛はすべて天変地異は愛です。
私達は天変地異の愛があるからみんな意識であると証。
挙って母なる宇宙に帰れるのです。

これからいく道は厳しく険しいけれども、共に母なる宇宙に帰ろう帰りたい、その様な思いがありました。嬉しかったです。学んできた思いを無駄にすることのないように、次元移行を目指して歩いていきます。ありがとうございました。

この勉強の基礎を教えてもらい良かった、250 年後に次元移行につなぎたい。

心の向け先を教えてもらえて思うということが喜びで幸せだと思いました。

瞑想会に参加させていただいて、自分の中から吹きあがってくるものがありました。
今も間違ったままの日々を送っていますが、心の中には本当にアルバートとともに、次元移行を必ずする、宇宙に帰る、そんな思いがあるんだと改めて感じさせていただきました。
嬉しいです。間違っていると叫んでいる自分の思いを大切に宇宙を思う瞑想をやっていきます。
なんか私の人生の本番がここから始まる、そんな感じです。
必ず自分が決めてきた人生を全うします。
ありがとうございました。

次元を超えていきます
愛の中にずっとずっとありました。決死の覚悟で今世肉体を頂きました。肉が満足するパートナーを選ばなかったことでもそれは頷けます。自分の心を見たかった。真っ黒な自分と出会っていきたかった。帰るんです。帰るしかないんです。母なる宇宙、優しい温かい宇宙が忘れられず、ここに肉を持ちました。その思いが心に強く強く響いた瞑想でした。宇宙を支配してきた私はどんなに自分を見下してきたか、足蹴にしてきたか、申し訳なくて申し訳なくて、懺悔でした。同時に温かさを感じていました。嬉しいという言葉では語れない気持ちでした。言葉がないと言った方がまだ自分の気持ちに近いです。
何度も読んだ意識の流れの本でしたが、久しぶりに手に取り、そこから流れる波動を感じました。今も思いを向けると涙が溢れ温かくなります。凄い凄い本でした！ 凄い凄い学びでした！ アルバート、アルバート、アルバート、次元を超えていきます。

目を閉じて感じる世界があります。それは懐（なつ）かしくて、温かく優しく広がっています。目を開けて見ている世界とは全く違うんです。あぁ私はこの世界にずっと居たというわけですか？ 何ということでしょう。私は本当のことを求めて彷徨（さまよ）い続けてきました。優しかった母を足蹴（あしげ）にし、利用し、平気な顔で生きてきました。苦しい苦しいと自分に、周りに、喚（わめ）き散（ち）らしていたのです。「これがあなたの世界ですよ」と言われました。言葉がありません。本当のことは実は自分の中にあったとは。目を閉じて感じる世界。これが私の世界。何とも言えない安堵感（あんどかん）が広がっていきます。険（けわ）しくて厳しい道。でもきっと乗り越えていこうと、勇気が湧（わ）いてくるのを感じます。瞑想は喜び。瞑想は次元移行を伝えてきます。

「意識の流れ」にともに帰って参りましょう。

ひとりひとりが自己確立を果たし、元の流れに戻って参りましょう。

田池留吉、アルバートを思い、本当の自分と真向かいになって進んでいきましょう。

ただただ「愛、母なる宇宙」を目指して、本当の自分に蘇（よみがえ）って参りましょう。

次元移行と天変地異はUTAの輪の中でともに学ぼうの中で何度も目にし聞いた文言です。

田池留吉の意識が伝えてくれた。

UTAの輪は、意識の輪。永遠を信じ、いつも愛を思い続ける意識の集い、一つに生きる意識。歓喜、感謝。

今世の出会いがなければ私の今の肉も自滅の道を辿ったと思います。

意識の流れが私を呼び起こしてくれたのだと思いました。

苦しんで苦しんでもう絶望の淵に追い込んで、自滅寸前での出会いでした。

田池留吉から伝わってきたのは、懐かしいお母さんの温もりとアルバートの喜びの波動でした。自滅を選ぶかお母さんの温もりを選ぶか……。選ぶのは温もり喜びしかなかった。

千載一遇のチャンスの時期に今世の肉を持たせていただけたことを思うと、当然のことでした。遥かなる母なる宇宙に心向けて、天変地異、次元移行を思うと、不安も恐怖も一瞬のうちに、温もりの中に溶け込んでゆったりとした時間が流れます。喜びです。

ともにともにUTAの輪の中でともに学ばせていただきありがとうございます！！

250年300年に繋ぐ一本の道を指し示してくれた田池留吉の肉にも意識にもありがとうございましたと伝えて私の肉の時間を通過していければと思っています。

今世の出会いは必然だった。意識の流れが自滅寸前の私を呼び起こしてくれた。

あなた間違っていますよ！ 厳しさの中に優しさが伝わってきた。千載一遇のチャンスの時期に今世の肉を自分に用意してきた事も忘れていた。

肉から意識への転回がなければ何処まで行っても真っ暗闇の宇宙。

意識、母なる宇宙は愛、私のふるさと愛。愛の中に一つ。

田池留吉、アルバート。250 年、300 年掛けて喜びの自分にともに帰ってまいります。田池留吉ありがとうございます、ありがとうございます、お母さんありがとうございます、うれしいです。

「意識の流れ、それは天変地異とともに。」という思いが上がってきます。

喜び喜びの異語とともに心に響き伝わってくる思いです。

「宇宙からこの地球という星に肉を持ち、気の遠くなりそうなほどの長い時間の中、天変地異という意識の流れの中で、すべてを恨んで憎んで呪う凄まじいエネルギーを吐き出し続けてきた。しかし学んでいく中で、『天変地異は喜びのエネルギーであり愛の現象。そして、その中でしか本当の自分に蘇える術はなし』が心に響いていた。300 年後に計画している、壮大な意識の流れ、未曽有の天変地異とともに次元を超えていくということを遂行するために、日々、田池留吉、アルバートにしっかりと心の針を向けて合せて、その波動の中に溶け込んでいくための訓練を積み重ねていこう」という思いを喜び喜びで受け取りながら、肉でない自分とともに学べる喜びと幸せに心は満たされております。

次元移行と思うと、温もりと喜びだけの世界に帰ることのように感じて嬉しいです。でも、肉の重たい思いがあれば次元移行はできない。だから私は、目の前の映像を見てどんな自分を感じても、間違ってきたね。もう一緒に帰ろうと伝えられる優しい自分になっていけるよう練習していきます。ありがとうございました。

意識の流れ。アルバート。愛、母なる宇宙。

一斉に叫びだした思いを到底言葉にはできないけれど、それでも心に感じる思いは、帰ろう、帰ろう、帰ります。

異語から何かを感じ合っている、心を大きく大きく解き放ち、この流れの中にひとつになって異語を発している自分に思いを向けると、途轍もなく嬉しい、懐かしい、お母さん、ありがとう、250 年後の私、嬉しい、ありがとう、こんな幸せの中にいた私でした。ありがとうございました。

帰ります。帰ります。帰れる、帰れる。帰ります。もう帰ります。と、中からどんどんどんどん上がってきました。

お母さん、お母さん、ありがとう。

私の中の本当の自分にありがとう。嬉しい、ありがとう。
アルバート、アルバート、アルバートとともに、みんなともに、みんな一つに溶け合って、ともにともに次元を超えてまいります。
帰ろう、帰ろう。帰ります、帰ります。　愛へ、本当の自分の中へ、愛なる宇宙、母なる宇宙へ帰ります。
ああ嬉しい、嬉しい、ありがとう、ありがとう。ありがとうございます。

はい、私は次元移行の意識です。ただただ田池留吉、アルバートの波動とひとつに溶け合って行く流れです。それそのものがUTAの輪、我一族です。そして、全宇宙へと……肉持つ者、肉持たぬ者、何の隔たりもありません。真実が肉を持ち目覚め、私はブラックですと、肉から暗黒、漆黒の宇宙と対峙し続けた核が目覚める……そこからの流れ圧巻です。後は受け取る側の問題だけです。その為だけに時が流れて行きます。即ち、天変地異……八方塞がり、絶望、打つ手なし……。その時、心の中から、湧いてくる真実に全てを委ねる…喜び、温もり、優しさ、柔らかさ、安らぎ、広がり……愛、愛、愛……。全ての次元、人類、宇宙から偽物が崩れ去り、本物が湧き上がる。それそのものとなって次元を超えて参ります。ありがとうございます。

何かを感じたい。喜びあふれる自分と出会いたい。

そんな欲一杯の心が先行し、瞑想に自然と肩に力が入り身体がこわばってしまう日々の瞑想でしたが、今回の瞑想で「アルバート」を思ったとたん、中から温かいエネルギーが広がっていき、お腹の下からつきあがってくるものがありました。
もう偽の優しさはいいよ。外に優しさを求めるのはやめてくれ。
本当の優しさを伝えてくれ。伝えてくれ。肉の思いで私たちの思いを閉じ込めないでくれ……。
切々と訴えてくる苦しさ、寂しさ、恐怖の思いを肉の壁でぐっと閉じ込めている冷たい自分を感じ、本当に申し訳ないと思いました。
素直になって学びの基本に忠実に自分の思いと真向かいになって行こうそう思いました。

「意識の流れ」に思いを向けると、その中にあるんだろうなぁ〜と思える事が嬉しい、そしてアルバートを素直に呼べた事が嬉しかったが、「愛、母なる宇宙」に向けようとしたら、「お前ら、本当に宇宙を思っているのか！」とパソコンに映っている学びの仲間に怒りが上がってきて、びっくりした。いまだに宇宙を心から呼べない私は、『本当にお前ら心から呼んでるのか』と、肉で疑い、信じてない自分を感じた。我一番、己偉し、素晴らしい私はなかなか学びが進まない。自己確立がまだまだと肉では焦る現在だが、塩川さんの「UTAの輪の中でともに学ぼう」を日々読んで「そうだ、そうだ！」と心が震え嬉しくて涙が出て、腹から沸き上がって来る思い

が本当の自分だと確信できる事を信じ、日々正しい瞑想を続ける事が今の私には一番大事だとあらためて思いました。

意識の流れ、アルバート、愛・母なる宇宙の瞑想を経ての、意識の流れを思う瞑想。温もりがあたたかい思いが心の中から湧いてきて、段々大きく広がっていく。その温もりの中、意識の流れと再度思う。温もりのエネルギーが幹のように大きく太くなっていく。それぞれの瞑想で心に感じた温もり、波動が、自分の中でひとつに合わさって強く太くなっていく感じ。

ああこれが意識の流れ、その世界は大きくてとても太くしっかりとしている。私が今まで思っていた意識の流れはとても小さかったんだって感じました。

ともに瞑想をさせていただいて、正しい瞑想とはこういう瞑想なんだ、自分でやっていけるように瞑想を続けていこうと思えて、また宇宙を思う瞑想の大切さを改めて感じ、自分の瞑想が楽しみになりました。

喜びの機会をありがとうございました。

全ての現象は自分の心の現れだと思えるようになりました。

自分の心を変えない限り、次元移行はできないんだな。

厳しく自分を見つめることを伝えて頂きました。

自分に問いかけながら、正しい瞑想をやって、心明るく過ごしていきたいと思います。

・次元移行

今の次元を超えるのに、この肉体を持ったままでは無理だよな。何かを変えなくてはいけない。何故か物心ついた頃に思った事。漠然（ばくぜん）と思っただけでそんな壮大（そうだい）な事とは思ってなかった。この学びを知ってからは夢が現実になった喜びで溢（あふ）れた。凄（すご）い！真実は確かにあった。

・天変地異

私にとっての天変地異は主人の突然の交通事故死。これによって念願の学びに繋（つな）がった。その後は、今は全てにありがとう。プラス。幸せです。愛です。

天変地異は私にとって恐怖でしかありませんでした。どうにか逃（のが）れたい、私には降りかからないでほしい。肉はずっとそうです。

けど、次元移行、これからの転生に思いを向けた時、よろこんで受けて行きますと、思いがあがってきました。うれしいです。その思いを信じていきます。

宇宙を思っていきます。

すべてすべて間違ってきました。何もわかっていませんでした。今もわかっていません。それを認める事ができずに、周りを蹴散（けち）

らし戦って来ました。己が偉すぎました。自分を小さく小さくして、苦しい思いを閉じ込めて来ました。

それでも宇宙はそんな私をずっとずっと待ってくれている。気づきなさいと伝えてくれている。うれしいです。素直になって、その自分を信じて、たくさんの暗闇とともに帰って行きます。

待って待ってもらっていました。本当の自分にずっと待ってもらっていました。嬉しい嬉しい。

最後の瞑想では、心がやさしく広がっていく中で、アルバート・お母さんを呼んでいました。ありがとう、ごめんなさい、という思いでした。

うれしい瞑想会をありがとうございました。

やっとやっと、出会いが叶（かな）いました。

私達は意識でした。歓喜歓喜の中にあります。

私達は、田池留吉アルバートとともにありました。

意識の流れの中にある意識、波動、エネルギーでした。

喜び喜びで田池留吉アルバートとともに、ただひたすらに、愛の一本道を真っ直（す）ぐに帰ります。

こちらですよ　こちらですよ

私の方に心を向けてください

あるでしょう私が

この語ってる私が私ですよ

意識の流れは私でした。

この流れは私でした。

私とともに歩き生きて行こう

私とともにこの道を真っ直ぐにどうぞお進みください。

私とともに帰ろう

私とともに帰ろう

未来永劫（みらいえいごう）続くこの道を真っ直ぐに私とともに帰ろう。

ともに生きともに歩いて行こう

この道を真っ直ぐに私とともに帰ろう。この波動を私の中で広げてまいります。

私は本当に間違い続けてきました。愛とは真逆のエネルギーをよしとして生きてきました。そのエネルギーで幸せになれると信じてきました。

自分の間違いを素直に認めていこうと思いました。

それだけでいいんですよって伝えてもらっているように感じました。

意識の流れと思った時、優しい思いを感じました。

愛から遠くに離れてきてしまった私だけど、1つ1つ自分の苦しみを認めていけることを喜んで、素直に自分と向き合っていこうと

思いました。
　嬉しい時間をありがとうございました。

　前提：元々の意識は本当の自分だけでした。本当の自分は、母の意識・田池留吉の意識と同じで、「喜び・温もり・やさしさ・安らぎ」でした。
　意識が３次元に肉を持つ理由は、苦しみや暗黒を感じて、肉が自分だとする偽（にせ）の自分を自覚し、回収するためで、意識だけの状態では回収が困難だからです。
　現世の意識は、転生を繰（く）り返しても、偽の自分をむしろ増大してきました。
　ただ、意識の流れは、地球環境が激変して今の肉体では生存不可能となり意識の次元移行が不可避となる時期まで間が無いことを告げています。
　今の意識のままでは次元移行は不可能で、逃せば次の機会まで遥かな時間を待つことになる次元移行を１回で果たすために、短期間に本来の姿を回復する補助が必要となりました。
　結論：天変地異は次元移行の補助として用意され、次元移行の模擬体験でもあります。天変地異を恐れるのではなく、活用して、次元移行を果たし、さらなる意識の世界へ進みましょう。

　キーワードは「意識の流れ」「アルバート」「母なる宇宙」。瞑想の時は「こんなものを信じるな。お前の肉で全てを支配しろ」と抵抗する思いが出て来て「いけない。何とかしなくちゃ」と焦（あせ）った。色々と頭を回して修正しようとしたけど「出てくる思いを押さえ付けるのも肉の思いだなあ。信じるなと言う思いもそれを修正しようとする思いも本当は自分の優しい思いを思い出したいのかも知れないなあ」と思ったら何だか苦しい思いが弾（はじ）けて嬉しく解（と）き放（はな）たれた感じがした。肉を外す、頭を使わずに意識に委（ゆだ）ねた感じだった。今までは学びが仮住まいで、肉の思いが自分の住処（すみか）だと心のどこかで信じてきた。今回自分の住処だと思っていた肉の思いが自分を苦しめていると確信できた。瞑想会の後、肉の思いの苦しさで眠れない夜もあるけど、悪戦苦闘する中で心を田池留吉、アルバートに向けいこうと思っています。学びのきっかけを頂きありがとうございました。

「田池留吉　アルバート」と今思えることただただ嬉しい、ありがとう、ありがとうございます。
　意識の転回が出来なければ、何のために学んでいるのかと思いました。
　日常の私は、暗い思いの中でもがいていて、これが私の岩盤で、しぶとい心癖で責任転嫁（せきにんてんか）している私がいます。どんな状態であっても喜びの毎日を過ごそう。毎日の瞑想で異語を語っている私は開放感があり嬉しいなあと思います。暗い思いも明るい思いも自分であって受け入れていきます。

心の中はとても忙しいと感じるのですが、確認出来る事も嬉しいです。
今世、母に産んでいただいて学べる事、ありがとうございます。
何のために生まれてきたのか常に問いかけ、自問自答し、優しい自分によみがえります。「母なる宇宙」です。「愛」の中にいる私達です。

今世、私は間違ってきました。真っ黒の宇宙を広げてきました。やっと「あなたは愛です」が信じられるようになりました。瞑想会に参加されたみなさんがアルバートの波動の中で歓喜。私も喜び喜びでした。本当に良かったです。この喜びの思いを次元移行に繋げていきます。ありがとうございました。

みんなでともに意識の流れを思い、アルバートを呼ぶ。私たちが決死の覚悟で臨んできた思い、愛、母なる宇宙へ帰ろう……。大きな大きな喜びのエネルギーの結集。『ひとつ』の真実の波動の世界を感じました。本当の喜びだと確信していない自分でした。アマテラスにひれ伏したままで次元移行を思えなかったのは当たり前、他力のエネルギーを抱(かか)えたままでは決してひとつの世界へ戻ってはいけない……それが心の中で更に明確になりました。
今回の瞑想を通して、喜びこそが確信の道、と響いてきています。この心に感じた波動をアマテラスに伝えていきます。私たちはひとつ、愛、母なる宇宙へ帰ろう……と。UTA ブックさん、このような嬉しい機会を本当にありがとうございました。

3つのキーワード、「次元移行」、「アルバート」と徐々に心が広がっていき、「愛、母なる宇宙」の時、広がっていく、広がっていく。息ができないほどの感覚で、広がっていくんだけれど、それでも何かその思いを抑(おさ)え込むような感覚もある。でも苦しくはない。ともに帰りたい思いがいっぱいあるのだと思った。
帰りたい思いがたくさん待っている。気づいてくれと待っている。「一緒に帰ろう。」そう思うと体の力が緩(ゆる)み涙が出てきた。待ってくれている。待ってくれているたくさんの意識。思いを向けていきます。

異語で語れることは喜びでした。とても嬉しい瞑想でした。ありがとうございました。

毎日の塩川さんのメッセージ
その後に1人でする瞑想の日々
今、この時を持てることの幸せをかみしめています。お母さんと呼べる今を喜んでいきます。この心のなかに感じるやさしさ、ぬくもりを信じて、田池留吉、アルバート、母なる宇宙、愛へ帰る道を歩いていきます。

令和3年12月に私の人生にとって大変な問題にぶつかり、毎日が狂いそうになるくらい苦しくて辛い毎日が続いていました。

そんな中、令和4年1月の50歳60歳代の瞑想会に参加し、パネリストに指名していただきました。終了後に塩川さんより「どうでしたか」という問いに「もう苦しくて苦しくて」と答えていました。その中でまた「どうでしたか」と聞こえたような気がして、心の中で「えー嬉しい」そして「良かったです」と答えている自分がいました。その瞬間もう嬉しくて嬉しくて嗚咽が止まりませんでした。自分の中で天変地異が起きていました。間違っていたから苦しかった。間違っていたことに気付き歓喜の涙を流していました。

田池留吉、アルバート、おかあさん、塩川香世さんありがとう。ありがとうございます。

苦しみは喜び、天変地異は喜びという事を感じさせたいただいた瞬間でした。

そして、「母なる宇宙に帰ろう」「愛に帰ろう」という瞑想が嬉しくて楽しい毎日です。今は共に共に次元移行まっしぐらです。

とても、楽しみにしていたが、びっくりするくらい何も感じなかった。抽選に漏れてよかったと思った。感想を送ろうと決めていたが、それも辞めようかと思った。そうやって、欲で臨んでいた訳だ。異語は出ていたが、その背景にまで思いが寄らない。つまり、当たり前と軽く考えている。肉が前に出ている。肉が偉い。真摯で真剣な、そして切実な何かを置き去りにしている。あれから、異語に耳を澄ますようにしている。そこからだから。

元々ありました。

嬉しいだけでした。

安らぎ。

これだけでした。

帰る、帰れる。

今はまだ遠く思える場所。

行く道は1つです。

自分の中の極悪残虐さを己偉しというエネルギーで完全密封してきた。そこを避けてきた。

自分の中身をひっくり返さないと次元移行どころか一歩も進めない。そんな現実を感じました。

田池先生がセミナーを開催していた頃、セミナーで汗をかきながら、沢山のぞわぞわするエネルギーが吹き上がるのを感じてきた。特に先生の近くは、飛び上がらずにはいられない。エネルギーに体を任せながら、こうして、250年後の未来も、エネルギーを出し続けていくんだ、それが、次元移行ということだろうと、感じてきた。それを促してくれるのが、天変地異なのだと。

今回、瞑想してみたら、同じだった。素直に委ねてくださいという思いとともに、タイケトメキチ、アルバートに向かって、中のエネルギーが吹き上がってくる。そのことを繰り返していく。あーやっぱり相当嬉しい。私の中のエネルギーがどんどんと、放出されていく。肉を思えば、天変地異は不安だろう。委ねれば……嬉しいと、心の奥は叫んでくる。私たちはエネルギー。喜びのエネルギー。母なる宇宙に帰っていきます。必ず、必ず、帰っていきます。

① 意識の流れ　② アルバート　③ 母なる宇宙

素直にむけ、全てを任せて瞑想しました。

自分がなく、只々温もりと広がりの中にいてました。

暫くは茫然

初めての体験でした。

私の中の次元移行は、闇と一つになり喜びでタイケトメキチを思うことです。

アマテラスも苦しかった、自分の幸せの為なら、親を殺しても平気な、人間とは思えない狂った凄まじい残虐なエネルギー。呆然とする自分にタイケトメキチを思えない心は、地獄です、と伝わってきます。

どうしようもない私を母は、どんなあなたでもいいんだよと、受け入れてくれていました。父と母にとても大切に育てて貰いました。その両親を蹴散らし蔑ろにしてきた最低の私だった。私を抱いてくれた母の手、生まれた時看護師さんから私を抱き上げ嬉しそうに抱いてくれた父の手、小さい頃、あちこち連れて私の手を引いてくれた手、夕焼けを指差して一緒に見た風景。

天変地異に会った時、ありがとうの思いで肉をおいていきたい。

田池先生に出会えたことが奇跡です。

お母さん私を産んでくれてありがとう。

この文章を来世の私に送ります。

このことを知るために生まれてきたんだね。

意識の流れ。次元移行。

いくよ。帰れるよ。帰れる。帰れる。

どなたの心の中にも響いてきます。

私たちは宇宙です。

なんて、ほっとする。やさしいやさしいメッセージ。そうか、そうだったんだ。そうだった、そうだったね。

少しづつだけど、思い出させてくれてありがとう。

わたしとか、あなたとか、彼とか彼女とか何にもなかった。

みんな、みんな、全部、全部なにもかも、ひとつ。ぜんぶわたしだった。宇宙だった。

私の中にも、はっきりとしたものでないけれど、広ーい、やさしいという思いが広がっていく感じでした。「あー私は帰ります、帰りたい、帰ります」と心で叫びながら、肉は相変わらず愚かな私なのに、許されているんだなあとうれしい瞑想ができました。

又、同時に、この心の広がる体験を私だけ？ という思い。家族と分かち合えない、ともに学んでこなかった後ろめたさや心の冷たさなども出てきて、なぜ、一緒に学ぼうと心から伝えられなかったのか。これから、しっかり自分を学んでいかなければと思いました。

塩川さんの「あなた、田池留吉を信じていますか?」という問いかけが聞こえてきます。

私にとって大切なことを気づかせてもらったうれしい瞑想会でした。ありがとうございます。

戦時中に生を受け、生きること（食べること）に一生懸命母は苦労して私を育ててくれましたが、私は肉として何も親孝行らしきことはできていなかったのです。不公平な世の中、矛盾（むじゅん）をいつも抱（かか）えて生きてきました。アルバートに出会って学ばせてもらい、今世の矛盾がわかり、真実はこの学びしかないと思い続けてきました。本当に心からありがとうです。母なる宇宙へ帰ります。

この学びとどう向き合ってきたか

私は瞑想会が終わって、

学んでいる側がこの学びをどのようにとらえているのか?

この学びとどう向かい合ってきたのか?

という質問を受けた時、どう答えが出るのかと思った。

重大な大切なことを学ばせて頂いているのに、まだまだ先のことととらえている自分があった。

次元移行は今学んでいる私の目の前のことだとハッとなった。

先生とともに学ばせて頂いた日々もあっという間に終わりを告げ、今は250年後とともに学んでいるという自覚もないまま、その日その日を過ごしていることにびっくりこいた。改めて今ここにある自分に思いを向ける。

うれしい、うれしい、波動とともにありがとうという思いが飛び出してくる。

頭ではなく心が感じる学び。心で思いを向けている。

ありがとうしかないことを改めて思う。

田池留吉、アルバート、母なる宇宙、おかあさん、愛、本当の自分。

涙があふれでる。

甘かった。人を見ていた。

何にも分かっていなかった。

私は何を学んで来たのだろう。

なぜ250年後を目指すのか?

わかっているの?

「次元移行」「地球上に初めて肉を持って来た意識」余りにも非現実的で自分に説明も出来ずに田池先生が伝えてくれる本質からfそれでも肉に生きようと闘い続けるのは苦しくて虚(むな)しかった。

3億6千年を振り返ります。苦しくてよかった。今世はそんな肉とセミナーでの闇出し。闇を共に深く感じる事が出来た人生は奇跡の機会でした。そうです。私が切に望みました。私の、私たち宇宙規模の迷い続けた意識の集合体が初めて肉を持たせた田池留吉との出会い。それ程までに待ち続けて来た自分。

帰りたかった。ふるさとへ。愛へ。

ならば、越えて生きなければ。繋(つな)がなければ。250年へ。

ありがとう 私。自分を生きていきます。

ここ最近の落ち込みようといったらなかった。メッセージ3163「徒労(とろう)……形だけの学びと言わざるをえません」母の反省他力の反省をただ続けていくのみと、そんな思いの中で、今までにはない喜びも確かにあったので、動揺、ショックだった。「動機……」

そんな中の参加は始まる前から気後れがしていた。意識の流れ・アルバート→叫んだ。苦しい。心は下を向く。あっぷあっぷと藻掻(もが)くだけ。あがくけれど意識の転回にはならない。心が追いつかない。愛・母なる宇宙→この時は顔を上げていた。お母さんって言っていた。が、総じて、表面的な学びにとどまっているように思えた。

意識の転回を阻んでいる**自分に自分の心で気付かない限り、次元を越えていこうという意識の流れには絶対に乗ることはできません。**

そういうことだ。気付くことの大変さ。今までの大変さを無駄にしてはならない。

徒労で終わってはならない。

パネリストとしてなど絶対無理、今でも敏感でないから視聴者として参加しました。

私は何も解(わか)らなかった。

私に突き付けられた。貴方は今まで何も学びをしてこなかったと。

母の反省の中で、母は私を信じてこの世に送り出してくれた事、何でも当たり前で来た事、今のままで幸せなんだよ、心に響きました。私の原点です。

しかし今の私はこんな状態です。なんでだろう。瞑想ですぐに雑念が浮かび頭に行ってしまう。

己一番の波動がある限り本当の喜び安らぎ暖かさなんて感じない、負けたくない、自分の非を認めたくない。肉ばっかり。

肉から意識へ。意識の転回だけです。少しでも少しずつでも正しい瞑想を続けるしかない。死ぬまで田池留吉に心を合わせること。先生からのメッセージ。

書いたこと絵空事になってはいけない。

次元移行に心を向けるとかすかに何か感じる様に、又アルバートも身近に少し感じられる様になってきた様に思います。嬉しいです。

この学び知って 35 年、セミナー参加始めて 25 年です。八尾センターのチャネリングで、貴方は真っ黒なつまらない人です、と言われて驚き、無理だと思いました。家族で次女の卒業旅行で金沢に行った時、家族に連れられて、ホテルながやまセミナーに参加、その次の琵琶湖セミナーで田池先生に挨拶し握手して頂きました。「ようきたね」と、にこやかな笑顔と肉厚の丈夫そうな手は優しかった。この人は信頼できると確信、以後可能な限りセミナーに参加しました。学べば全て整(ととの)いますに魅(み)せられて、コペルニクスの地動説の講話から既存の常識外れの持論、冠婚葬祭の不要論、神社仏閣立入禁止等、忠実に従って来ました。

意識の転回、自己確立、肉から意識へ。私は貴方、貴方は私一つとなる時、過去に苦しんだ諸々が強大なエネルギーとなり、天変地異と次元移行となる。意識は永遠、無限、波動、エネルギー。

全てにありがとうございます。

田池先生に出会ったのは、1986 年 3 月。38 年目。

初めの 20 年間は講話の内容が理解できずに困った。

その頃から学び方を変えようと自分なりに試行錯誤(しこうさくご)してきた。抵抗してきた母の反省は、とても時間がかかりました。田池先生が言い続けて下さった母の反省の深い意味、必ず必要な課題であることを確信し、これができないと私の心の変革は無かったのではと思う。

私は、田池先生に出会ったことをありがとうと心に深く思える今がある。

私は、ずっと愛の中に育(はぐく)まれて来ました。私は愛です。どんな出会いも全てが愛てした。ありがとうございます。お母さん、今世やっと本当の愛、本当の自分を知ることができました。ありがとうございます。

お母さん、田池留吉、アルバート、塩川香世さん、本当の自分へありがとうございます。そして、今世の肉に心よりありがとうです。

よくも影を本物として消え去る影を見てはただただオロオロしてきた無知な肉でした。

消えては次々と消えて行く泡を追って実態のない肉を基準に影を本物としてきました。

自分をはじめ肉は真実に対して本当に恐ろしいほど無知でした。
大変な意識の世界を抱えて今、肉を持たせて頂いてます。
肉体細胞の思いに今、支えられて肉を持たせて頂いてます。
肉体時間を本当に大事に田池先生に命懸けで伝えて頂いた事を私も命懸けで少しでも応えていきたいです。
いかに大変な間違いをおかしてきたことか、ただただ意識の流れ、次元移行に感謝してやまない肉体時間を今、頂いております。

自分はこの学びにどう向き合ってきたのか?

「意識の転回」「心を見る」今までの思いを180度変える。
肉基盤から、意識基盤へ。本当に難行苦行でした。有って無しのプライドが学びを随分遅らせました。本当の自分。自分が求めていた世界は、意識基盤の世界の中に有りました。心で知った今世、ずうっと〜〜待っていてくれている本当の自分、田池留吉、母なる宇宙へ、真っ黒真っ黒の私が帰れるんです。嬉しい。本当に嬉しいです。お母さん。お母さ〜ん。聞こえますか? おか〜あ〜さ〜んありがとう。喜びが、源でした。絶えることのない「意識の世界、意識の流れ、天変地異」すべてが愛の中での出来事。嬉しい嬉しいで、受け入れられる私でありたい。

集った動機は途轍もなく間違った動機でした。しかし、あなたは田池留吉に巡り合いたくて、あの時にお母さんに産んで頂いたのでしょ。
あなたの前世は大変でしたね。誇り高い己高いその心で、ああ、これしかない、自分の行く道はこれしかない、責任をとって自分の肉体を処分するしかないと思った日がありましたね。そのすぐ後にお母さんに産んで頂きました。
私は余りにも己が高く自らその肉をかき破って終えました。そして、ただただ苦しい中、何の活路も見出せず、苦しみの延長線上に、ただもがき苦しんでいるだけでした。しかし、何処かに真実があり、その真実に巡り会いたいと、あの三鷹の母に願い出て産んで頂きました。でも、己高い心がそんなに簡単に修正できる訳でもなく、己を誇る心のまま奇跡的に会社に入り、家内に巡り合い、田池留吉先生と出会いました。今からでも遅くない、真剣に、真剣に、自分の心を見ていきなさい。己高い心を修正していきましょう。他力一辺倒だった自分の心を修正していきましょう。

今世私は、命を懸けて生まれてきたと確信しています。

私は、双子で7か月の未熟児で生まれてきました。しかし姉は、生後3か月で亡くなりました。そして私が44歳の時、交通事故に遭遇し命が、助けられました。私の乗っている自転車とバイクと衝突し、強い衝撃で、3、4m私の身体は、吹き飛ばされ、気づいた時には、横断歩道の真ん中で、仰向けに寝ていました。でも怪我は、していなかったのです。その3か月後初めて岡山での

セミナーに参加させて頂き、やっと田池先生にお会いできました。本当に嬉しかったです。私は、高校生の時から、ずっと真実が知りたいと、色々なジャンルの本を読み、宗教遍歴もしました。だから、本当の私は、必死に私の切なる思いが叶(かな)えられるように導いて下さったのだと確信しています。今は、意識の流れに沿って、田池留吉、アルバートと共に生かされていることが、喜び、幸せです。

2021 年 10 月、心不全で緊急入院。

原因は過労（老化）による……

高熱が続き、30 日後……心臓の血管造影……承諾書サイン

80 年間お世話になった心臓病は初めての事。いよいよ心臓さんともお別れかな〜と臆病な私は少し不安に思った。

いよいよ心臓検査……手術室の天井を見上げて瞑想に入った。

3 回の深呼吸が終わるやいなや、見上げる先に……ニコニコと笑っている母と田池先生が満面の笑みで見守ってくれている。

嬉しくて嬉しくて喜びの涙が止めどなく流れ出た……。担当医師が「沼田さん、どうしましたか！」と驚いて……声をかけてくれた。「大丈夫です」と返事すると……安心している様であった。

思い出す……とても言葉にならぬ……不安と喜び、歓喜の体験。

その後、相変わらず……田池留吉（本当の自分）からもう年なんだから肉体を酷使せずに思いで仕事をする様に……と促されても……肉の私の行動は止まらなかった。毎日瞑想は欠かさなかったが全国東奔西走と……。

時の流れは早いもの、学びと出会って 34 年。私はいったい何を学んできたのか、学んでいるのか、心の学びとは名ばかり頭で学んでいた。

しかし今やっとやっと心の中からひびいてくるものがあります。苦しむのはもういやだ。素直になっていこう。母の思いを胸に「この子に望むものは何もありませんがたった一つの願いがあるならばこの子が神の元へ帰ることでございます」と、母の思いを大切に大切に。

田池留吉、アルバート、ああ次元移行して参ります。

うれしいです。ありがとうございます。

長い年月を、セミナーに参加や、パソコンで核のメッセージ、書籍を目にして、自分では学んでいるつもりになっていましたが、甘い、甘い、うわべだけの肉どっぷり、肉基盤で欲、欲、結果を求める学び方でした。田池先生が、いつも、欲と私は合いませんと言われていたのが、確かにそうですと思います。田池留吉、アルバートを思う、何も思わずに心の針を合わせること、心で感じたことを、信じていくことを、蔑(ないがし)ろにして、形だけを整(ととの)えて来た事が間違っていると気づけたのが、本当に嬉しいです、己偉い、自分が正しいと主張したい心が、私の中でうごめいています。真っ黒

な自分を、嫌って、来ました。真っ暗、真っ黒な私と共に、本当の自分に帰ろう、ゼロ歳の時に伝えていただいたお母さんの温もりへ。

今世、心を見ることを伝えていただき、底の底の底がない程の真っ暗な中に存在している意識だった事にやっとやっと気付き、肉も天変地異を起こして伝えてくれました。思いの向け先が全く間違っていたと知った今世、やっと私の中の意識の流れが動き出しました。意識の流れはアルバートを伝えてくれます。どんなに反逆しても、信じて信じて待ってくれている優しい温もりに、やっとやっと出会えました。優しい優しい「母の温もりの中で「私は愛、あなたも愛、ひとつです」と伝えてくれていました。抹殺(まっさつ)することしか出来なかったけど、素直になって、優しい自分を信じて、全てを受け入れて次元移行を目指して、ともに進んでまいります。

お母さん、今世肉を頂けたことが、どんなにありがたいことなのか、沢山の宇宙が喜びを伝えてくれています。ありがとう、ありがとう、本当に嬉しいです。

今日は本当に嬉しい嬉しい、ともに瞑想する時間をありがとうございました。

瞑想会に参加するにあたって

セミナーに集った頃『アトランティスの悲劇』という話題？ が有りました。

その時の思いは、呪(のろ)い・恨(うら)みで心の中が泣き叫んでいました。

今回の瞑想で、その思いが少しでも供養出来たら良いなって思って参加しました。

『アトランティスの喜び』へと変換して行きます。

今回の瞑想参加で、意識の流れの本を読み返すことで、新たにいくつも響いてくる個所がありました。自分の現状を確認する機会を得ることができ、ありがとうございました。

毎日自宅で瞑想する時、田池留吉に針が合っているだろうか、お母さんの温もりは心の中でどのように反応するのだろうか、と思っていましたが、数か月ぐらい前から、心の中で、何かが反応するような、ぬくもりを感じ、わからないまま一人で喜んでいました。

そんなこともあり、今回連絡があった時、必要以上に喜んでしまいました。

次元移行、250 年後と言われてもピンと来ない。このままではと思い、瞑想会に申し込み、夫が 15 名に入り、私も緊張して臨(のぞ)みました。

感想を送っていただいた148名の皆さん（５０音順・敬称略）

赤間　桂子（千葉県）
浅野　昭子（兵庫県）
足立　泰代（大阪府）
粟根　綾子（広島県）
池田　登志子(鹿児島県)
板倉　直子（大阪府）
板倉　充宏（大阪府）
市川　明子（東京都）
伊藤　努（大阪府）
伊東　直隆（東京都）
岩本　祥子（大阪府）
上野　淑子（京都府）
宇田　美津子（岩手県）
海老名　典子（千葉県）
大河内　径子（埼玉県）
大槻　明子（三重県）
大槻　文英（京都府）
大槻　玲子（京都府）
岡田　有弘（神奈川県）
岡橋　昌子（奈良県）
奥田　めぐみ（岐阜県）
小澤　喜世子（奈良県）
片岡　幸子（神奈川県）
片山　由紀子（東京都）
金澤　知子（兵庫県）
金枡　かおり（三重県）
金子　育子（滋賀県）
加納　江美（茨城県）
神山　三恵子（京都府）
河内　英雄（大阪府）
河副　弥栄子（大阪府）
河野　絹子（福岡県）
神原　正和（兵庫県）
北山　祐子（大阪府）
櫛山　聡子（奈良県）
櫛山　哲子（奈良県）
楠本　光代（長崎県）
國廣　祐子（大阪府）
栗生　啓子（大阪府）
小泉　淑子（神奈川県）
香西　京子（大阪府）
小濱　章夫（大阪府）
小濱　千晶（大阪府）
後藤　糸恵（愛知県）
小林　英子（三重県）
小東　めぐみ（大阪府）
西前　智子（三重県）
西前　忠久（三重県）
斉田　和広（大阪府）
斉藤　緑（大阪府）
皿谷　紀美子（大阪府）
澤井　史郎（滋賀県）
澤田　敏夫（アメリカ・カリフォルニア州）
清水　貞博（大阪府）
下境田　良子(鹿児島県)
小路　いづみ（大阪府）
定免　裕子（大阪府）
白川　イツ子（大阪府）
白木　敏子（岐阜県）
新庄　美紀（山口県）
菅原　智子（宮城県）
杉村　和子（三重県）
鈴木　和子（三重県）
砂川　タカエ（香川県）
関谷　敬子（埼玉県）
十川　雅子（東京都）
平　里恵（神奈川県）
宅間　節子（京都府）
竹田　恭子（東京都）
田内　八住（福岡県）
高野　敦志（神奈川県）
高野　久美子(神奈川県)
竹中　左千子(和歌山県)
田中　和宏（大阪府）
谷村　美智子（奈良県）
辻田　和子（三重県）
辻田　裕（三重県）
津野　裕子（大阪府）
渡海　恵子（大阪府）
長尾　淳代（京都府）
仲亀　友子（石川県）
長澤　優子（岩手県）
中島　夕美子（大阪府）
中田　和子（大阪府）
中野　加奈（大阪府）
中野　雅樹（大阪府）
中野　文子（滋賀県）
長濱　溶子（奈良県）
西浦　久仁子（大阪府）
西岡　良太（福岡県）
西田　テル子（大阪府）
西山　貞子（大阪府）
新田　妙子（大阪府）
沼尻　瑞枝（茨城県）
沼田　順子（大阪府）
野崎　緑（大阪府）
野瀬　恵美子（京都府）
野添　信子（兵庫県）
橋爪　あき子（福岡県）
畑　美了（和歌山県）
花咲　昇（兵庫県）
林　照晃（大阪府）
原田　美恵子(神奈川県)
春山　隆恵（三重県）
東野　治（大阪府）
檜木　須美子（奈良県）
檜木　奈美（奈良県）
平田　肇（岐阜県）
平松　直美（奈良県）
福井　英治（大阪府）
藤木　美和（大阪府）
藤田　泰代（大阪府）
不破　真里子（東京都）
別所　貴司子（大阪府）
穂積　徳造（三重県）
堀之内　れい子(大阪府)
本郷　淳子（滋賀県）
松村　謙三（兵庫県）
丸田　薫（三重県）
丸田　宗司（三重県）
三ツ矢　千代子(大阪府)
南川　千恵子(鹿児島県)
村上　千榮子（大阪府）
村田　恭子（大阪府）、
望月　きさ江（三重県）
望月　冨士雄（三重県）
森川　三良（三重県）
森川　洋子（三重県）
森本　素子（三重県）
薬師寺　博之（福岡県）
矢口　美香（熊本県）
安江　幸代（大阪府）
安江　義子（愛知県）
山内　啓子（和歌山県）
山田　信江（大阪府）
山本　健次（岐阜県）
山本　道子（大阪府）
矢持　和美（兵庫県）
吉岡　峰子（三重県）
吉田　みどり（栃木県）
吉田　睦子（大阪府）
吉鶴　みち子(鹿児島県)
四方田　健（神奈川県）
四方田　奈加子(神奈川県)
脇本　佳子（大阪府）
渡辺　双葉（広島県）
和多野　純子（岐阜県）

おわりにかえて

塩川　香世

　私達は、今のこの肉体を通して真実の波動の世界を学ぶという計画を立ててこの世に出てきました。

　学びに繋がった人達が特別なのではありません。むしろ逆です。真っ暗闇のどん底から、死に物狂いで這い上がってきたんです。

　真っ暗闇の奥底の底のまだまだずっと奥底に沈み込んでしまった自分に、本当のことを伝えたくて、何としてでもこの真っ暗闇から自分を解き放したくて、決死の覚悟で、私を産んでくださいと、私に肉という形をくださいと懇願してきたのでした。そんな思いの中で今世の肉を纏った私達です。

　それぞれに自分の思い通り、計画通りに学びに繋がりましたが、真っ暗闇の上塗りを繰り返してきた山積みの転生を、心にどっさりと抱えてということですから、そう簡単には本当のことに行き着くことはできません。だから、今世という準備、予習段階を設けて、三次元最終時期への足がかりをつけましょうということでした。

　さて、すでに心で感じておられると思いますが、意識の流れは粛々として、かつ速度を増して仕事をしています。意識の流れからのメッセージは、次元移行をはっきりと指し示しています。

　目に見える形ある世界が実在の世界であるのか、それともその世界は実は影の世界であるのか、その明確な回答がこれからどんどん様々な方面から示されていきます。

　それを学びに触れた私達は、天変地異だと理解しているはずです。天空、地上に起こる出来事から、自分自身にそして自分の周りに起こる出来事から、実感のある形の世界が跡形もなく崩れていくということに、どんなメッセージが込められているのか、驕りに驕った私達肉を持つ意識達が真摯に向き合うその時が、まさにやってきているのです。

　あと300年です。次元移行を指し示す意識の流れは確実に粛々と仕事をしていきます。肉から意識への転回を速やかに遂行して、まずはこの次元をともに越えていきましょう。そしてその次があります。さらなる次元移行が待っています。

シリーズを通しての資料提供（敬称略）

浅尾宣子／荒木紘美／石橋章子／板倉充宏／市川明子／梅本清子／大槻明子／大平佳子／奥出康子／片山由紀子／金子恵／久米真路／後藤糸恵／小林荘一／西前忠久／佐藤延生／ Jennie Lai ／田中美穂／谷村美智子／中島一二／中田和子／中村康一／東野治／穂積徳造／牧村市太郎／松村謙三／満尾保子／三ツ矢照雄／脇本佳子／渡辺久記／柳生三千子／山之口全

※このほか、たくさんの方から情報をいただいたり、原稿をいただいたりしましたが、紙面の関係もあり、そのすべてを収録することはできませんでした。ご容赦ください。

出典データ

この図書に収録いたしました弊社出版物および部内刊行物、あるいはセミナー記録については、データ収蔵庫（UTA250 タイムカプセルと呼称）に一括保管し、該当ページのそれぞれに QR コードを配し、オリジナルデータへリンクしていただけるように編集しております。

別冊「250 年後の自分に宛てたフォトメッセージ集」

この図書につきましては、データとして「UTA250 タイムカプセル」に収録しています。
右の QR コードをクリックしていただくことで閲覧していただけます。

250 年後の自分に宛てた
フォトメッセージ集

Taike Tomekichi part.3

「UTA タイムカプセル 250」

初版発行　2024 年 5 月 20 日

編　　者　ＵＴＡブック編集部
監　　修　塩川香世
発　　行　一般社団法人ＵＴＡブック
　　　　　奈良県北葛城郡広陵町三吉 345-14
発 行 者　桐生敏明
英語翻訳　Jennie Lai　大槻洋三
装　　丁　**Studio Miz**
制作協力　小東めぐみ・牧華江・三ツ矢照雄
営　　業　桐生紘次

印刷・製本　モリモト印刷株式会社

◎ UTA-BOOK, Printed in Japan 2024